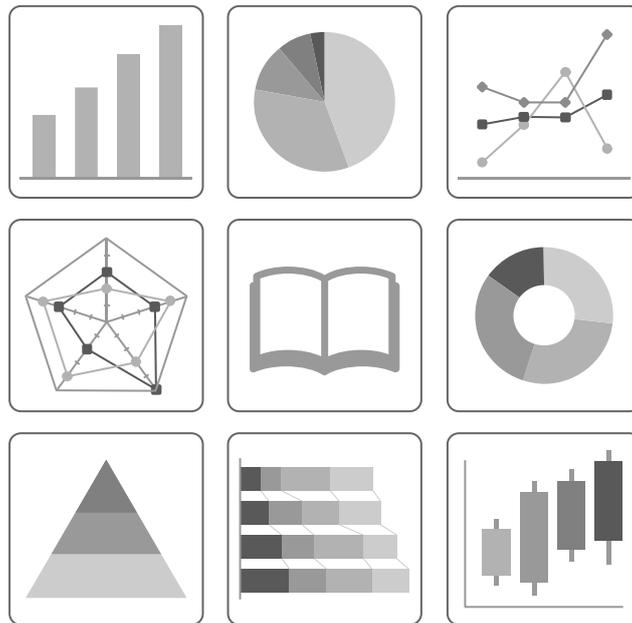


塩竈市
子どもの生活に関する実態調査
調査結果報告書



令和3年3月

塩 竈 市

目 次

I	調査の概要	1
1	調査の目的.....	1
2	調査対象.....	1
3	調査期間.....	1
4	調査方法.....	1
5	回収状況.....	2
6	調査結果の表示方法.....	2
7	本調査における相対的貧困層の定義.....	2
II	調査結果のまとめ	4
1	経済的状況.....	4
2	教育環境.....	4
3	保護者及び子どもの心への影響.....	5
III	調査結果	6
1	保護者向け調査.....	6
2	小学生・中学生向け調査.....	97
3	教職員向け調査.....	172
4	資源量調査.....	177

IV	調査票	183
1	小学生・中学生向け調査	183
2	保護者（学校配布）調査	189
3	保護者（郵送配布）調査	195
4	教職員調査	201
5	資源量調査	203

I 調査の概要

1 調査の目的

昨今、子どもの貧困が社会的問題となっており、厚生労働省調査では、17歳以下の子どもの相対的貧困率は13.5%、子どもの7人に1人が貧困の状況という結果になっています。また、経済的理由により就学援助を受けている小学生・中学生が、全国で約137万人にのぼっている（2018年、文部科学省調べ）ことから、子どもの貧困への対策が強く求められています。

そのような社会背景のもと、令和元年6月には「子どもの貧困対策の推進に関する法律」が改正され、子どもの貧困対策に関する計画策定が市町村の努力義務とされました。

本市でも、子どもの貧困対策のための施策を行っていくため、本調査を通じて子どもを取り巻いている現状を把握し、子どもの貧困対策のための基礎資料を得ることを目的として、本調査を実施したものです。

2 調査対象

保護者調査：市内の満18歳未満の子どもを持つ保護者（無作為抽出1,000人）

市内の小学5年生児童または中学2年生生徒をもつ保護者

小学生・中学生調査：市内の小学5年生児童及び中学2年生生徒

教職員調査：教職員・保育士・スクールソーシャルワーカー

資源量調査：子どもの生活や教育、福祉等に関わる関係機関

3 調査期間

令和2年11月25日から令和2年12月9日

4 調査方法

0～18歳未満の子どもの保護者：郵送による配布・回収

小学5年生保護者、中学2年生保護者：学校を通じた直接配布、回収

小学5年生児童、中学2年生生徒：同上

教職員調査：学校等を通じた直接配布・回収

資源量調査：直接配布もしくは郵送による配布

5 回収状況

	配布数	有効回答数	有効回答率
保護者調査（0～18歳）	1,000通	555通	55.5%
保護者調査（小5・中2）	789通	649通	82.3%
小学生・中学生調査	789通	683通	86.6%
教職員調査	19通	17通	89.5%
資源量調査	10通	9通	90.0%

6 調査結果の表示方法

- ・回答は各質問の回答者数（N）を基数とした百分率（%）で示してあります。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が100.0%を超える場合があります。
- ・クロス集計の場合、無回答を排除しているため、クロス集計の有効回答数の合計と単純集計（全体）の有効回答数が合致しないことがあります。なお、クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。
- ・調査結果を図表にて表示していますが、グラフ以外の表は、最も高い割合のものを■で網かけをしています。（無回答を除く）
- ・回答者数が1桁の場合、回答件数による表記としています。

7 本調査における相対的貧困層の定義

1. 相対的貧困世帯の定義

等価可処分所得（世帯の可処分所得を世帯人員の平方根で割って調整した所得）の中央値の半分を相対的貧困水準（“貧困線”）とする国民生活基礎調査の定義に基づき、世帯収入が“貧困線”以下の世帯を相対的貧困世帯と定義します。

2. 本調査分析における貧困世帯の定義

本調査においては、世帯年収についての質問（保護者問 12）の回答より“貧困線”を算出し（本調査では 132.5 万円），“貧困線”以下の世帯年収の世帯を「貧困世帯」と定義しています。

世帯人員	可処分所得 ^{※1} による貧困線	貧困線未満の世帯	国の基準 ^{※2} による貧困線	貧困線未満の世帯
1人	132.585万円	0世帯	127.000万円	0世帯
2人	187.504万円	21世帯	179.605万円	21世帯
3人	229.644万円	47世帯	219.970万円	28世帯
4人	265.170万円	31世帯	254.000万円	31世帯
5人	296.469万円	25世帯	283.981万円	25世帯
6人	324.766万円	10世帯	311.085万円	10世帯
7人	350.787万円	7世帯	336.010万円	7世帯
8人	375.007万円	0世帯	359.210万円	0世帯
9人	397.755万円	1世帯	381.000万円	1世帯
世帯数				
1,117世帯	-	142世帯	-	123世帯
	-	12.7%	-	11.0%

※1: 今回のアンケート調査結果から等価可処分所得を算出。等価可処分所得の中央値の半分を貧困線として算出。算出した貧困線に世帯人員のルートをかけて、各世帯人員の貧困線を算出。

※2: 平成 30 年(2018 年)の国民生活基礎調査の貧困線。貧困線に世帯人員のルートをかけて、各世帯人員の貧困線を算出。

貧困線の算出について

本調査においては世帯の所得額については、回答者の負担感等を考慮し、手取り収入を 50 万円の幅を持たせた選択肢で回答を求めました。そのため、国の貧困線の算出方法で用いる「等価可処分所得」の中央値には、選択肢の上限値と下限値の平均値を世帯人員の平方根で割って調整した値を当てはめています。

- ・(例) 世帯所得が「500～550 万円」で世帯人員が 5 人の場合、世帯所得を 525 万円として算出します。

$$(\text{当該世帯の“等価可処分所得”}) = (525 \text{ 万円}) \div (\sqrt{5}) \approx (234.8 \text{ 万円})$$

II 調査結果のまとめ

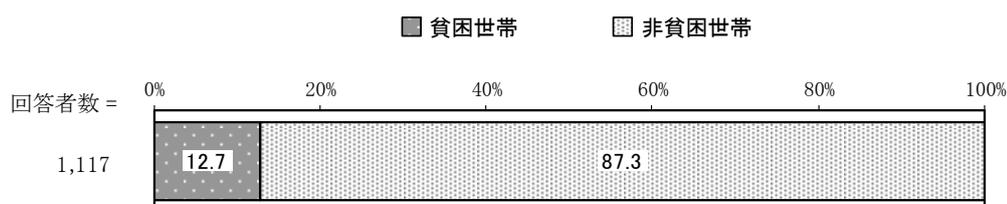
1 経済的状況

本市における貧困世帯の割合は、可処分所得による貧困線では12.7%、国の基準による貧困線では11.0%と、1割強を占めています。平成30年度の国民生活基礎調査によると、全国での子どもの貧困率は13.5%となっており、本市の貧困世帯の割合は国と同程度となっています。もともと、教職員調査では、勤務先での困難を抱える家庭の園児・児童・生徒の数の変化（教職員 問3）について「やや増えている」と感じる人が3割台半ばとなっており、現場での体感では現状維持もしくは増加の傾向にあると思われます。

貧困について、保護者の婚姻状況（保護者 問7 10ページ）との関連をみると、貧困世帯では、離婚、死別、未婚といった“ひとり親世帯”が半数以上を占めています。世帯収入（保護者 問12 19ページ）をみてもひとり親家庭では収入が低い傾向がみられ、また生活においても、ひとり親家庭での「税金や国民年金保険料の支払いが滞った」「家賃や住宅ローンの支払いが滞った」人の割合が高くなっており、ひとり親家庭の経済的なひっ迫の様子が伺えます。

就労状況（保護者 問10 15ページ）については、ひとり親家庭の母親では「働いていない」人の割合は低いものの、働いていない理由（保護者 問10-1 17ページ）として「自分の病気や障害のため」を挙げる人の割合が高くなっています。にもかかわらず、生活保護や生活困窮者の自立支援相談窓口といった制度を利用（保護者 問25 84ページ）した人は極めて少ないことから、就労できない人を支援制度につなげていくことが必要となっています。

また、離婚の場合の養育費の受け取り（保護者 問7-1 11ページ）に関しても、養育費を受け取っていない人が約7割にのぼっていることから、養育費を確実に受け取ることができるような制度面での支援も必要と考えられます。



2 教育環境

子どもの進学の見込みについて、貧困世帯では、「高校まで」の割合が高く、その理由として「家庭の経済的な状況」とする人も多くなっています。同時に、子どもが考える進学の希望（子ども 問6 106ページ）でも、貧困世帯で「高校まで」の割合が高く、家庭の経済状況が子どもの進学希望にまで影響しています。また、保護者の学歴（保護者 問9 13ページ）について、母親の学歴は非貧困世帯に比べ、貧困世帯で「中学（中学部）まで」「高校（高等部）まで」の割合が高くなっていることをみると、子どもの進路には、家庭の経済状況とともに、保護者（特に母親）の学歴が関連しているとも考えられます。

授業の理解度（子ども 問5 102 ページ）については、非貧困世帯に比べ貧困世帯では“わからない”の割合が高くなっており、また、学校以外の勉強時間も貧困世帯では非貧困世帯より短くなっています。あわせて、普段の就寝時間（子ども 問11 123 ページ）、起床時間（子ども 問12 124 ページ）をみると、非貧困世帯に比べ、貧困世帯では就寝時間が不規則で、起床時間が遅いといった特徴があり、生活習慣の差が授業の理解度に影響している可能性も考えられます。

教育にかかる経費への負担感（保護者 問18 38 ページ）についてみると、貧困世帯では「保育料・授業料」「学用品費」「学習費・教材費」「給食費」「修学旅行費などの積立金」といった学校教育にかかる費用で負担感が大きく、学校以外の教育にかける余裕がない状況となっています。同様に、「習い事」や「学習塾、家庭教師、通信教育」といった学校以外での教育環境（保護者 問17 29 ページ）についても、全体でも約2割が「経済的にできない」と回答しており、特に貧困世帯ではその割合が高くなっています。学校の授業以外での勉強方法（子ども 問3 98 ページ）もあわせてみると、小学生の貧困世帯では「家の人に教えてもらう」の割合が高く、塾などよりも保護者が家庭教育を主に担っている現状が伺えます。しかし、家の大人の人に宿題（勉強）をみてもらう頻度（子ども 問15 127 ページ）は、貧困世帯では4割が「まったくない」と回答しており、貧困世帯では、塾や習い事もいかず、かつ保護者による学習フォローも少なくなっていると考えられます。そのため、貧困世帯の子どもへの適切な学習環境の提供、また、ボランティアを活用することでの学習フォローなど、子どもたちの学習環境を手厚くする制度が求められます。

なお、困難を抱える家庭の子どもたちの特徴（教職員 問4 173 ページ）として、「校納金・給食費・保育料等の滞納」「衣服・制服・体操服が洗濯されていない」「異臭がする」「夜間子どもたちだけで過ごしている」「必要な医療を受けていない」といったものがあり、これらの兆候がみられれば早期に支援につなげることが必要です。

3 保護者及び子どもの心への影響

直近1か月の保護者の気持ち（保護者 問21 63 ページ）をみると、について、貧困世帯では「いつも」「たいてい」不安や孤独を感じている人の割合が高く、『自分は価値のある人間だ』と感じられない人の割合も高くなっています。

また、子どもが日常生活の中で感じていること（子ども 問18 137 ページ）をみると、『自分は価値のある人間だ』と思わない人、『自分のことが好きだ』と思わない人の割合が、ともに貧困世帯で高く、保護者の自己肯定感の低さや孤独感が、子どもの自己肯定感にも連鎖しているように見受けられます。

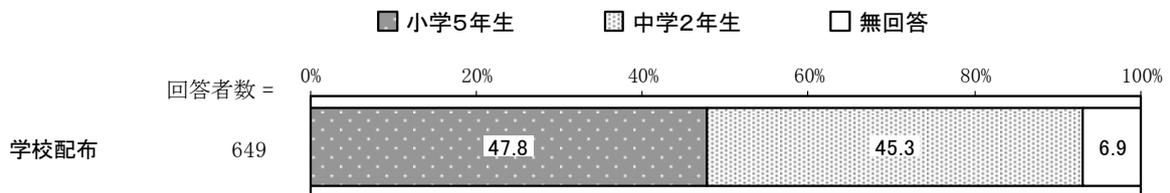
子どもが将来に向かって自信をもって成長していくためには、経済的基盤を整えることが必要であることは言うまでもありませんが、同時に保護者のメンタルケアも不可欠であると考えられることから、困っている保護者を相談窓口へつなげることなども必要です。

Ⅲ 調査結果

1 保護者向け調査

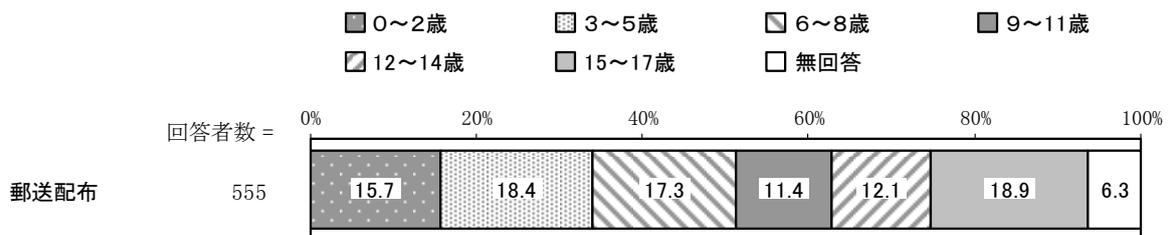
問1 お子さんの生年月を教えてください。

①学校配布（小学5年生保護者、中学2年生保護者）



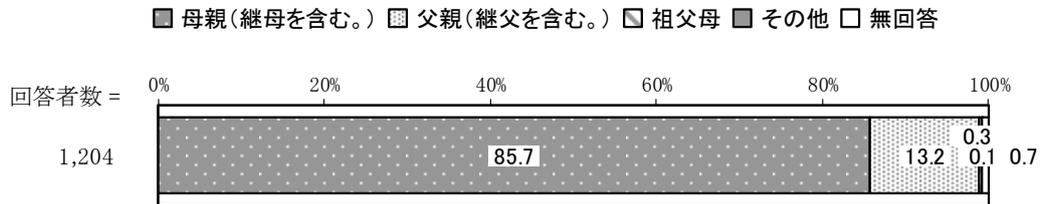
②郵送配布（0～18歳未満の子どもの保護者）

郵送配布では、「15～17歳」の割合が18.9%と最も高く、次いで「3～5歳」の割合が18.4%、「6～8歳」の割合が17.3%となっています。



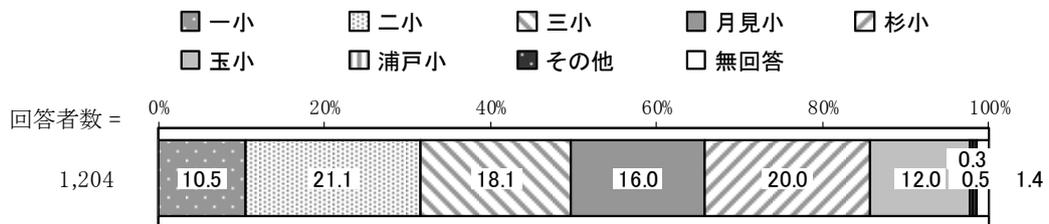
問2 お子さんとあなたとの関係は、次のどれにあたりますか。お子さんからみた続柄でお答えください。（あてはまるもの1つに○）

「母親（継母を含む。）」の割合が85.7%と最も高く、次いで「父親（継父を含む。）」の割合が13.2%となっています。



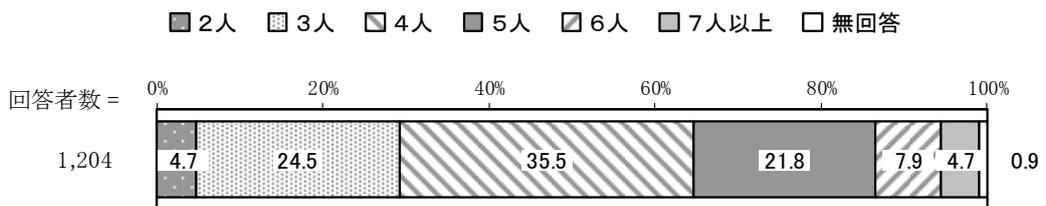
問3 あなたがお住まいの小学校の学区を教えてください。（あてはまるもの1つに○）

「二小」の割合が21.1%と最も高く、次いで「杉小」の割合が20.0%、「三小」の割合が18.1%となっています。



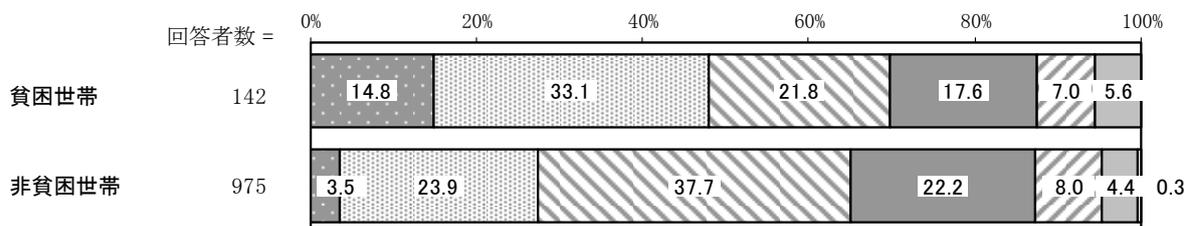
問4 お子さんと同居し、生計を同一にしているご家族の人数（お子さんを含む。）を教えてください。単身赴任中の方は含めないでください。

「4人」の割合が35.5%と最も高く、次いで「3人」の割合が24.5%、「5人」の割合が21.8%となっています。



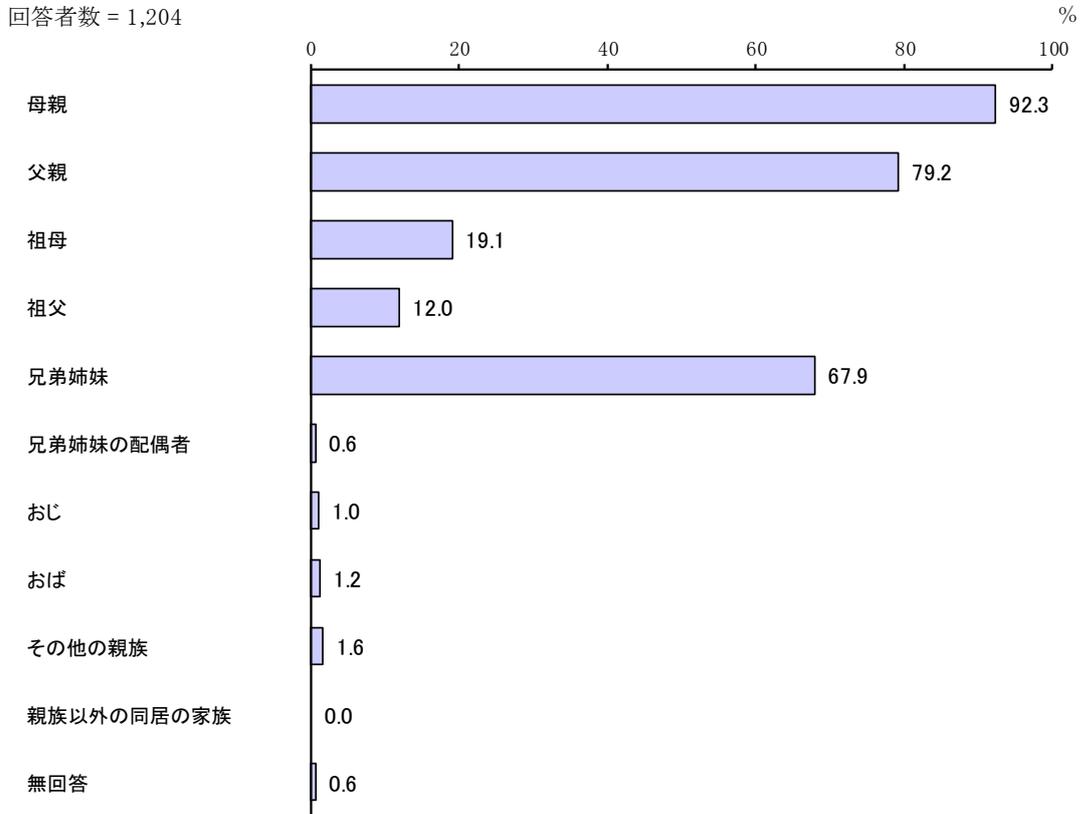
【貧困線別】

貧困線別でみると、非貧困世帯に比べ、貧困世帯で「2人」「3人」の割合が高くなっています。一方、貧困世帯に比べ、非貧困世帯で「4人」の割合が高くなっています。



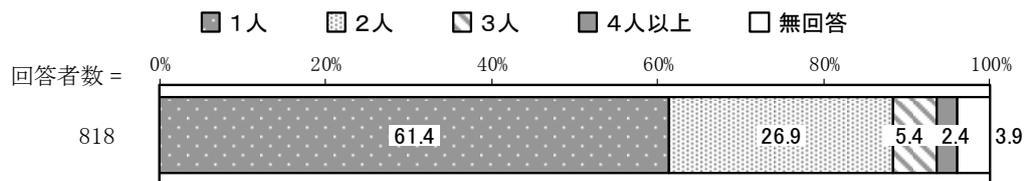
問5 前問で回答した「ご家族」には、お子さんから見てどの関係の方が含まれますか。（あてはまるものすべてに○）

「母親」の割合が92.3%と最も高く、次いで「父親」の割合が79.2%、「兄弟姉妹」の割合が67.9%となっています。



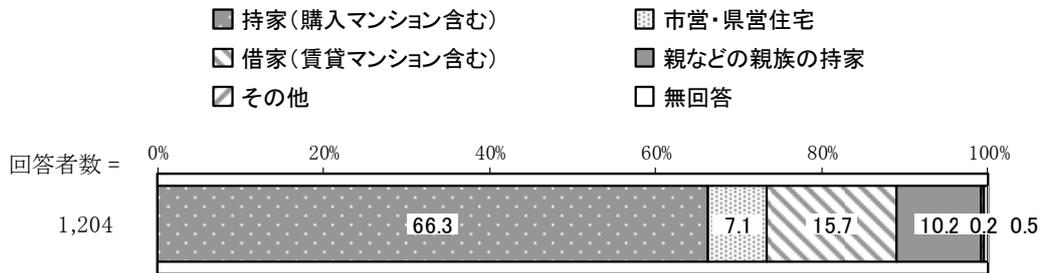
兄弟姉妹の人数

「1人」の割合が61.4%と最も高く、次いで「2人」の割合が26.9%となっています。



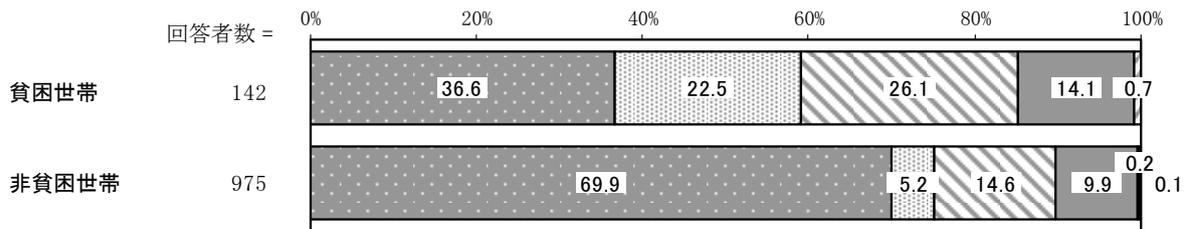
問6 あなたのお住まいの状況を教えてください。(あてはまるもの1つに○)

「持家（購入マンション含む）」の割合が66.3%と最も高く、次いで「借家（賃貸マンション含む）」の割合が15.7%、「親などの親族の持家」の割合が10.2%となっています。



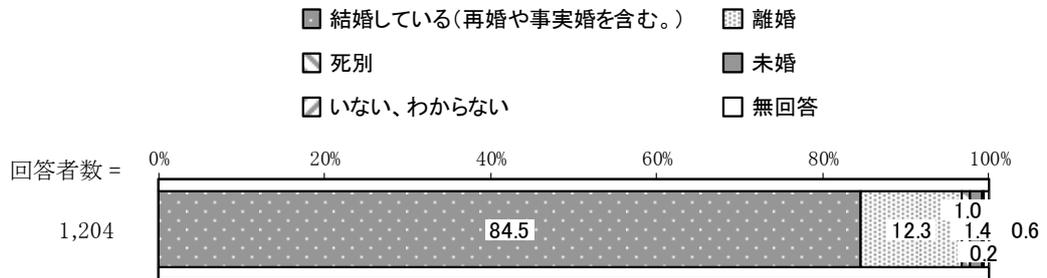
【貧困線別】

貧困線別でみると、非貧困世帯に比べ、貧困世帯で「市営・県営住宅」「借家（賃貸マンション含む）」の割合が高くなっています。一方、貧困世帯に比べ、非貧困世帯で「持家（購入マンション含む）」の割合が高くなっています。



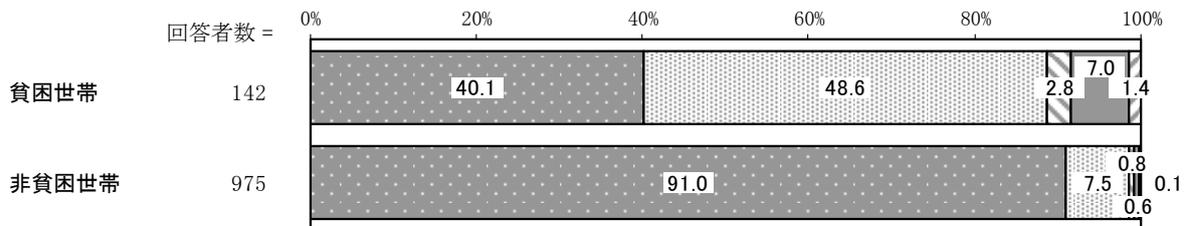
問7 お子さんと同居し、生計を同一にしている親の婚姻状況を教えてください。
(あてはまるもの1つに○)

「結婚している(再婚や事実婚を含む。)」の割合が84.5%と最も高く、次いで「離婚」の割合が12.3%となっています。



【貧困線別】

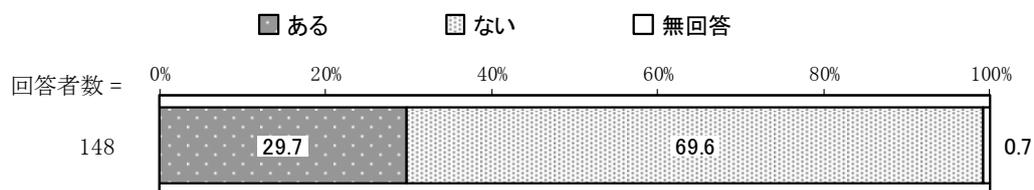
貧困線別でみると、非貧困世帯に比べ、貧困世帯で「離婚」「未婚」の割合が高くなっています。一方、貧困世帯に比べ、非貧困世帯で「結婚している(再婚や事実婚を含む。)」の割合が高くなっています。



問7で「離婚」と答えた方にお聞きします。

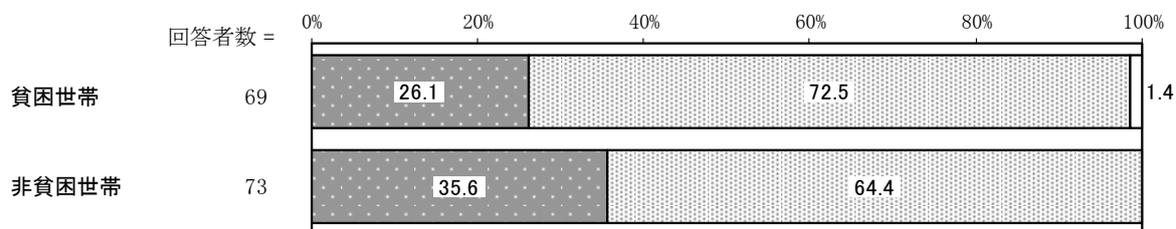
問7-1 養育費の受け取りはありますか。(あてはまるもの1つに○)

「ある」の割合が29.7%、「ない」の割合が69.6%となっています。



【貧困線別】

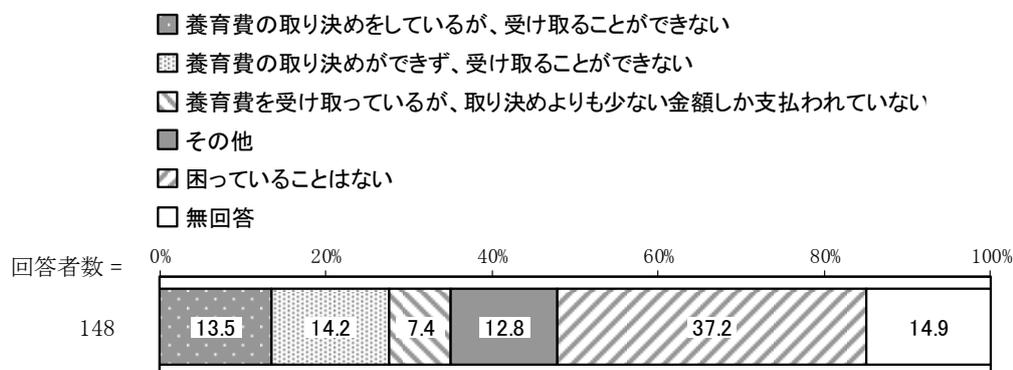
貧困線別でみると、非貧困世帯に比べ、貧困世帯で「ない」の割合が高くなっています。一方、貧困世帯に比べ、非貧困世帯で「ある」の割合が高くなっています。



問7で「離婚」と答えた方にお聞きします。

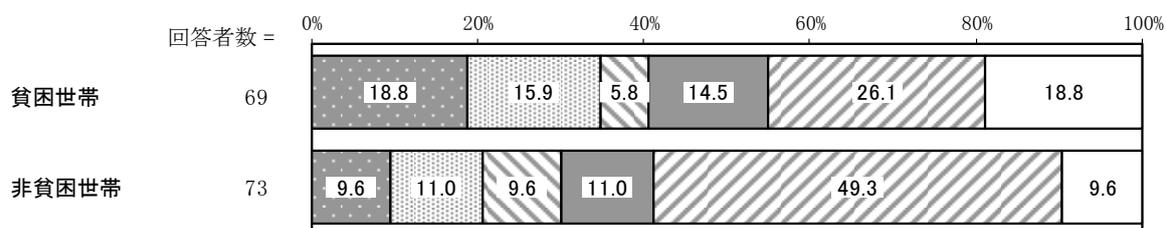
問7-2 養育費について困っていることはありますか。(あてはまるもの1つに○)

「困っていることはない」の割合が37.2%と最も高く、次いで「養育費の取り決めができず、受け取ることができない」の割合が14.2%、「養育費の取り決めをしているが、受け取ることができない」の割合が13.5%となっています。



【貧困線別】

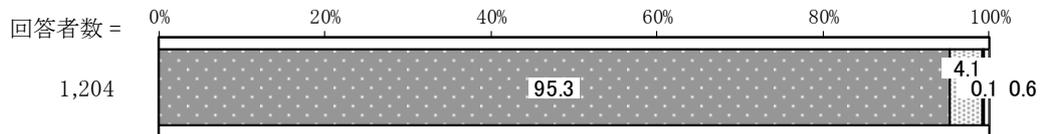
貧困線別でみると、非貧困世帯に比べ、貧困世帯で「養育費の取り決めをしているが、受け取ることができない」の割合が高くなっています。一方、貧困世帯に比べ、非貧困世帯で「困っていることはない」の割合が高くなっています。



問8 ご家庭ではどれくらい、日本語以外の言語を使用していますか。
(あてはまるもの1つに○)

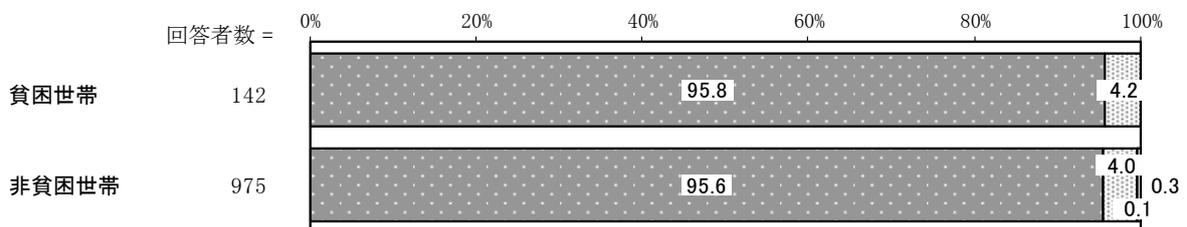
「日本語のみを使用している」の割合が95.3%と最も高くなっています。

- 日本語のみを使用している
- ▨ 日本語以外の言語も使用しているが、日本語の方が多い
- ▩ 日本語以外の言語を使うことが多い
- 無回答



【貧困線別】

貧困線別でみると、大きな差異はみられません。

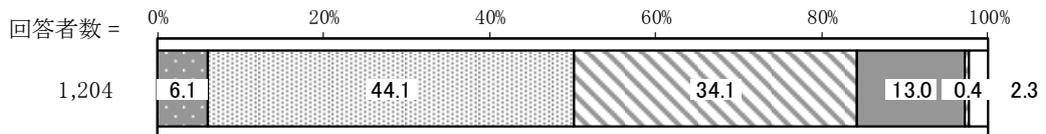


問9 お子さんの親の最終学歴（卒業した学校）を教えてください。
(a、bそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

a) 母親

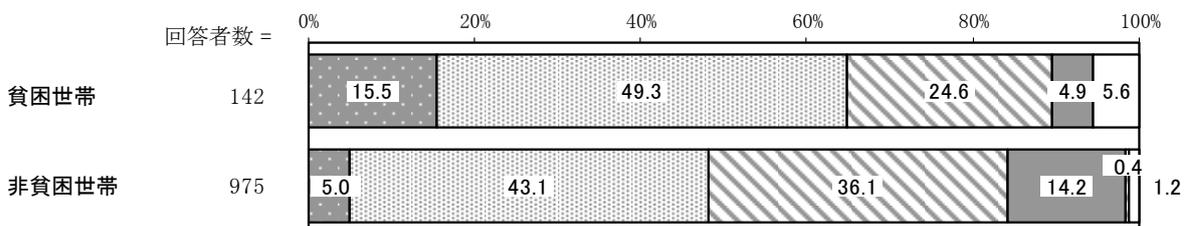
「高校（高等部）まで」の割合が44.1%と最も高く、次いで「短大・高専・専門学校（専攻科）まで」の割合が34.1%、「大学またはそれ以上」の割合が13.0%となっています。

- 中学(中学部)まで
- ▨ 高校(高等部)まで
- ▩ 短大・高専・専門学校(専攻科)まで
- 大学またはそれ以上
- ▨ いない、わからない
- 無回答



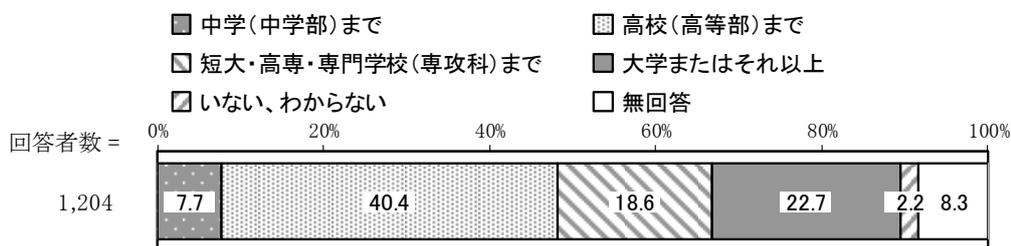
【貧困線別】

貧困線別でみると、非貧困世帯に比べ、貧困世帯で「中学（中学部）まで」「高校（高等部）まで」の割合が高くなっています。一方、貧困世帯に比べ、非貧困世帯で「短大・高専・専門学校（専攻科）まで」「大学またはそれ以上」の割合が高くなっています。



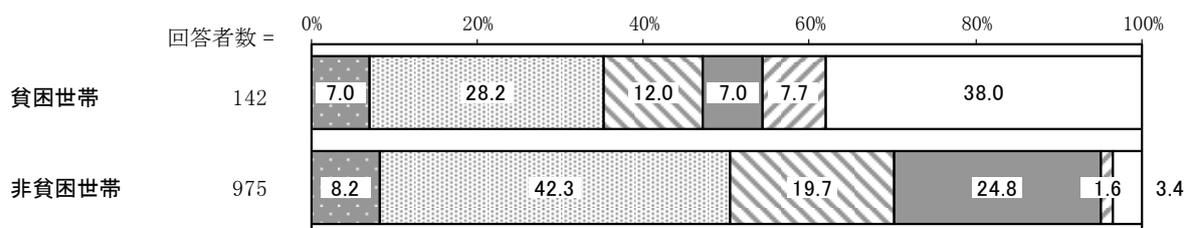
b) 父親

「高校（高等部）まで」の割合が40.4%と最も高く、次いで「大学またはそれ以上」の割合が22.7%、「短大・高専・専門学校（専攻科）まで」の割合が18.6%となっています。



【貧困線別】

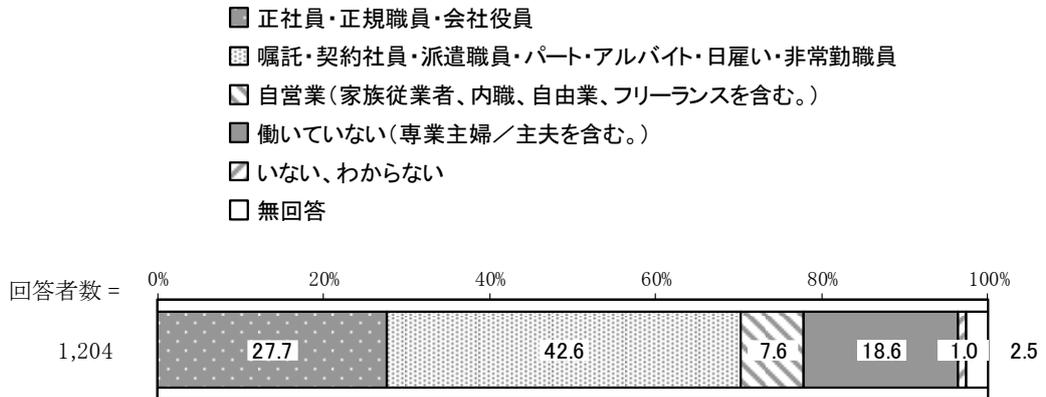
貧困線別で見ると、非貧困世帯に比べ、貧困世帯で「いない、わからない」の割合が高くなっています。一方、貧困世帯に比べ、非貧困世帯で「高校（高等部）まで」「短大・高専・専門学校（専攻科）まで」「大学またはそれ以上」の割合が高くなっています。



問 10 お子さんの親の就労状況について、あてはまるものを回答してください。
 (a、bそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

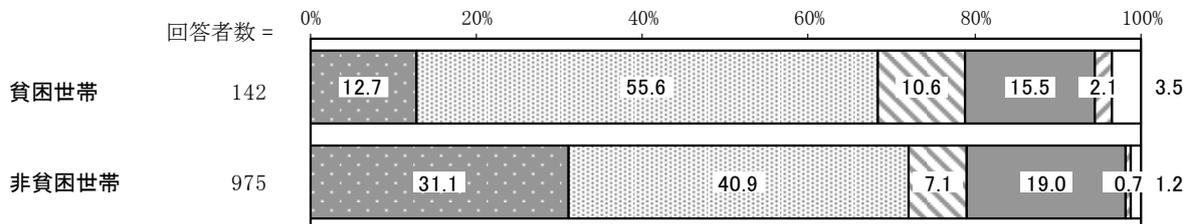
a) 母親

「嘱託・契約社員・派遣職員・パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員」の割合が42.6%と最も高く、次いで「正社員・正規職員・会社役員」の割合が27.7%、「働いていない（専業主婦／主夫を含む）」の割合が18.6%となっています。



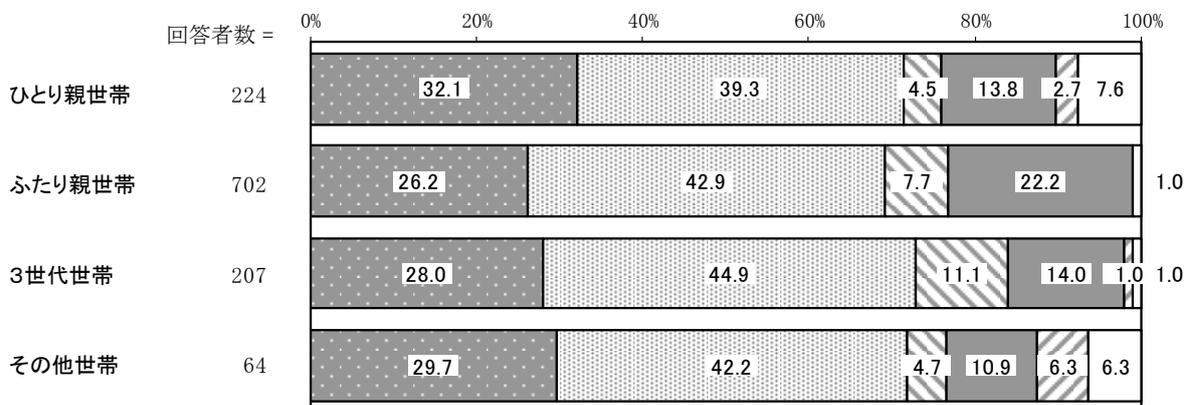
【貧困線別】

貧困線別でみると、非貧困世帯に比べ、貧困世帯で「嘱託・契約社員・派遣職員・パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員」の割合が高くなっています。一方、貧困世帯に比べ、非貧困世帯で「正社員・正規職員・会社役員」の割合が高くなっています。



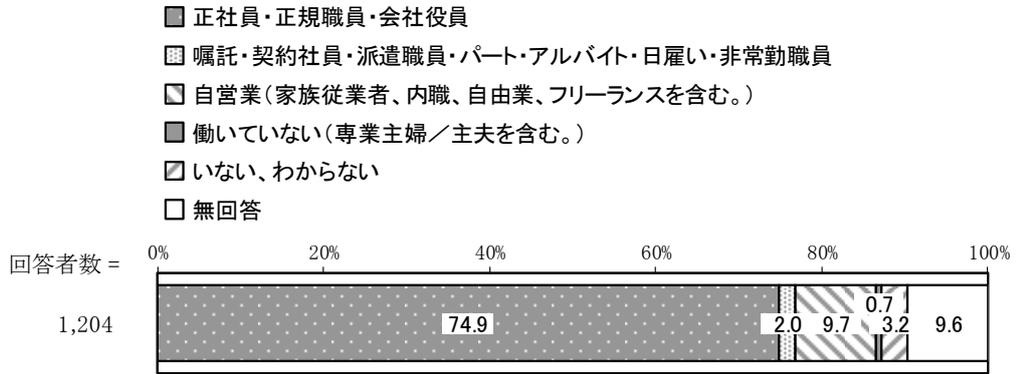
【家族構成別】

家族構成別でみると、他に比べ、ふたり親世帯で「働いていない（専業主婦／主夫を含む。）」の割合が高くなっています。



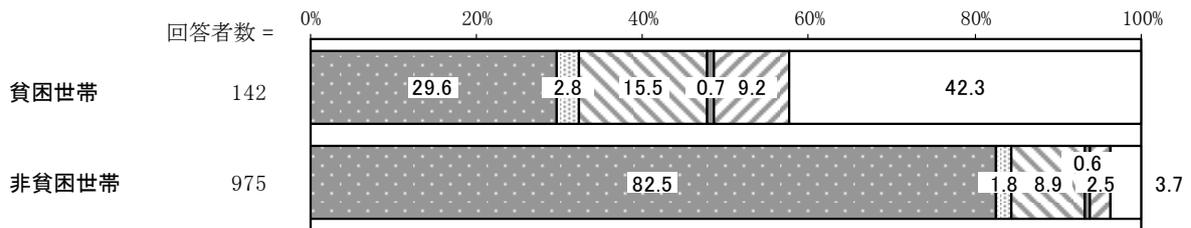
b) 父親

「正社員・正規職員・会社役員」の割合が74.9%と最も高くなっています。



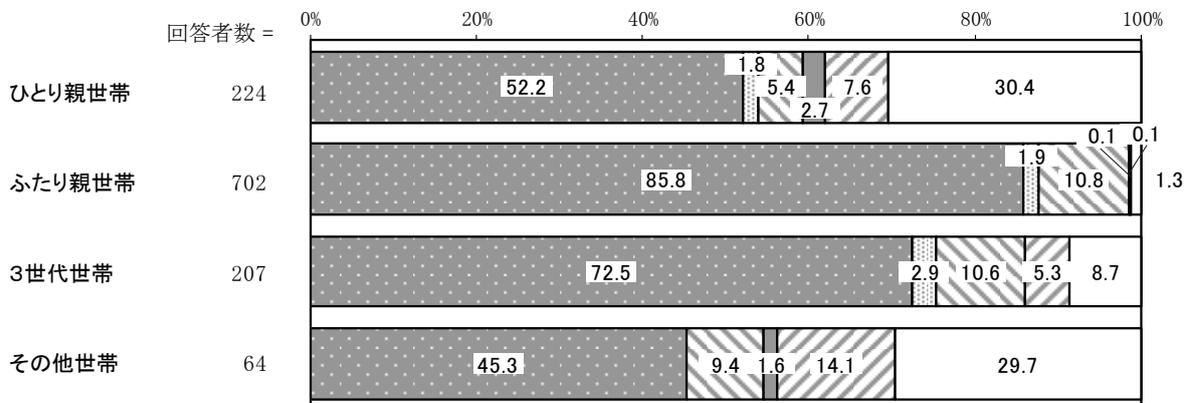
【貧困線別】

貧困線別でみると、非貧困世帯に比べ、貧困世帯で「自営業（家族従業者、内職、自由業、フリーランスを含む。）」「いない、わからない」の割合が高くなっています。一方、貧困世帯に比べ、非貧困世帯で「正社員・正規職員・会社役員」の割合が高くなっています。



【家族構成別】

家族構成別でみると、他に比べ、ふたり親世帯で「正社員・正規職員・会社役員」の割合が高くなっています。また、ひとり親世帯で「正社員・正規職員・会社役員」の割合が低くなっています。

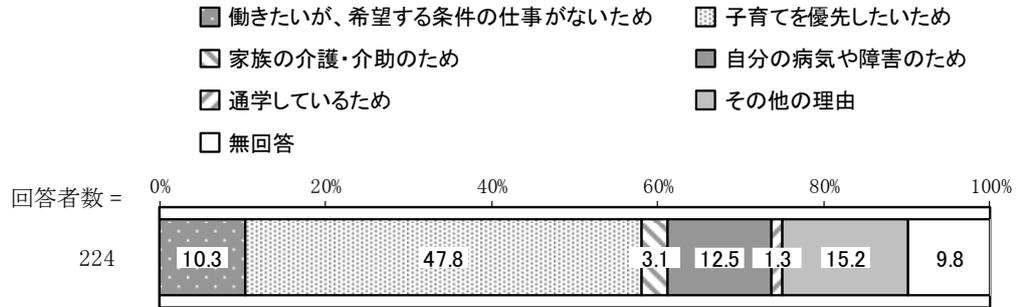


問 10 で「働いていない」と答えた方にお聞きします。

問 10-1 働いていない最も主な理由を教えてください。
 (a、bそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

a) 母親

「子育てを優先したいため」の割合が 47.8%と最も高く、次いで「その他の理由」の割合が 15.2%、「自分の病気や障害のため」の割合が 12.5%となっています。



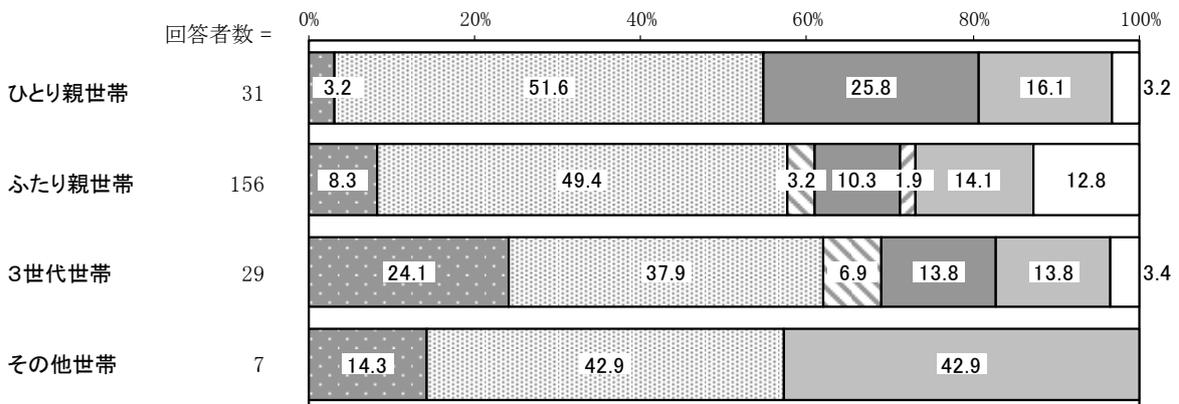
【貧困線別】

貧困線別でみると、非貧困世帯に比べ、貧困世帯で「自分の病気や障害のため」の割合が高くなっています。一方、貧困世帯に比べ、非貧困世帯で「子育てを優先したいため」の割合が高くなっています。



【家族構成別】

家族構成別でみると、他に比べ、ひとり親世帯、ふたり親世帯で「子育てを優先したいため」の割合が高くなっています。また、ひとり親世帯で「自分の病気や障害のため」の割合が高くなっています。

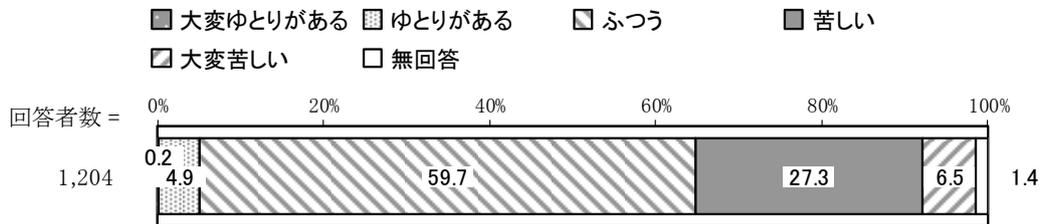


b) 父親

「働きたいが、希望する条件の仕事がないため」、「子育てを優先したいため」、「自分の病気や障害のため」が、それぞれ2件ずつとなっています。

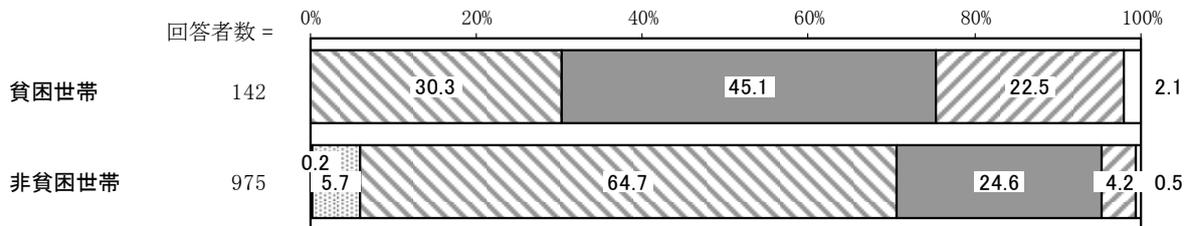
問 11 あなたは、現在の暮らしの状況をどのように感じていますか。
(あてはまるもの1つに○)

「大変ゆとりがある」と「ゆとりがある」をあわせた“ゆとりがある”の割合が5.1%、「ふつう」の割合が59.7%、「苦しい」と「大変苦しい」をあわせた“苦しい”の割合が33.8%となっています。



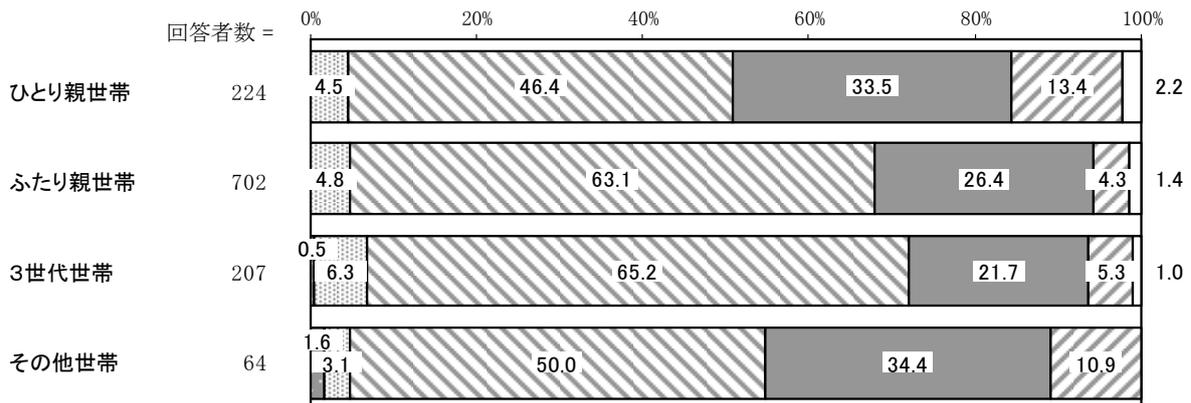
【貧困線別】

貧困線別で見ると、非貧困世帯に比べ、貧困世帯で“苦しい”の割合が高くなっています。一方、貧困世帯に比べ、非貧困世帯で“ゆとりがある”「ふつう」の割合が高くなっています。



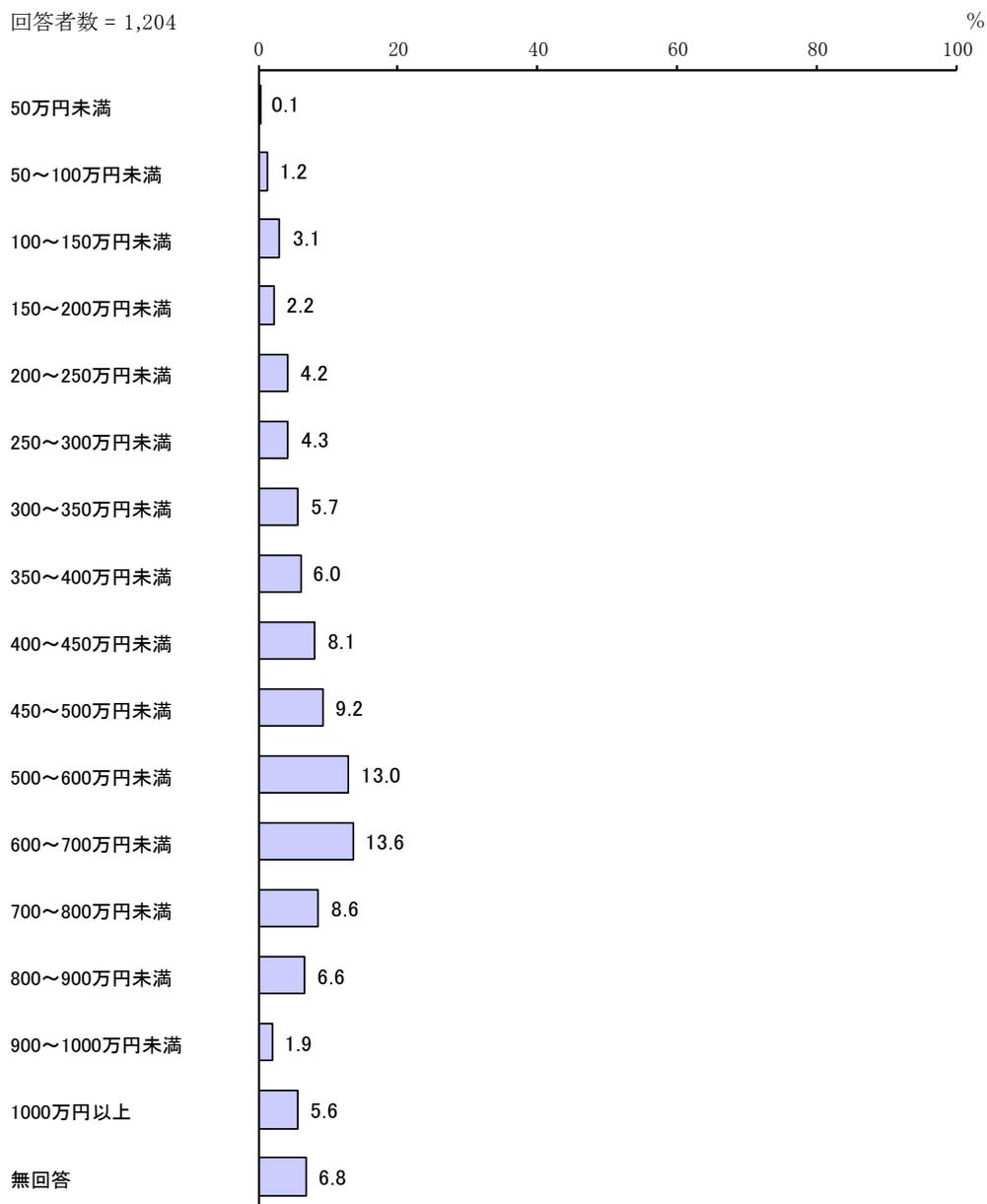
【家族構成別】

家族構成別で見ると、他に比べ、ひとり親世帯で“苦しい”の割合が高く、4割台半ばとなっています。



問 12 世帯全体のおおよその年間収入（税込）はいくらですか。
（あてはまるもの1つに○）

「600～700万円未満」の割合が13.6%と最も高く、次いで「500～600万円未満」の割合が13.0%となっています。



【家族構成別】

家族構成別でみると、他に比べ、ひとり親世帯で「100～150万円未満」「150～200万円未満」「200～250万円未満」の割合が高くなっています。また、ふたり親世帯、3世代世帯で「500～600万円未満」「600～700万円未満」の割合が高くなっています。

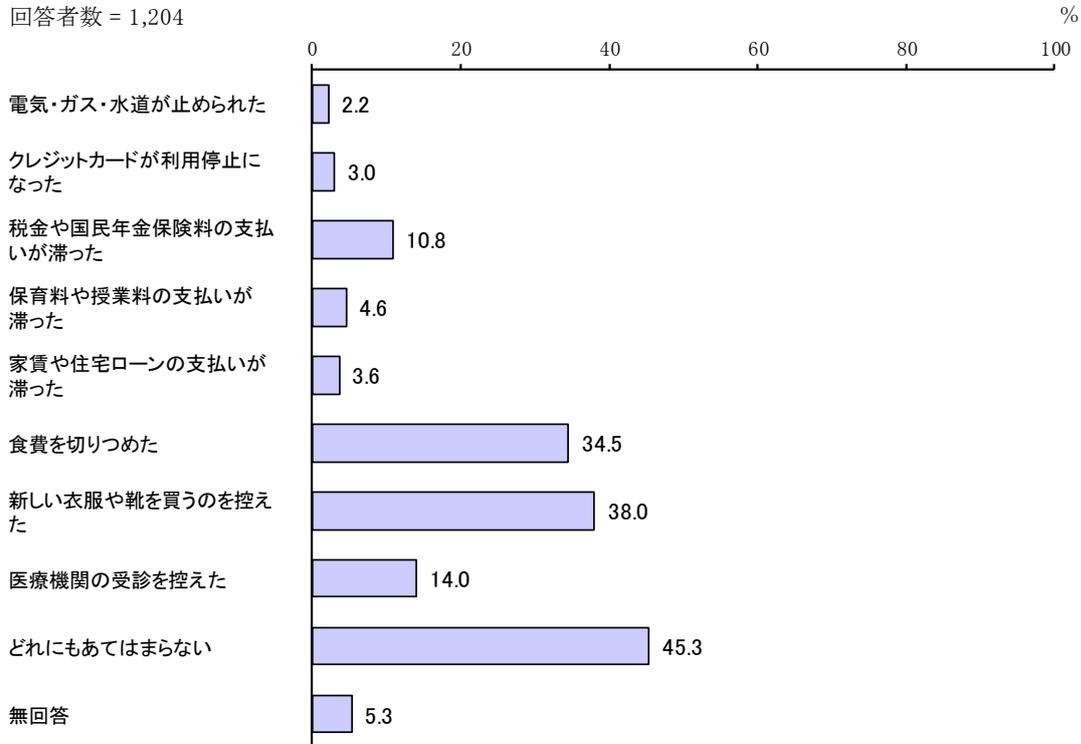
単位：％

区分	回答者数(件)	50万円未満	50～100万円未満	100～150万円未満	150～200万円未満	200～250万円未満	250～300万円未満	300～350万円未満	350～400万円未満
ひとり親世帯	224	0.4	4.0	9.8	7.1	8.5	5.8	9.4	4.5
ふたり親世帯	702	—	0.1	0.7	0.4	2.6	3.6	5.0	7.3
3世代世帯	207	—	1.0	1.9	1.0	4.3	3.9	4.3	4.8
その他世帯	64	—	3.1	9.4	7.8	6.3	7.8	6.3	1.6

区分	400～450万円未満	450～500万円未満	500～600万円未満	600～700万円未満	700～800万円未満	800～900万円未満	900～1000万円未満	1000万円以上	無回答
ひとり親世帯	8.0	5.8	8.5	9.8	5.8	3.6	1.3	2.7	4.9
ふたり親世帯	9.5	11.7	15.0	15.4	8.4	7.1	1.7	5.1	6.4
3世代世帯	5.8	5.8	12.6	14.0	12.6	6.3	3.4	9.7	8.7
その他世帯	1.6	4.7	6.3	7.8	7.8	12.5	1.6	6.3	9.4

問 13 あなたの世帯では、過去1年の間に、経済的な理由で、次のような経験をしたことがありますか。(1～8については、あてはまるものすべてに○)

「どれにもあてはまらない」の割合が45.3%と最も高く、次いで「新しい衣服や靴を買うのを控えた」の割合が38.0%、「食費を切りつめた」の割合が34.5%となっています。



【貧困線別】

貧困線別でみると、非貧困世帯に比べ、貧困世帯で「電気・ガス・水道が止められた」「クレジットカードが利用停止になった」「税金や国民年金保険料の支払いが滞った」「家賃や住宅ローンの支払いが滞った」「食費を切りつめた」「新しい衣服や靴を買うのを控えた」「医療機関の受診を控えた」の割合が高くなっています。一方、貧困世帯に比べ、非貧困世帯で「どれにもあてはまらない」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	電気・ガス・水道が止められた	クレジットカードが利用停止になった	税金や国民年金保険料の支払いが滞った	保育料や授業料の支払いが滞った	家賃や住宅ローンの支払いが滞った	食費を切りつめた	新しい衣服や靴を買うのを控えた	医療機関の受診を控えた	どれにもあてはまらない	無回答
貧困世帯	142	9.2	9.9	26.8	5.6	10.6	57.0	64.8	33.1	19.0	2.1
非貧困世帯	975	1.2	2.3	8.6	4.6	2.7	32.4	34.7	10.9	49.6	4.3

【子どもの学年別】

子どもの学年別でみると、小学生、中学生、0～18歳未満いずれも、非貧困世帯に比べ、貧困世帯で「税金や国民年金保険料の支払いが滞った」「食費を切りつめた」「新しい衣服や靴を買うのを控えた」「医療機関の受診を控えた」の割合が高くなっています。また、他に比べ、中学生の貧困世帯で「クレジットカードが利用停止になった」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	電気・ガス・水道が止められた	クレジットカードが利用停止になった	税金や国民年金保険料の支払いが滞った	保育料や授業料の支払いが滞った	家賃や住宅ローンの支払いが滞った	食費を切りつめた	新しい衣服や靴を買うのを控えた	医療機関の受診を控えた	どれにもあてはまらない	無回答
小学生(5年生)	318	3.1	1.6	11.0	6.0	3.1	28.6	34.0	13.5	50.3	5.7
貧困世帯	39	10.3	—	23.1	10.3	10.3	53.8	74.4	30.8	10.3	2.6
非貧困世帯	257	1.9	1.9	8.9	5.4	1.9	24.9	26.5	9.3	58.4	5.1
中学生(2年生)	297	2.7	4.7	12.8	6.4	2.4	39.4	36.4	15.8	44.8	5.4
貧困世帯	35	5.7	20.0	25.7	2.9	5.7	54.3	57.1	37.1	25.7	5.7
非貧困世帯	238	2.1	2.9	10.9	7.1	1.7	39.1	34.5	13.0	47.9	3.8
0～18歳未満	555	1.6	3.1	9.9	2.7	4.5	35.3	41.8	13.2	42.3	5.0
貧困世帯	65	10.8	10.8	29.2	4.6	12.3	60.0	64.6	32.3	20.0	—
非貧困世帯	452	0.4	2.2	7.5	2.7	3.8	33.2	39.8	10.6	45.1	4.4

【家族構成別】

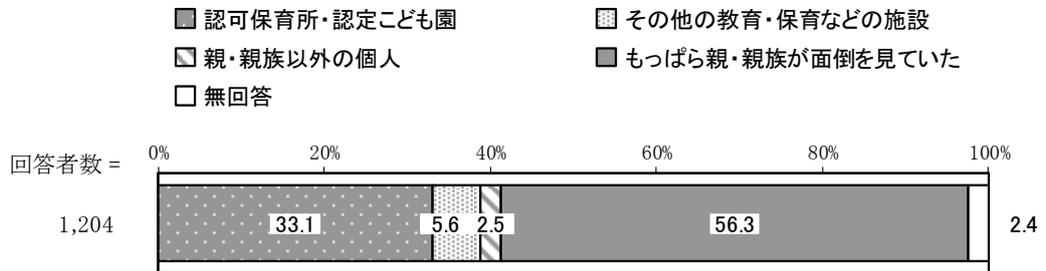
家族構成別でみると、他に比べ、ひとり親世帯で「税金や国民年金保険料の支払いが滞った」「家賃や住宅ローンの支払いが滞った」「食費を切りつめた」「新しい衣服や靴を買うのを控えた」の割合が高くなっています。また、ふたり親世帯、3世代世帯で「どれにもあてはまらない」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	電気・ガス・水道が止められた	クレジットカードが利用停止になった	税金や国民年金保険料の支払いが滞った	保育料や授業料の支払いが滞った	家賃や住宅ローンの支払いが滞った	食費を切りつめた	新しい衣服や靴を買うのを控えた	医療機関の受診を控えた	どれにもあてはまらない	無回答
ひとり親世帯	224	4.9	5.8	18.8	6.7	8.0	43.8	45.5	18.8	34.8	5.8
ふたり親世帯	702	1.6	2.1	8.5	4.1	2.8	31.8	35.3	13.1	48.7	4.7
3世代世帯	207	0.5	2.9	7.2	3.9	1.9	30.9	37.7	11.6	48.3	6.3
その他世帯	64	6.3	3.1	18.8	4.7	1.6	43.8	40.6	15.6	35.9	4.7

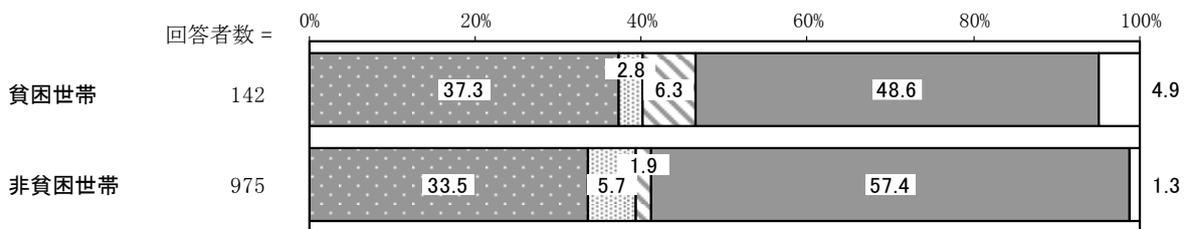
問 14 調査対象のお子さんが0～2歳の間に通っていた教育・保育などの施設で最も主なもの（期間が長いもの）をお答えください。（あてはまるもの1つに○）

「もっぱら親・親族が面倒を見ていた」の割合が56.3%と最も高く、次いで「認可保育所・認定こども園」の割合が33.1%となっています。



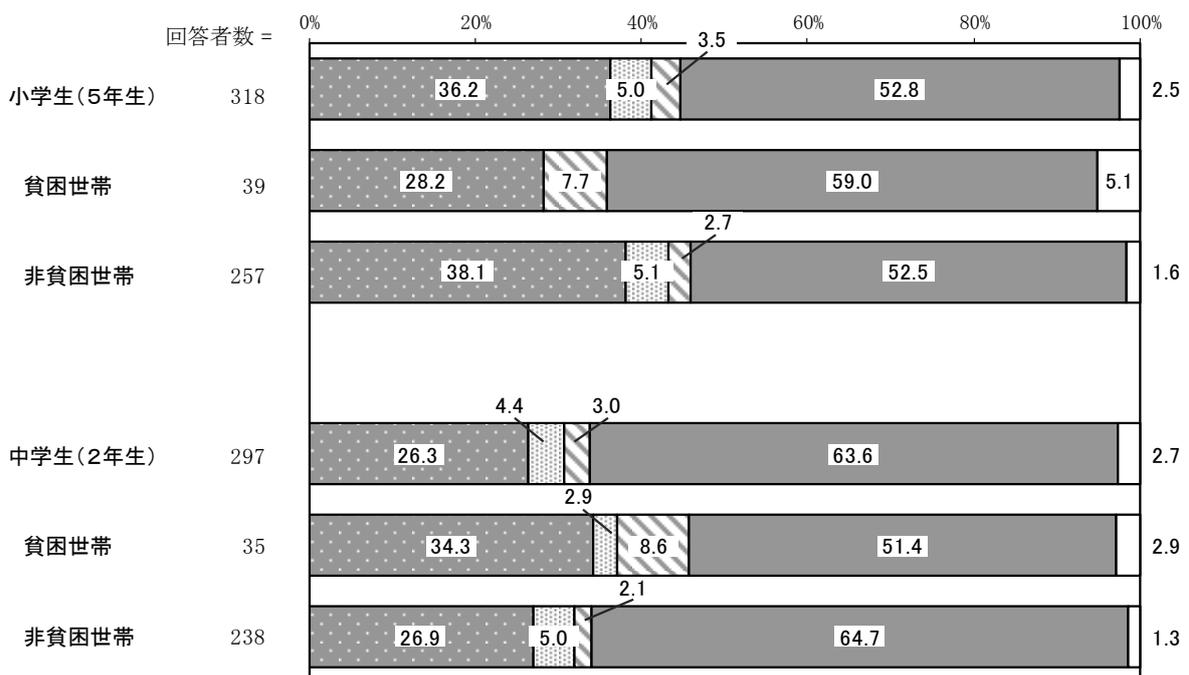
【貧困線別】

貧困線別でみると、貧困世帯に比べ、非貧困世帯で「もっぱら親・親族が面倒を見ていた」の割合が高くなっています。



【子どもの学年別】

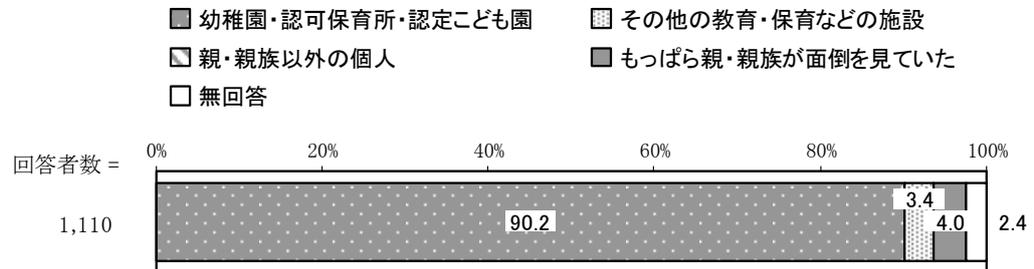
子どもの学年別でみると、他に比べ、中学生の非貧困世帯で「もっぱら親・親族が面倒を見ていた」の割合が高くなっています。



問 15 調査対象のお子さんが3～5歳の間に通っていた教育・保育などの施設で最も主なもの（期間が長いもの）をお答えください。（あてはまるもの1つに○）

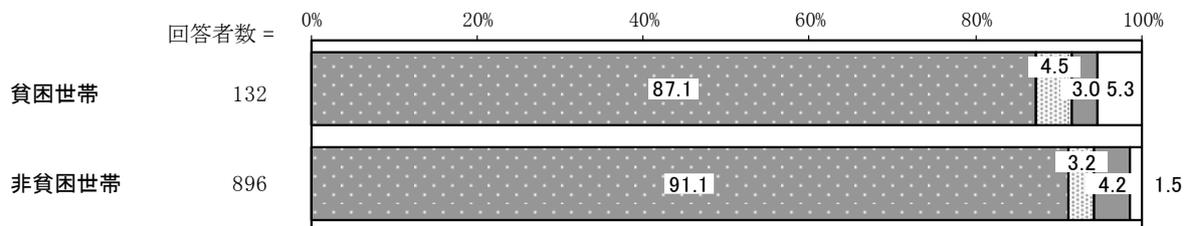
※本問では、子どもの年齢が3歳未満の保護者は集計から除いています。

「幼稚園・認可保育所・認定こども園」の割合が90.2%と最も高くなっています。



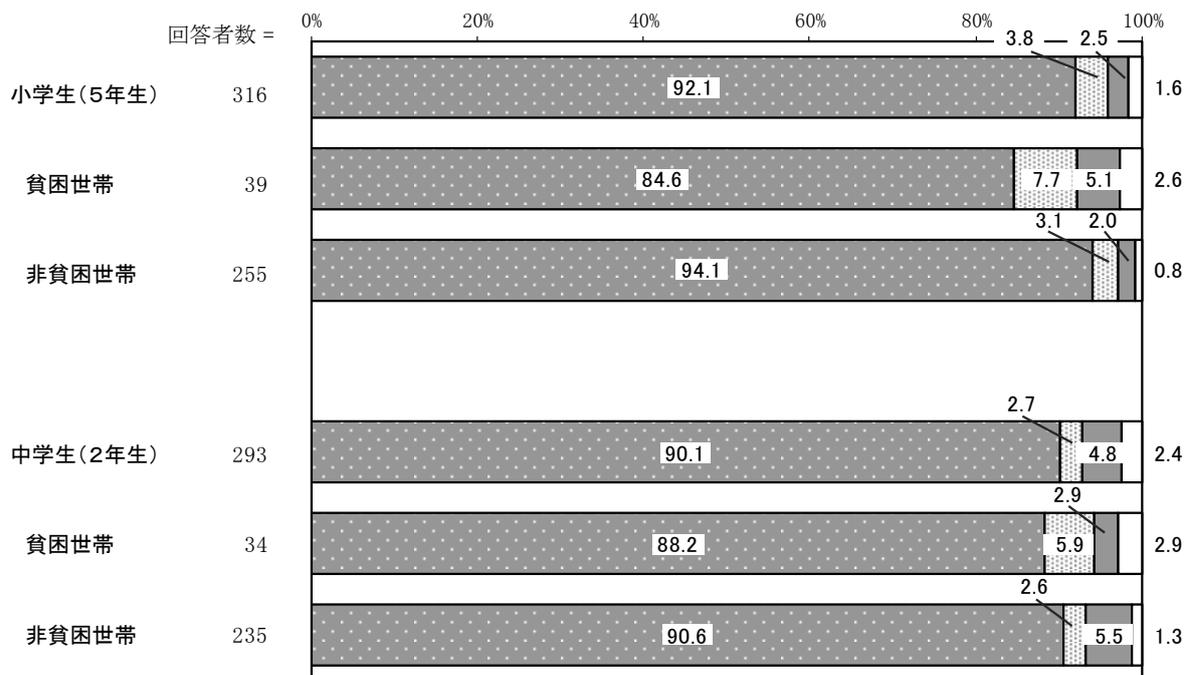
【貧困線別】

貧困線別でみると、大きな差異はみられません。



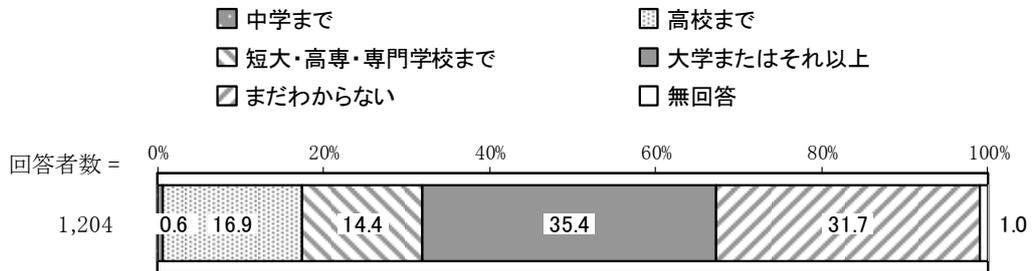
【子どもの学年別】

子どもの学年別でみると、他に比べ、小学生の非貧困世帯で「幼稚園・認可保育所・認定こども園」の割合が高くなっています。



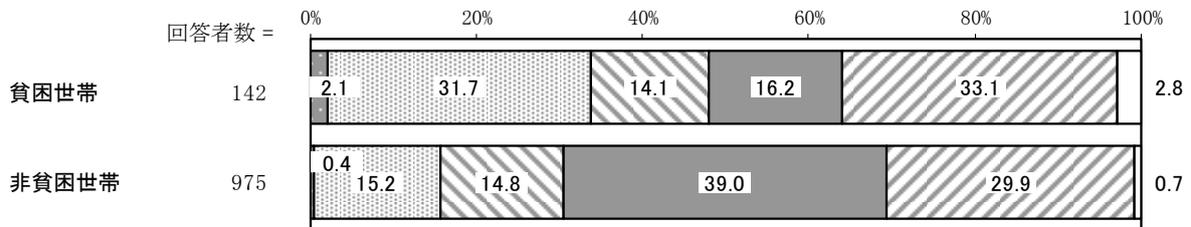
問 16 お子さんは将来、どの段階まで進学すると思いますか。
(あてはまるもの1つに○)

「大学またはそれ以上」の割合が 35.4%と最も高く、次いで「まだわからない」の割合が 31.7%、「高校まで」の割合が 16.9%となっています。



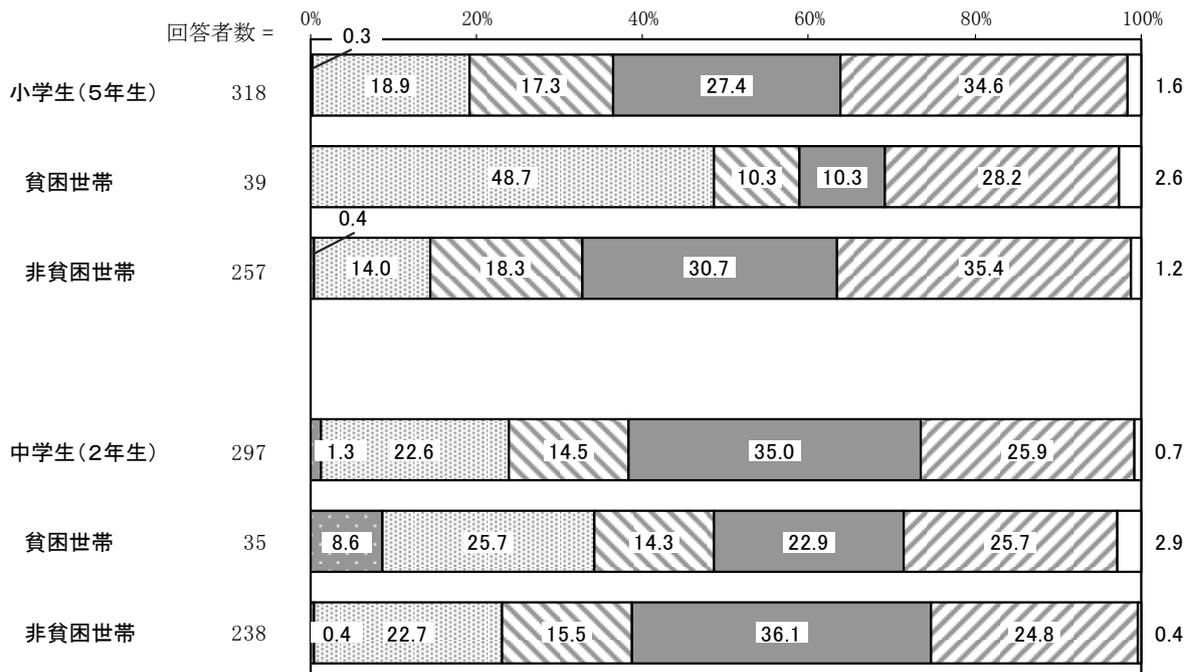
【貧困線別】

貧困線別でみると、非貧困世帯に比べ、貧困世帯で「高校まで」の割合が高くなっています。一方、貧困世帯に比べ、非貧困世帯で「大学またはそれ以上」の割合が高くなっています。



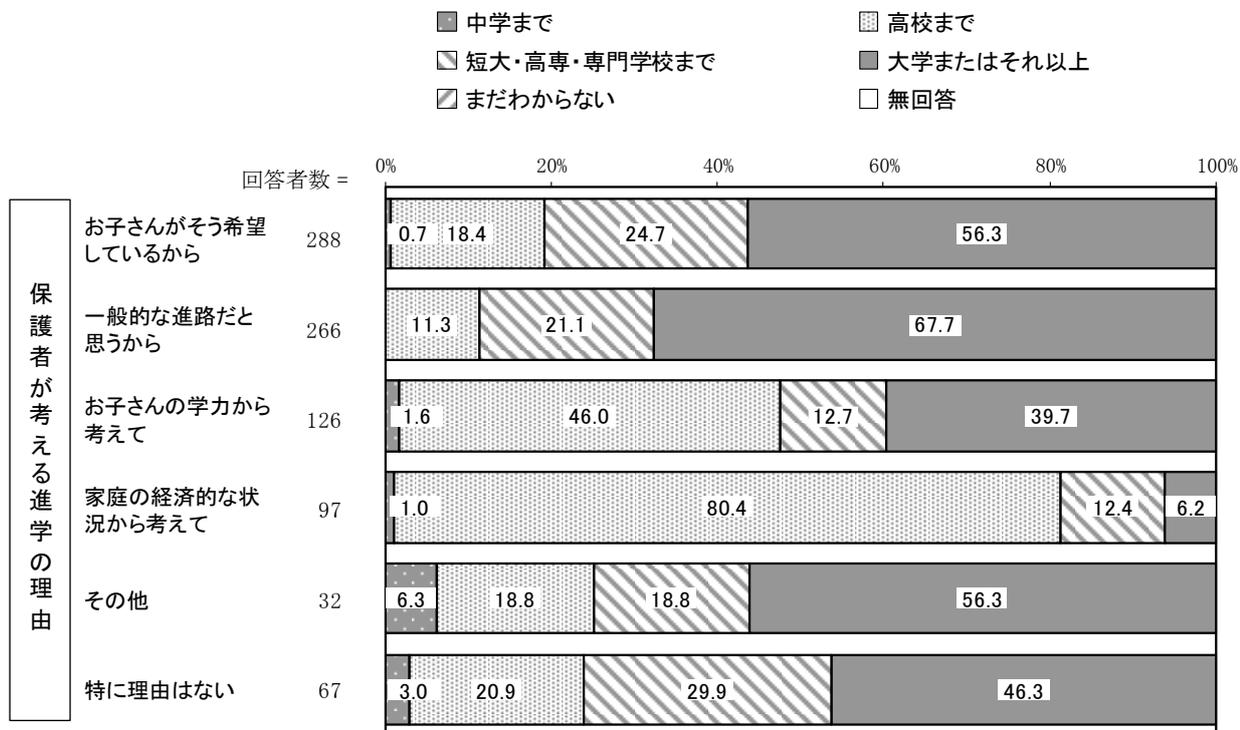
【子どもの学年別】

子どもの学年別でみると、他に比べ、小学生の貧困世帯で「高校まで」の割合が高くなっています。また、中学生の貧困世帯で「中学まで」の割合が高くなっています。



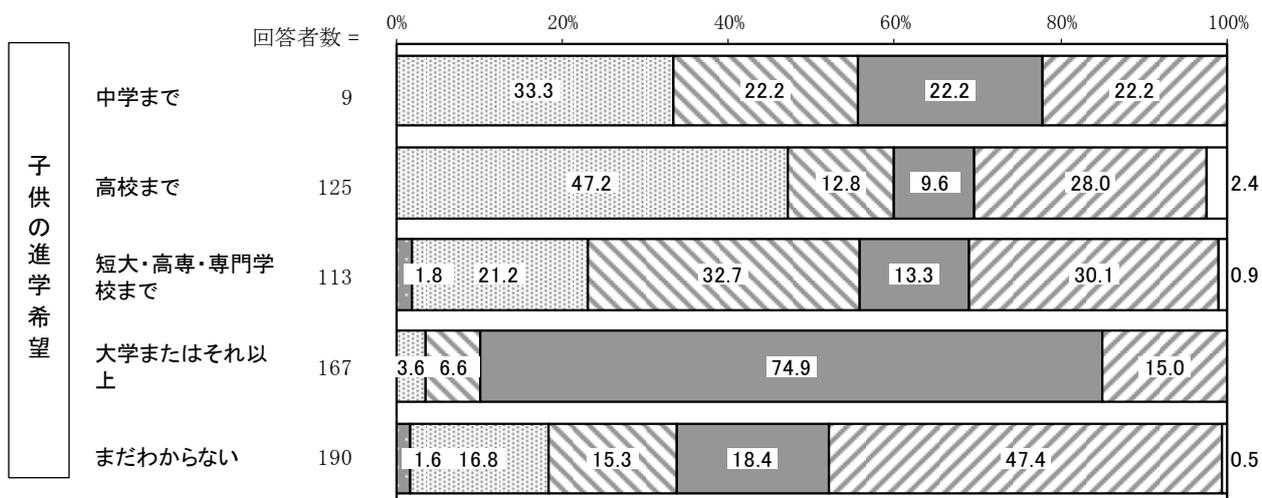
【保護者が考える進学理由別】

保護者が考える進学の理由（問16-1）別でみると、他に比べ、家庭の経済的な状況から考えて「高校まで」の割合が高くなっています。



【子どもの進学希望別】

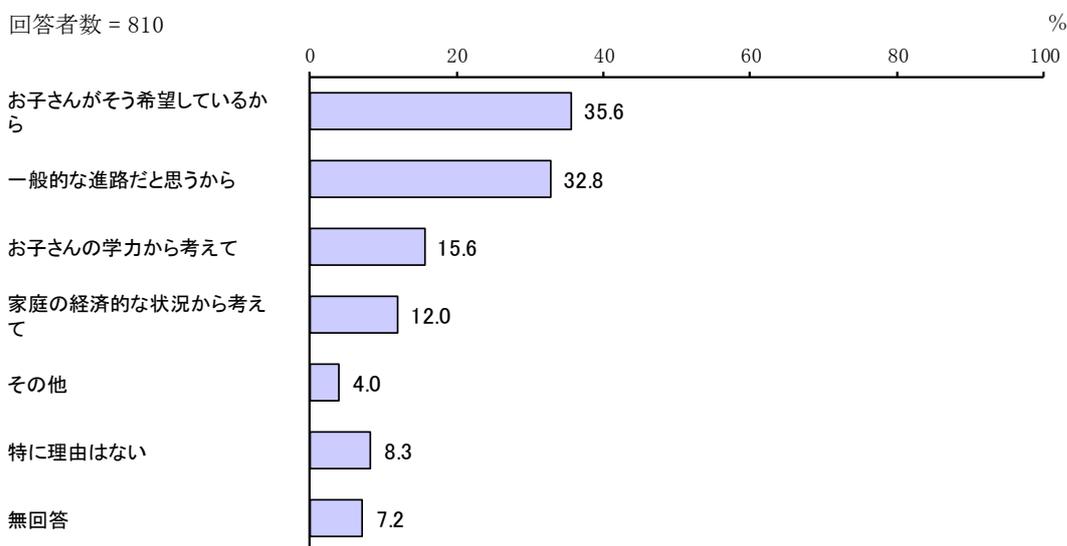
子どもの進学希望（小学生・中学生調査 問6）別でみると、子どもの進学希望と保護者の進学希望が一致している人の割合が高く、特に子どもが『大学またはそれ以上』を希望している場合、保護者が「大学またはそれ以上」と考えている人の割合が高く、7割台半ばとなっています。



問 16 で「中学まで」「高校まで」「短大・高専・専門学校まで」「大学またはそれ以上」と答えた方にお聞きします。

問 16-1 その理由は何ですか。(1～5については、あてはまるものすべてに○)

「お子さんがそう希望しているから」の割合が 35.6%と最も高く、次いで「一般的な進路だと思うから」の割合が 32.8%、「お子さんの学力から考えて」の割合が 15.6%となっています。



【貧困線別】

貧困線別でみると、非貧困世帯に比べ、貧困世帯で「家庭の経済的な状況から考えて」の割合が高くなっています。一方、貧困世帯に比べ、非貧困世帯で「一般的な進路だと思うから」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数 (件)	お子さんがそう希望しているから	一般的な進路だと思うから	お子さんの学力から考えて	家庭の経済的な状況から考えて	その他	特に理由はない	無回答
貧困世帯	91	30.8	17.6	18.7	35.2	4.4	7.7	7.7
非貧困世帯	676	35.8	35.1	15.7	9.3	4.0	8.3	6.7

【子どもの学年別】

子どもの学年別でみると、小学生、中学生、0～18歳未満いずれも、非貧困世帯に比べ、貧困世帯で「家庭の経済的な状況から考えて」の割合が高くなっています。また、小学生、0～18歳未満の非貧困世帯で「一般的な進路だと思うから」の割合が、中学生の貧困世帯で「お子さんがそう希望しているから」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	お子さんがそう希望しているから	一般的な進路だと思うから	お子さんの学力から考えて	家庭の経済的な状況から考えて	その他	特に理由はない	無回答
小学生(5年生)	203	29.6	35.5	21.2	12.8	5.4	6.9	5.9
貧困世帯	27	18.5	22.2	22.2	33.3	3.7	7.4	11.1
非貧困世帯	163	31.9	38.0	22.1	9.2	6.1	5.5	4.9
中学生(2年生)	218	45.9	24.3	18.3	13.3	1.8	5.0	9.6
貧困世帯	25	52.0	16.0	24.0	36.0	—	4.0	8.0
非貧困世帯	178	43.3	25.3	18.5	11.2	2.2	5.6	9.0
0～18歳未満	363	33.1	36.4	10.7	11.0	4.7	10.7	6.3
貧困世帯	38	26.3	15.8	13.2	36.8	7.9	7.9	5.3
非貧困世帯	311	34.1	38.9	10.6	8.4	4.2	11.3	6.1

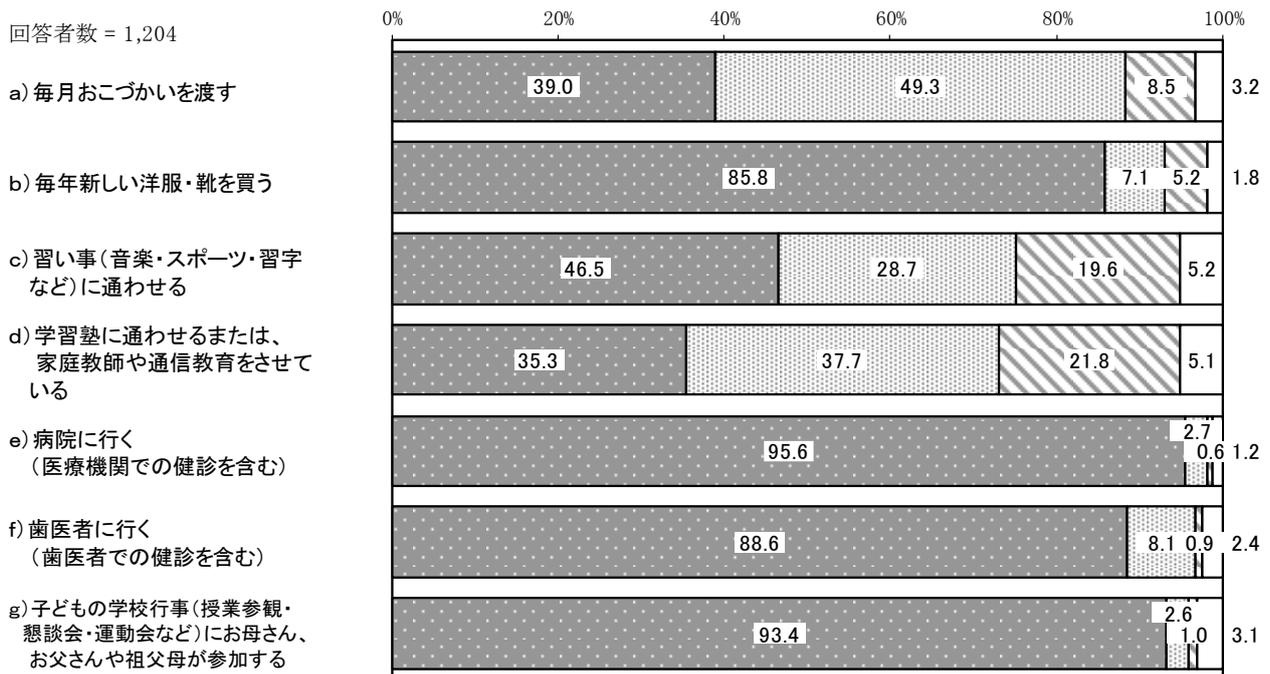
問 17 あなたのご家庭では、お子さんに次のことをしていますか。
 (a～gそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

『e) 病院に行く(医療機関での健診を含む)』『f) 歯医者に行く(歯医者での健診を含む)』『g) 子どもの学校行事(授業参観・懇談会・運動会など)にお母さん、お父さんや祖父母が参加する』で「している」の割合が高く、約9割から9割台半ばとなっています。

また、『c) 習い事(音楽・スポーツ・習字など)に通わせる』『d) 学習塾に通わせるまたは、家庭教師や通信教育をさせている』で「経済的にできない」の割合が高く、約2割となっています。

■ している ■ 必要だと思わない ■ 経済的にできない □ 無回答

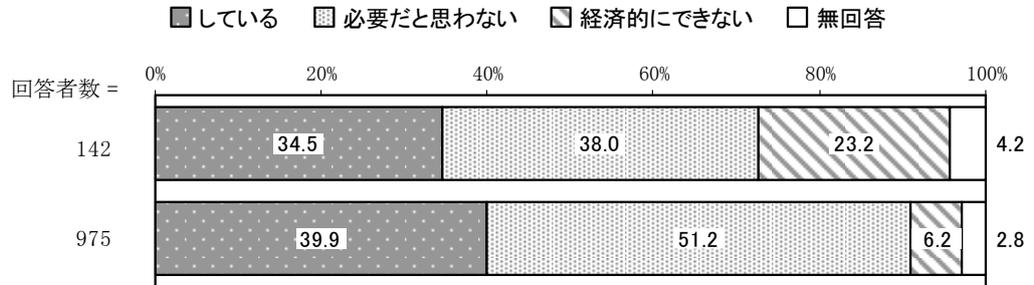
回答者数 = 1,204



a) 毎月おこづかいを渡す

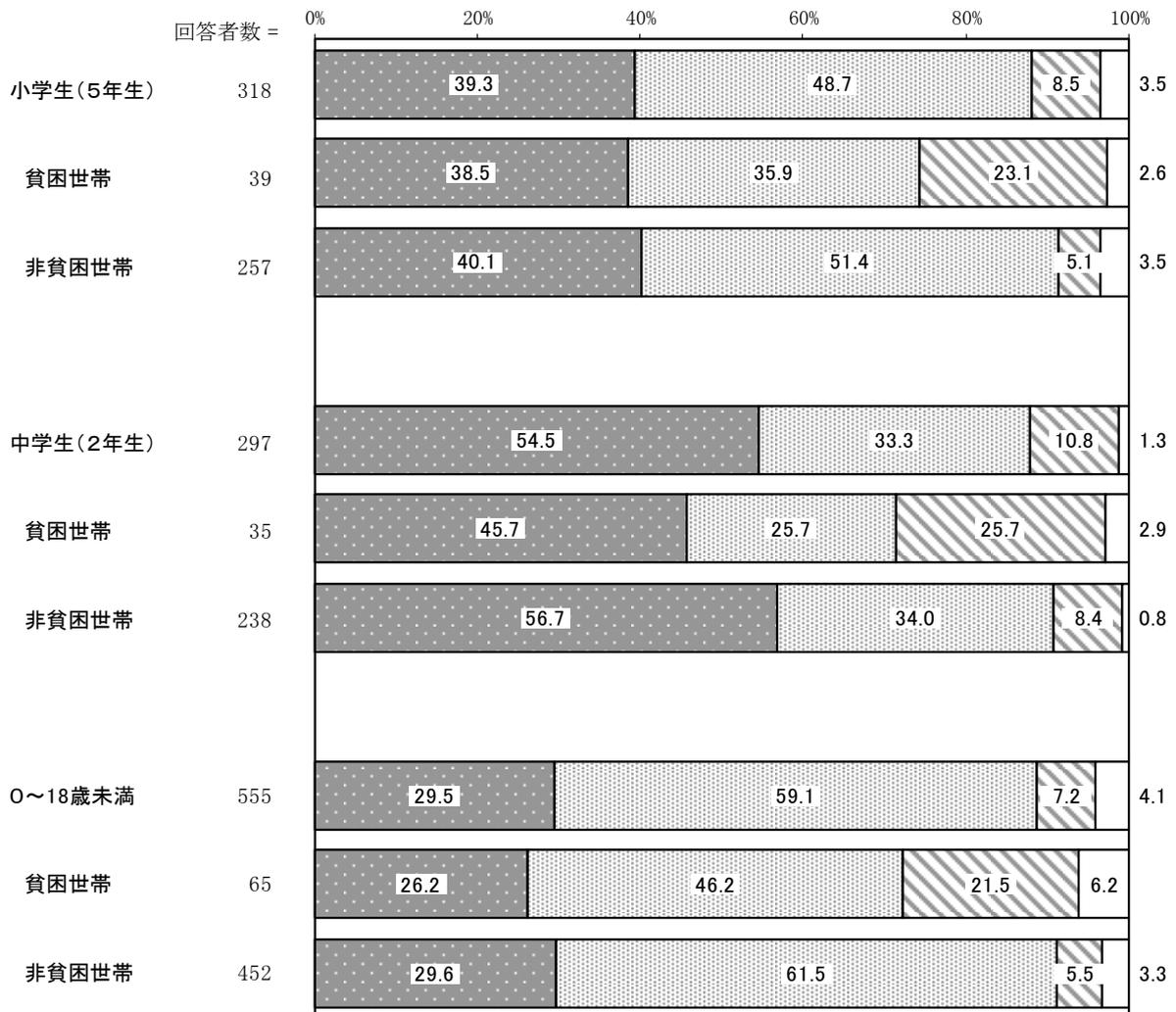
【貧困線別】

貧困線別でみると、非貧困世帯に比べ、貧困世帯で「経済的にできない」の割合が高くなっています。一方、貧困世帯に比べ、非貧困世帯で「している」「必要だと思わない」の割合が高くなっています。



【子どもの学年別】

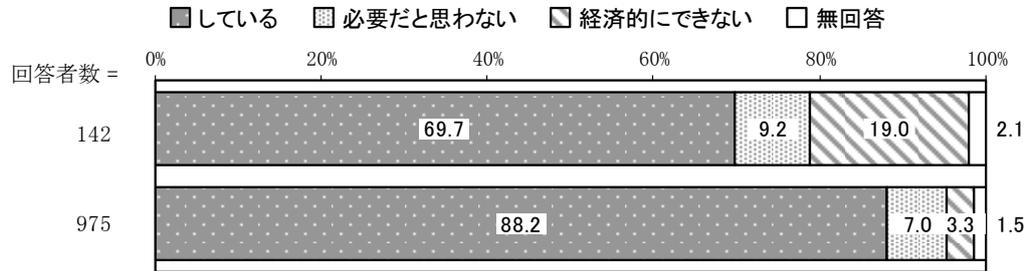
子どもの学年別でみると、小学生、中学生、0～18歳未満いずれも、非貧困世帯に比べ、貧困世帯で「経済的にできない」の割合が高くなっています。また、他に比べ、中学生の非貧困世帯で「している」の割合が高くなっています。



b) 毎年新しい洋服・靴を買う

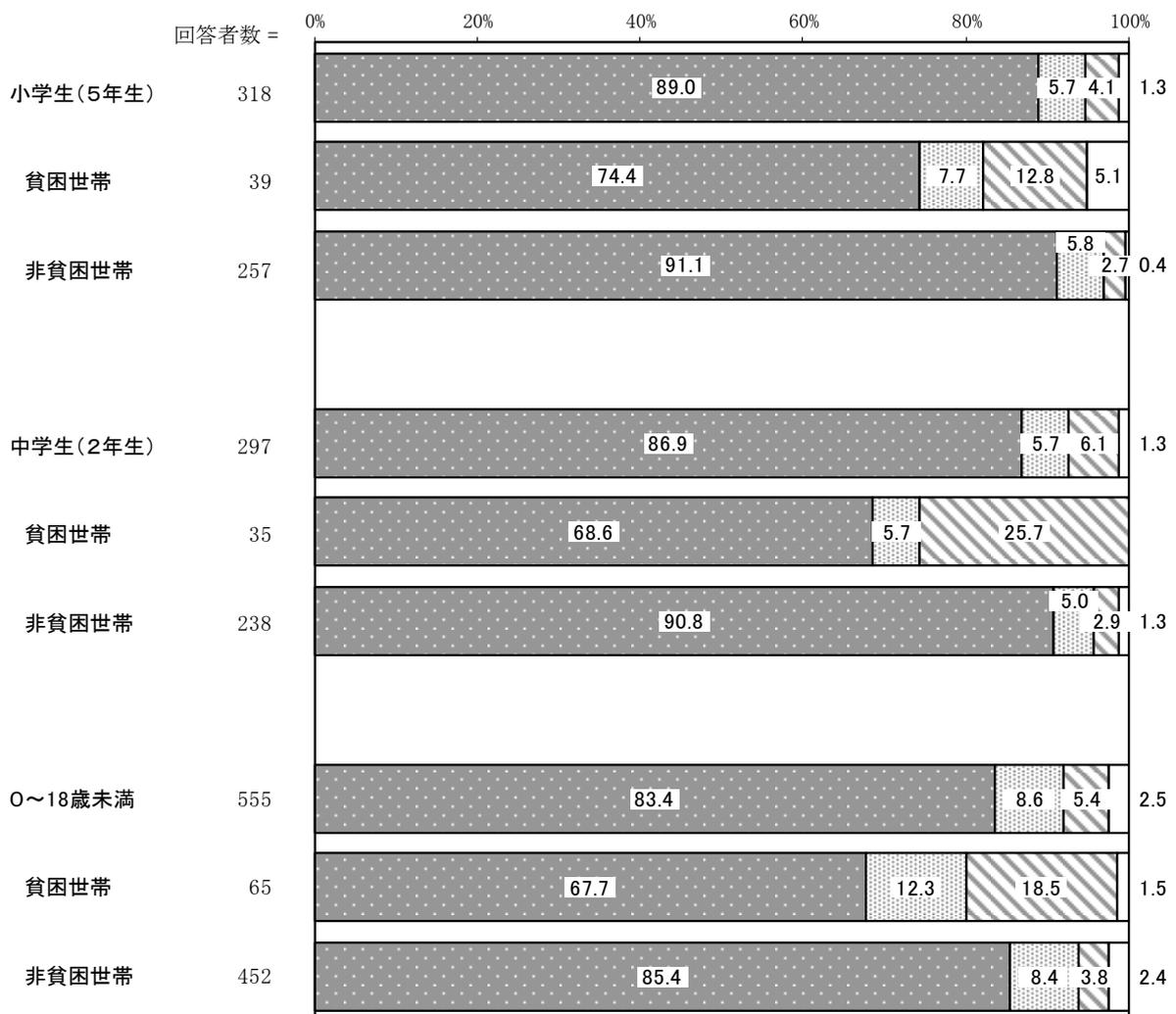
【貧困線別】

貧困線別でみると、非貧困世帯に比べ、貧困世帯で「経済的にできない」の割合が高くなっています。一方、貧困世帯に比べ、非貧困世帯で「している」の割合が高くなっています。



【子どもの学年別】

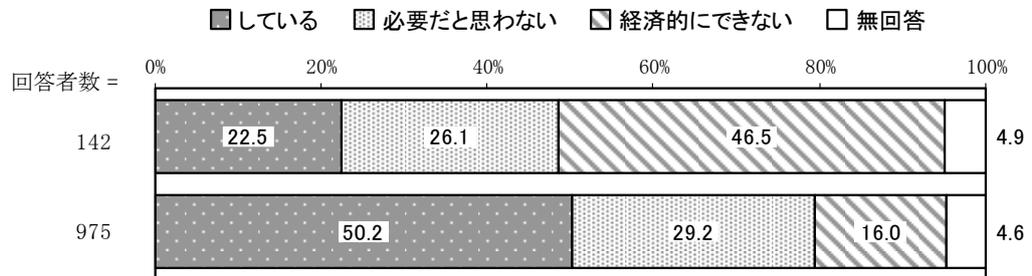
子どもの学年別でみると、小学生、中学生、0～18歳未満いずれも、非貧困世帯に比べ、貧困世帯で「している」の割合が低く、「経済的にできない」の割合が高くなっています。



c) 習い事（音楽・スポーツ・習字など）に通わせる

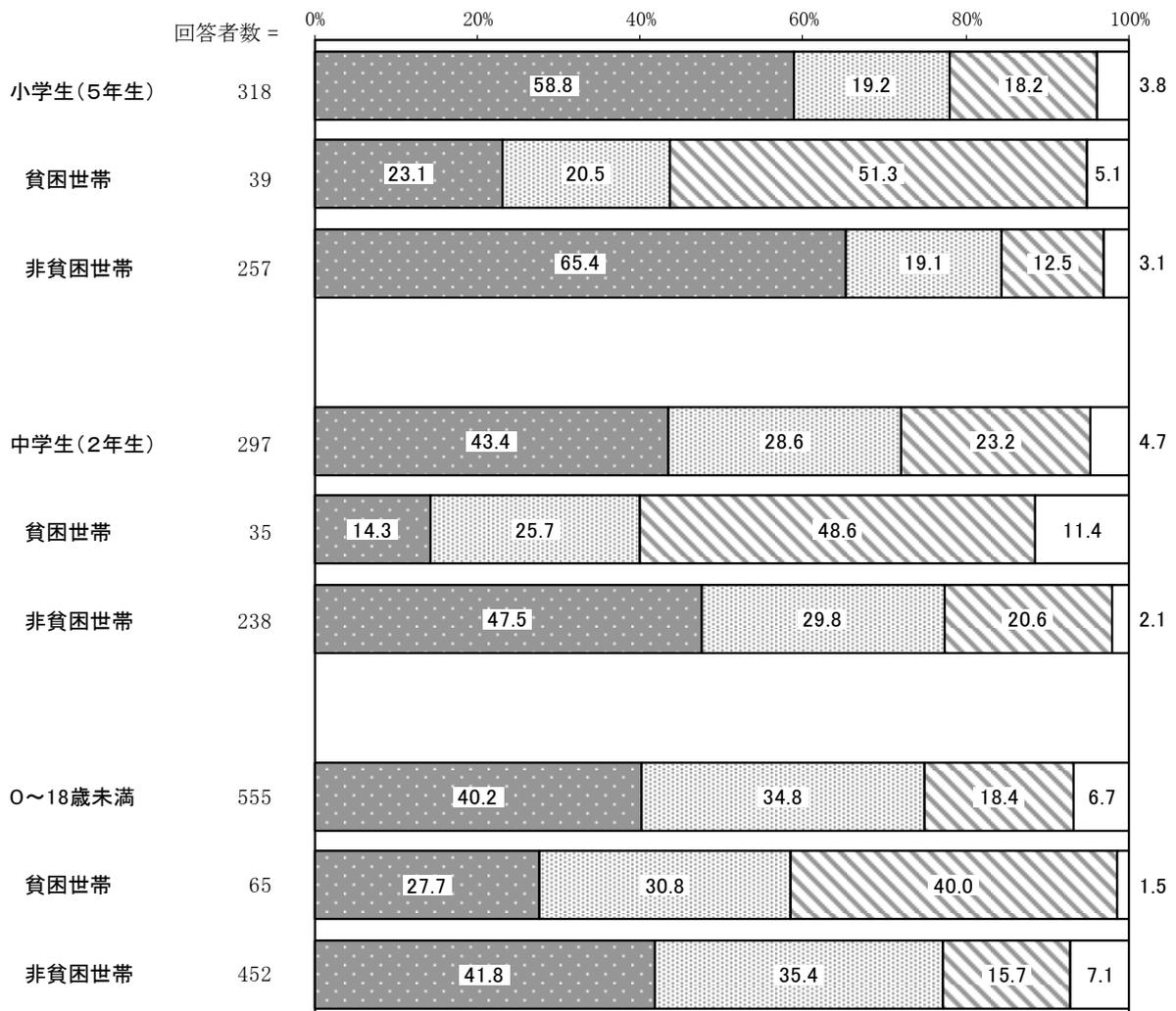
【貧困線別】

貧困線別でみると、非貧困世帯に比べ、貧困世帯で「経済的にできない」の割合が高くなっています。一方、貧困世帯に比べ、非貧困世帯で「している」の割合が高くなっています。



【子どもの学年別】

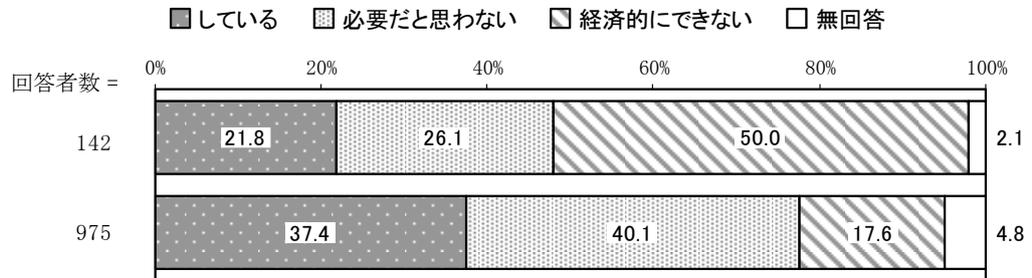
子どもの学年別でみると、小学生、中学生、0～18歳未満いずれも、非貧困世帯に比べ、貧困世帯で「経済的にできない」の割合が高くなっています。また、他に比べ、小学生の非貧困世帯で「している」の割合が高くなっています。



d) 学習塾に通わせるまたは、家庭教師や通信教育をさせている

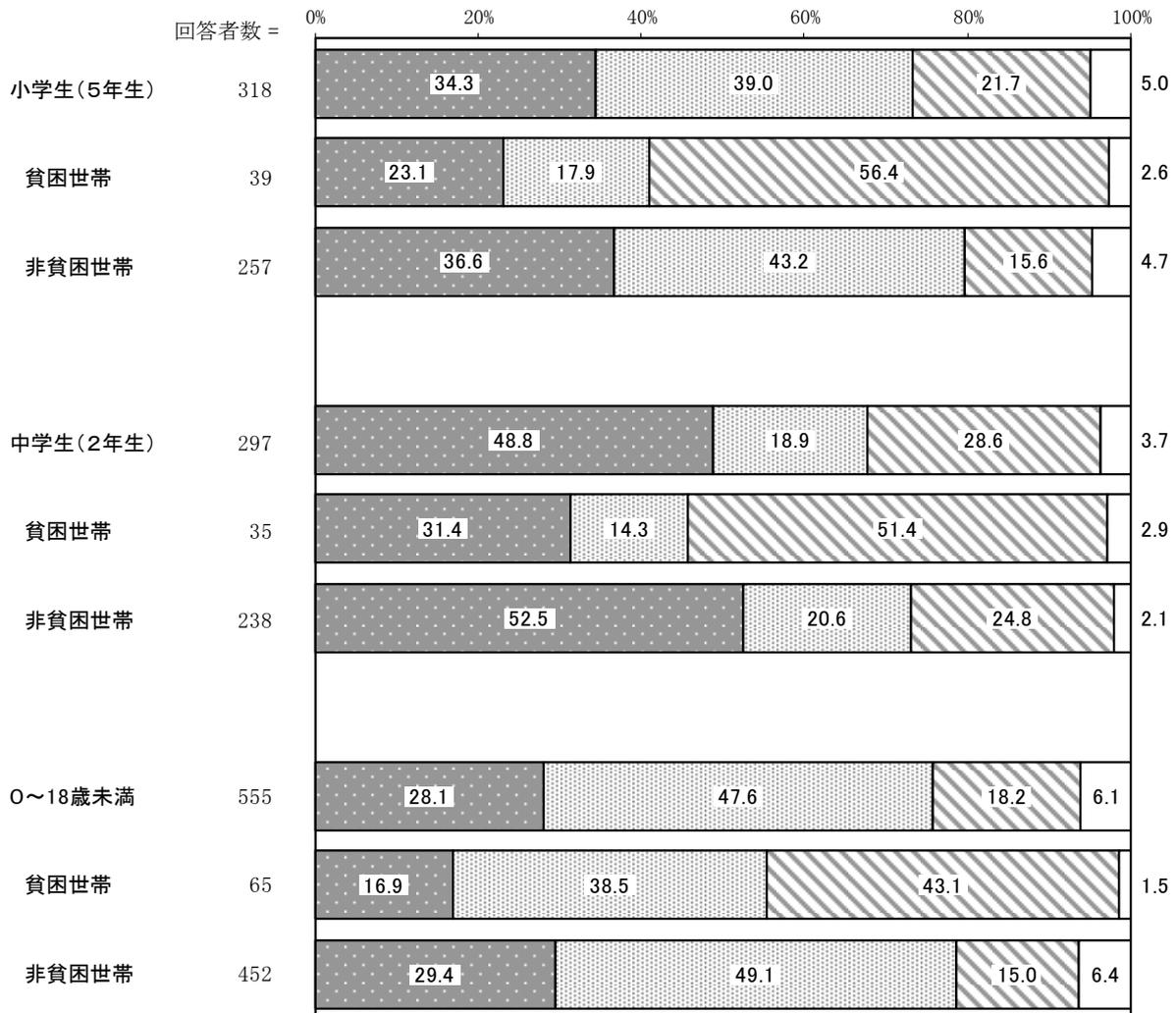
【貧困線別】

貧困線別で見ると、非貧困世帯に比べ、貧困世帯で「経済的にできない」の割合が高くなっています。一方、貧困世帯に比べ、非貧困世帯で「している」「必要だと思わない」の割合が高くなっています。



【子どもの学年別】

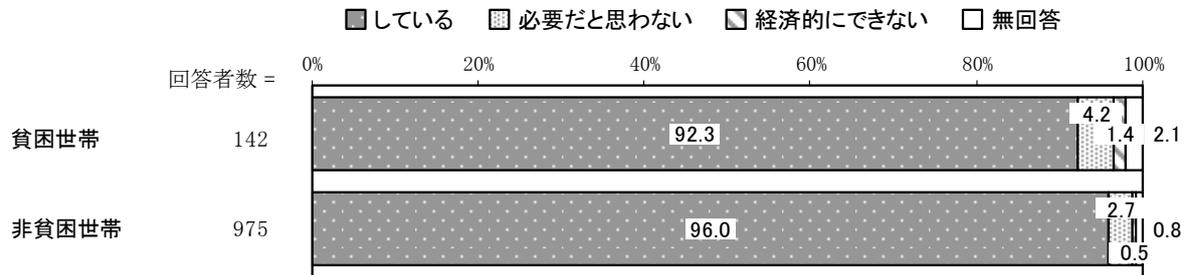
子どもの学年別で見ると、小学生、中学生、0～18歳未満いずれも、非貧困世帯に比べ、貧困世帯で「経済的にできない」の割合が高くなっています。また、他に比べ、中学生の非貧困世帯で「している」の割合が高くなっています。



e) 病院に行く（医療機関での健診を含む）

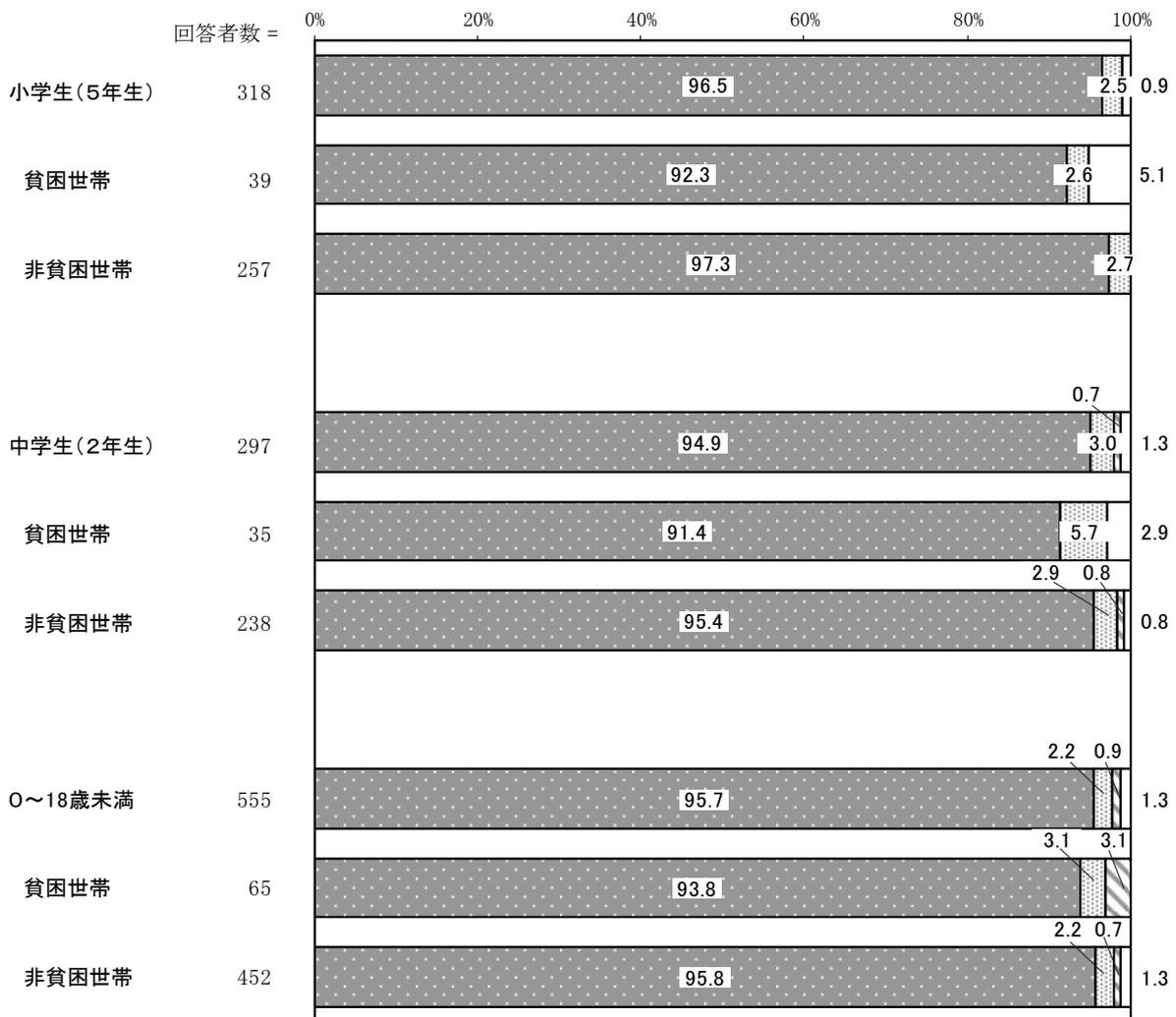
【貧困線別】

貧困線別でみると、大きな差異はみられません。



【子どもの学年別】

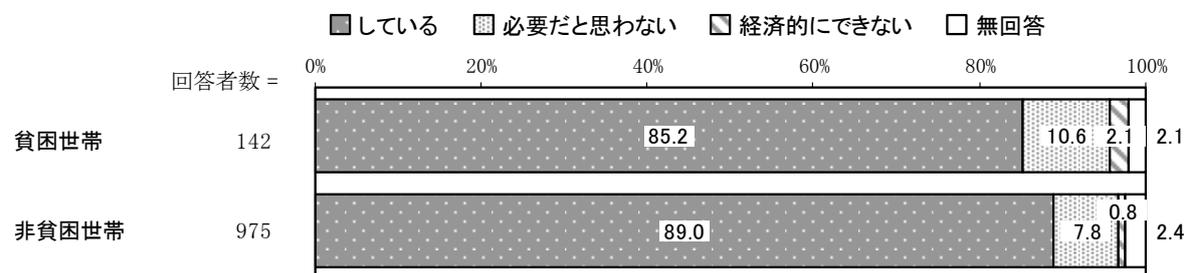
子どもの学年別でみると、大きな差異はみられません。



f) 歯医者に行く（歯医者での健診を含む）

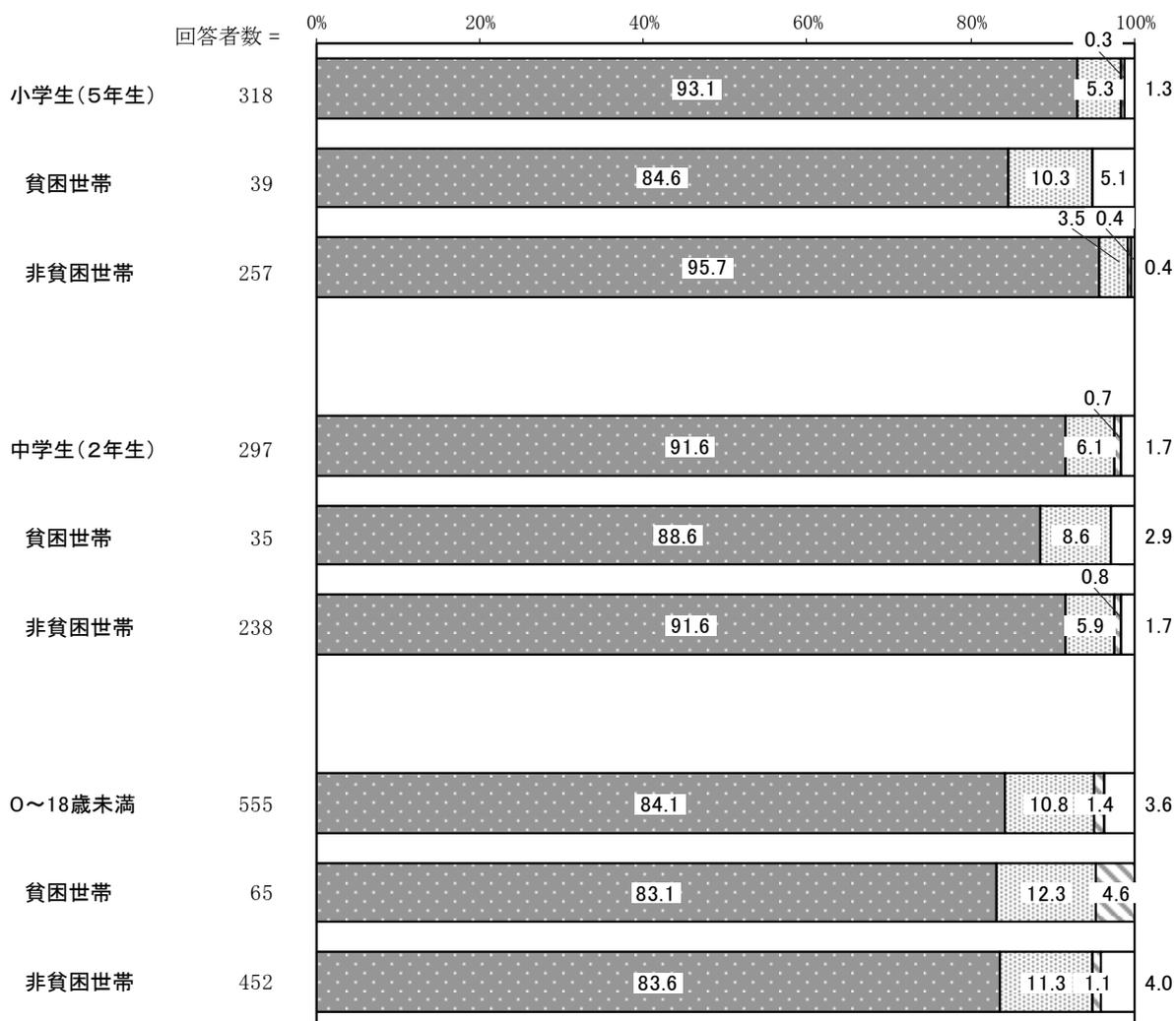
【貧困線別】

貧困線別でみると、大きな差異はみられません。



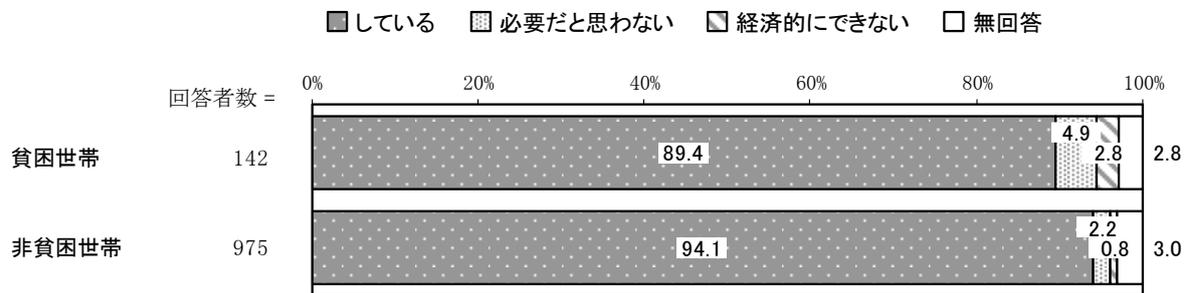
【子どもの学年別】

子どもの学年別でみると、他に比べ、小学生の貧困世帯で「している」の割合が低く、「必要だと思わない」の割合が高くなっています。



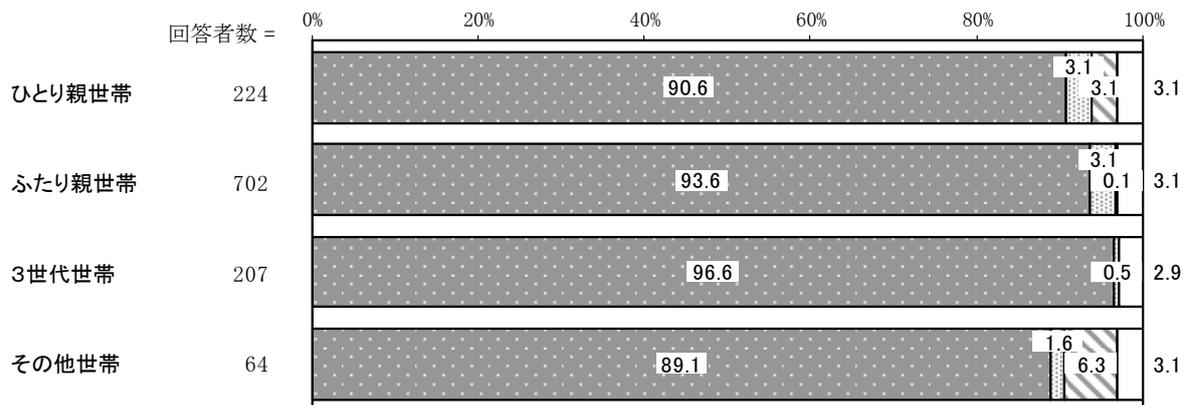
g) 子どもの学校行事（授業参観・懇談会・運動会など）にお母さん、お父さんや祖父母が参加する
【貧困線別】

貧困線別で見ると、大きな差異はみられません。



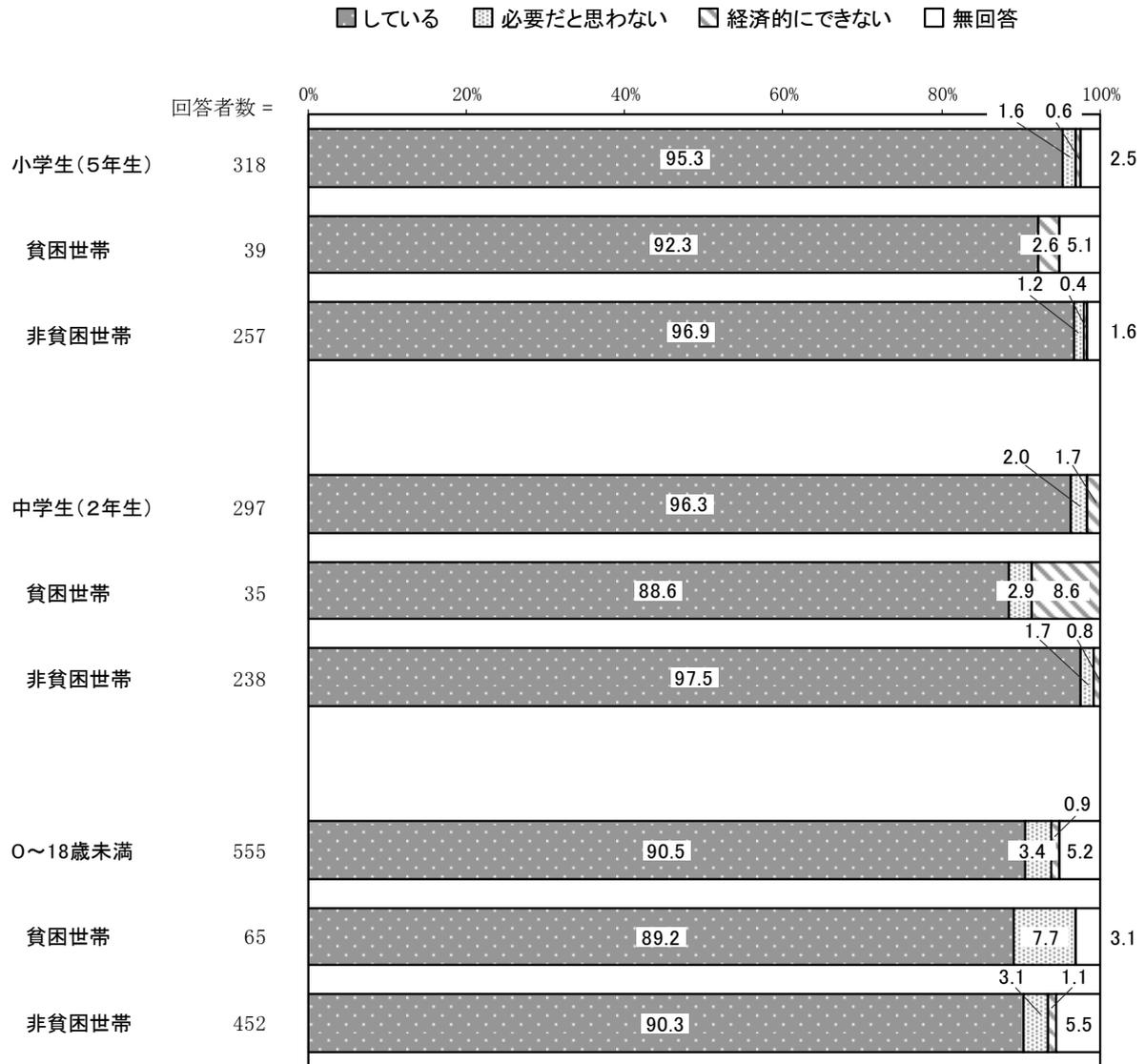
【家族構成別】

家族構成別で見ると、他に比べ、3世代世帯で「している」の割合が高くなっています。



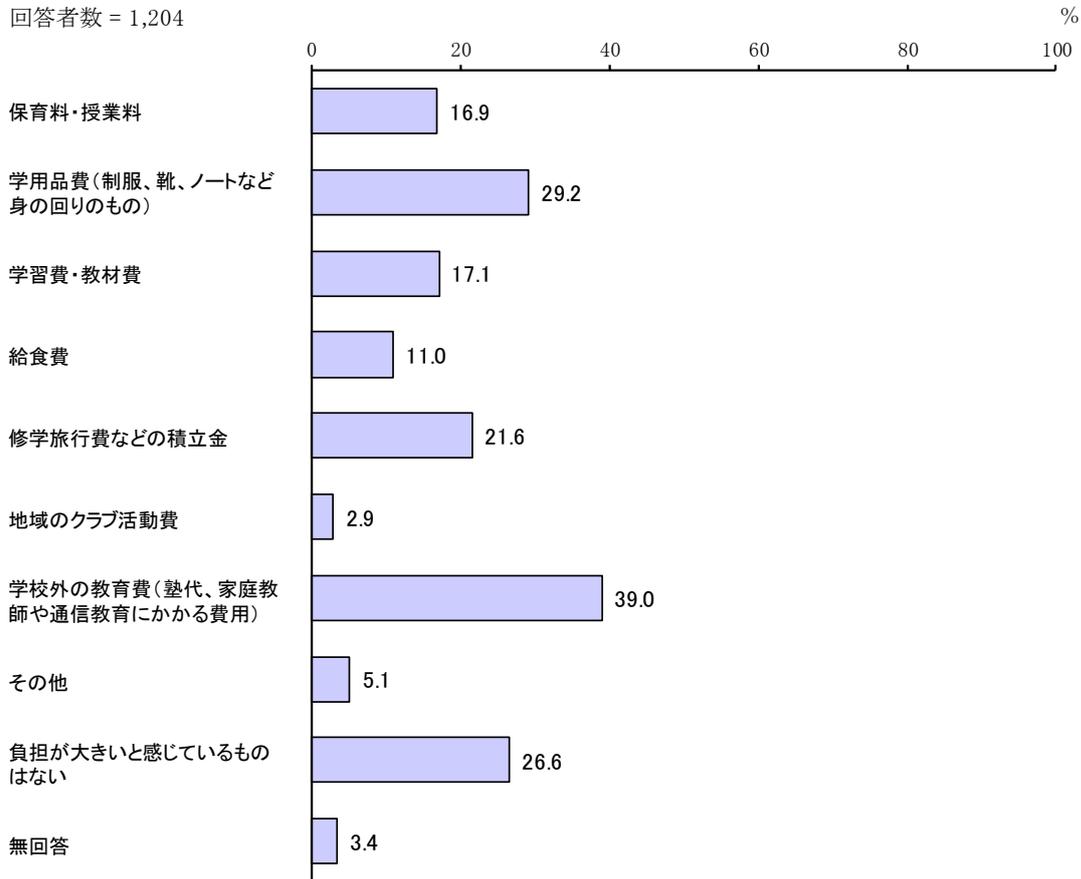
【子どもの学年別】

子どもの学年別で見ると、他に比べ、中学生の貧困世帯で「経済的にできない」の割合が高くなっています。



問 18 お子さんの教育にかかる経費について、負担が大きいと感じているものはありますか。（1～8については、あてはまるものすべてに○）

「学校外の教育費（塾代、家庭教師や通信教育にかかる費用）」の割合が 39.0%と最も高く、
ついで「学用品費（制服、靴、ノートなど身の回りのもの）」の割合が 29.2%、「負担が大きいと
感じているものはない」の割合が 26.6%となっています。



【貧困線別】

貧困線別でみると、非貧困世帯に比べ、貧困世帯で「保育料・授業料」「学用品費（制服、靴、ノートなど身の回りのもの）」「学習費・教材費」「給食費」「修学旅行費などの積立金」の割合が高くなっています。一方、貧困世帯に比べ、非貧困世帯で「学校外の教育費（塾代、家庭教師や通信教育にかかる費用）」「負担が大きいと感じているものはない」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	保育料・授業料	学用品費（制服、靴、ノートなど身の回りのもの）	学習費・教材費	給食費	修学旅行費などの積立金	地域のクラブ活動費	学校外の教育費（塾代、家庭教師や通信教育にかかる費用）	その他	負担が大きいと感じているものはない	無回答
貧困世帯	142	26.1	50.7	34.5	19.7	45.1	6.3	32.4	9.2	18.3	2.1
非貧困世帯	975	15.8	26.1	14.7	9.3	18.3	2.6	40.1	4.7	28.6	2.5

【子どもの学年別】

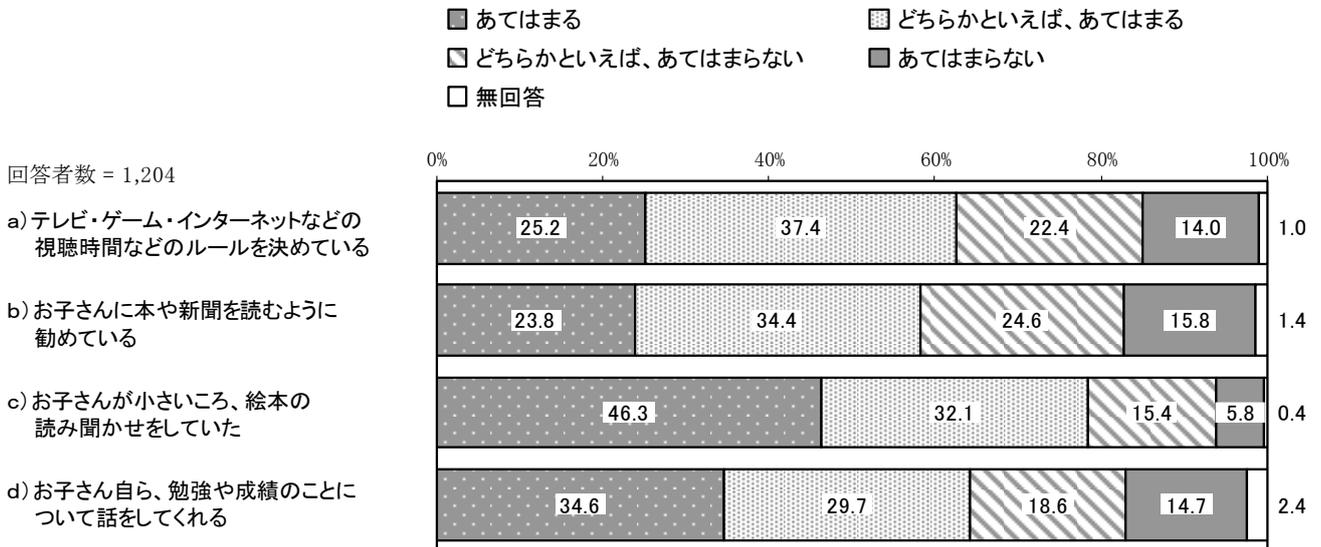
子どもの学年別でみると、非貧困世帯に比べ、小学生、中学生の貧困世帯で「保育料・授業料」「給食費」の割合が高くなっています。また、小学生、中学生、0～18歳未満いずれも貧困世帯で、「学用品費（制服、靴、ノートなど身の回りのもの）」「学習費・教材費」「修学旅行費などの積立金」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	保育料・授業料	学用品費（制服、靴、ノートなど身の回りのもの）	学習費・教材費	給食費	修学旅行費などの積立金	地域のクラブ活動費	学校外の教育費（塾代、家庭教師や通信教育にかかる費用）	その他	負担が大きいと感じているものはない	無回答
小学生（5年生）	318	11.6	28.3	15.4	12.9	20.8	3.8	32.7	5.7	32.7	2.5
貧困世帯	39	28.2	56.4	43.6	25.6	51.3	7.7	23.1	15.4	10.3	—
非貧困世帯	257	9.7	24.1	11.7	10.9	16.7	3.1	34.2	3.9	37.4	1.2
中学生（2年生）	297	10.4	34.0	18.5	11.8	34.0	2.0	50.2	4.0	18.5	2.4
貧困世帯	35	31.4	54.3	31.4	28.6	54.3	2.9	40.0	—	14.3	2.9
非貧困世帯	238	7.6	31.9	17.2	9.2	31.9	2.1	52.1	5.0	18.5	1.7
0～18歳未満	555	22.9	27.2	17.5	9.2	15.3	2.5	35.7	5.6	27.4	4.7
貧困世帯	65	21.5	44.6	30.8	10.8	36.9	6.2	33.8	10.8	26.2	3.1
非貧困世帯	452	23.0	24.1	15.3	8.2	11.9	2.2	36.3	5.3	29.0	3.8

問 19 保護者の方とお子さんの関わり方について、次のようなことにどれくらい当てはまりますか。(a～dそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

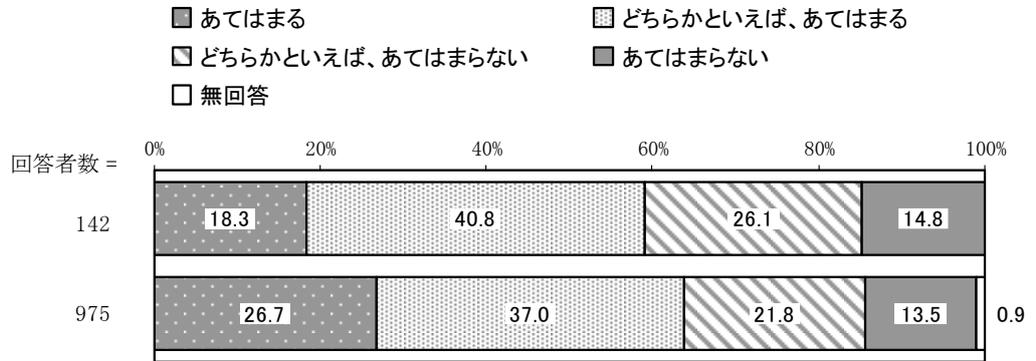
すべての項目で「あてはまる」と「どちらかといえば、あてはまる」をあわせた“あてはまる”の割合が高く、特に『c) お子さんが小さいころ、絵本の読み聞かせをしていた』で約8割となっています。



a) テレビ・ゲーム・インターネットなどの視聴時間などのルールを決めている

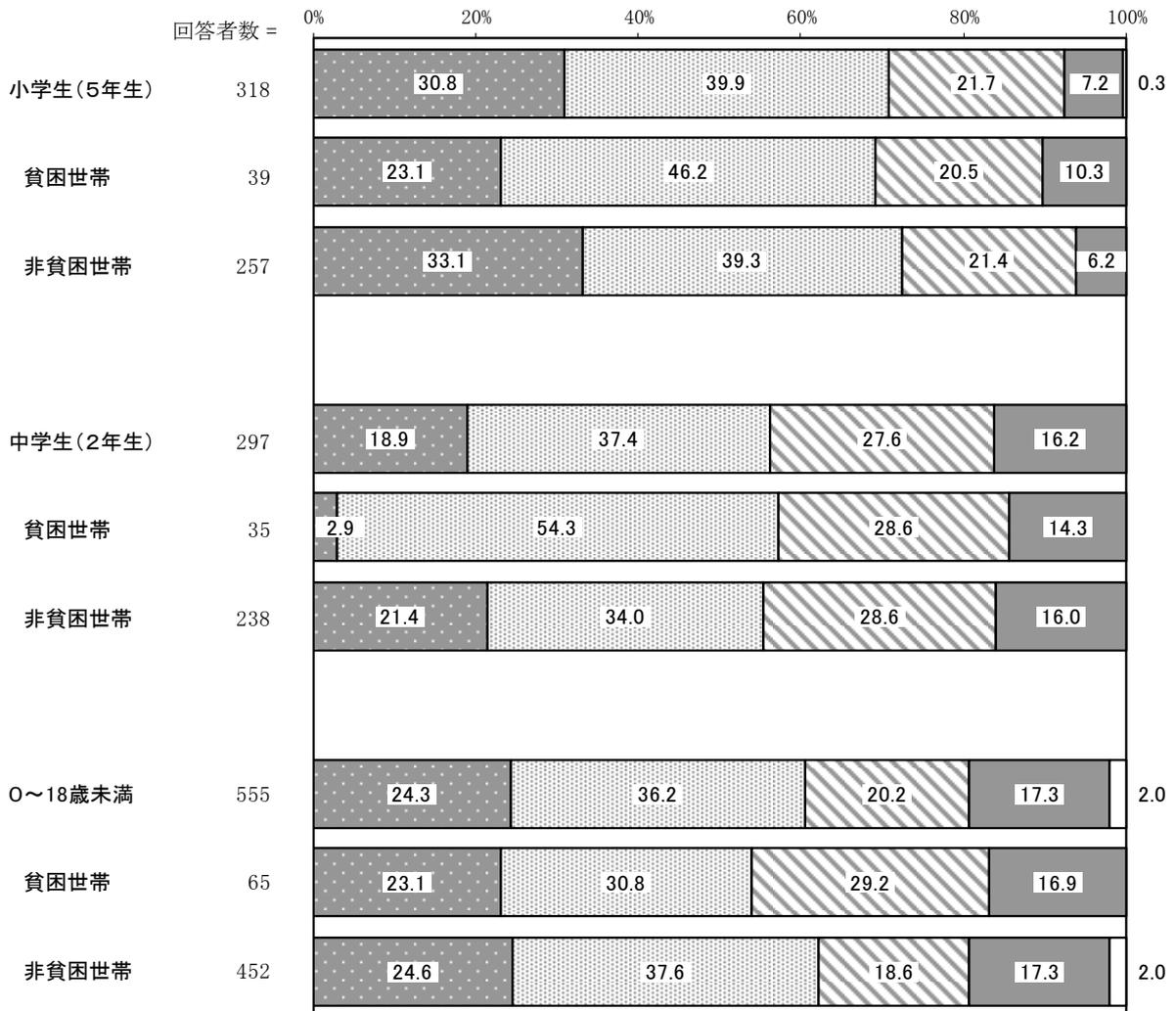
【貧困線別】

貧困線別でみると、貧困世帯に比べ、非貧困世帯で“あてはまる”の割合が高くなっています。



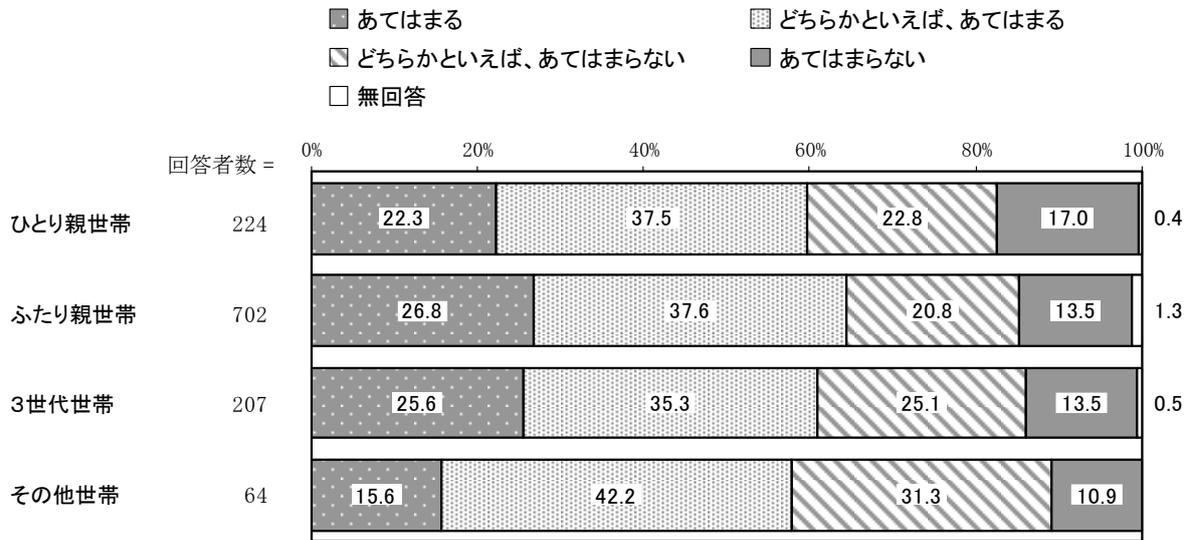
【子どもの学年別】

子どもの学年別でみると、他に比べ、小学生の非貧困世帯で“あてはまる”の割合が高くなっています。



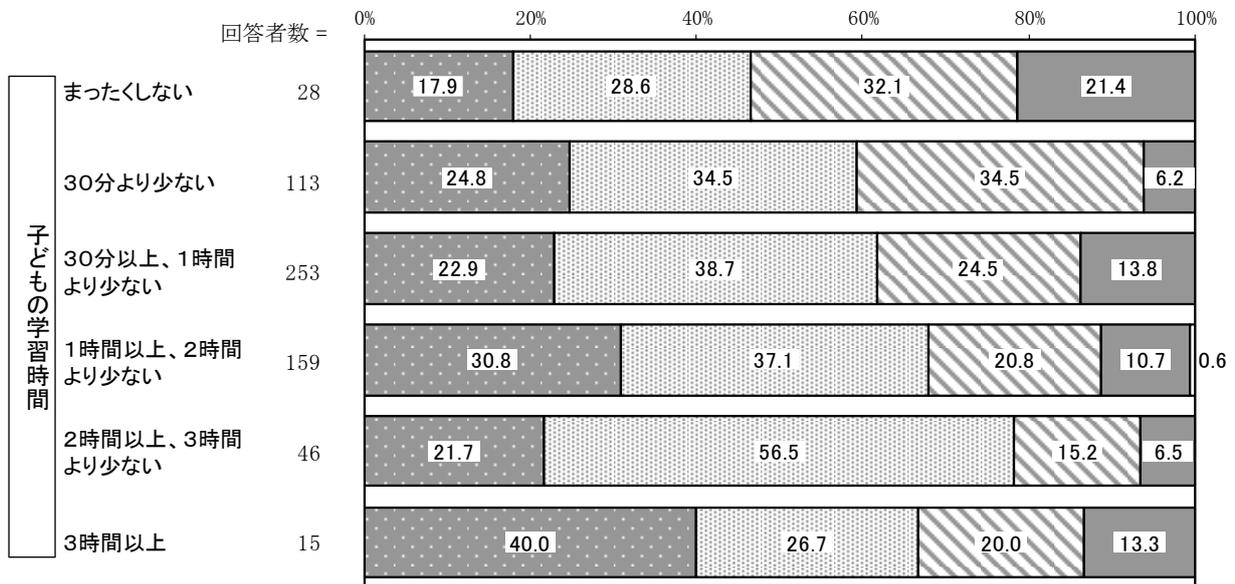
【家族構成別】

家族構成別でみると、他に比べ、ふたり親世帯で“あてはまる”の割合が高くなっています。



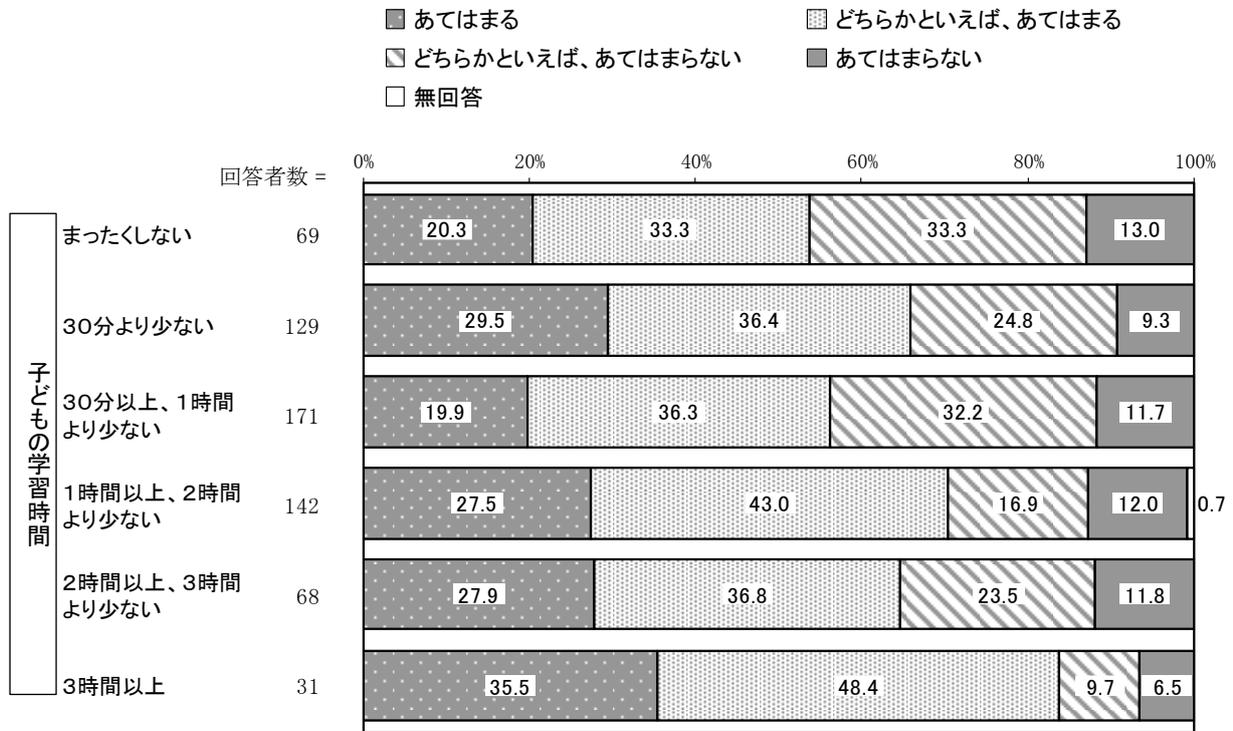
【学校がある日の勉強時間別】

子どもの学校がある日の勉強時間（小学生・中学生調査 問4）別に親の関わり方をみると、子どもの学習時間が長くなるにつれ“あてはまる”の割合が高くなる傾向がみられ、子どもの学習時間が『2時間以上、3時間より少ない』の人で約8割となっています。



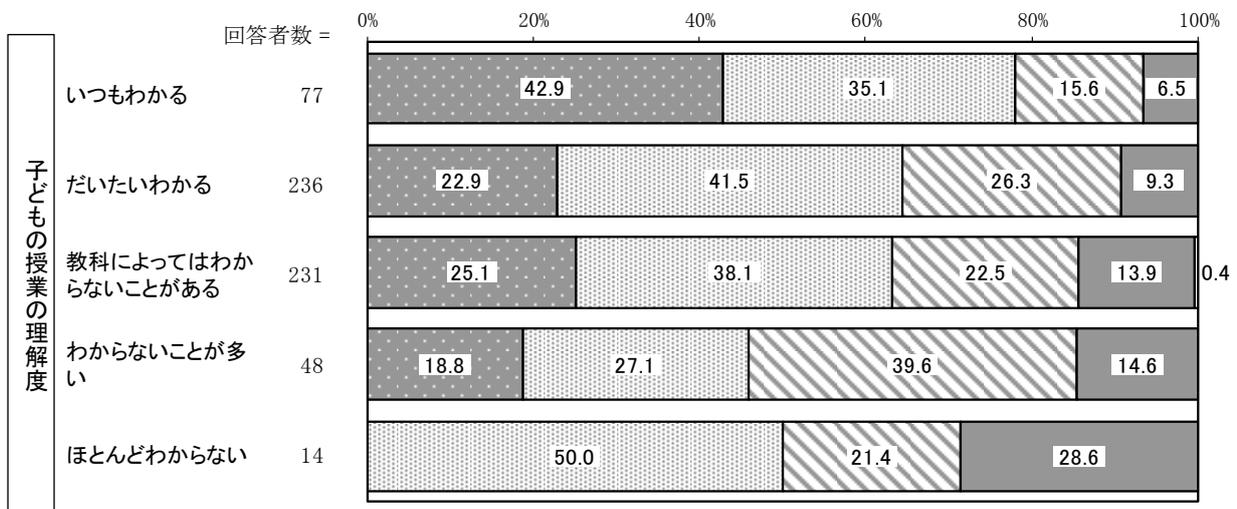
【学校がない日の勉強時間別】

学校がない日の勉強時間（小学生・中学生調査 問4）別で親の関わり方をみると、他に比べ、子どもの学習時間が『3時間以上』の人で“あてはまる”の割合が高くなっており、8割を超えています。



【学校の授業の理解度別】

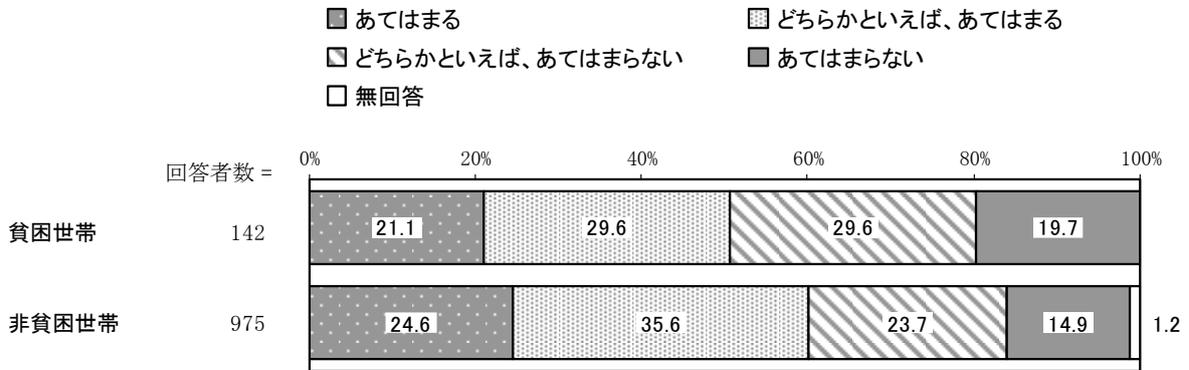
学校の授業の理解度（小学生・中学生調査 問5）別でみると、理解度が高くなるにつれ“あてはまる”の割合が高くなる傾向がみられ、子どもの授業理解度が「いつもわかる」人で約8割となっています。



b) お子さんに本や新聞を読むように勧めている

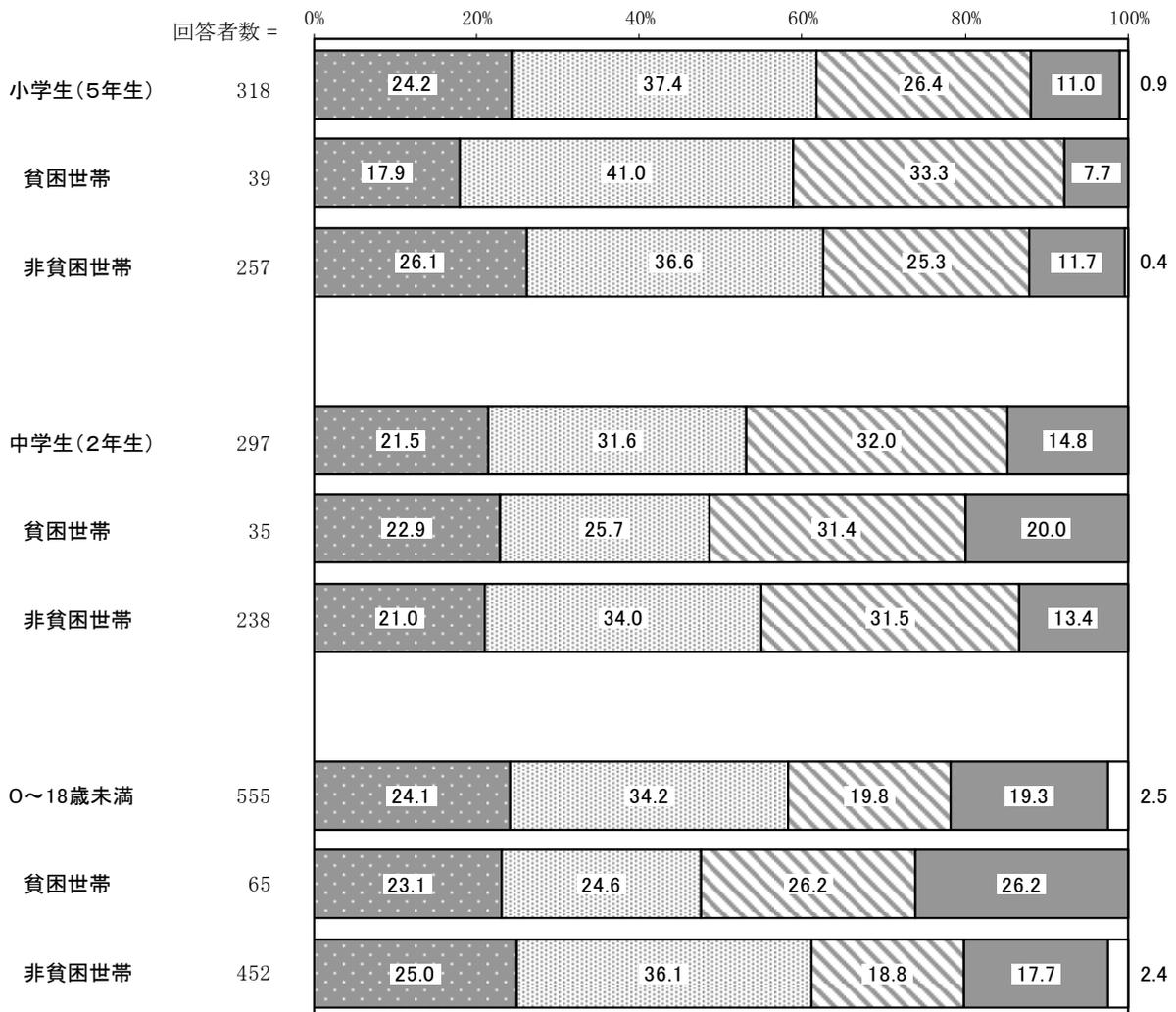
【貧困線別】

貧困線別でみると、非貧困世帯に比べ、貧困世帯で“あてはまらない”の割合が高くなっています。



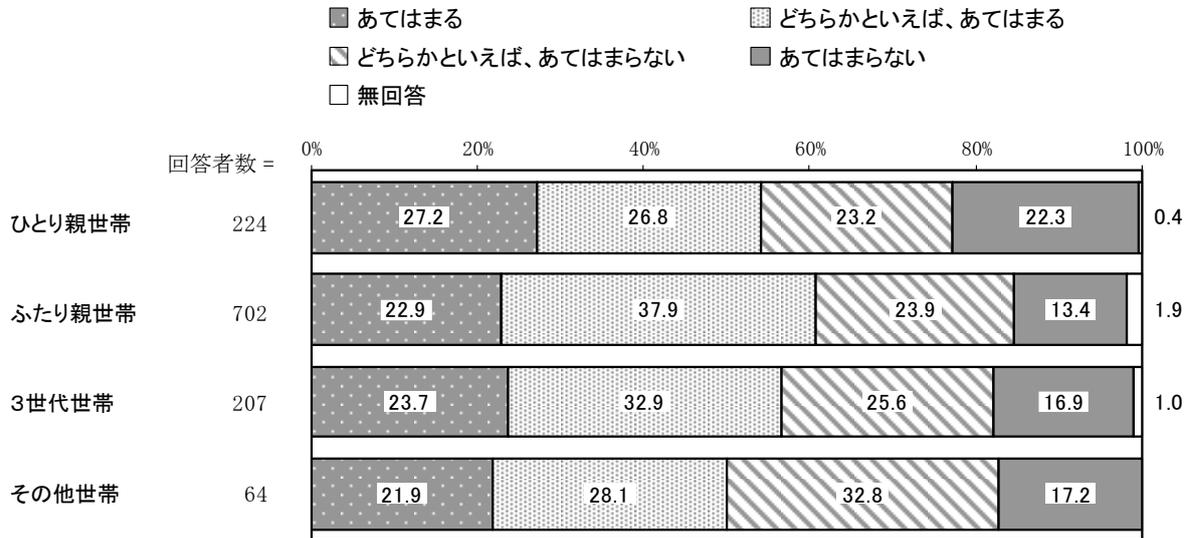
【子どもの学年別】

子どもの学年別でみると、他に比べ、中学生、0～18歳未満の貧困世帯で“あてはまらない”の割合が高くなっています。



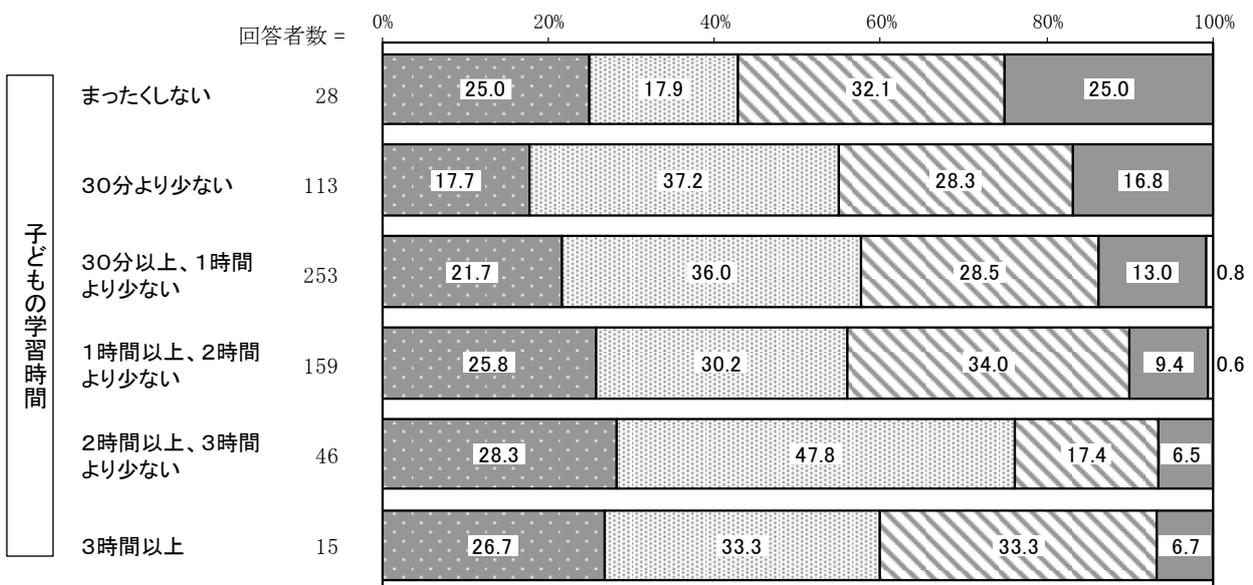
【家族構成別】

家族構成別でみると、他に比べ、ふたり親世帯で“あてはまる”の割合が高くなっています。また、ひとり親世帯で“あてはまらない”の割合が高くなっています。



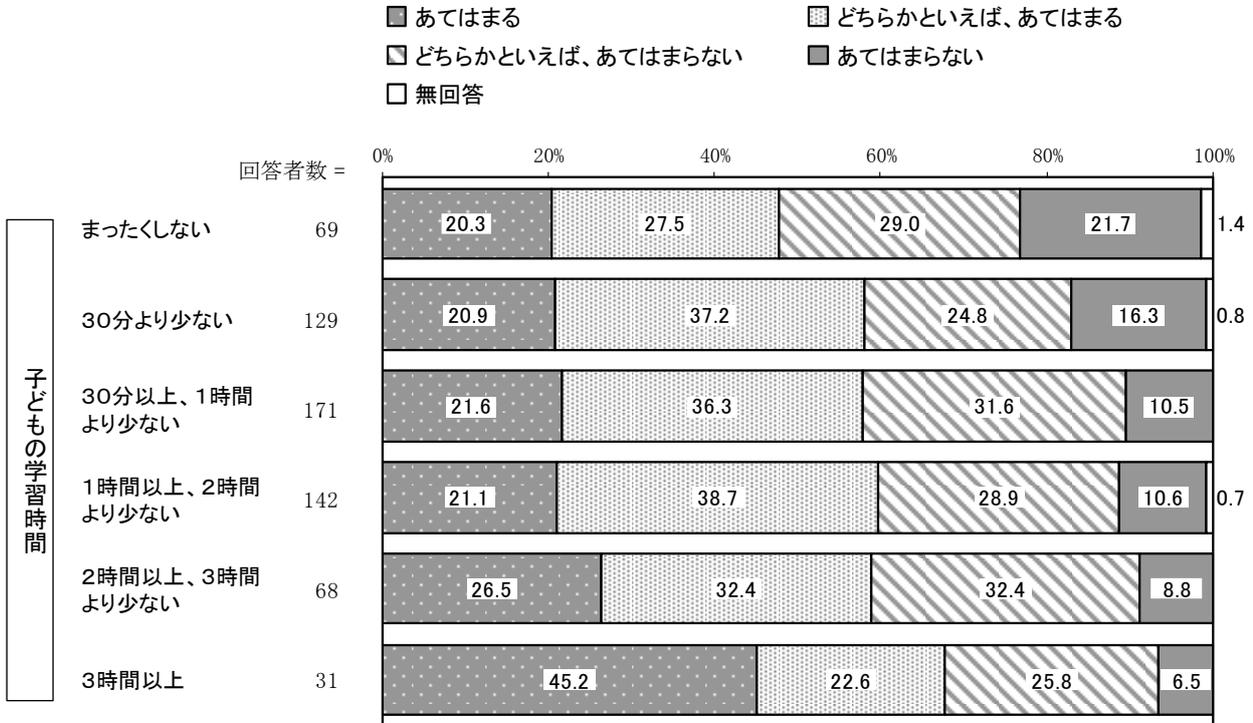
【学校がある日の勉強時間別】

学校がある日の勉強時間（小学生・中学生調査 問4）別で親の関わり方をみると、他に比べ、子どもの学習時間が「2時間以上、3時間より少ない」人で“あてはまる”の割合が高く、7割台半ばとなっています。また、子どもが学習を「まったくしない」人で“あてはまらない”の割合が高くなっています。



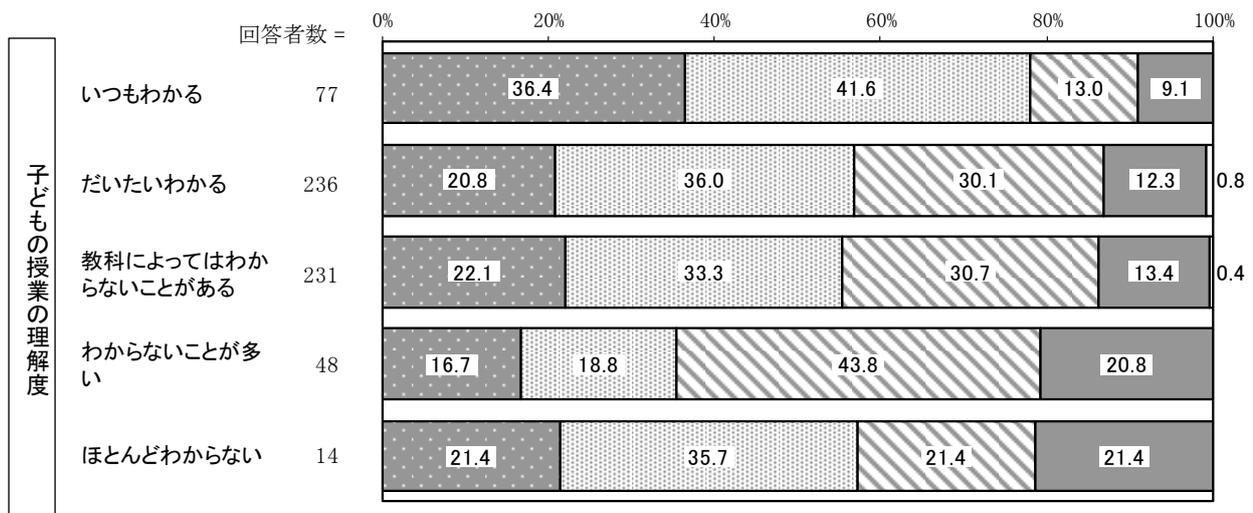
【学校がない日の勉強時間別】

学校がない日の勉強時間（小学生・中学生調査 問4）別で親の関わり方をみると、他に比べ、子どもの学習時間が『3時間以上』の人で“あてはまる”の割合が高くなっています。また、子どもが学習を『まったくしない』人で“あてはまらない”の割合が高くなっています。



【学校の授業の理解度別】

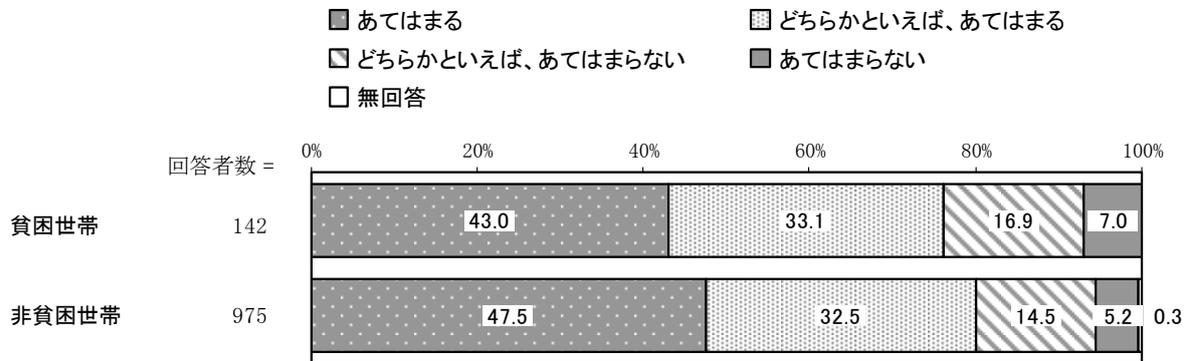
学校の授業の理解度別でみると、子どもの授業の理解度が高くなるにつれ“あてはまる”の割合が高くなる傾向がみられ、子どもが授業を『いつもわかる』人で約8割となっています。



c) お子さんが小さいころ、絵本の読み聞かせをしていた

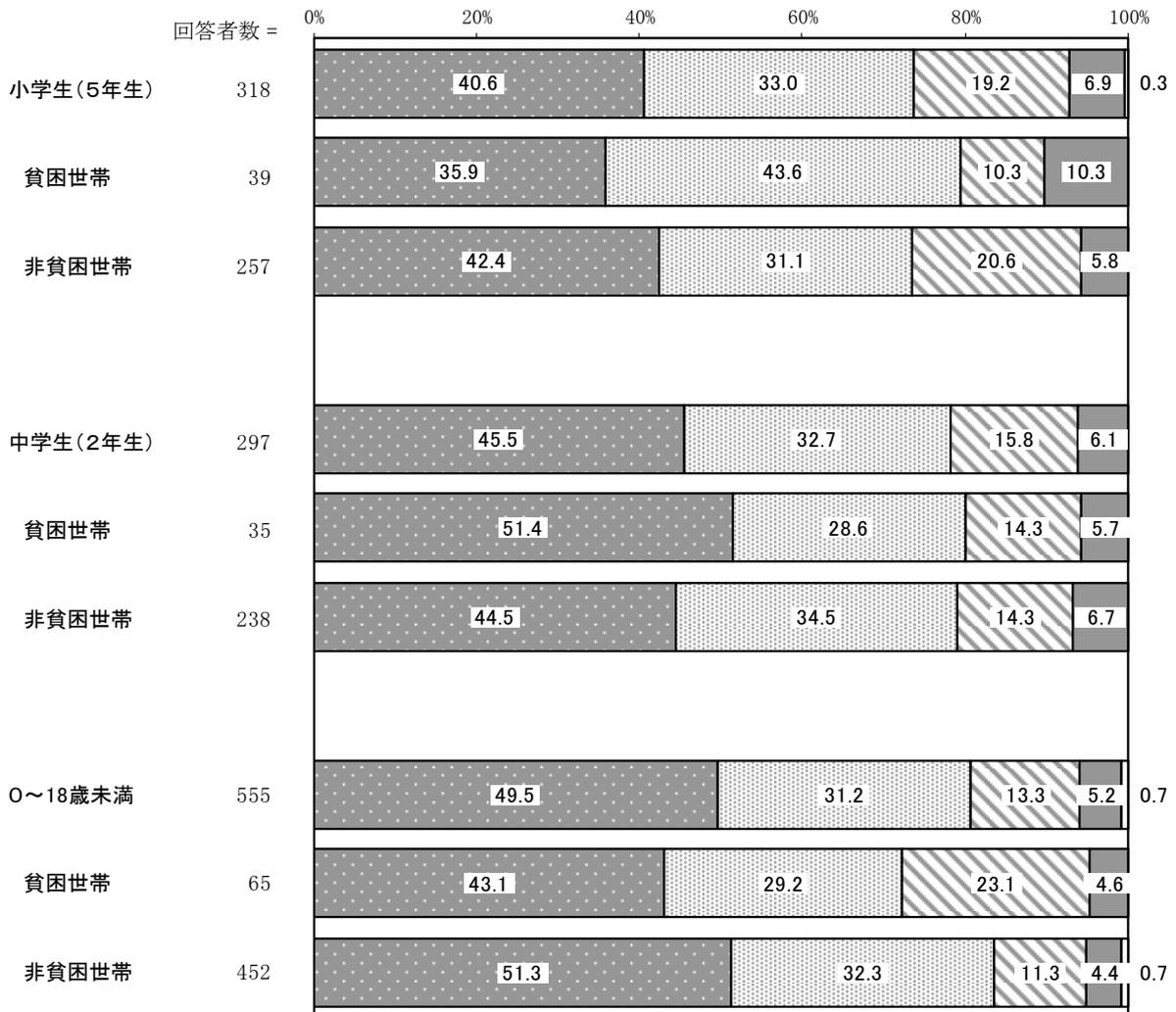
【貧困線別】

貧困線別でみると、大きな差異はみられません。



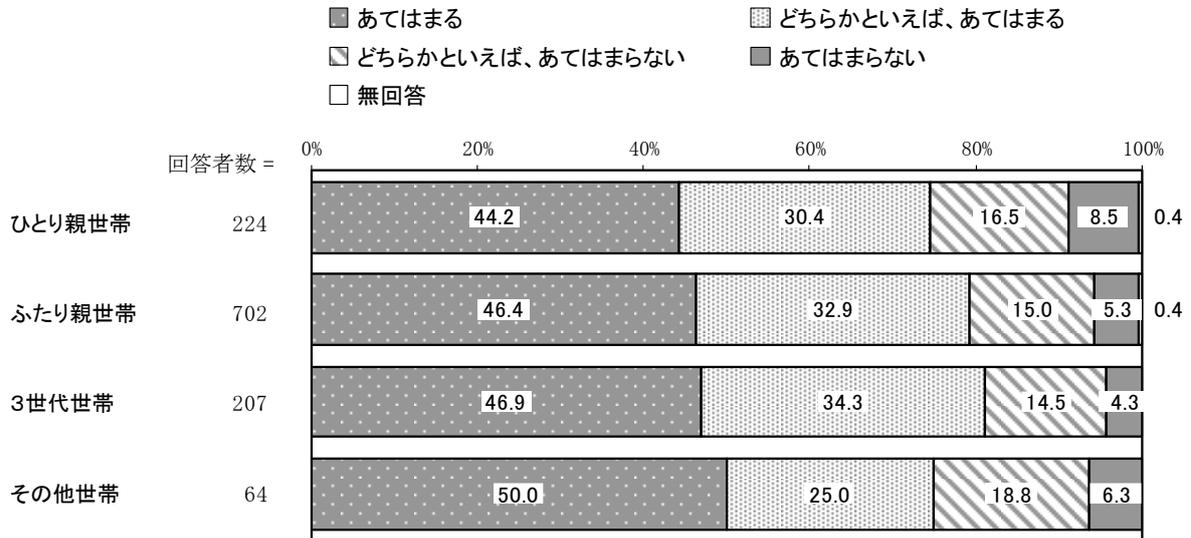
【子どもの学年別】

子どもの学年別でみると、他に比べ、小学生の非貧困世帯、0～18歳未満の貧困世帯で“あてはまらない”の割合が高くなっています。



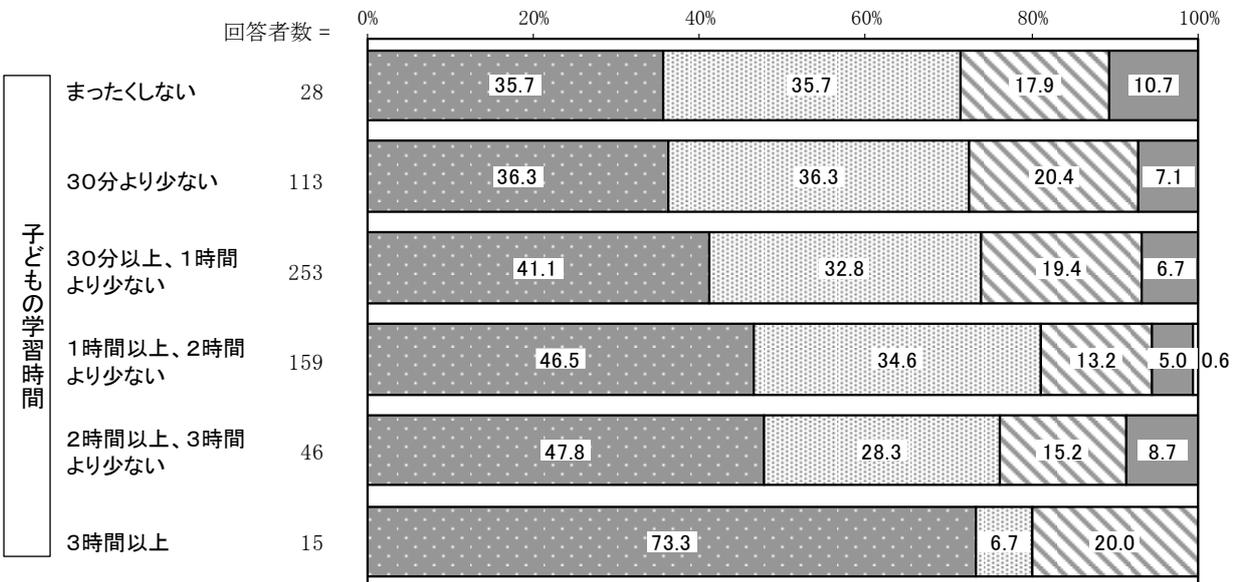
【家族構成別】

家族構成別でみると、他に比べ、ふたり親世帯、3世代世帯で“あてはまる”の割合が高くなっています。また、ひとり親世帯で“あてはまらない”の割合が高くなっています。



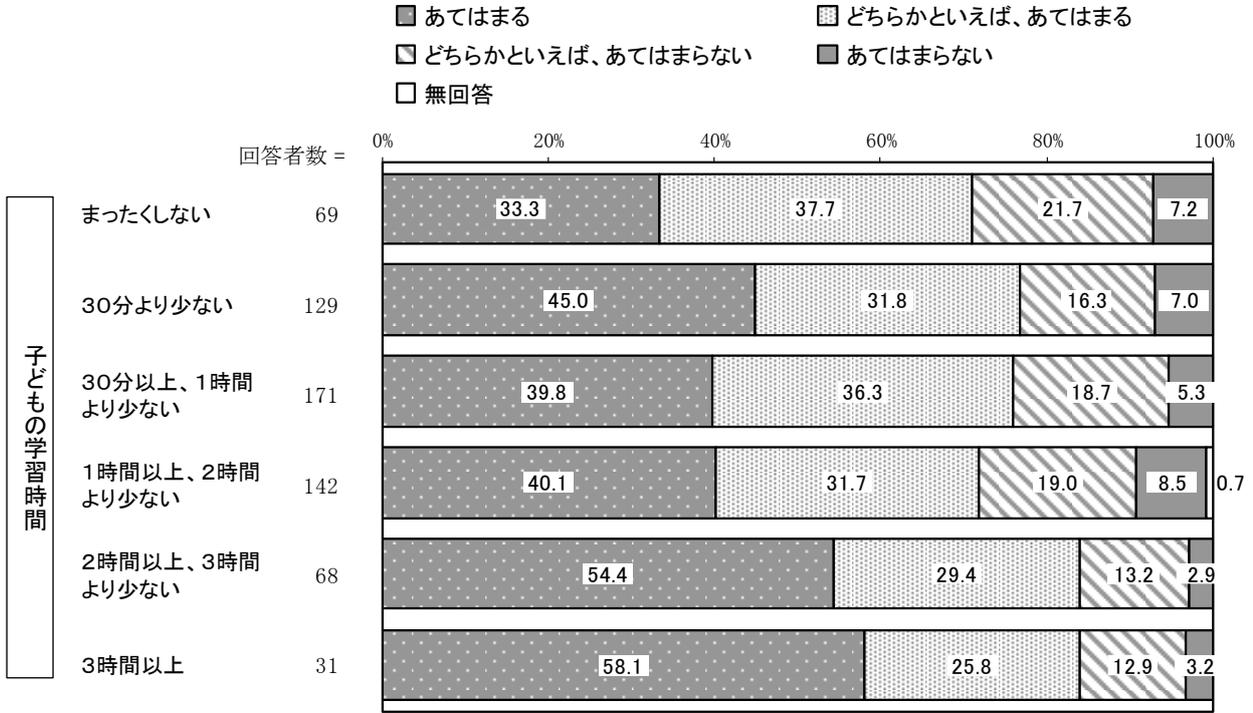
【学校がある日の勉強時間別】

学校がある日の勉強時間（小学生・中学生調査 問4）別で親の関わり方をみると、学習時間が長くなるにつれ「あてはまる」の割合が高くなる傾向がみられ、子どもの学習時間が『3時間以上』の人で約7割となっています。



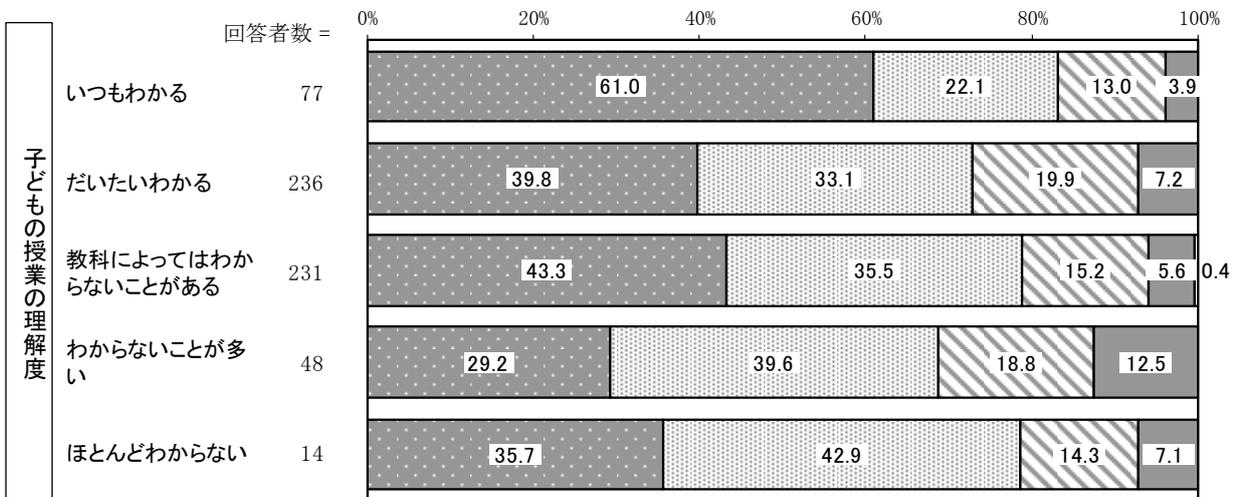
【学校がない日の勉強時間別】

学校がない日の勉強時間（小学生・中学生調査 問4）別で親の関わり方をみると、他に比べ、子どもの学習時間が『2時間以上、3時間より少ない』『3時間以上』の人で“あてはまる”の割合が高くなっています。



【学校の授業の理解度別】

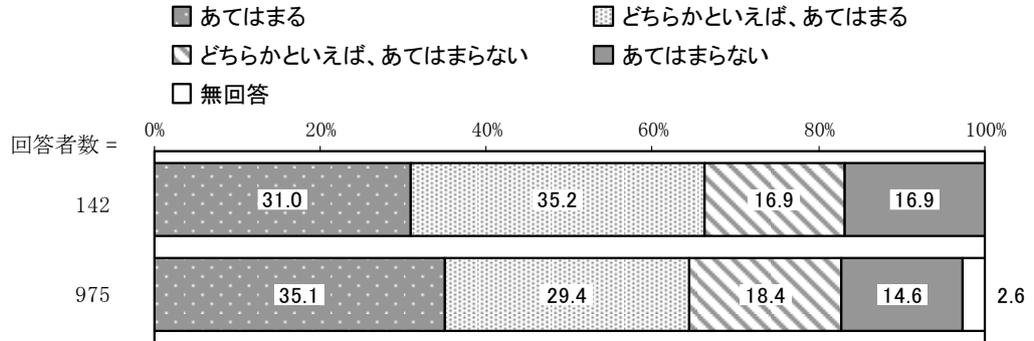
学校の授業の理解度（小学生・中学生調査 問5）別でみると、理解度が高くなるにつれ“あてはまる”の割合が高くなる傾向がみられ、子どもが授業を『いつもわかる』人で約8割となっています。



d) お子さん自ら、勉強や成績のことについて話をしてくれる

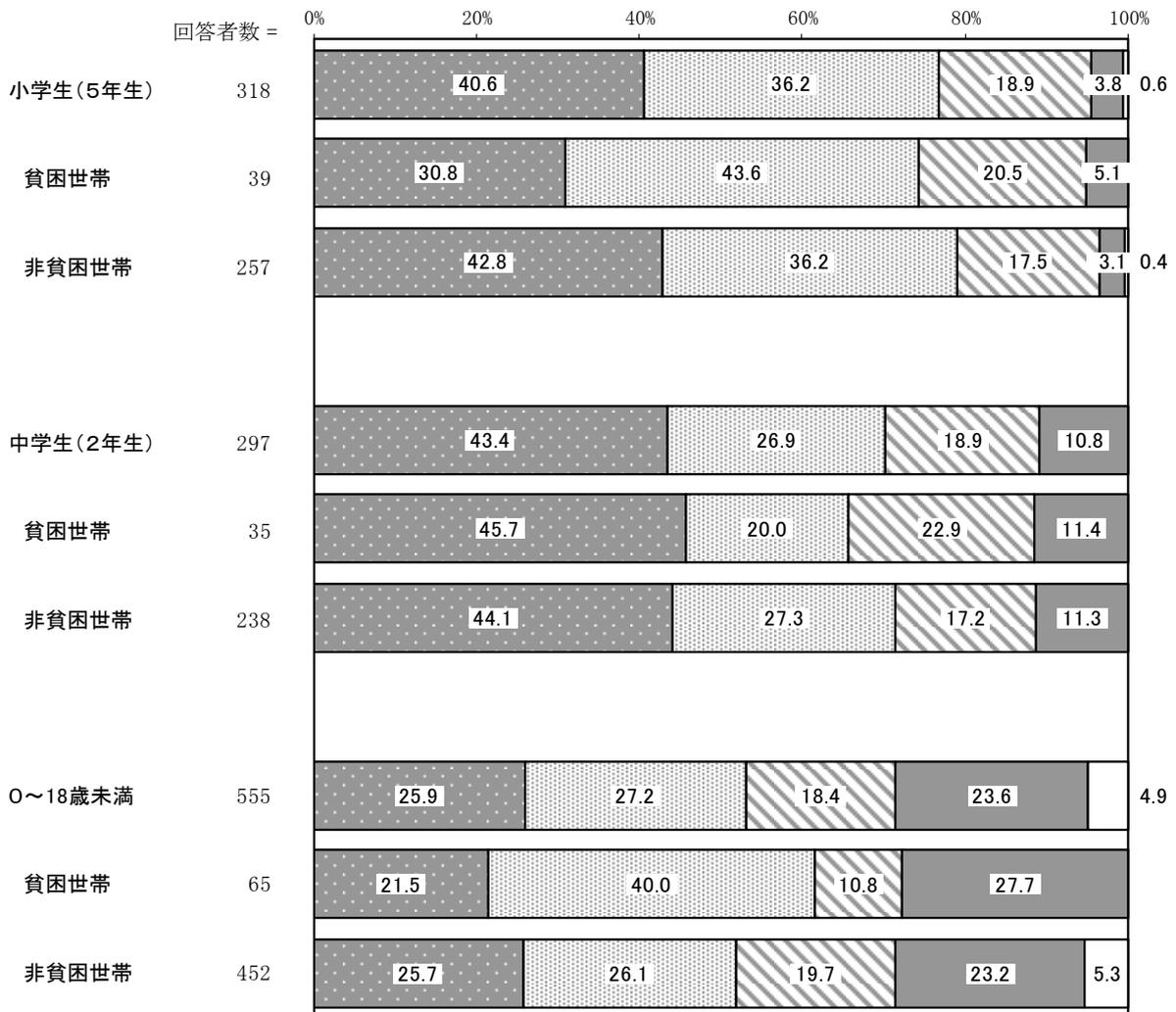
【貧困線別】

貧困線別でみると、非貧困世帯に比べ、貧困世帯で「どちらかといえば、あてはまる」の割合が高くなっています。



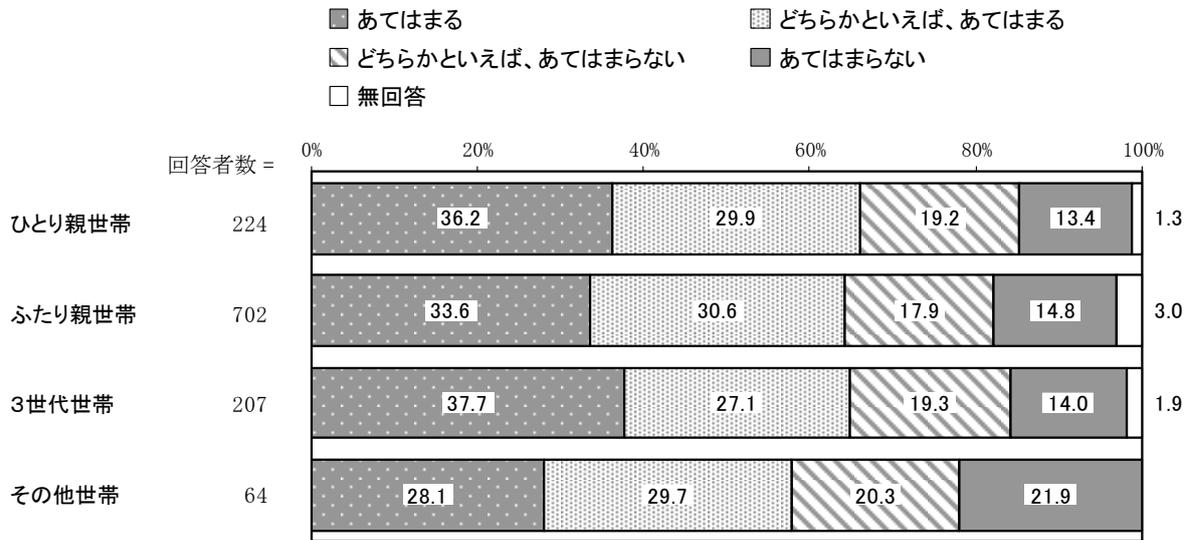
【子どもの学年別】

子どもの学年別でみると、小学生、中学生ともに、貧困世帯に比べ、非貧困世帯で“あてはまる”の割合が高くなっています。一方、0～18歳未満では、非貧困世帯に比べ、貧困世帯で“あてはまる”の割合が高くなっています。



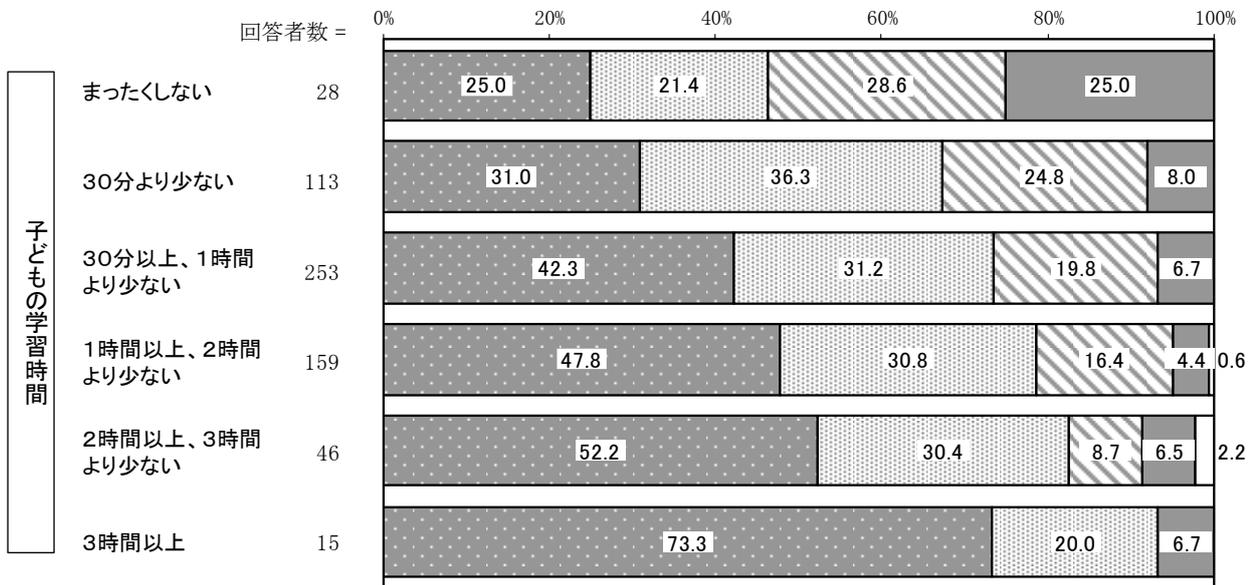
【家族構成別】

家族構成別でみると、他に比べ、大きな差異はみられません。



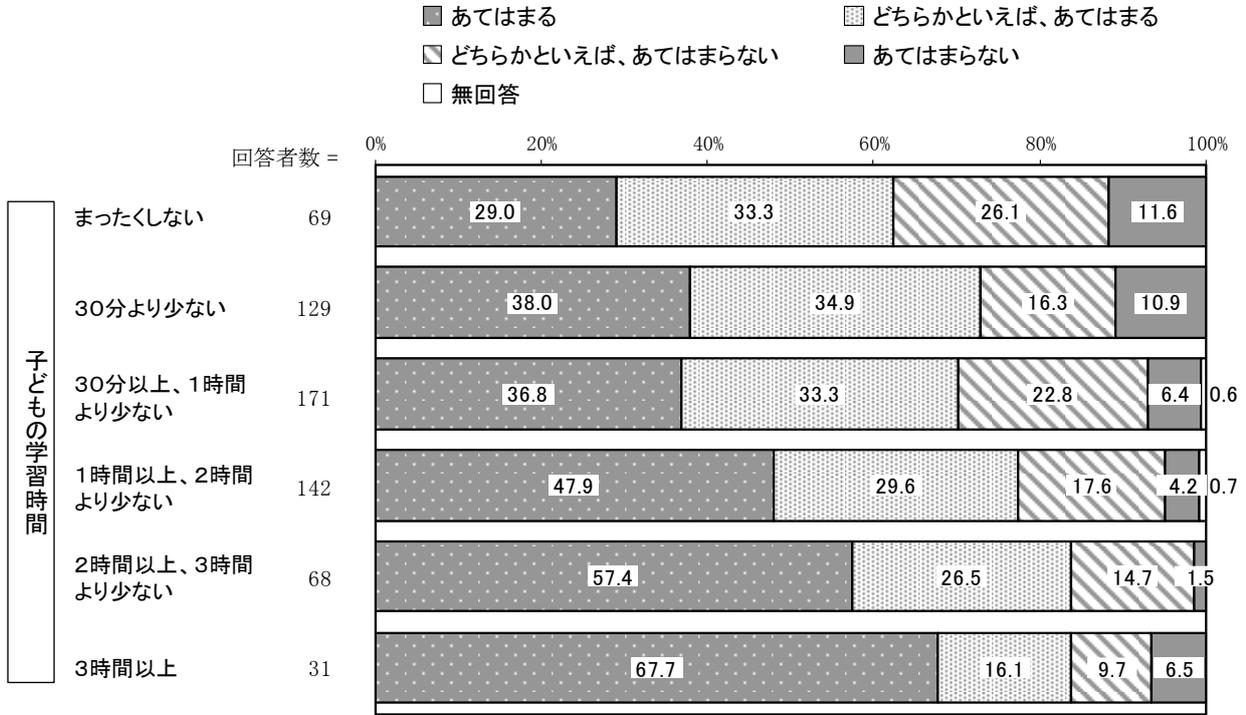
【学校がある日の勉強時間別】

子どもの学校がある日の勉強時間（小学生・中学生調査 問4）別に親の関わり方をみると、子どもの学習時間が長くなるにつれ“あてはまる”の割合が高くなる傾向がみられ、子どもの学習時間が『3時間以上』の人で約9割となっています。



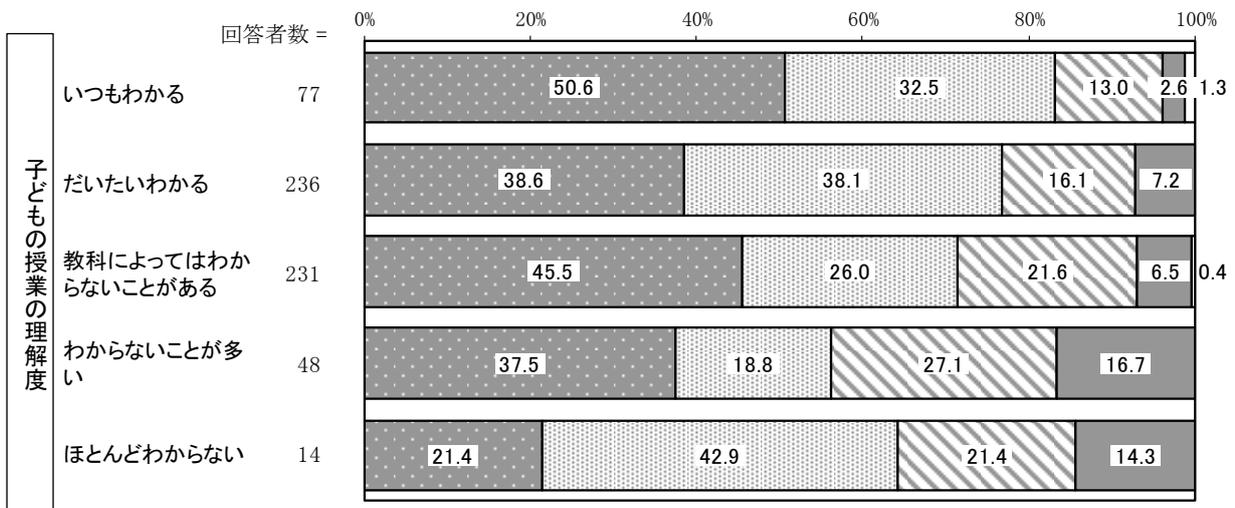
【学校がない日の勉強時間別】

学校がない日の勉強時間（小学生・中学生調査 問4）別で親の関わり方をみると、学習時間が長くなるにつれ“あてはまる”の割合が高くなる傾向がみられ、子どもの学習時間が『2時間以上、3時間より少ない』『3時間以上』で約8割となっています。



【学校の授業の理解度別】

学校の授業の理解度（小学生・中学生調査 問5）別でみると、理解度が高くなるにつれ“あてはまる”の割合が高くなる傾向がみられ、子どもの授業理解度が「いつもわかる」人で約8割となっています。

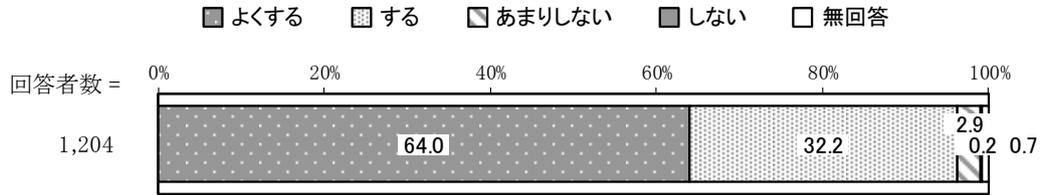


問 20 あなたとお子さんの関係について、最も近いもの1つに○をつけてください。

(①～⑤それぞれについて、あてはまるもの1つに○)

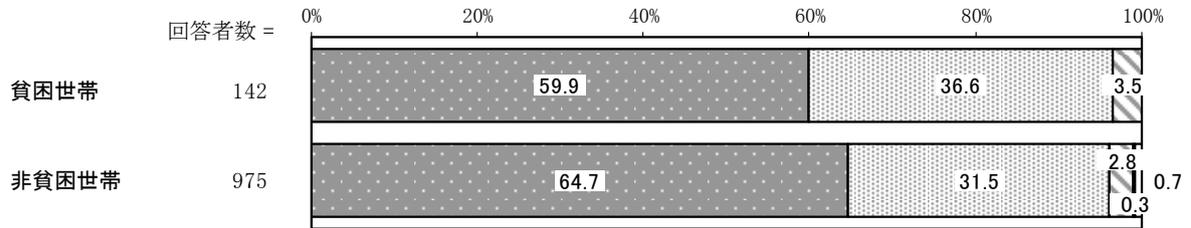
①お子さんと、よく会話をしますか。

「よくする」と「する」とあわせた“会話をする”の割合が96.2%、「あまりしない」と「しない」をあわせた“会話をしない”の割合が3.1%となっています。



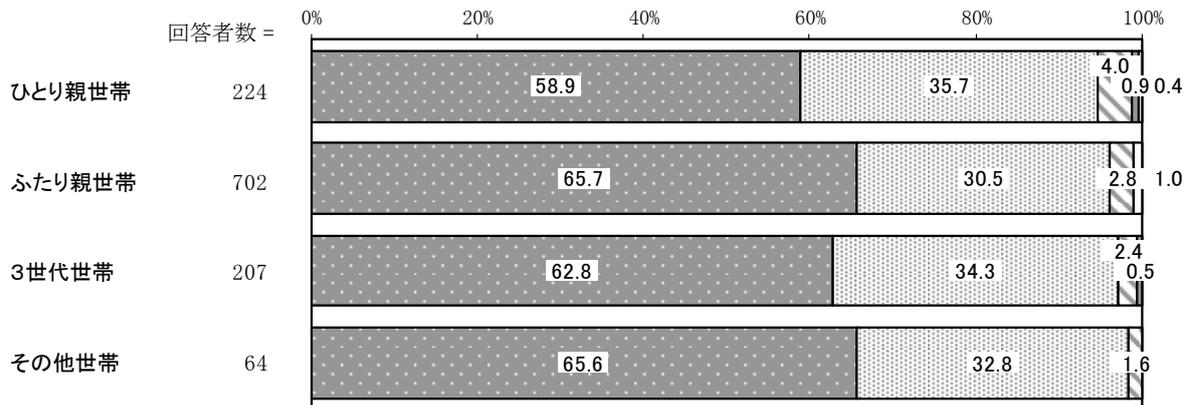
【貧困線別】

貧困線別で見ると、大きな差異はみられません。



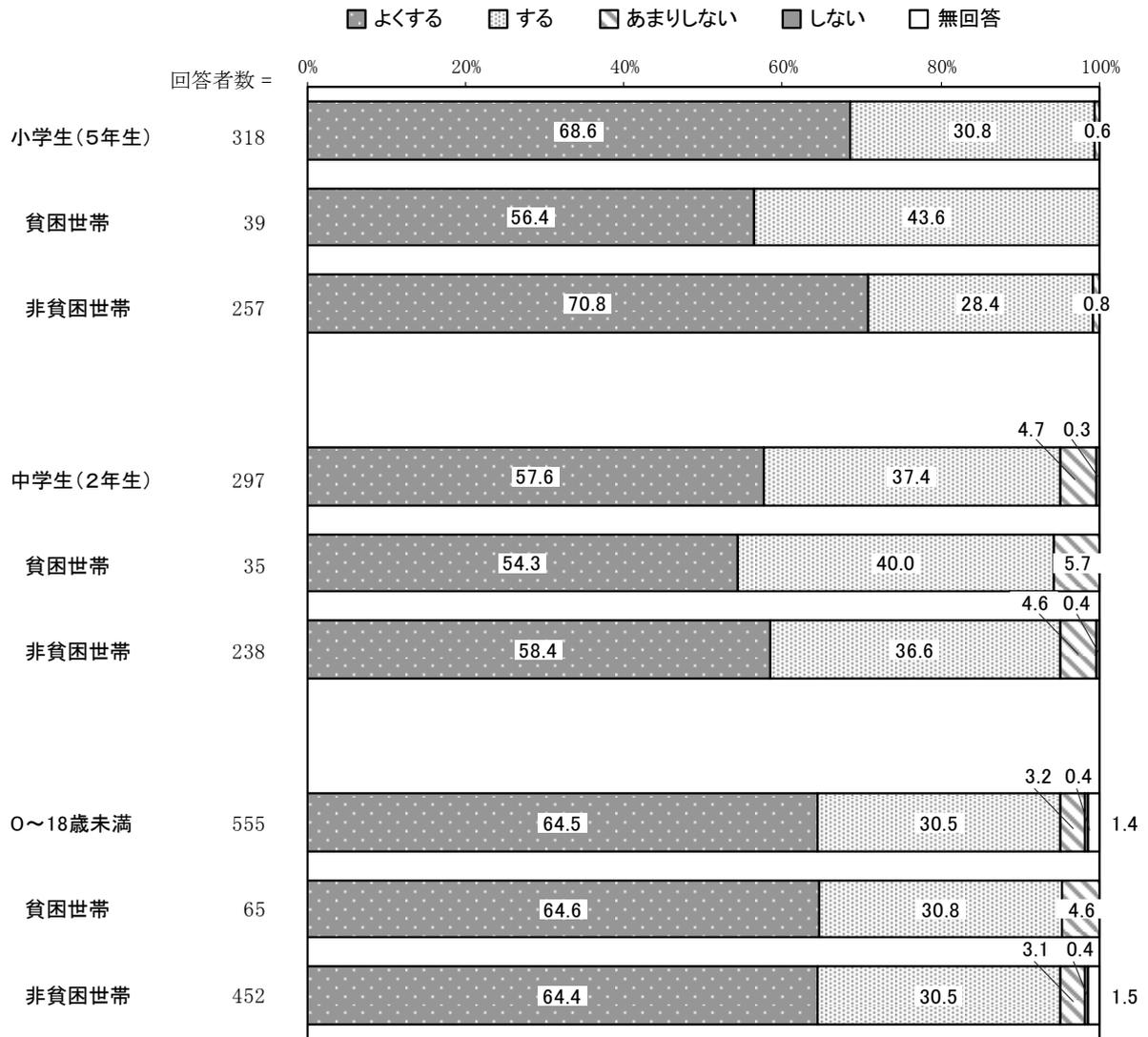
【家族構成別】

家族構成別で見ると、大きな差異はみられません。



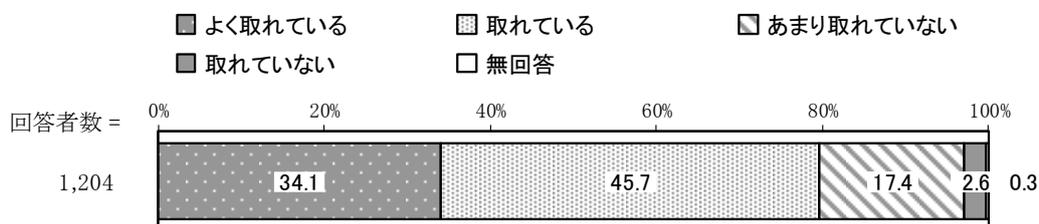
【子どもの学年別】

子どもの学年別でみると、大きな差異はみられません。



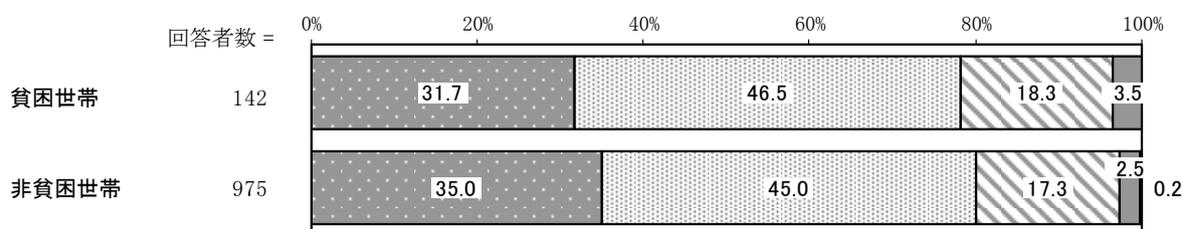
②お子さんと過ごす時間が十分に取れていますか。

「よく取れている」と「取れている」をあわせた“時間が取れている”の割合が79.8%、「あまり取れていない」と「取れていない」をあわせた“時間が取れていない”の割合が20.0%となっています。



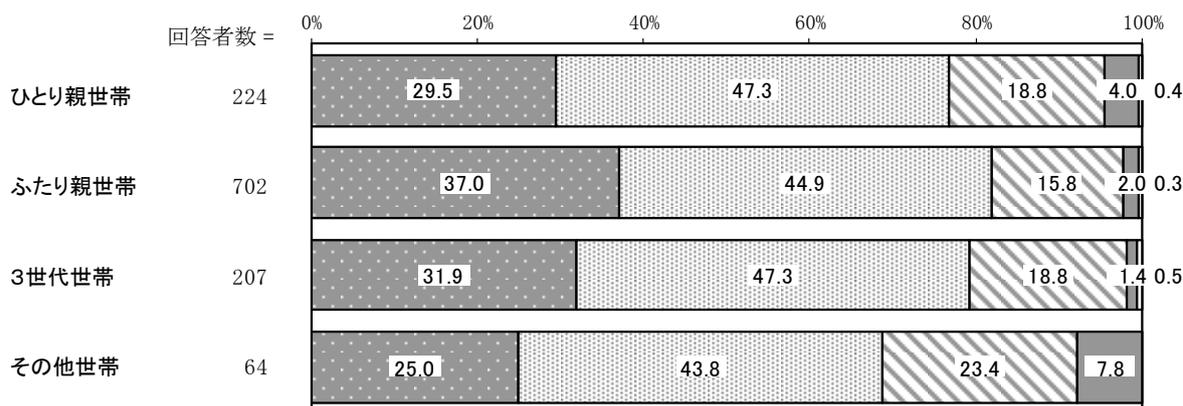
【貧困線別】

貧困線別で見ると、大きな差異はみられません。



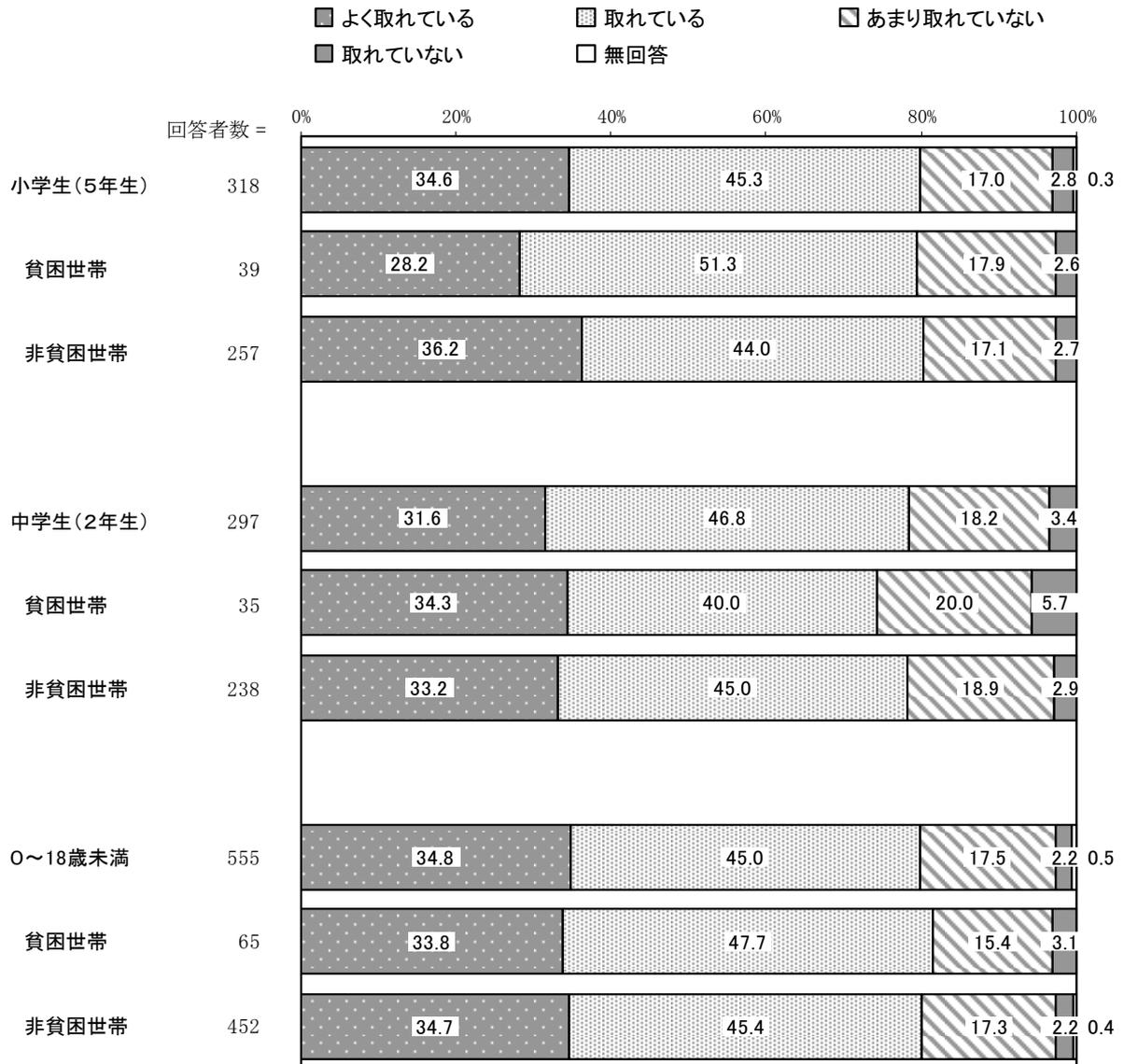
【家族構成別】

家族構成別で見ると、他に比べ、ふたり親世帯、3世代世帯で“時間が取れている”の割合が高くなっています。



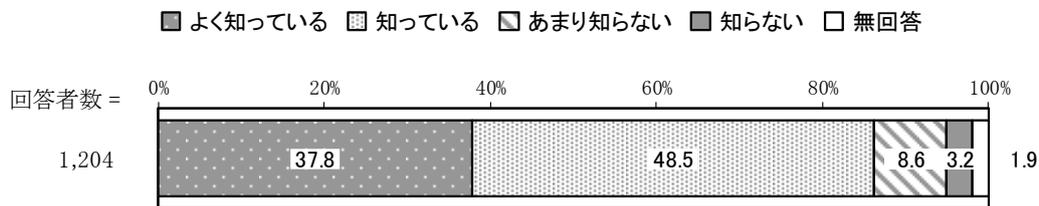
【子どもの学年別】

子どもの学年別でみると、大きな差異はみられません。



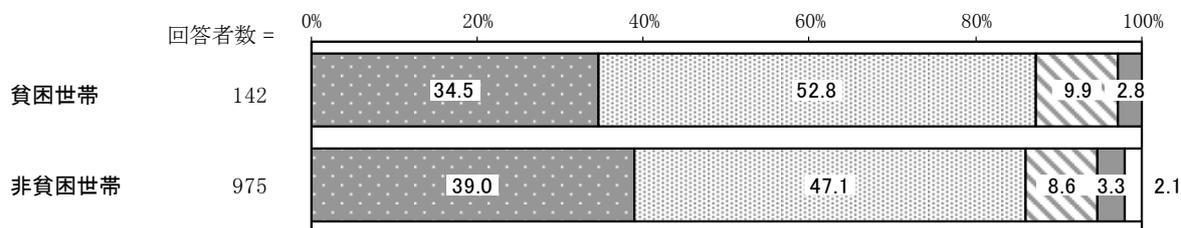
③お子さんの仲の良い友達を知っていますか。

「よく知っている」と「知っている」をあわせた“友達を知っている”の割合が86.3%、「あまり知らない」と「知らない」をあわせた“友達を知らない”の割合が11.8%となっています。



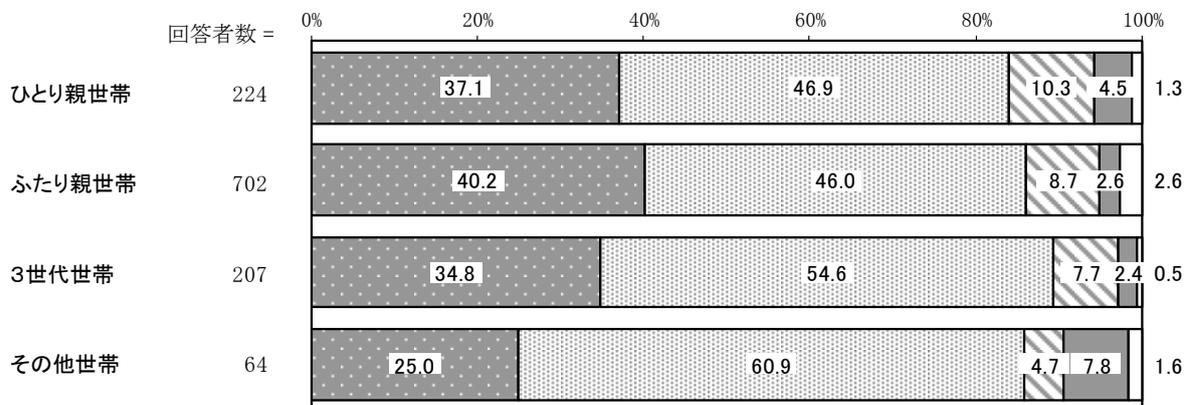
【貧困線別】

貧困線別でみると、大きな差異はみられません。



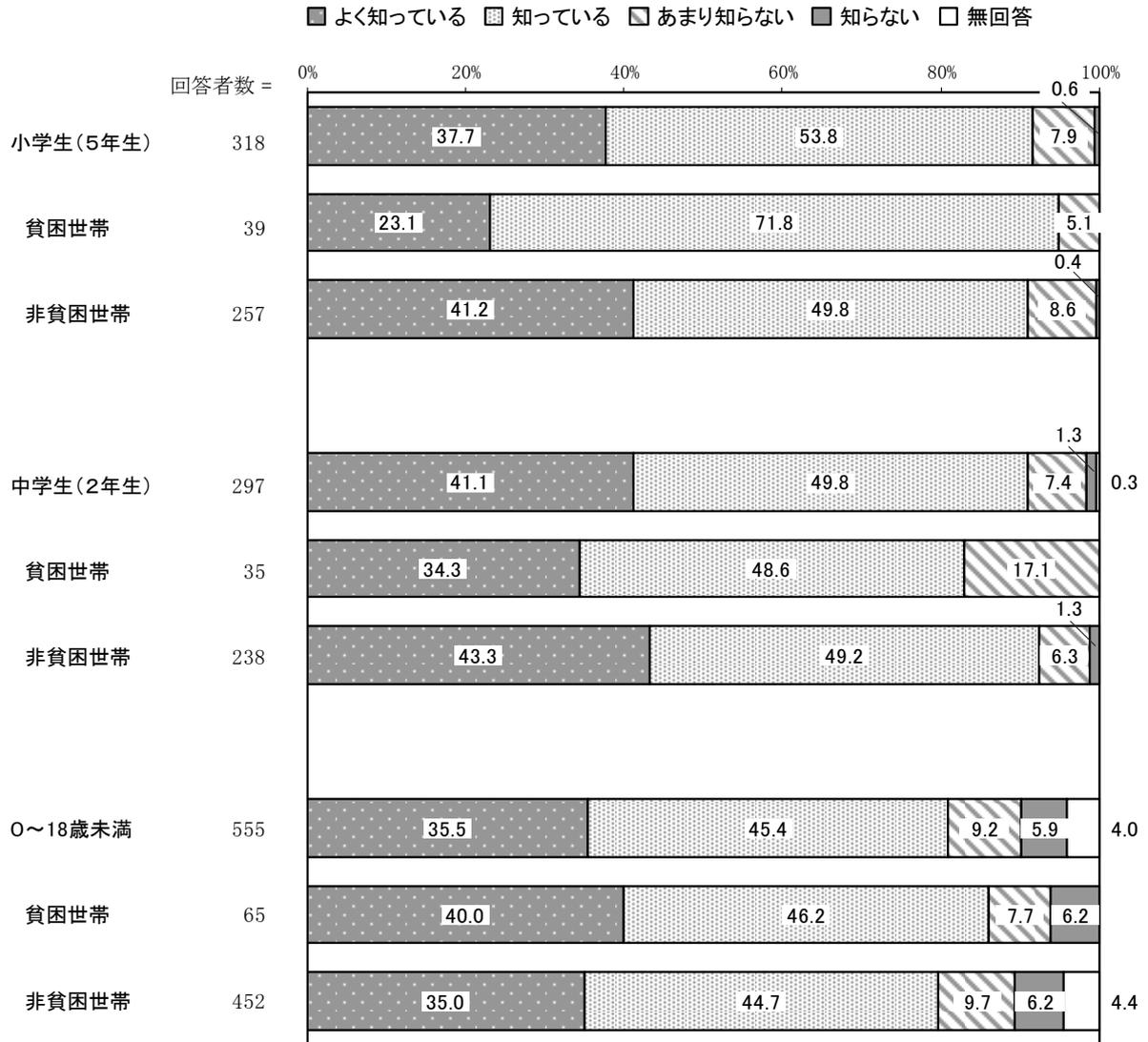
【家族構成別】

家族構成別でみると、他に比べ、3世代世帯で“友達を知っている”の割合が高くなっています。また、ひとり親世帯で“友達を知らない”の割合が高くなっています。



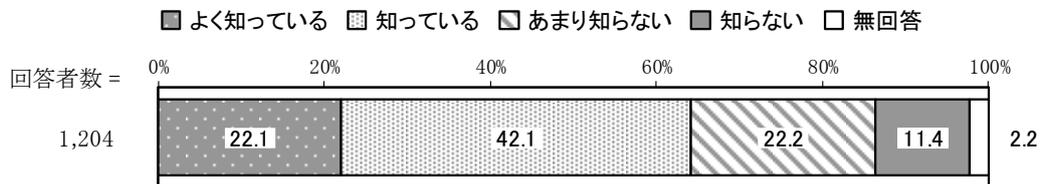
【子どもの学年別】

子どもの学年別で見ると、他に比べ、中学生の貧困世帯で“友達を知らない”の割合が高くなっています。また、中学生の非貧困世帯、0～18歳未満の貧困世帯で、“友達を知っている”の割合が高くなっています。



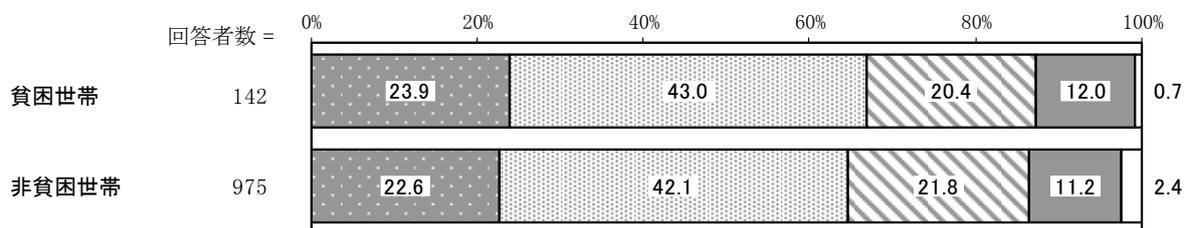
④お子さんの将来の夢について知っていますか。

「よく知っている」と「知っている」をあわせた“将来の夢を知っている”の割合が64.2%、「あまり知らない」と「知らない」をあわせた“将来の夢を知らない”の割合が33.6%となっています。



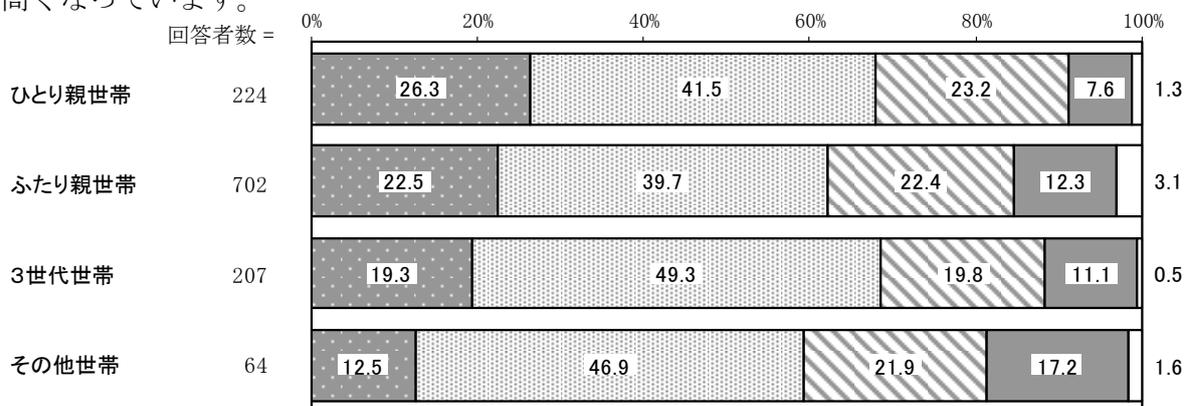
【貧困線別】

貧困線別で見ると、大きな差異はみられません。



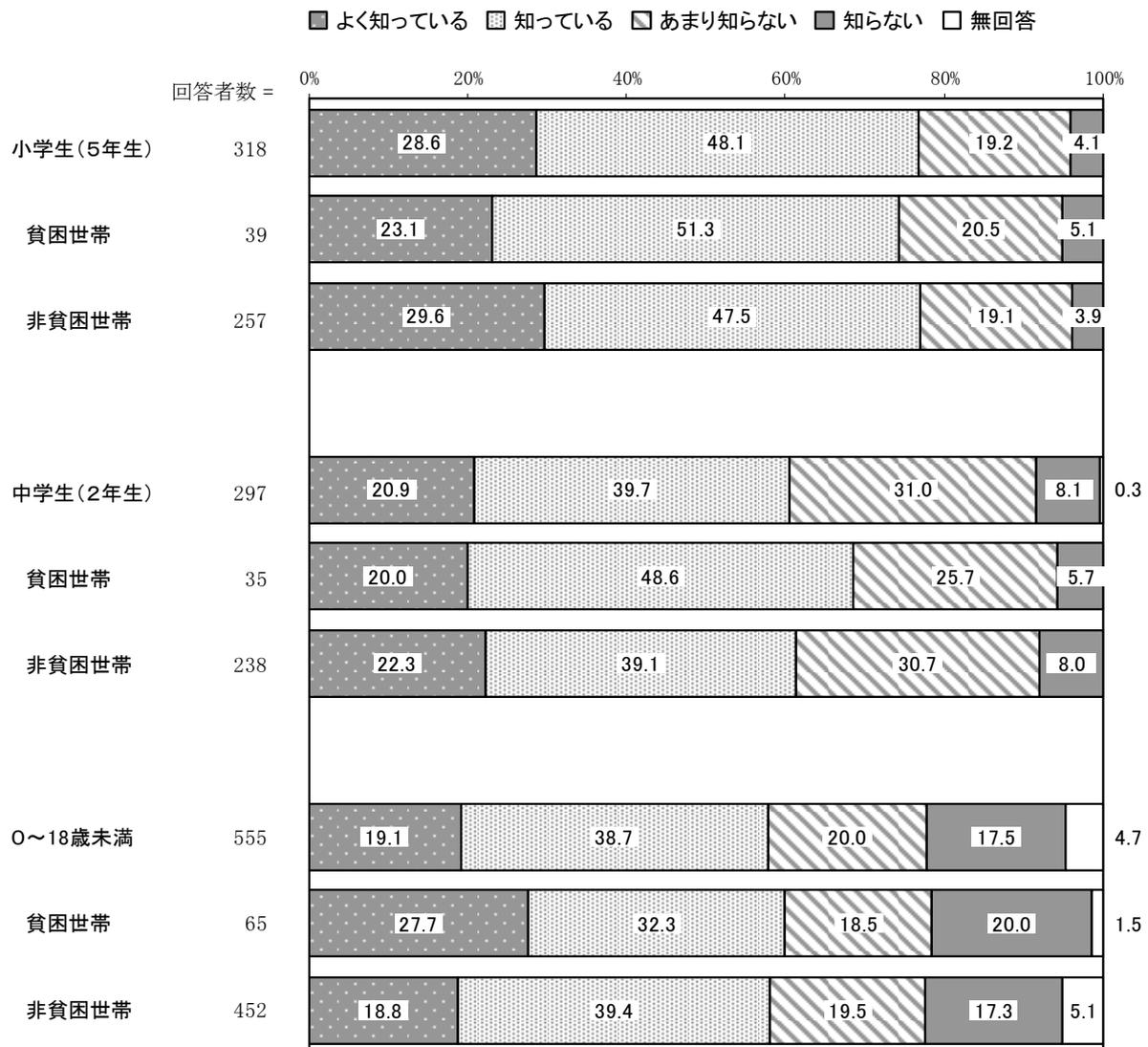
【家族構成別】

家族構成別で見ると、他に比べ、ふたり親世帯、その他世帯で“将来の夢を知らない”の割合が高くなっています。



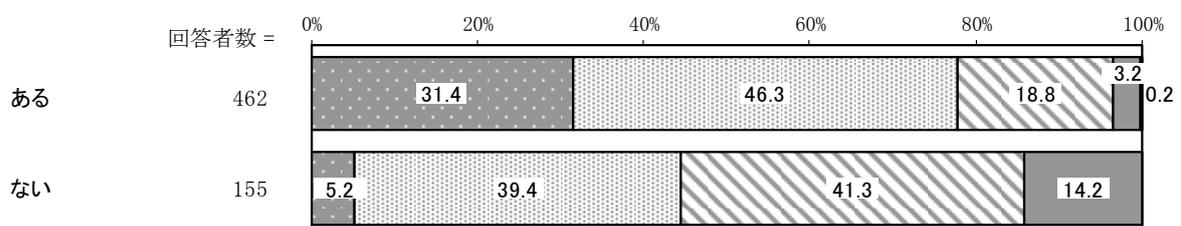
【子どもの学年別】

子どもの学年別で見ると、中学生で、非貧困世帯に比べ、貧困世帯で“将来の夢を知っている”の割合が高くなっています。



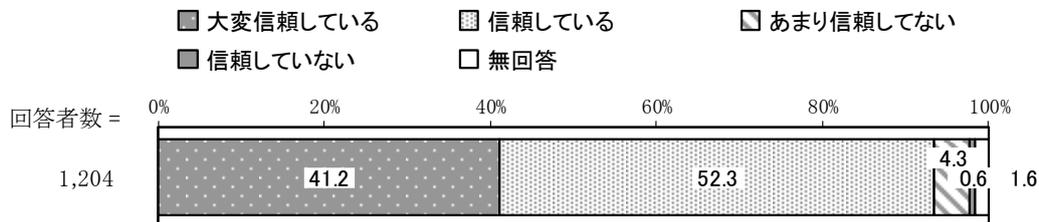
【将来の夢の有無別】

将来の夢の有無（小学生・中学生調査 問 17）別で親の認識の差異をみると、子どもの将来の夢が『ある』人で、親が子どもの将来の夢を“知っている”の割合が高く、約8割となっています。また、子どもの将来の夢が『ない』人で、親が子どもの将来の夢を“知らない”の割合が高く、5割台半ばとなっていることから、子どもの将来の夢の有無と、親の認識のギャップは小さいと考えられます。



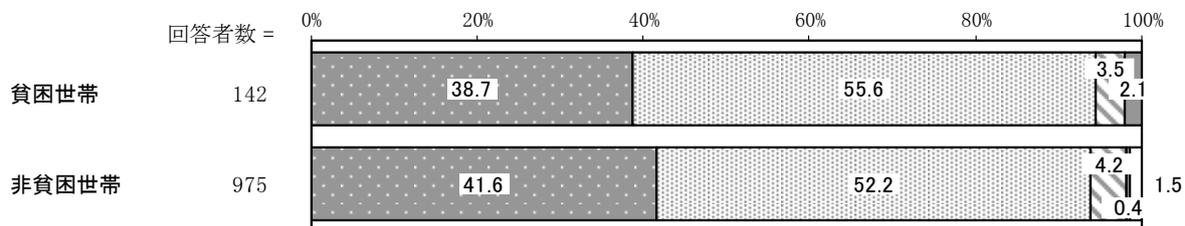
⑤お子さんを信頼していますか。

「大変信頼している」と「信頼している」をあわせた“信頼している”の割合が93.5%、「あまり信頼していない」と「信頼していない」をあわせた“信頼していない”の割合が4.9%となっています。



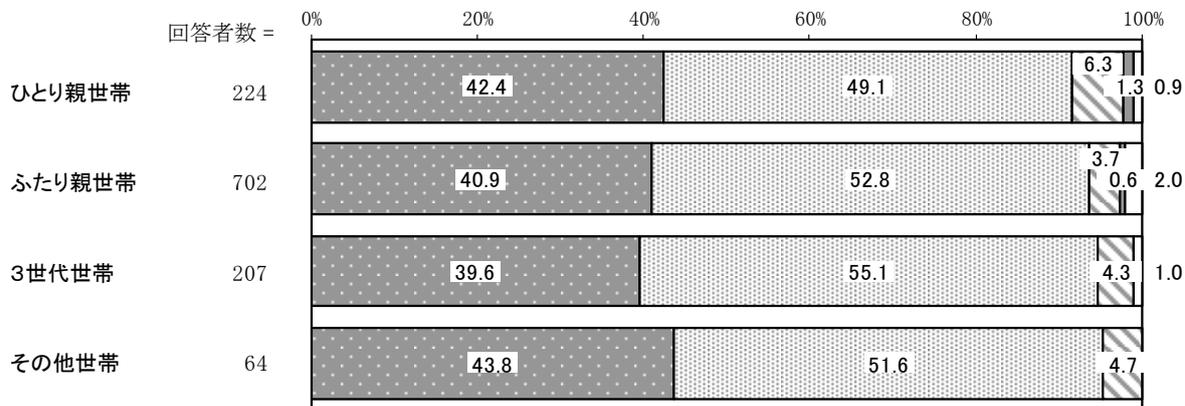
【貧困線別】

貧困線別でみると、大きな差異はみられません。



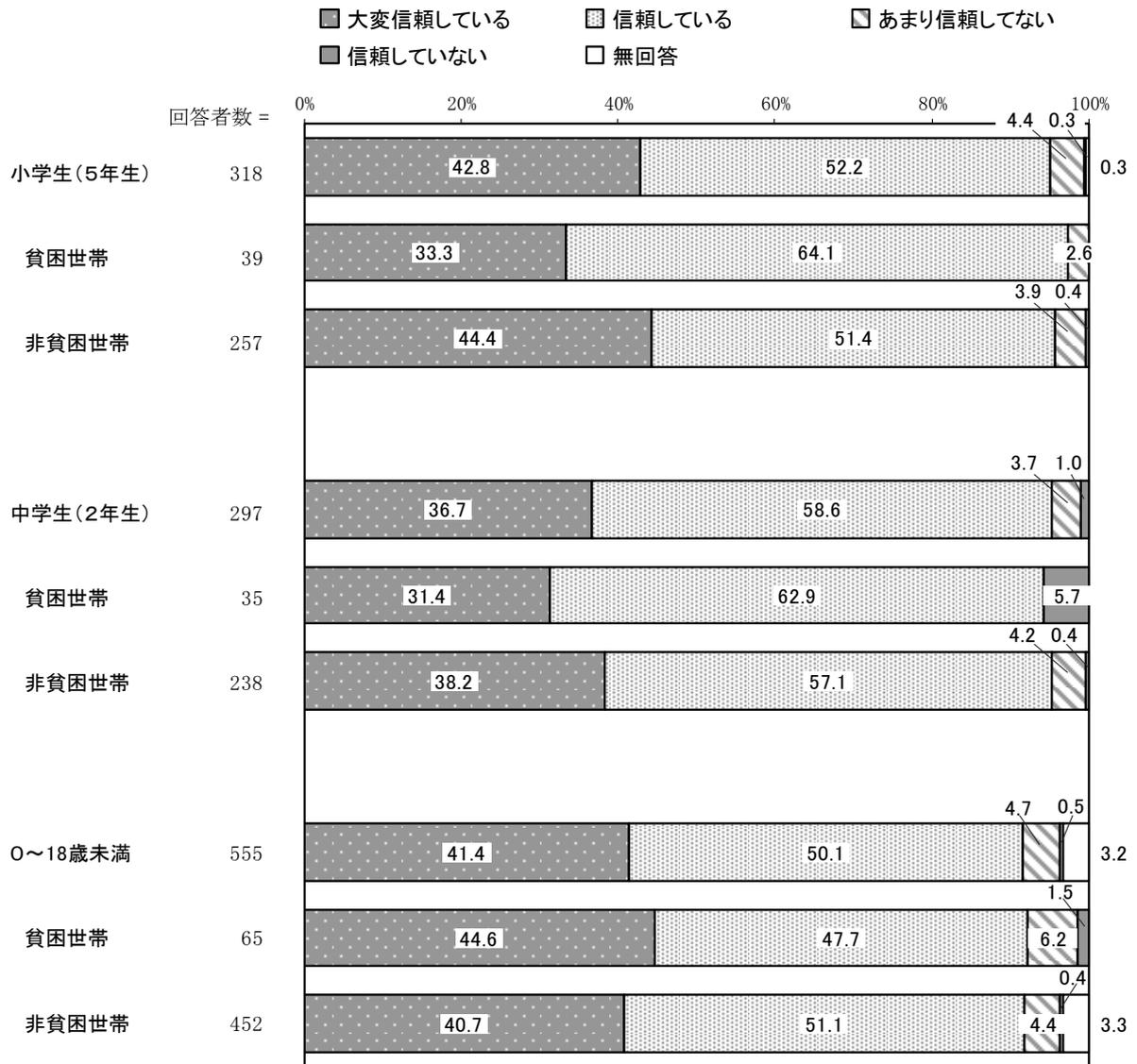
【家族構成別】

家族構成別でみると、大きな差異はみられません。



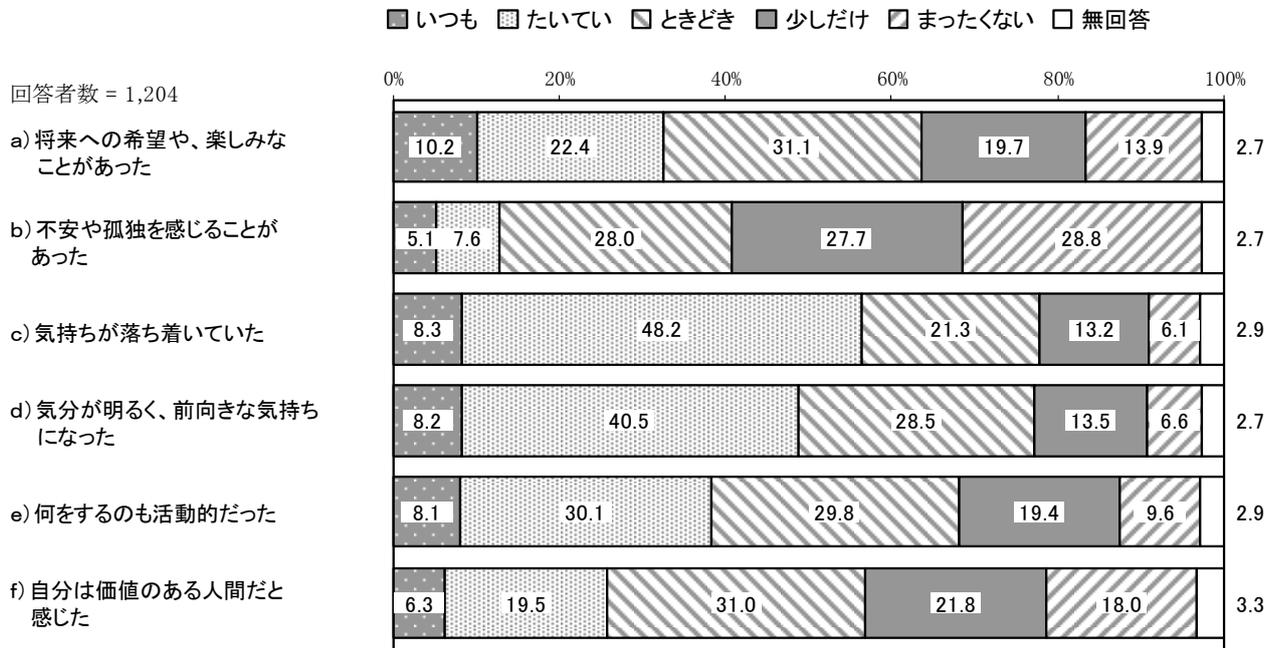
【子どもの学年別】

子どもの学年別で見ると、他に比べ、0～18歳未満の貧困世帯で「大変信頼している」の割合が高くなっています。



問 21 次の質問について、この1か月間のあなたの気持ちはどのようでしたか。
 (a～fそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

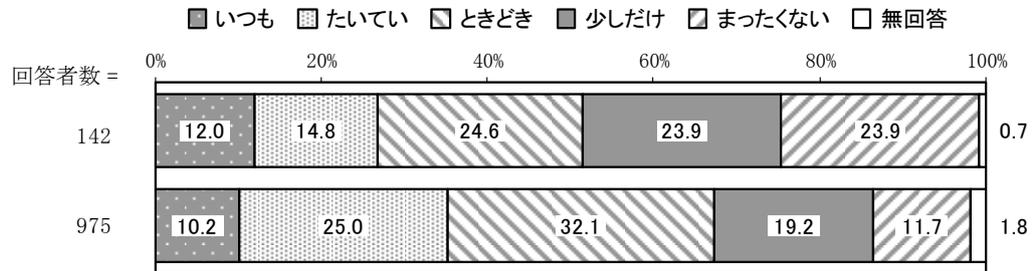
『c) 気持ちが落ち着いていた』『d) 気分が明るく、前向きな気持ちになった』で「たいてい」の割合が高く、4割以上となっています。



a) 将来への希望や、楽しみなことがあった

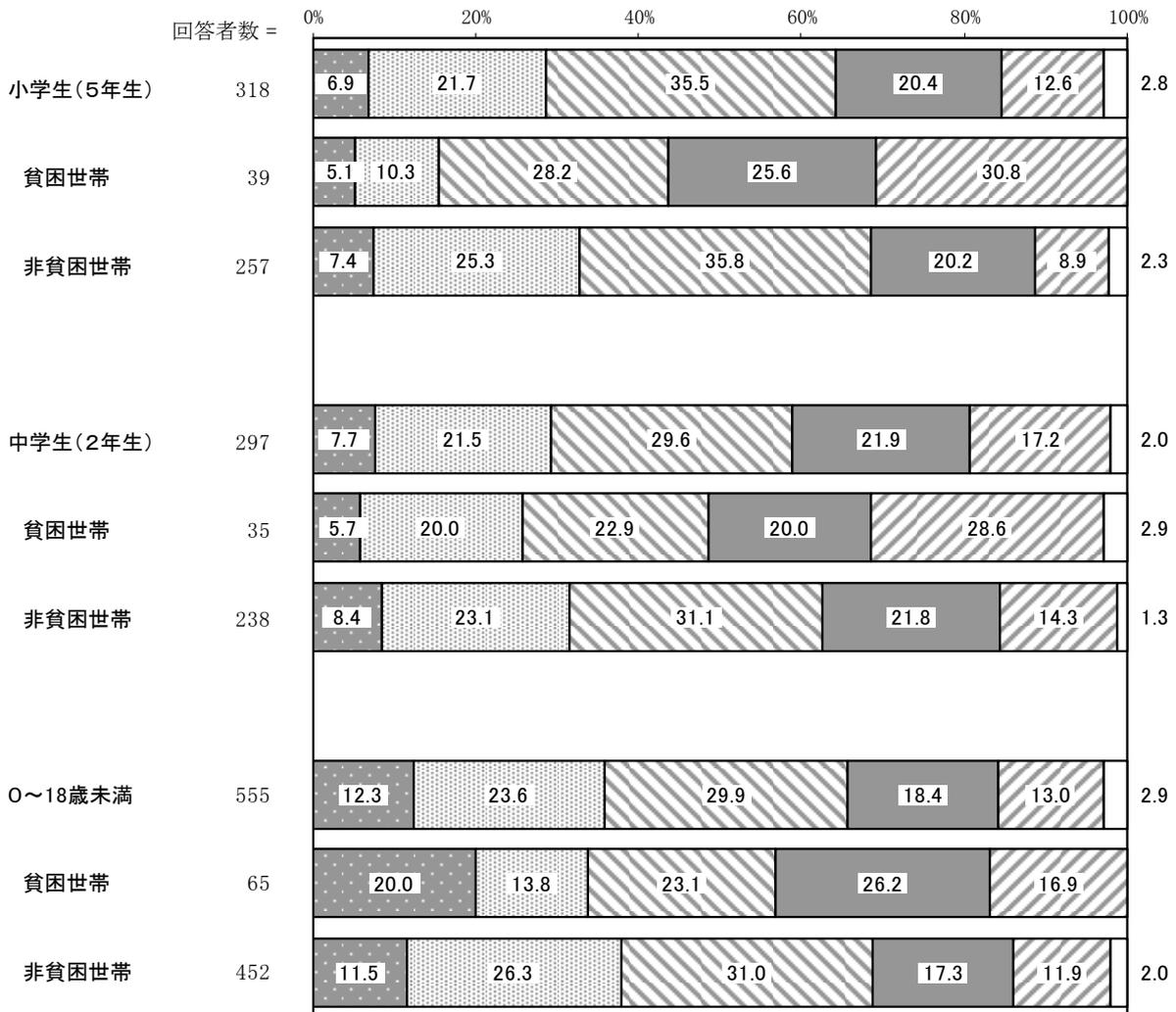
【貧困線別】

貧困線別でみると、非貧困世帯に比べ、貧困世帯で「まったくない」の割合が高くなっています。一方、貧困世帯に比べ、非貧困世帯で「たいてい」「ときどき」の割合が高くなっています。



【子どもの学年別】

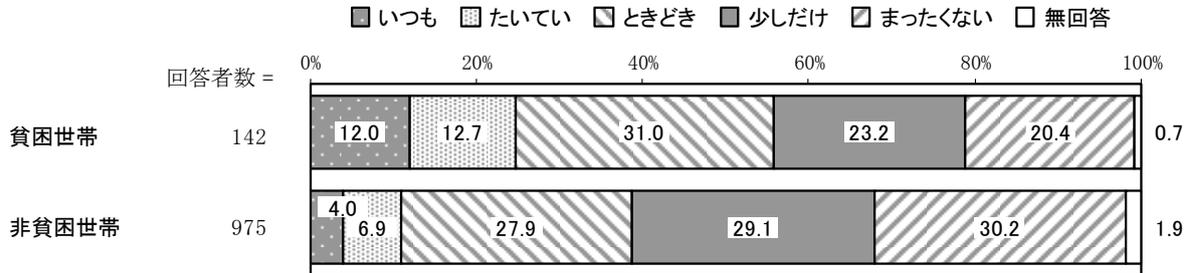
子どもの学年別でみると、小学生、中学生、0～18歳未満いずれも、非貧困世帯に比べ、貧困世帯で「まったくない」の割合が高くなっています。



b) 不安や孤独を感じるがあった

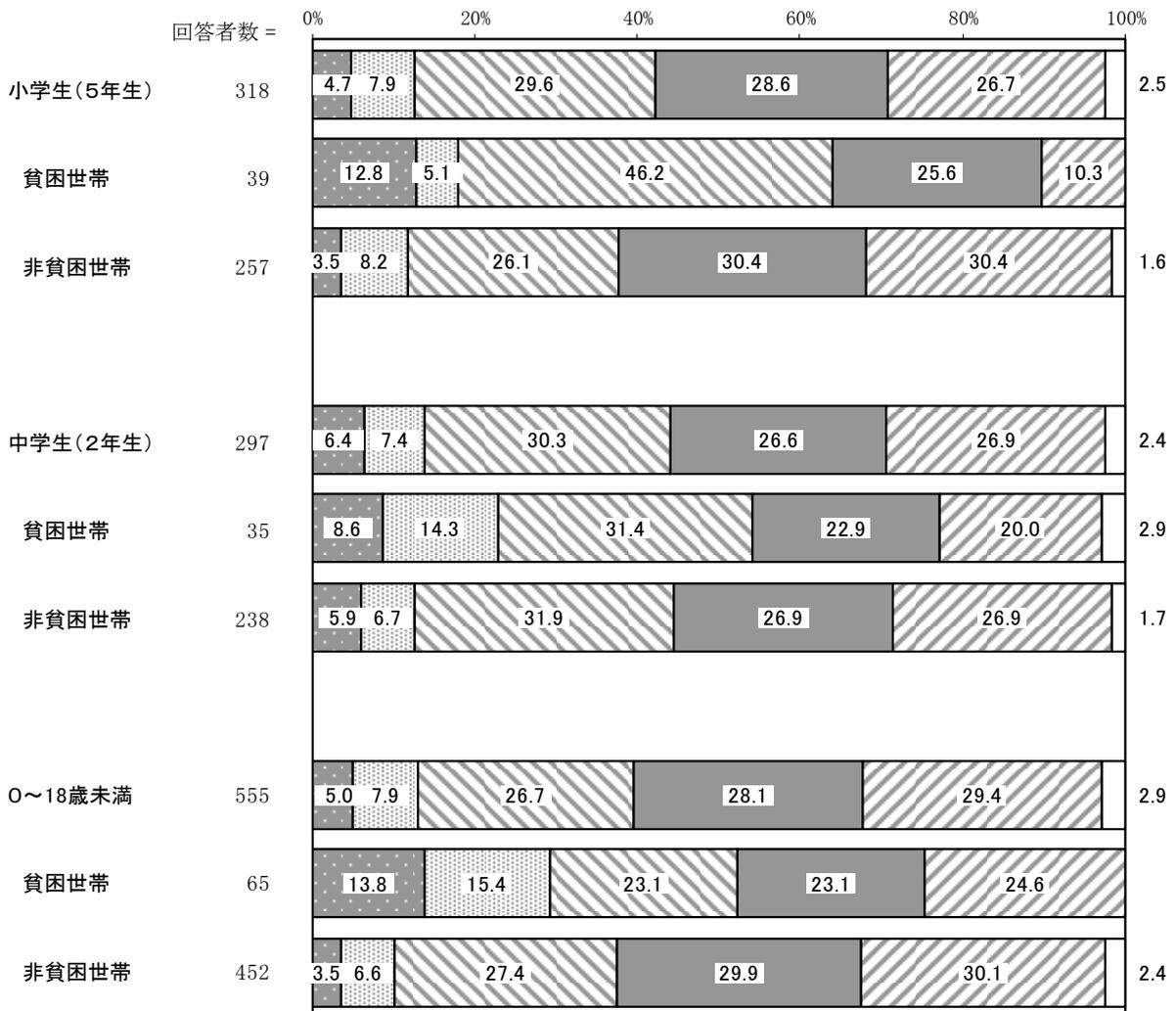
【貧困線別】

貧困線別でみると、非貧困世帯に比べ、貧困世帯で「いつも」「たいてい」の割合が高くなっています。一方、貧困世帯に比べ、非貧困世帯で「少しだけ」「まったくない」の割合が高くなっています。



【子どもの学年別】

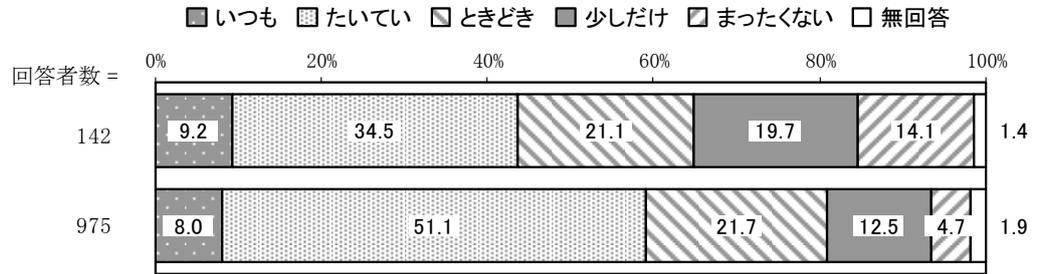
子どもの学年別でみると、他に比べ、小学生、0～18歳未満の貧困世帯で「いつも」の割合が高くなっています。



c) 気持ちが落ち着いていた

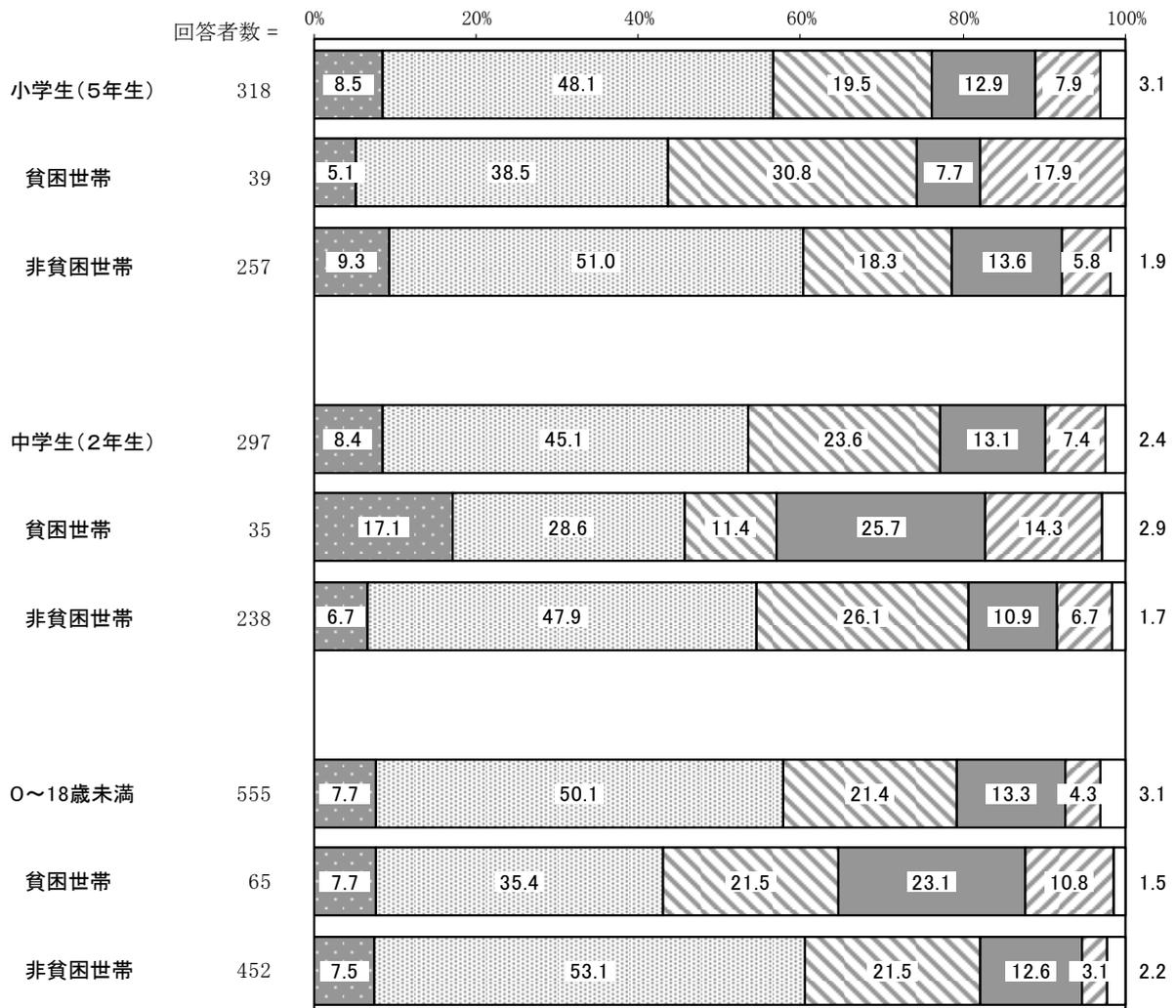
【貧困線別】

貧困線別でみると、非貧困世帯に比べ、貧困世帯で「少しだけ」「まったくない」の割合が高くなっています。一方、貧困世帯に比べ、非貧困世帯で「たいてい」の割合が高くなっています。



【子どもの学年別】

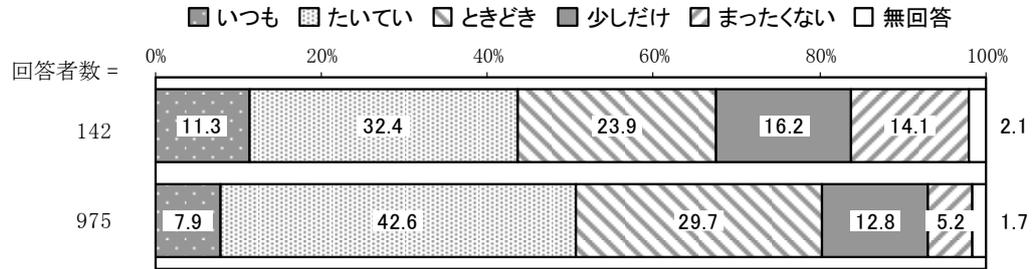
子どもの学年別でみると、小学生、中学生、0～18歳未満いずれも、非貧困世帯に比べ、貧困世帯で「まったくない」の割合が高くなっています。



d) 気分が明るく、前向きな気持ちになった

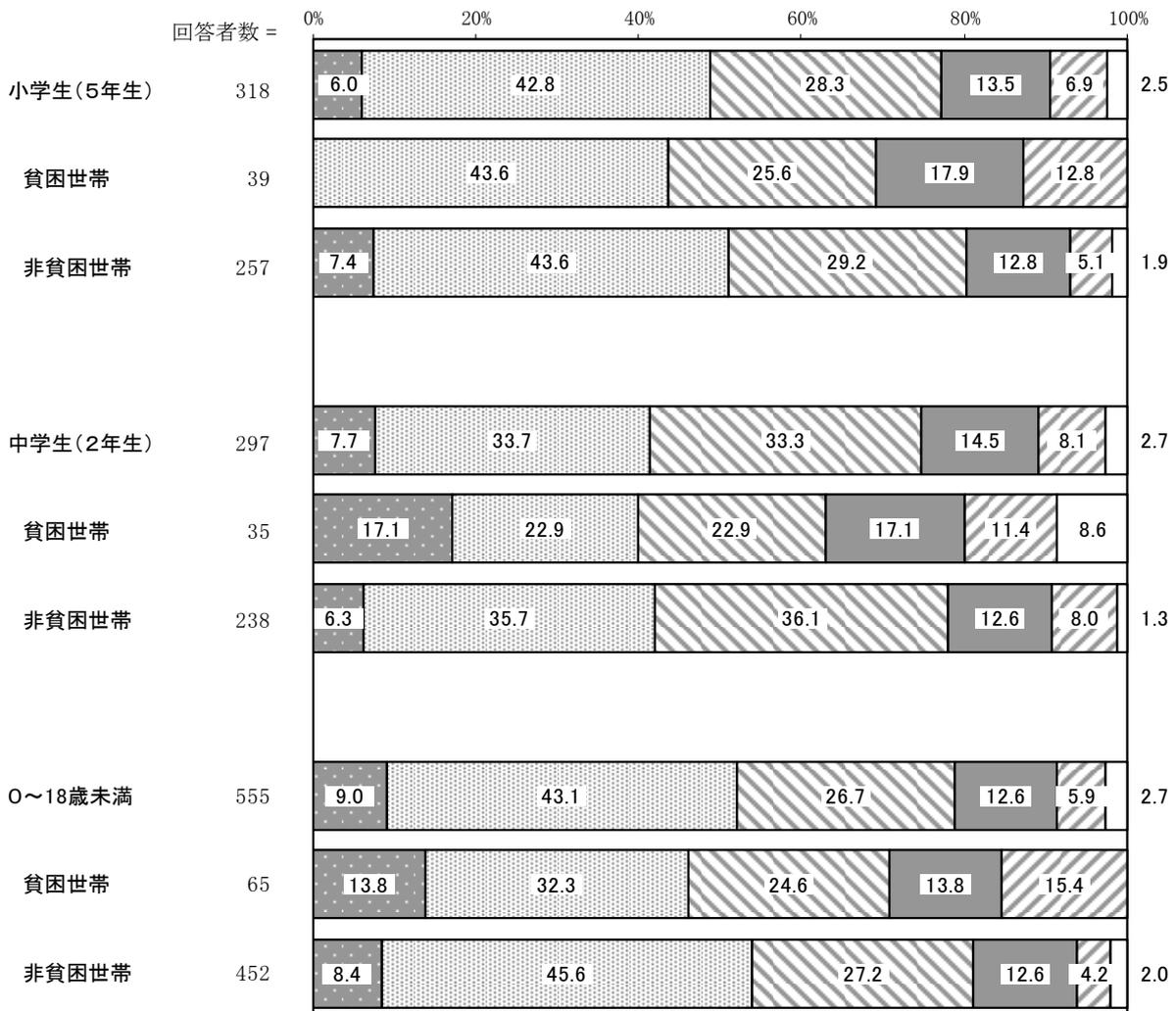
【貧困線別】

貧困線別で見ると、非貧困世帯に比べ、貧困世帯で「まったくない」の割合が高くなっています。一方、貧困世帯に比べ、非貧困世帯で「たいてい」「ときどき」の割合が高くなっています。



【子どもの学年別】

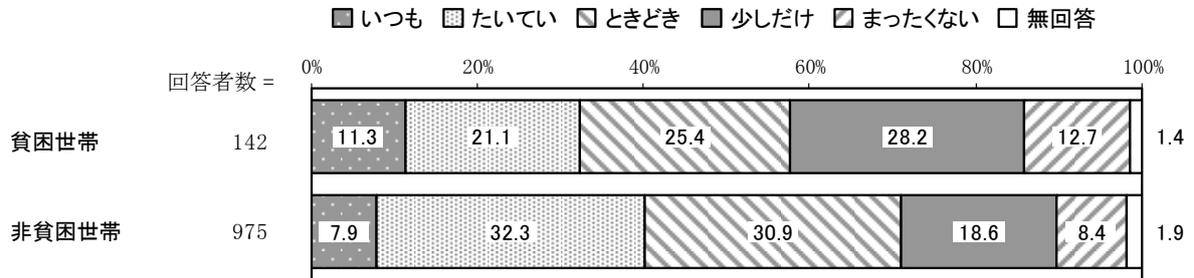
子どもの学年別で見ると、他に比べ、中学生、0～18歳未満で、非貧困世帯に比べ、貧困世帯で「いつも」の割合が高くなっています。



e) 何をするのも活動的だった

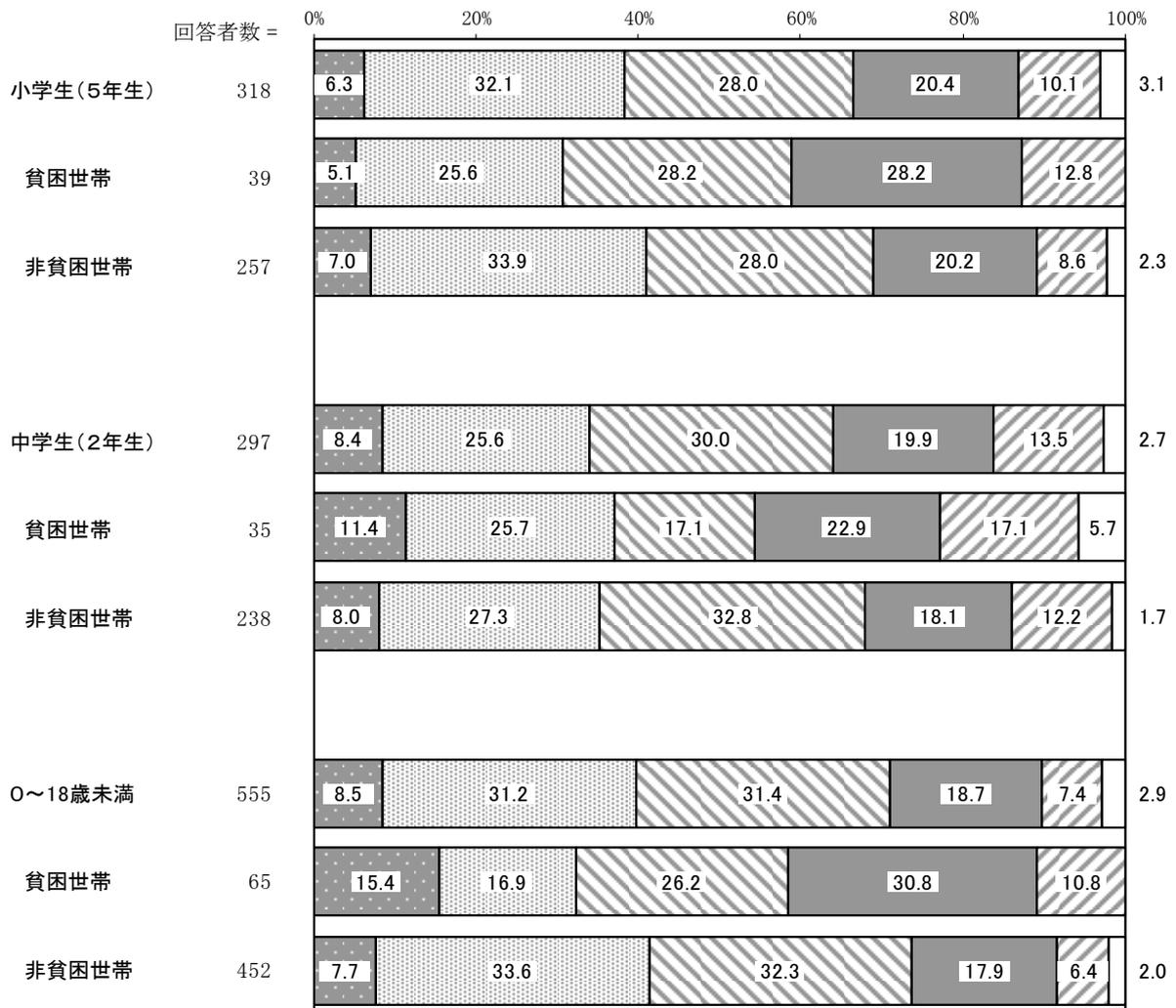
【貧困線別】

貧困線別で見ると、非貧困世帯に比べ、貧困世帯で「少しだけ」の割合が高くなっています。一方、貧困世帯に比べ、非貧困世帯で「たいてい」「ときどき」の割合が高くなっています。



【子どもの学年別】

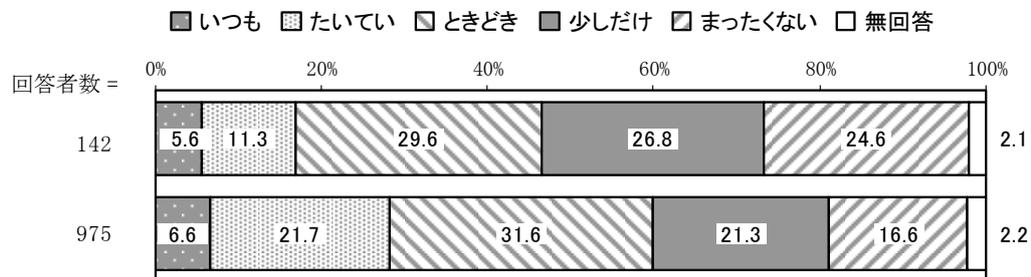
子どもの学年別で見ると、0～18歳未満で、非貧困世帯に比べ、貧困世帯で「いつも」の割合が高くなっています。



f) 自分は価値のある人間だと感じた

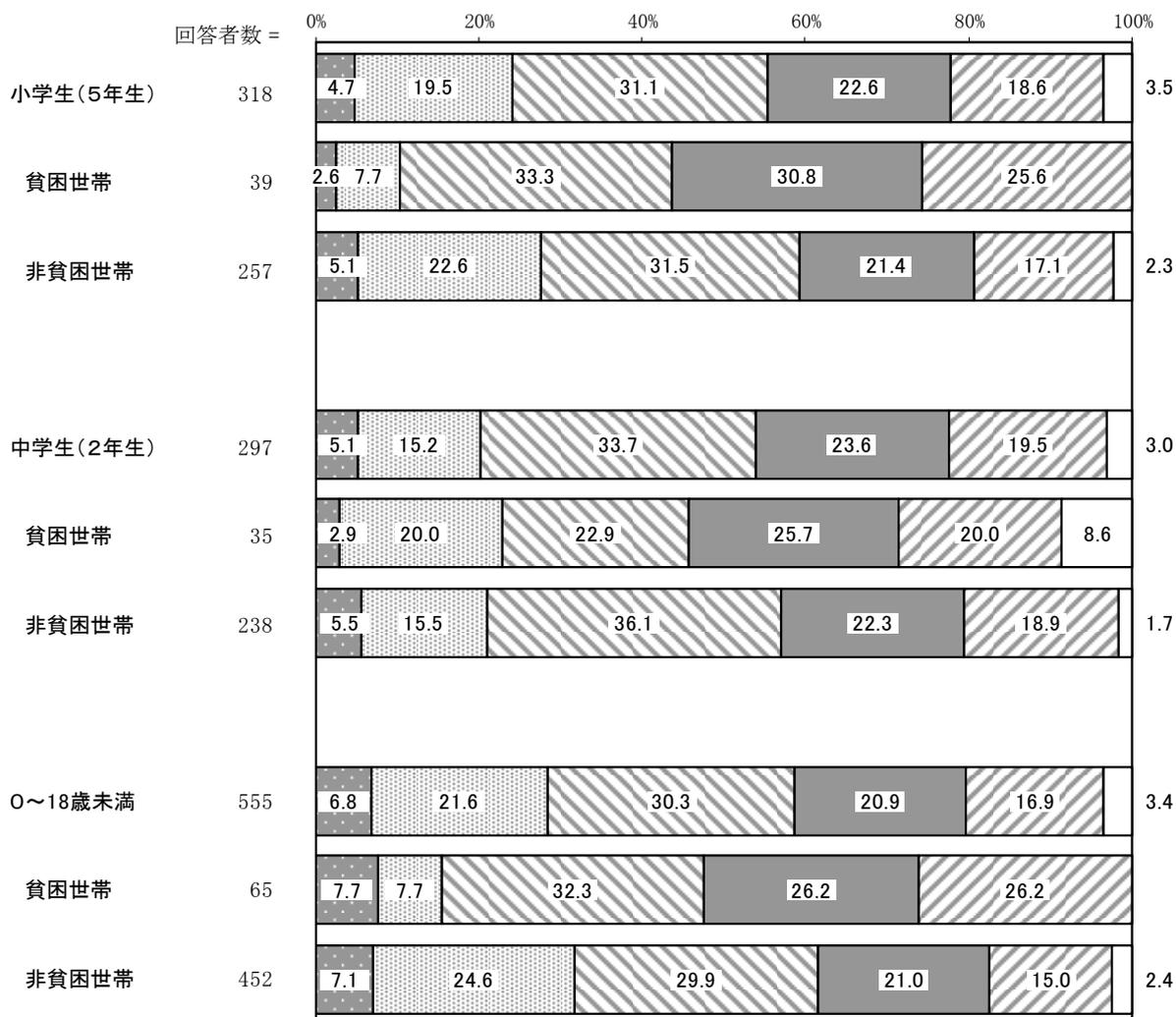
【貧困線別】

貧困線別で見ると、非貧困世帯に比べ、貧困世帯で「少しだけ」「まったくない」の割合が高くなっています。一方、貧困世帯に比べ、非貧困世帯で「たいてい」の割合が高くなっています。



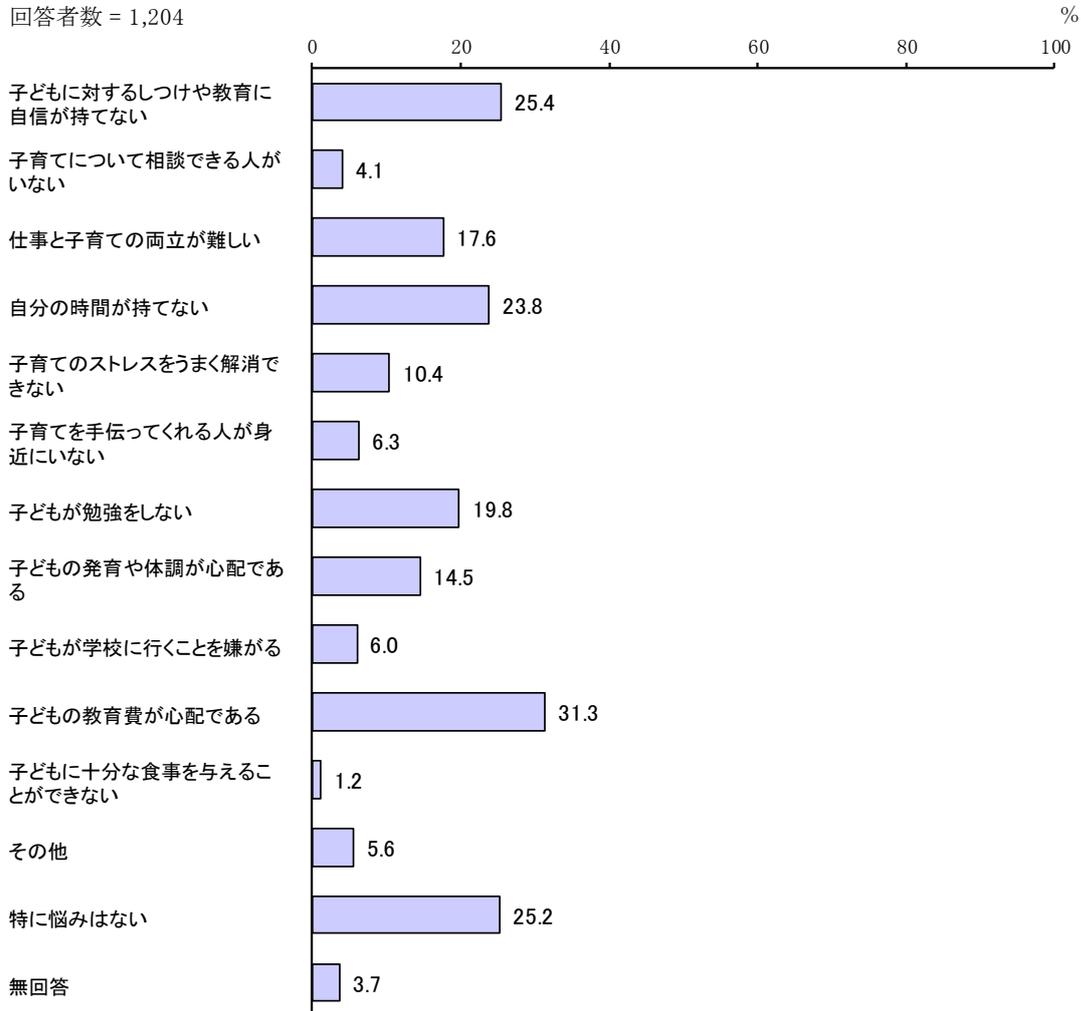
【子どもの学年別】

子どもの学年別で見ると、他に比べ、小学生、0～18歳未満の貧困世帯で「まったくない」の割合が高くなっています。



問 22 お子さんや子育てについて、現在悩んでいることはありますか。
 (1～12については、あてはまるものすべてに○)

「子どもの教育費が心配である」の割合が 31.3%と最も高く、次いで「子どもに対するしつけや教育に自信が持てない」の割合が 25.4%、「特に悩みはない」の割合が 25.2%となっています。



【小学校区別】

小学校区別でみると、他に比べ、三小で「子どもの教育費が心配である」の割合が低くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	子どもに対するしつけや教育に自信が持てない	子育てについて相談できる人がいない	仕事と子育ての両立が難しい	自分の時間が持てない	子育てのストレスをうまく解消できない	子育てを手伝ってくれる人が身近にいない	子どもが勉強をしない	子どもが学校に行くことを嫌がる	子どもの教育費が心配である	子どもに十分な食事を与えることができない	その他	特に悩みはない	無回答	
一小	127	29.1	4.7	18.1	26.8	10.2	9.4	19.7	15.7	4.7	31.5	0.8	4.7	26.0	0.8
二小	254	20.5	2.8	14.2	19.3	9.8	4.7	18.1	12.6	7.1	33.9	1.6	5.1	28.3	7.1
三小	218	27.1	6.4	17.4	23.4	11.9	6.0	24.8	15.6	9.2	26.6	1.4	5.0	24.8	3.7
月見小	193	20.7	3.6	17.1	21.8	8.8	7.8	20.2	10.4	7.3	32.6	1.0	4.7	26.4	4.1
杉小	241	28.6	3.3	19.9	24.1	10.0	4.6	19.5	15.8	2.5	29.5	1.2	7.5	25.3	1.7
玉小	144	27.1	2.8	20.8	28.5	11.1	5.6	13.9	16.0	4.9	34.7	0.7	4.9	19.4	3.5
浦戸小	4	50.0	25.0	25.0	50.0	25.0	25.0	50.0	75.0	—	25.0	25.0	—	25.0	—
その他	6	16.7	—	33.3	16.7	—	16.7	33.3	16.7	—	33.3	—	33.3	16.7	—

【貧困線別】

貧困線別でみると、非貧困世帯に比べ、貧困世帯で「子どもに対するしつけや教育に自信が持てない」「仕事と子育ての両立が難しい」「自分の時間が持てない」「子育てのストレスをうまく解消できない」「子育てを手伝ってくれる人が身近にいない」「子どもが勉強をしない」「子どもが学校に行くことを嫌がる」「子どもの教育費が心配である」の割合が高くなっています。一方、貧困世帯に比べ、非貧困世帯で「特に悩みはない」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	子どもに対するしつけや教育に自信が持てない	子育てについて相談できる人がいない	仕事と子育ての両立が難しい	自分の時間が持てない	子育てのストレスをうまく解消できない	子育てを手伝ってくれる人が身近にいない	子どもが勉強をしない	子どもが学校に行くことを嫌がる	子どもの教育費が心配である	子どもに十分な食事を与えることができない	その他	特に悩みはない	無回答	
貧困世帯	142	33.1	5.6	25.4	33.1	17.6	11.3	25.4	19.0	14.1	50.0	2.8	5.6	14.1	2.8
非貧困世帯	975	24.6	4.0	16.7	23.1	9.2	5.6	19.1	14.3	4.8	28.9	0.8	5.7	27.1	3.2

【子どもの学年別】

子どもの学年別でみると、他に比べ、小学生の貧困世帯、中学生の貧困世帯で「子どもの教育費が心配である」の割合が高くなっています。また、小学生の貧困世帯で「子どもに対するしつけや教育に自信が持てない」「子育てを手伝ってくれる人が身近にいない」の割合が、中学生の貧困世帯で「子どもの発育や体調が心配である」「子どもが学校に行くことを嫌がる」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	子どもに対するしつけや教育に自信が持てない	子育てについて相談できる人がいない	仕事と子育ての両立が難しい	自分の時間が持てない	子育てのストレスをうまく解消できない	子育てを手伝ってくれる人が身近にいない	子どもが勉強をしない	子どもの発育や体調が心配である	子どもが学校に行くことを嫌がる	子どもの教育費が心配である	子どもに十分な食事を与えることができない	その他	特に悩みはない	無回答
小学生(5年生)	318	24.8	5.7	17.6	23.3	12.3	7.9	20.4	12.6	8.2	26.7	1.3	5.7	28.6	4.7
貧困世帯	39	46.2	10.3	25.6	38.5	20.5	17.9	35.9	15.4	7.7	53.8	—	7.7	12.8	2.6
非貧困世帯	257	21.0	5.1	16.7	21.8	10.9	6.2	17.9	12.1	7.8	23.3	1.2	5.4	31.5	3.5
中学生(2年生)	297	21.5	4.4	15.5	21.9	8.1	6.4	32.0	14.1	6.4	36.0	1.3	6.1	22.2	3.4
貧困世帯	35	31.4	5.7	22.9	37.1	17.1	8.6	31.4	25.7	25.7	54.3	5.7	2.9	8.6	5.7
非貧困世帯	238	21.0	4.6	15.1	20.6	6.7	5.9	32.4	13.4	3.8	32.4	0.4	6.7	24.4	2.9
0～18歳未満	555	27.6	2.9	19.1	25.2	10.6	5.4	13.2	16.2	4.9	31.7	1.3	5.4	24.5	3.4
貧困世帯	65	27.7	3.1	26.2	29.2	16.9	9.2	15.4	18.5	12.3	44.6	3.1	6.2	16.9	1.5
非貧困世帯	452	27.9	2.9	17.9	25.0	9.5	5.1	13.3	16.2	4.0	30.5	0.9	5.8	25.7	3.3

【家族構成別】

家族構成別でみると、他に比べ、その他世帯で「仕事と子育ての両立が難しい」の割合が、ひとり親世帯で「子育てを手伝ってくれる人が身近にいない」の割合が、ひとり親世帯、その他世帯で「子どもの教育費が心配である」の割合が高くなっています。また、ふたり親世帯で「特に悩みはない」の割合が高くなっています。

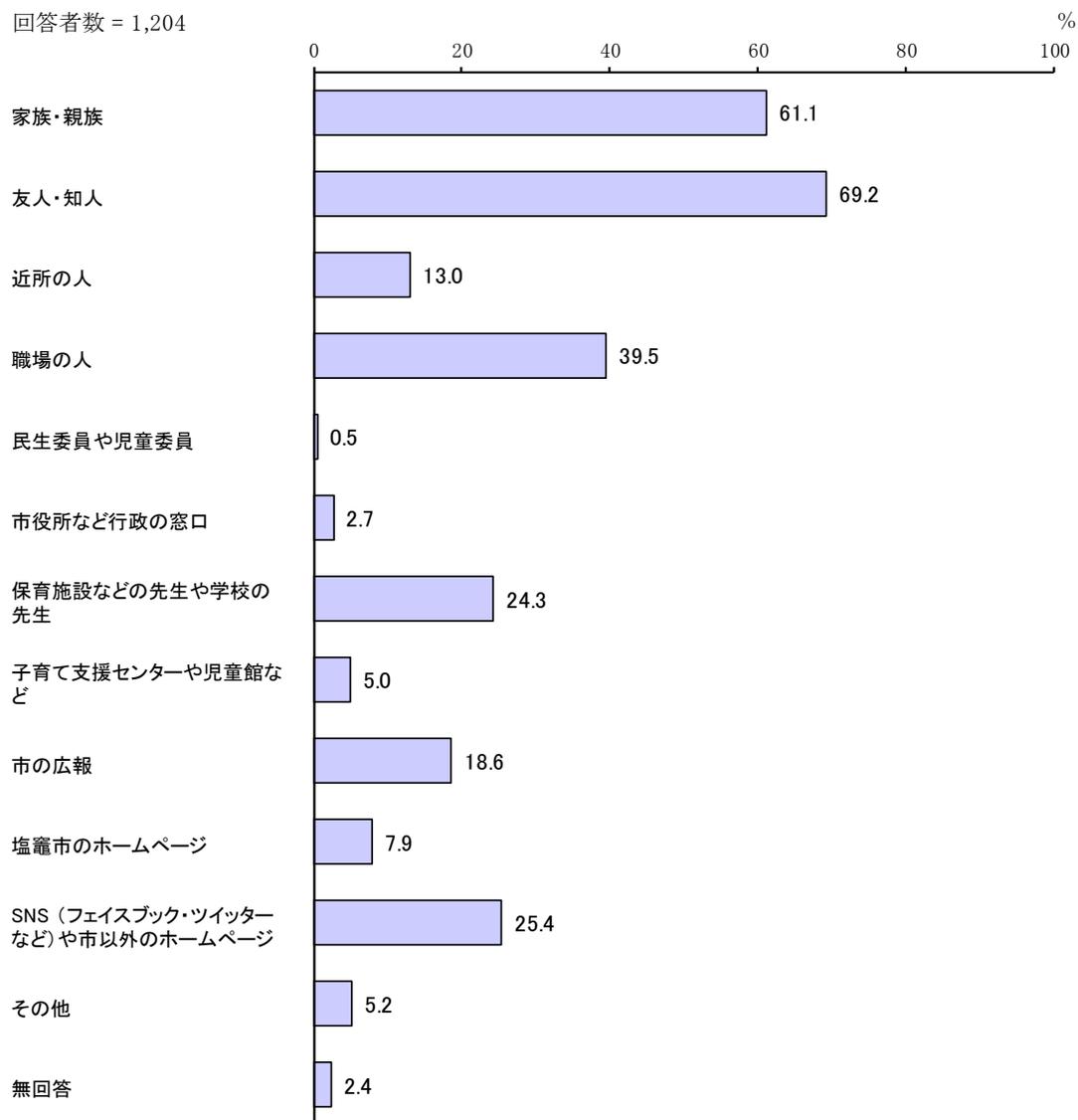
単位：％

区分	回答者数(件)	子どもに対するしつけや教育に自信が持てない	子育てについて相談できる人がいない	仕事と子育ての両立が難しい	自分の時間が持てない	子育てのストレスをうまく解消できない	子育てを手伝ってくれる人が身近にいない	子どもが勉強をしない	子どもの発育や体調が心配である	子どもが学校に行くことを嫌がる	子どもの教育費が心配である	子どもに十分な食事を与えることができない	その他	特に悩みはない	無回答
ひとり親世帯	224	25.9	7.6	21.9	24.1	12.1	13.4	21.0	13.8	7.6	39.3	2.7	4.9	21.4	4.9
ふたり親世帯	702	24.6	4.0	16.0	23.1	9.4	5.6	18.5	14.2	5.7	27.8	0.9	6.0	27.5	3.4
3世代世帯	207	27.5	1.4	15.9	22.2	11.6	1.9	22.2	16.9	4.8	31.9	0.5	4.8	25.1	2.4
その他世帯	64	23.4	1.6	28.1	32.8	10.9	4.7	21.9	12.5	7.8	40.6	3.1	4.7	15.6	4.7

問 23 あなたは、子育てに関する情報をどこから手に入れますか。
(あてはまるものすべてに○)

「友人・知人」の割合が69.2%と最も高く、次いで「家族・親族」の割合が61.1%、「職場の人」の割合が39.5%となっています。

回答者数 = 1,204



【小学校区別】

小学校区別でみると、他に比べ、杉小で「近所の人」「職場の人」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	家族・親族	友人・知人	近所の人	職場の人	民生委員や児童委員	市役所など行政の窓口	先生 保育施設などの先生や学校の先生	子育て支援センターや児童館など	市の広報	塩竈市のホームページ	SNS(フェイスブック・ツイッターなど)や市以外のホームページ	その他	無回答
一小	127	61.4	69.3	11.0	37.0	0.8	2.4	28.3	7.9	22.0	6.3	25.2	2.4	0.8
二小	254	52.8	68.1	10.6	39.0	0.4	2.8	24.4	6.7	18.9	8.7	21.3	4.3	3.1
三小	218	63.8	68.8	14.2	40.8	0.5	4.1	23.4	3.2	17.0	6.0	24.8	5.0	3.2
月見小	193	66.3	68.9	15.5	35.8	1.0	2.6	23.3	2.6	19.2	7.3	27.5	5.2	2.1
杉小	241	59.3	70.5	17.0	44.8	0.4	2.9	24.9	6.2	18.7	10.0	28.6	6.2	1.2
玉小	144	66.0	70.8	9.7	40.3	—	0.7	25.0	2.8	18.1	6.9	23.6	5.6	2.8
浦戸小	4	50.0	50.0	—	25.0	—	25.0	25.0	—	25.0	25.0	75.0	—	25.0
その他	6	66.7	66.7	—	33.3	—	—	16.7	—	—	—	33.3	16.7	—

【貧困線別】

貧困線別でみると、貧困世帯に比べ、非貧困世帯で「家族・親族」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	家族・親族	友人・知人	近所の人	職場の人	民生委員や児童委員	市役所など行政の窓口	先生 保育施設などの先生や学校の先生	子育て支援センターや児童館など	市の広報	塩竈市のホームページ	SNS(フェイスブック・ツイッターなど)や市以外のホームページ	その他	無回答
貧困世帯	142	54.9	66.9	12.0	39.4	0.7	4.2	21.8	7.0	17.6	6.3	21.1	4.2	2.1
非貧困世帯	975	62.4	69.7	12.5	40.3	0.5	2.4	24.9	4.1	18.9	8.5	26.1	5.1	2.1

【子どもの学年別】

子どもの学年別でみると、小学生、中学生ともに、貧困世帯に比べ、非貧困世帯で「SNS（フェイスブック・ツイッターなど）や市以外のホームページ」の割合が高くなっています。また、他に比べ、小学生の貧困世帯で「友人・知人」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	家族・親族	友人・知人	近所の人	職場の人	民生委員や児童委員	市役所など行政の窓口	先生 保育施設などの先生や学校の先生	子育て支援センターや児童館など	市の広報	塩竈市のホームページ	SNS（フェイスブック・ツイッターなど）や市以外のホームページ	その他	無回答
小学生（5年生）	318	58.5	69.2	14.5	40.6	0.3	2.8	21.7	3.8	16.4	7.2	22.6	5.7	2.8
貧困世帯	39	56.4	74.4	12.8	41.0	—	5.1	20.5	5.1	10.3	5.1	15.4	5.1	2.6
非貧困世帯	257	58.8	69.3	14.8	41.2	0.4	2.3	22.2	3.1	17.1	7.8	23.3	5.8	3.1
中学生（2年生）	297	55.9	67.0	9.1	38.0	0.3	2.7	20.9	1.3	19.5	6.7	19.2	6.1	2.4
貧困世帯	35	51.4	62.9	5.7	40.0	—	—	20.0	2.9	22.9	8.6	11.4	8.6	2.9
非貧困世帯	238	56.7	68.1	8.4	38.7	0.4	2.1	21.0	0.8	18.1	6.7	19.7	5.0	1.7
0～18歳未満	555	65.4	70.3	14.1	39.3	0.7	2.9	27.2	7.4	19.3	8.8	30.6	4.7	2.3
貧困世帯	65	53.8	66.2	12.3	40.0	1.5	6.2	23.1	10.8	20.0	6.2	29.2	1.5	1.5
非貧困世帯	452	67.7	70.8	13.3	40.0	0.7	2.7	28.1	6.2	19.9	9.7	31.4	4.9	1.8

【家族構成別】

家族構成別でみると、他に比べ、ひとり親世帯で「家族・親族」「友人・知人」「保育施設などの先生や学校の先生」「SNS（フェイスブック・ツイッターなど）や市以外のホームページ」の割合が低くなっています。

単位：％

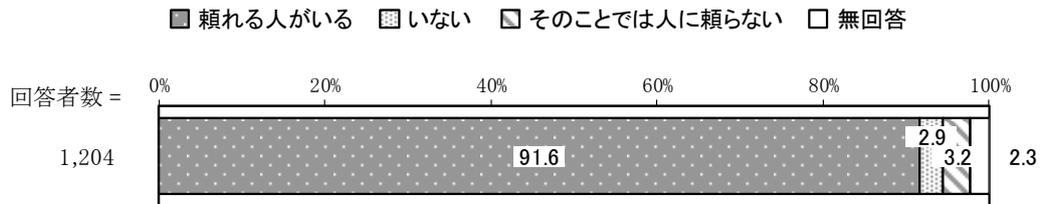
区分	回答者数（件）	家族・親族	友人・知人	近所の人	職場の人	民生委員や児童委員	市役所など行政の窓口	先生 保育施設などの先生や学校の先生	子育て支援センターや児童館など	市の広報	塩竈市のホームページ	SNS（フェイスブック・ツイッターなど）や市以外のホームページ	その他	無回答
ひとり親世帯	224	55.4	64.3	12.9	41.1	0.9	5.8	19.6	4.9	18.3	8.9	21.4	4.5	3.1
ふたり親世帯	702	61.3	71.9	13.2	38.9	0.4	1.9	25.5	5.1	19.2	8.3	27.2	5.6	2.3
3世代世帯	207	65.2	70.5	14.5	42.0	0.5	2.4	25.6	2.4	19.8	4.8	24.2	5.3	2.4
その他世帯	64	64.1	51.6	7.8	34.4	—	3.1	25.0	10.9	10.9	10.9	25.0	3.1	1.6

問 24 あなたは次に挙げる事柄で頼れる人はいますか。
 (a、bそれぞれについて、1～3のあてはまるもの1つに○)
 また、「1. 頼れる人がいる」場合、それはだれですか。
 (①～⑧のあてはまるものすべてに○)

a) 子育てに関する相談

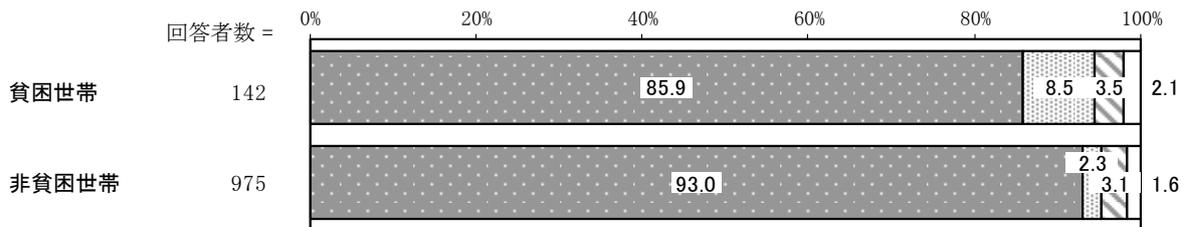
①頼れる人の有無

「頼れる人がいる」の割合が91.6%と最も高くなっています。



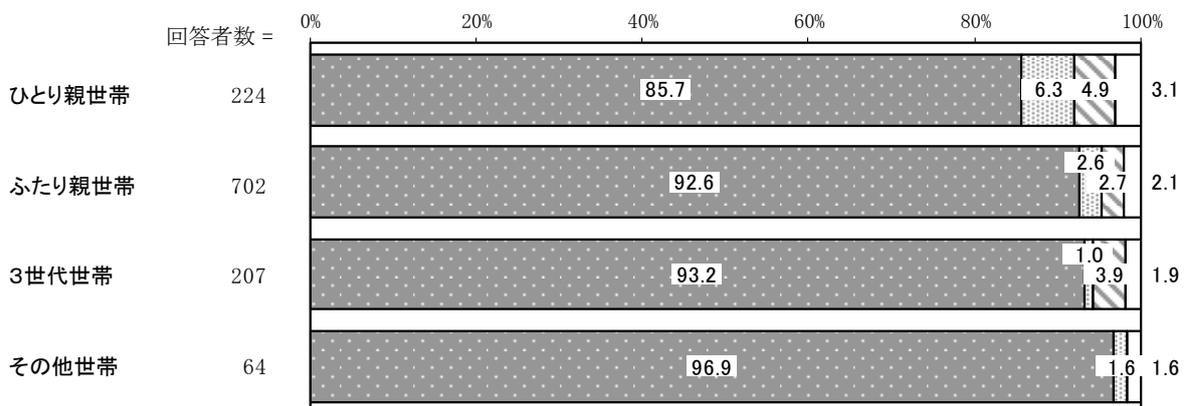
【貧困線別】

貧困線別でみると、非貧困世帯に比べ、貧困世帯で「いない」の割合が高くなっています。一方、貧困世帯に比べ、非貧困世帯で「頼れる人がいる」の割合が高くなっています。



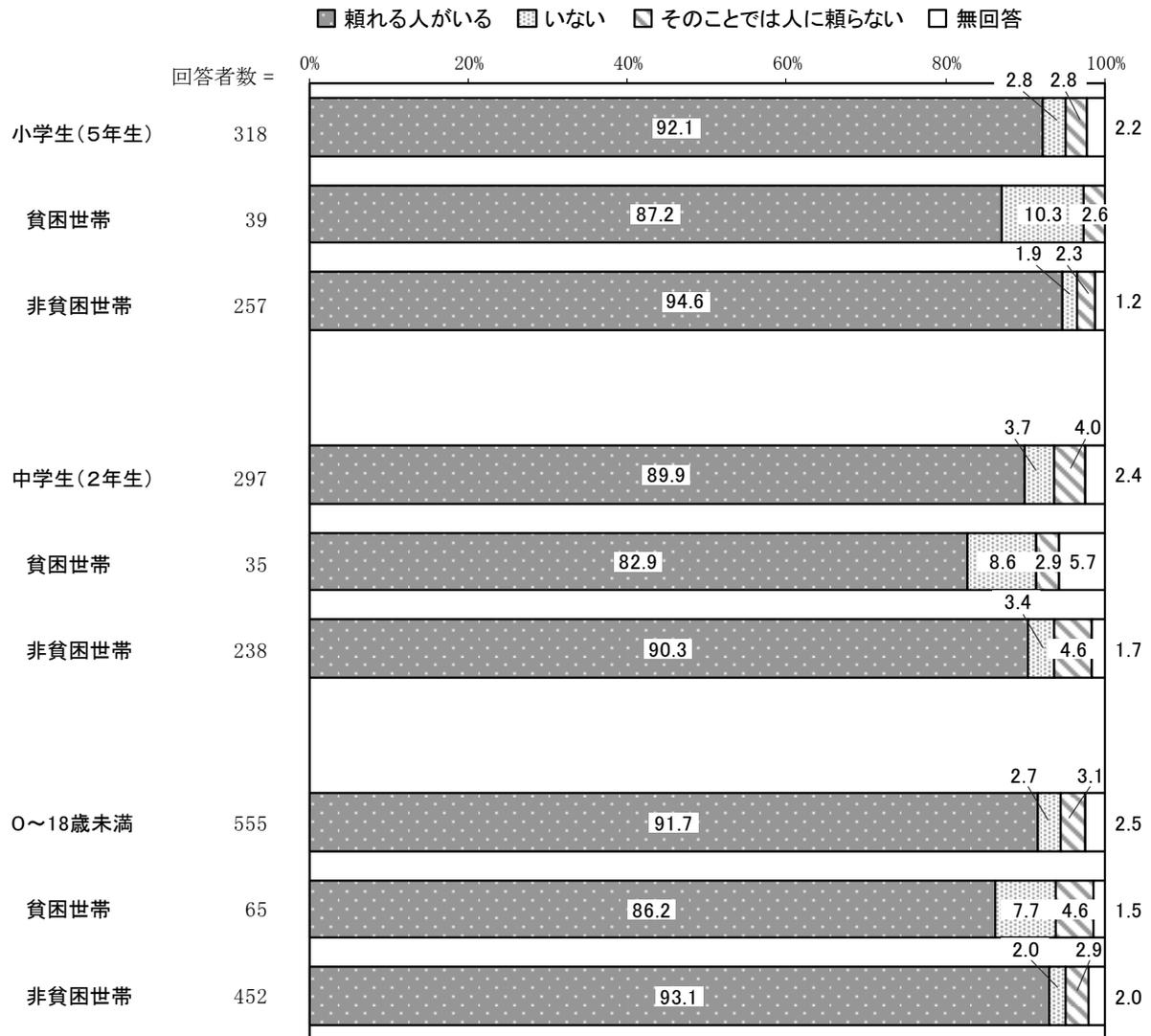
【家族構成別】

家族構成別でみると、他に比べ、ひとり親世帯で「いない」の割合が高くなっています。



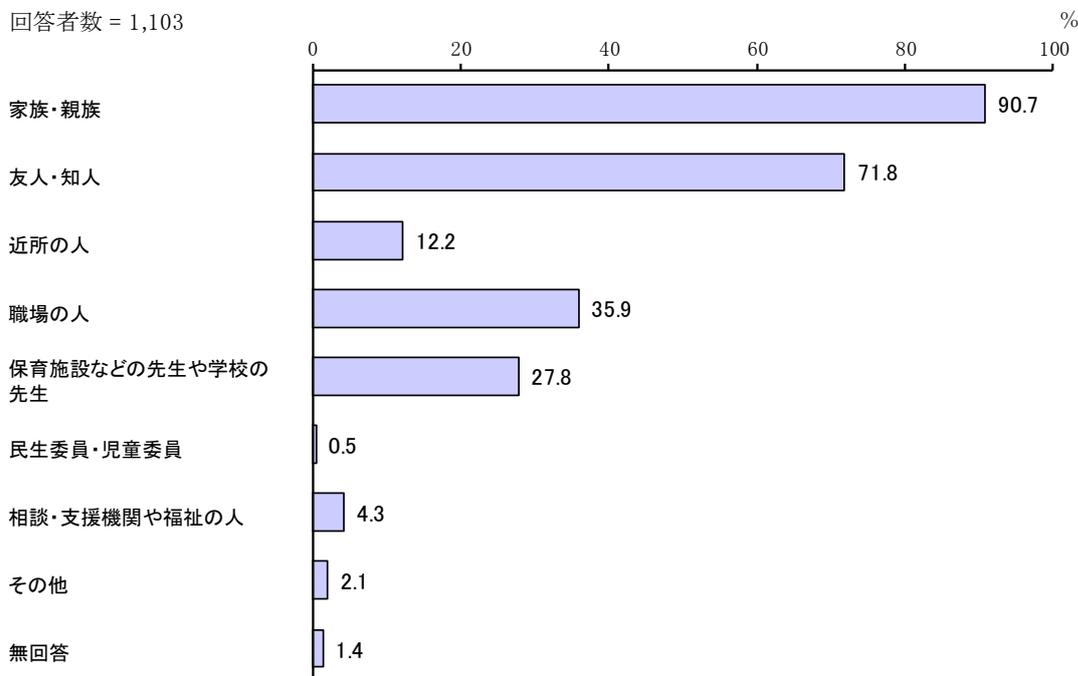
【子どもの学年別】

子どもの学年別で見ると、他に比べ、小学生、0～18歳未満の非貧困世帯で「頼れる人がいる」の割合が高くなっています。また、小学生の貧困世帯で「いない」の割合が高くなっています。



②頼れる人の内訳

「家族・親族」の割合が90.7%と最も高く、次いで「友人・知人」の割合が71.8%、「職場の人」の割合が35.9%となっています。



【貧困線別】

貧困線別で見ると、非貧困世帯に比べ、貧困世帯で「保育施設などの先生や学校の先生」の割合が高くなっています。一方、貧困世帯に比べ、非貧困世帯で「家族・親族」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数 (件)	家族・親族	友人・知人	近所の人	職場の人	学校などの先生や 保育施設などの先生や	民生委員・児童委員	相談・支援機関や福祉の人	その他	無回答
貧困世帯	122	80.3	69.7	11.5	35.2	32.8	0.8	5.7	4.1	1.6
非貧困世帯	907	92.3	71.8	12.1	36.1	27.3	0.4	4.2	1.7	1.3

【家族構成別】

家族構成別でみると、他に比べ、3世代世帯で「家族・親族」「友人・知人」の割合が高くなっています。また、ひとり親世帯で「家族・親族」「保育施設などの先生や学校の先生」の割合が低くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	家族・親族	友人・知人	近所の人	職場の人	学校 の先生 保育施設 などの先生 や	民生委員・児童委員	相談・支援機関や福祉の人	その他	無回答
ひとり親世帯	192	87.0	72.4	15.1	38.0	24.0	1.0	5.7	3.6	2.1
ふたり親世帯	650	91.5	72.0	12.9	35.2	28.3	0.2	4.3	1.8	1.2
3世代世帯	193	94.3	77.2	9.8	38.3	30.6	1.0	3.1	1.0	—
その他世帯	62	82.3	51.6	3.2	29.0	27.4	—	3.2	3.2	3.2

【子どもの学年別】

子どもの学年別でみると、他に比べ、中学生の貧困世帯で「家族・親族」の割合が低くなっています。また、小学生の非貧困世帯で「友人・知人」の割合が高くなっています。

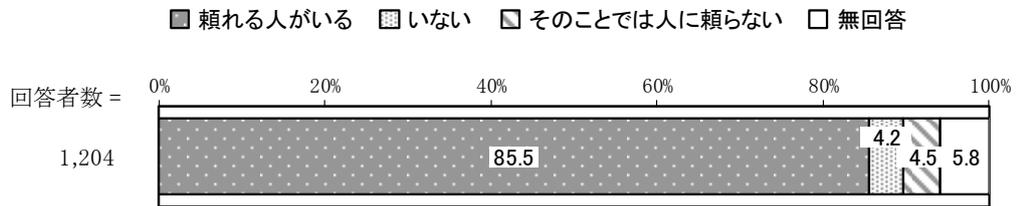
単位：％

区分	回答者数(件)	家族・親族	友人・知人	近所の人	職場の人	学校 の先生 保育施設 などの先生 や	民生委員・児童委員	相談・支援機関や福祉の人	その他	無回答
小学生(5年生)	293	91.1	74.1	10.9	38.6	23.2	0.3	6.1	1.7	0.7
貧困世帯	34	82.4	70.6	11.8	35.3	32.4	—	5.9	8.8	—
非貧困世帯	243	92.6	75.3	11.1	39.9	21.8	0.4	6.2	0.4	0.8
中学生(2年生)	267	86.1	70.8	11.6	36.3	25.8	0.7	3.7	1.1	2.6
貧困世帯	29	72.4	65.5	13.8	34.5	27.6	—	3.4	3.4	3.4
非貧困世帯	215	88.4	69.8	10.7	37.7	27.4	0.9	4.2	0.5	2.8
0～18歳未満	509	92.7	70.7	12.8	33.6	30.6	0.4	3.5	2.4	1.0
貧困世帯	56	82.1	73.2	8.9	35.7	37.5	1.8	7.1	1.8	1.8
非貧困世帯	421	94.1	70.1	12.8	32.3	29.2	0.2	3.3	2.4	1.0

b) 子育て以外の事柄の相談

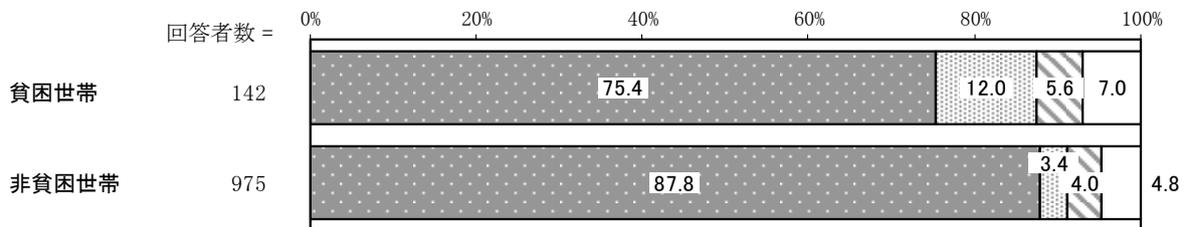
①頼れる人の有無

「頼れる人がいる」の割合が85.5%と最も高くなっています。



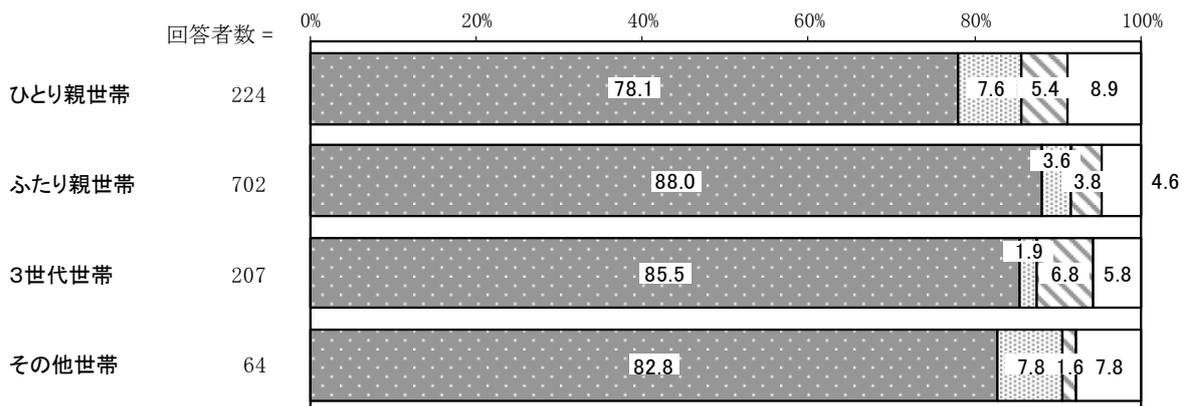
【貧困線別】

貧困線別でみると、非貧困世帯に比べ、貧困世帯で「いない」の割合が高くなっています。一方、貧困世帯に比べ、非貧困世帯で「頼れる人がいる」の割合が高くなっています。



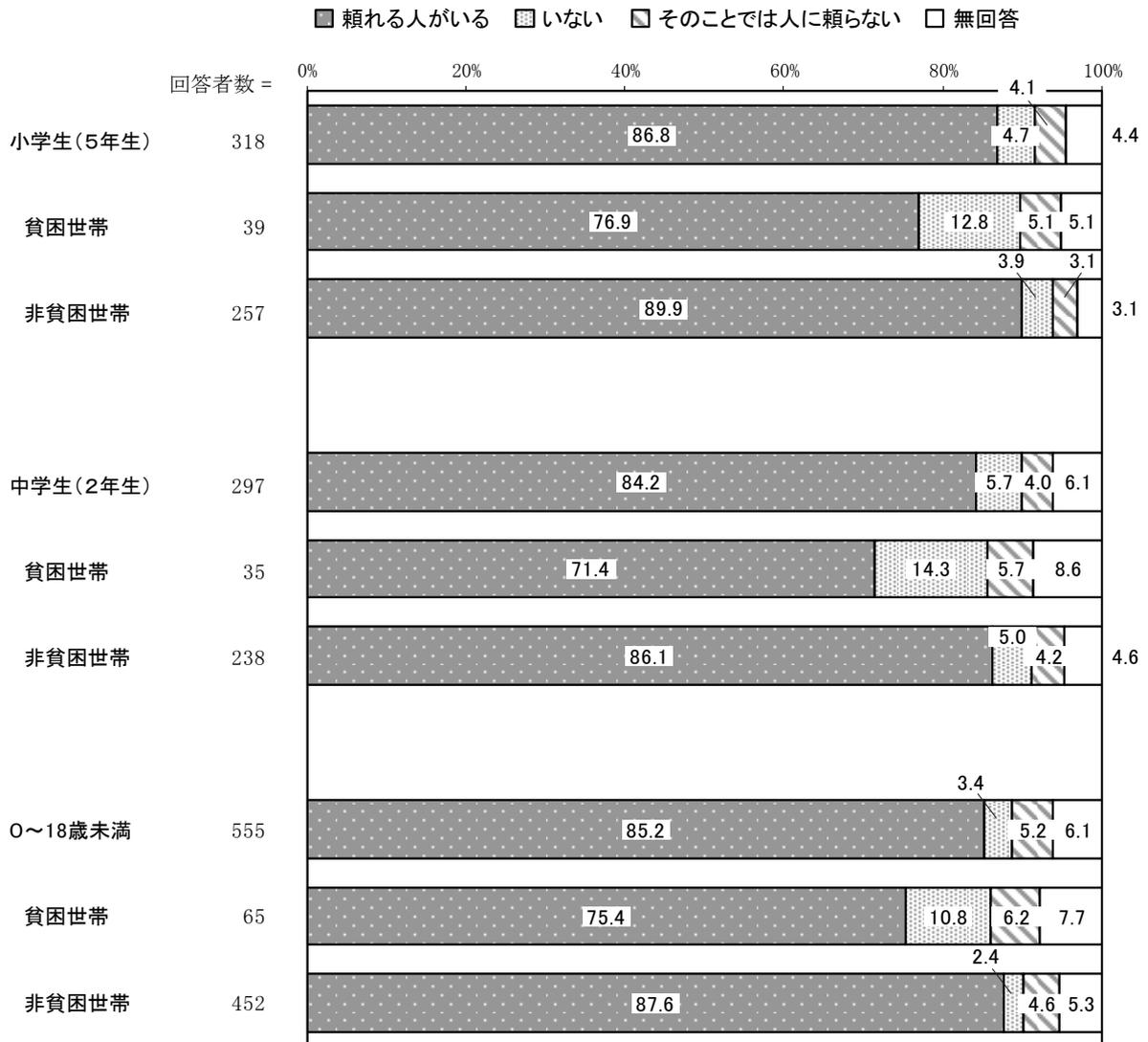
【家族構成別】

家族構成別でみると、他に比べ、ふたり親世帯で「頼れる人がいる」の割合が高くなっています。また、ひとり親世帯、その他世帯で「いない」の割合が高くなっています。



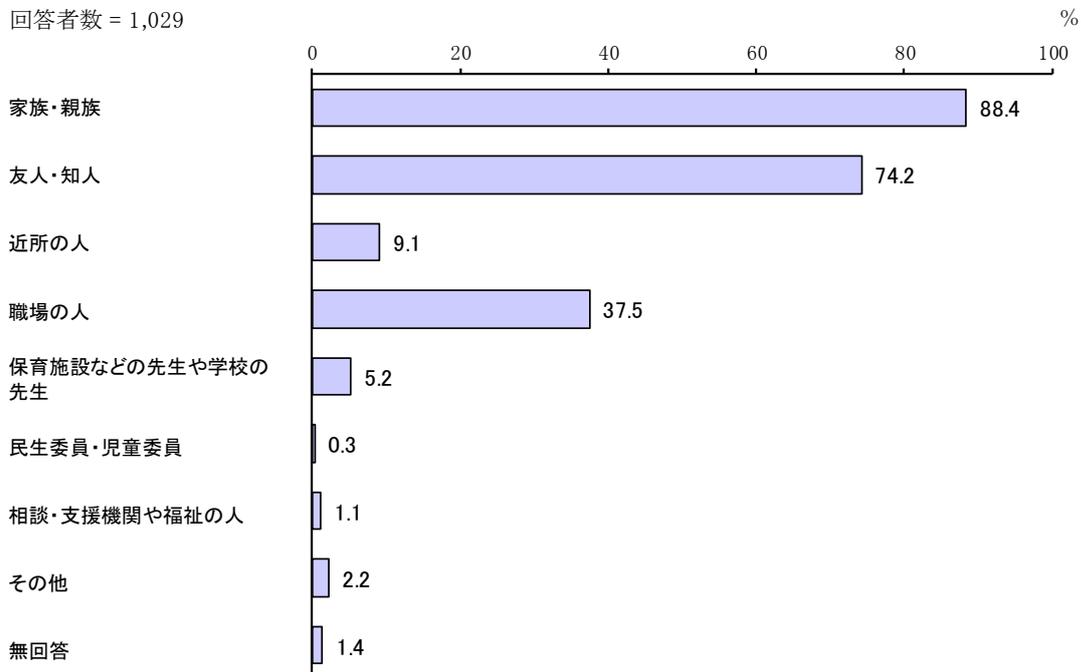
【子どもの学年別】

子どもの学年別で見ると、小学生、中学生ともに、貧困世帯に比べ、非貧困世帯で「頼れる人がいる」の割合が高く、「いない」の割合が低くなっています。



②頼れる人の内訳

「家族・親族」の割合が88.4%と最も高く、次いで「友人・知人」の割合が74.2%、「職場の人」の割合が37.5%となっています。



【貧困線別】

貧困線別でみると、貧困世帯に比べ、非貧困世帯で「家族・親族」「職場の人」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	家族・親族	友人・知人	近所の人	職場の人	保育施設などの先生や学校の先生	民生委員・児童委員	相談・支援機関や福祉の人	その他	無回答
貧困世帯	107	77.6	75.7	11.2	28.0	7.5	0.9	2.8	2.8	1.9
非貧困世帯	856	90.1	74.1	8.6	38.6	5.1	0.2	0.8	2.0	1.3

【家族構成別】

家族構成別でみると、他に比べ、3世代世帯で「家族・親族」「友人・知人」「職場の人」の割合が高くなっています。また、その他世帯で「家族・親族」の割合が低くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	家族・親族	友人・知人	近所の人	職場の人	保育施設などの先生や学校の先生	民生委員・児童委員	相談・支援機関や福祉の人	その他	無回答
ひとり親世帯	175	85.7	71.4	11.4	36.6	4.0	0.6	1.1	3.4	2.3
ふたり親世帯	618	89.2	73.9	9.4	36.4	5.7	0.3	1.3	2.3	1.3
3世代世帯	177	91.5	81.4	7.3	42.4	5.6	—	0.6	1.1	—
その他世帯	53	81.1	64.2	5.7	35.8	1.9	—	—	1.9	1.9

【子どもの学年別】

子どもの学年別でみると、小学生、中学生、0～18歳未満いずれも、貧困世帯に比べ、非貧困世帯で「家族・親族」「職場の人」の割合が高くなっています。

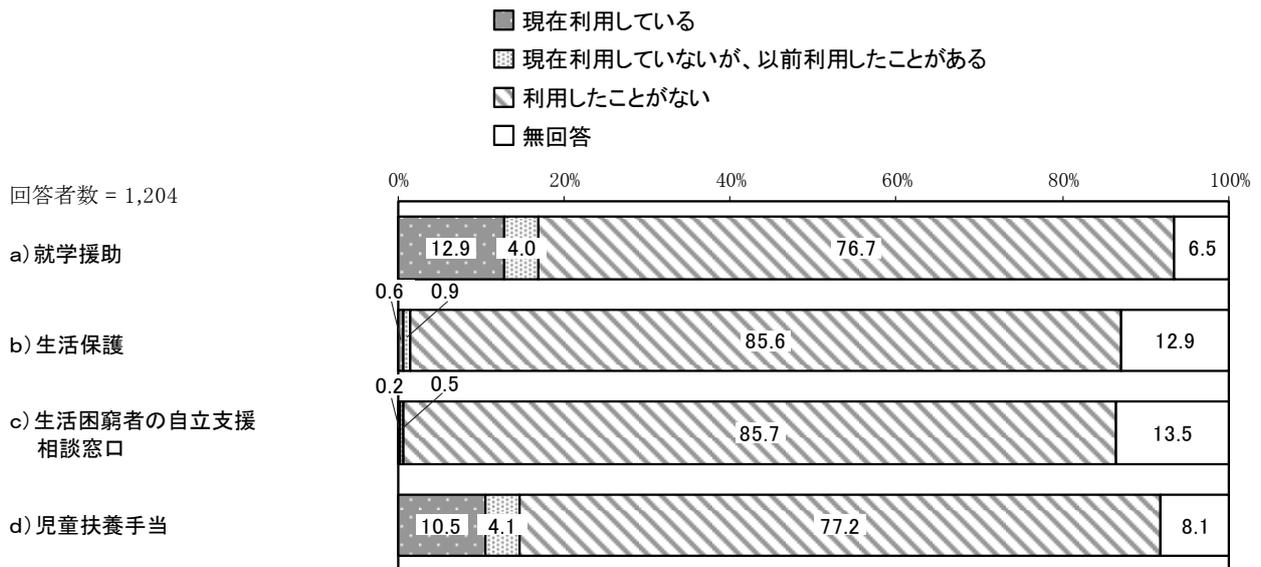
単位：％

区分	回答者数(件)	家族・親族	友人・知人	近所の人	職場の人	保育施設などの先生や学校の先生	民生委員・児童委員	相談・支援機関や福祉の人	その他	無回答
小学生(5年生)	276	89.1	76.1	8.3	39.5	2.9	0.4	1.8	3.3	0.4
貧困世帯	30	83.3	80.0	6.7	33.3	3.3	—	3.3	6.7	—
非貧困世帯	231	90.9	75.8	8.2	40.7	2.6	0.4	1.3	2.6	0.4
中学生(2年生)	250	84.8	73.2	9.6	35.6	7.2	—	—	1.2	2.8
貧困世帯	25	72.0	68.0	20.0	28.0	4.0	—	—	4.0	4.0
非貧困世帯	205	85.9	73.7	7.8	37.1	8.3	—	—	0.5	2.9
0～18歳未満	473	89.9	73.4	8.9	36.4	4.7	0.4	1.3	1.9	1.1
貧困世帯	49	75.5	77.6	8.2	24.5	12.2	2.0	4.1	—	2.0
非貧困世帯	396	91.7	72.5	8.8	36.9	4.0	0.3	1.0	2.0	1.0

問 25 あなたのご家庭では、以下の支援制度をこれまでに利用したことがありますか。
 (a～dそれぞれについて、1～3のあてはまるもの1つに○)
 また、「3. 利用したことがない」場合、その理由は何ですか。
 (①～⑤のあてはまるもの1つに○)

①利用の有無

『a 就学援助』『d 児童扶養手当』で「現在利用している」の割合が高く、約1割となっています。また、『b 生活保護』『c 生活困窮者の自立支援相談窓口』で「利用したことがない」の割合が高く、8割台半ばとなっています。



②利用していない理由

すべての項目で「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だから」の割合が高く、約8割となっています。

単位：%

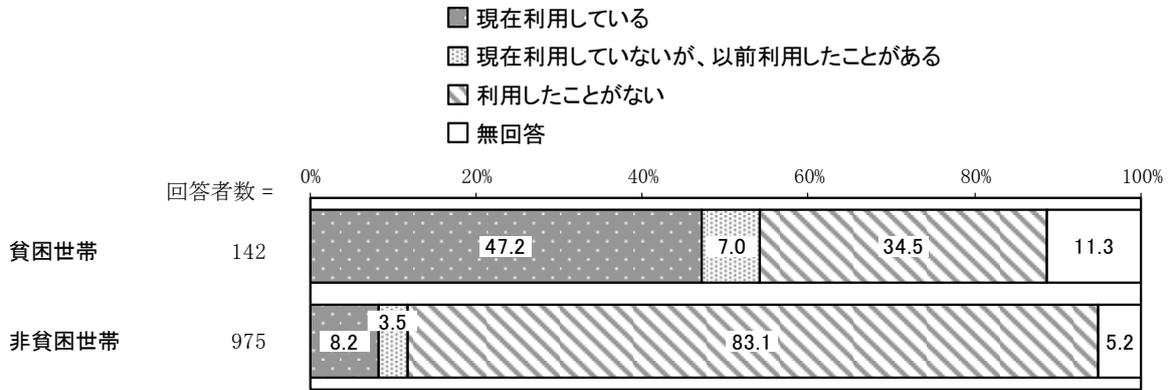
区分	回答者数 (件)	制度の対象外 (収入などの条件を満たさない) だから	利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから	利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから	利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから	それ以外の理由	無回答
a) 就学援助	923	77.9	1.5	0.7	1.3	5.4	13.2
b) 生活保護	1031	79.5	0.9	0.2	0.6	4.5	14.4
c) 生活困窮者の自立支援相談窓口	1032	76.6	1.5	0.9	0.8	5.9	14.3
d) 児童扶養手当	930	80.6	0.8	0.2	0.5	4.5	13.3

a) 就学援助

①利用の有無

【貧困線別】

貧困線別でみると、非貧困世帯に比べ、貧困世帯で「現在利用している」の割合が高くなっています。一方、貧困世帯に比べ、非貧困世帯で「利用したことがない」の割合が高くなっています。



②利用したことがない理由

【貧困線別】

貧困線別でみると、非貧困世帯に比べ、貧困世帯で「利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから」「利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから」の割合が高くなっています。一方、貧困世帯に比べ、非貧困世帯で「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だから」の割合が高くなっています。

単位：%

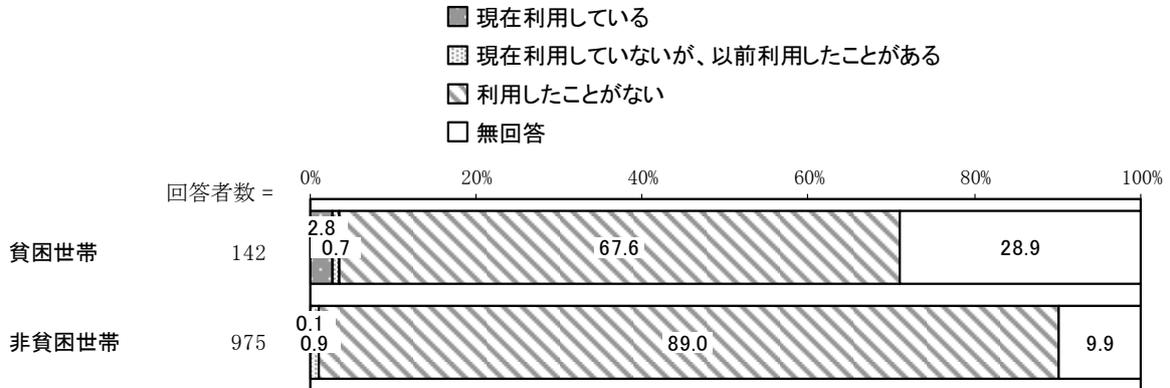
区分	回答者数 (件)	制度の対象外 (収入などの条件を満たさない) だから	利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから	利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから	利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから	それ以外の理由	無回答
貧困世帯	49	49.0	2.0	6.1	10.2	8.2	24.5
非貧困世帯	810	79.9	1.6	0.4	0.9	5.1	12.2

b) 生活保護

①利用の有無

【貧困線別】

貧困線別で見ると、貧困世帯に比べ、非貧困世帯で「利用したことがない」の割合が高くなっています。



②利用したことがない理由

【貧困線別】

貧困線別で見ると、貧困世帯に比べ、非貧困世帯で「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だから」の割合が高くなっています。

単位: %

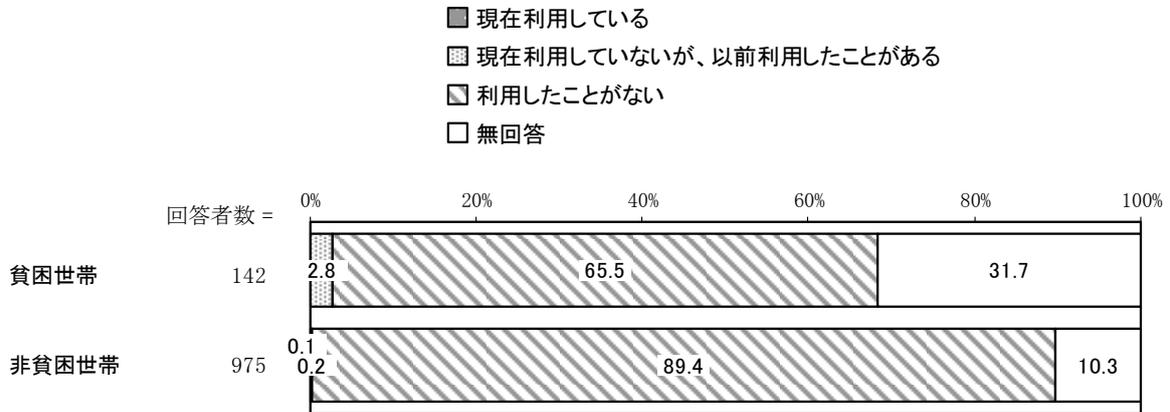
区分	回答者数 (件)	制度の対象外 (収入などの条件を満たさない) だから	利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから	利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから	利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから	それ以外の理由	無回答
貧困世帯	96	64.6	2.1	1.0	2.1	5.2	25.0
非貧困世帯	868	81.3	0.8	0.1	0.5	4.3	13.0

c) 生活困窮者の自立支援相談窓口

①利用の有無

【貧困線別】

貧困線別でみると、貧困世帯に比べ、非貧困世帯で「利用したことがない」の割合が高くなっています。



②利用したことがない理由

【貧困線別】

貧困線別でみると、貧困世帯に比べ、非貧困世帯で「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だから」の割合が高くなっています。

単位：%

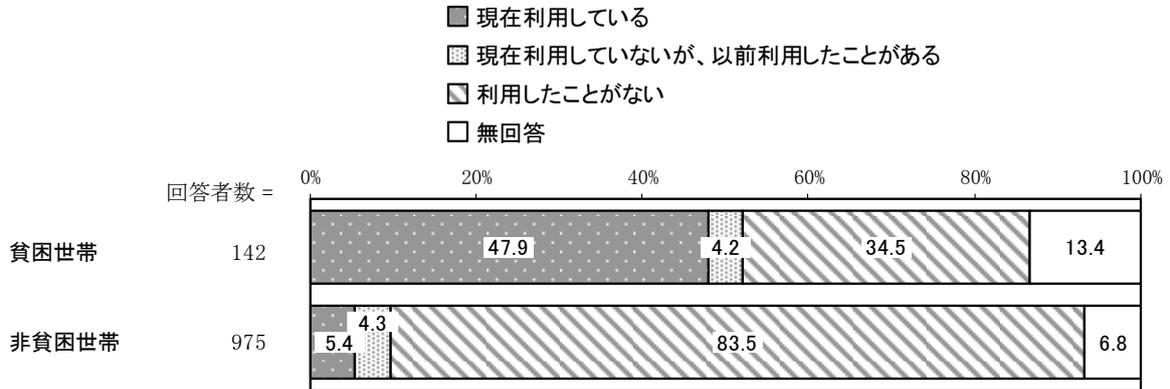
区分	回答者数 (件)	制度の対象外 (収入などの条件を満たさない) だから	利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから	利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから	利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから	それ以外の理由	無回答
貧困世帯	93	51.6	5.4	5.4	4.3	9.7	23.7
非貧困世帯	872	79.5	1.1	0.5	0.3	5.4	13.2

d) 児童扶養手当

①利用の有無

【貧困線別】

貧困線別でみると、非貧困世帯に比べ、貧困世帯で「現在利用している」の割合が高くなっています。一方、貧困世帯に比べ、非貧困世帯で「利用したことがない」の割合が高くなっています。



②利用したことがない

【貧困線別】

貧困線別でみると、貧困世帯に比べ、非貧困世帯で「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だから」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数 (件)	制度の対象外 (収入などの条件を満たさない) だから	利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから	利用したいが、今までの支援制度を知らなかったから	利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから	それ以外の理由	無回答
貧困世帯	49	67.3	—	—	2.0	4.1	26.5
非貧困世帯	814	81.8	0.9	0.2	0.5	4.4	12.2

【家族構成別】

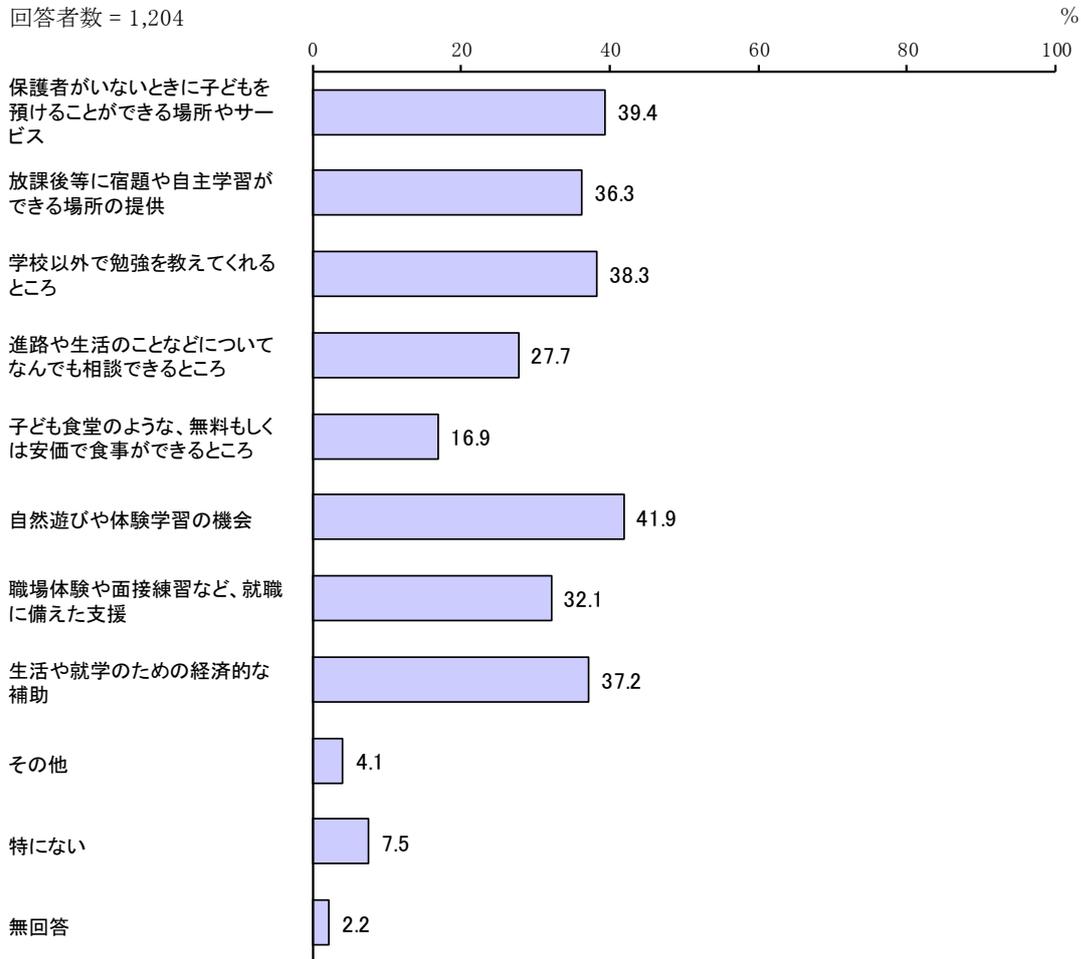
家族構成別でみると、他に比べ、3世代世帯で「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だから」の割合が高くなっています。また、ひとり親世帯、その他世帯で「制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だから」の割合が低くなっています。

単位：%

区分	回答者数（件）	制度の対象外（収入などの条件を満たさない）だから	利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから	利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから	利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから	それ以外の理由	無回答
ひとり親世帯	115	73.9	0.9	—	1.7	5.2	18.3
ふたり親世帯	616	81.3	0.6	0.2	0.3	4.5	13.0
3世代世帯	164	84.8	1.2	0.6	—	3.7	9.8
その他世帯	30	70.0	—	—	3.3	6.7	20.0

問 26 今後、子どものためにどのような支援が重要だと思いますか。
 (1～9までについては、あてはまるもの5つまでに○)

「自然遊びや体験学習の機会」の割合が 41.9%と最も高く、次いで「保護者がいないときに子どもを預けることができる場所やサービス」の割合が 39.4%、「学校以外で勉強を教えてくれるところ」の割合が 38.3%となっています。



【貧困線別】

貧困線別でみると、非貧困世帯に比べ、貧困世帯で「子ども食堂のような、無料もしくは安価で食事ができる場所」「生活や就学のための経済的な補助」の割合が高くなっています。一方、貧困世帯に比べ、非貧困世帯で「保護者がいないときに子どもを預けることができる場所やサービス」「放課後等に宿題や自主学習ができる場所の提供」「進路や生活のことなどについてなんでも相談できる場所」「学校以外で勉強を教えてくれるところ」「自然遊びや体験学習の機会」「職場体験や面接練習など、就職に備えた支援」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	保護者がいないときに子どもを預けることができる場所やサービス	放課後等に宿題や自主学習ができる場所の提供	学校以外で勉強を教えてくれるところ	進路や生活のことなどについてなんでも相談できる場所	子ども食堂のような、無料もしくは安価で食事ができる場所	自然遊びや体験学習の機会	職場体験や面接練習など、就職に備えた支援	生活や就学のための経済的な補助	その他	特になし	無回答
貧困世帯	142	33.8	27.5	38.7	22.5	23.2	25.4	24.6	57.7	4.2	7.7	2.8
非貧困世帯	975	39.5	37.4	38.8	28.2	16.2	44.3	33.5	34.7	4.1	7.8	1.6

【小学校区別】

小学校区別でみると、他に比べ、月見小、杉小で「自然遊びや体験学習の機会」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	保護者がいないときに子どもを預けることができる場所やサービス	放課後等に宿題や自主学習ができる場所の提供	学校以外で勉強を教えてくれるところ	進路や生活のことなどについてなんでも相談できる場所	子ども食堂のような、無料もしくは安価で食事ができる場所	自然遊びや体験学習の機会	職場体験や面接練習など、就職に備えた支援	生活や就学のための経済的な補助	その他	特になし	無回答
一小	127	32.3	29.1	37.8	28.3	19.7	37.8	30.7	40.9	1.6	9.4	2.4
二小	254	39.8	39.4	31.9	26.0	13.0	39.0	36.6	40.9	4.3	9.4	2.8
三小	218	40.4	33.0	39.0	23.9	17.4	43.6	32.1	34.9	3.2	5.5	2.8
月見小	193	37.8	36.3	39.4	29.5	16.1	44.0	31.1	36.3	3.1	7.3	2.1
杉小	241	42.7	39.0	41.5	29.0	20.3	46.5	26.6	30.3	5.4	7.9	1.7
玉小	144	37.5	41.7	43.8	30.6	15.3	34.7	35.4	42.4	4.9	4.9	2.1
浦戸小	4	50.0	25.0	50.0	75.0	25.0	75.0	25.0	100.0	25.0	—	—
その他	6	33.3	—	—	16.7	16.7	16.7	16.7	16.7	16.7	16.7	—

【子どもの学年別】

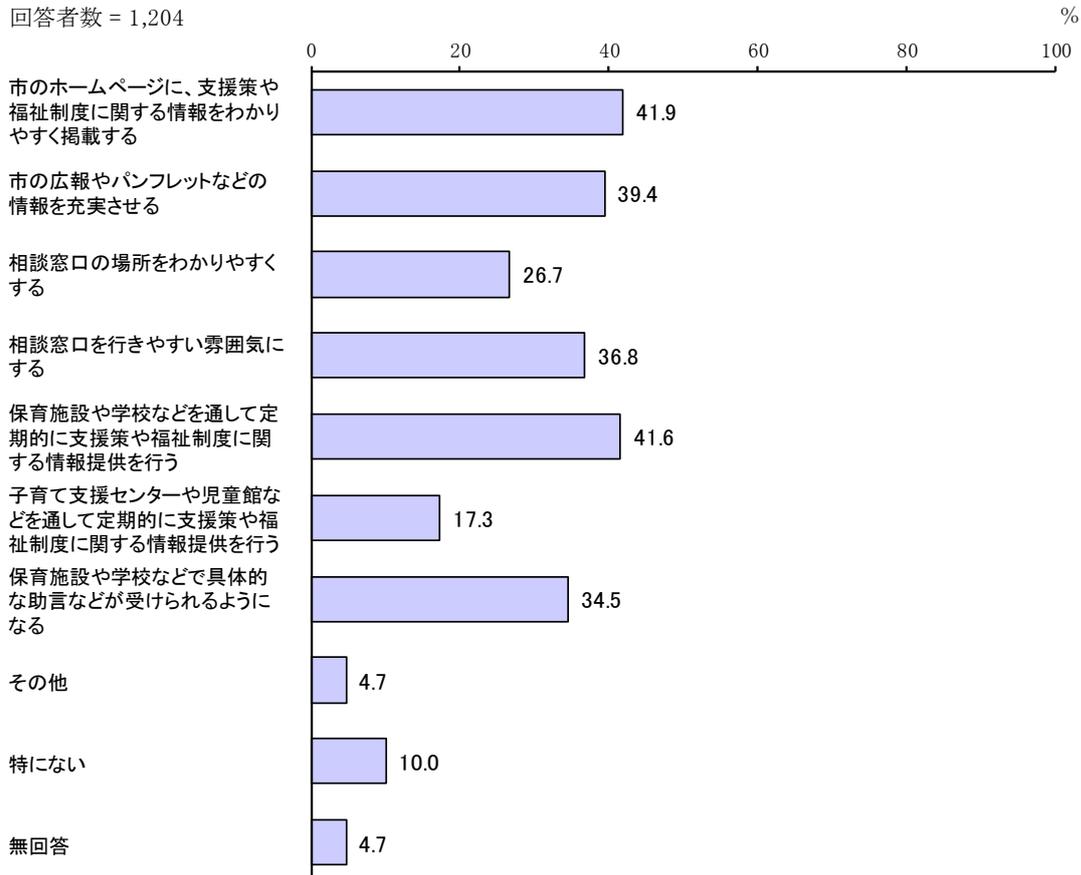
子どもの学年別でみると、他に比べ、小学生の貧困世帯で「保護者がいないときに子どもを預けることができる場所やサービス」「生活や就学のための経済的な補助」の割合が高くなっています。また、小学生の非貧困世帯で「自然遊びや体験学習の機会」の割合が、中学生の非貧困世帯で「職場体験や面接練習など、就職に備えた支援」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	保護者がいないときに子どもを預けることができる場所やサービス	放課後等に宿題や自主学習ができる場所の提供	学校以外で勉強を教えてくれるところ	進路や生活のことなどについてなんでも相談できるところ	子ども食堂のような、無料もしくは安価で食事ができるところ	自然遊びや体験学習の機会	職場体験や面接練習など、就職に備えた支援	生活や就学のための経済的な補助	その他	特にない	無回答
小学生(5年生)	318	38.7	37.4	44.7	26.4	16.4	46.2	29.2	32.4	5.3	7.5	1.9
貧困世帯	39	43.6	38.5	48.7	20.5	23.1	25.6	25.6	59.0	—	7.7	—
非貧困世帯	257	37.7	37.0	44.7	27.6	16.0	48.2	29.6	28.4	6.2	7.8	1.9
中学生(2年生)	297	24.9	29.3	44.8	33.0	14.5	29.0	40.4	42.8	1.3	8.4	3.0
貧困世帯	35	14.3	25.7	42.9	28.6	20.0	14.3	31.4	54.3	—	11.4	5.7
非貧困世帯	238	25.2	29.4	45.8	32.8	14.3	31.1	43.3	41.2	1.7	8.0	2.1
0～18歳未満	555	47.6	39.5	30.6	25.8	18.2	46.7	28.5	36.8	4.7	7.2	2.0
貧困世帯	65	40.0	23.1	30.8	21.5	26.2	32.3	18.5	58.5	9.2	6.2	3.1
非貧困世帯	452	47.6	41.6	30.8	26.1	16.8	49.3	30.1	34.3	4.2	8.0	1.3

問 27 子どものための必要な支援を受けられるようにするために、重要だと思うことはなんですか。（1～8については、あてはまるものすべてに○）

「市のホームページに、支援策や福祉制度に関する情報をわかりやすく掲載する」の割合が41.9%と最も高く、次いで「保育施設や学校などを通して定期的に支援策や福祉制度に関する情報提供を行う」の割合が41.6%、「市の広報やパンフレットなどの情報を充実させる」の割合が39.4%となっています。



【貧困線別】

貧困線別でみると、貧困世帯に比べ、非貧困世帯で「市の広報やパンフレットなどの情報を充実させる」「相談窓口の場所をわかりやすくする」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	市のホームページに、支援策や福祉制度に関する情報をわかりやすく掲載する	市の広報やパンフレットなどの情報を充実させる	相談窓口の場所をわかりやすくする	相談窓口をいきやすい雰囲気にする	保育施設や学校などを通して定期的に支援策や福祉制度に関する情報提供を行う	子育て支援センターや児童館などを通して定期的に支援策や福祉制度に関する情報提供を行う	保育施設や学校などで具体的な助言などが受けられるようになる	その他	特にない	無回答
貧困世帯	142	42.3	32.4	19.0	33.1	38.7	16.2	32.4	2.1	11.3	6.3
非貧困世帯	975	41.8	40.7	27.9	37.0	42.2	16.9	34.7	5.3	9.9	3.8

【子どもの学年別】

子どもの学年別でみると、小学生、中学生ともに、貧困世帯に比べ、非貧困世帯で「相談窓口をいきやすい雰囲気にする」の割合が高くなっています。また、他に比べ、小学生の貧困世帯で「市のホームページに、支援策や福祉制度に関する情報をわかりやすく掲載する」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	市のホームページに、支援策や福祉制度に関する情報をわかりやすく掲載する	市の広報やパンフレットなどの情報を充実させる	相談窓口の場所をわかりやすくする	相談窓口をいきやすい雰囲気にする	保育施設や学校などを通して定期的に支援策や福祉制度に関する情報提供を行う	子育て支援センターや児童館などを通して定期的に支援策や福祉制度に関する情報提供を行う	保育施設や学校などで具体的な助言などが受けられるようになる	その他	特にない	無回答
小学生(5年生)	318	39.3	34.0	28.3	38.4	39.0	16.0	35.5	4.4	9.7	5.3
貧困世帯	39	53.8	33.3	23.1	33.3	38.5	15.4	35.9	—	2.6	7.7
非貧困世帯	257	36.2	33.9	29.2	39.7	39.7	15.2	35.8	5.1	10.9	4.7
中学生(2年生)	297	40.7	42.8	24.6	37.0	37.7	11.8	30.0	3.4	12.8	4.4
貧困世帯	35	28.6	25.7	11.4	31.4	34.3	8.6	28.6	—	20.0	8.6
非貧困世帯	238	41.6	44.5	26.1	37.0	36.1	10.9	28.6	4.2	11.8	3.8
0～18歳未満	555	44.0	40.7	27.7	36.9	44.7	20.2	36.6	5.2	8.3	4.5
貧困世帯	65	43.1	35.4	21.5	35.4	41.5	21.5	33.8	4.6	10.8	4.6
非貧困世帯	452	44.9	42.5	29.0	36.7	45.8	19.9	37.4	5.8	8.0	3.5

自由意見

分類回答	件数
1 保護者の状況や生活習慣、日常生活の様子について	16
2 保護者の子どもとのかかわり方	2
3 保護者と各種支援制度、支援者との関係	150
4 その他	243

【分類別の主な意見】

1 保護者の状況や生活習慣、日常生活の様子について

・親の経済的理由でいろいろ学ばせてあげられないのは辛い。中学、高校と上がる前の準備にお金がかかりすぎだと思っています。
・ひとり親となり環境も変化し、働く力がありますが、子どもの生活が乱れるので、本腰入れて働くことは難しく、時間を優先した仕事の仕方をしているため収入は低く、経済面では今後不安があります。
・夫婦2人会社員として働いてはいるが、社会の流れで残業時間等就労に多く制限があり、収入が思うように上がりません。また、子どもが小さいため就業時間に縛りがあります。そのような中、子どもには携帯電話代や塾といった大きなお金が毎月必要となってきます。夫婦共働きであっても、ひとり親世帯と同様に生活は苦しいです。
・父・母ともに実家が県外のため、災害があった場合、工作中だと頼れる人がいなくて不安です。
・コロナウイルスが蔓延して、仕事が減らされて経済的に心配です。ひとり親なので、もしかかってしまったら子どもたちはどうするのか。でも仕事に出ないと生活できないし、と悩んでいます。
・養育費の取り決めがあるが支払ってくれません。

3 保護者と各種支援制度、支援者との関係

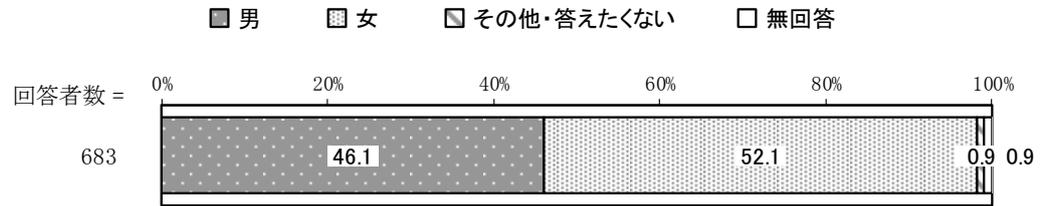
・情報を発信していると思いますが、少なすぎます。市政だよりや子ども会等、届いてなかったり、入っていなかったりする人もいるので、まんべんなく情報が伝わるようにしてほしいです。
・中学校に入学時、制服・体操服・部活で使用する物など出費が多かったなので、収入の少ない家庭や子どもの多い家庭は大変だと思います。市の方でそのあたりをサポートするような支援があれば助かると思いました。
・正社員で働いているので朝も早く、帰りも遅いので、子どもたちの勉強を見てあげることができません。子どもたちの勉強を見てくれる場所や子ども食堂など、母子家庭の子どもたちが集まれる場所があるとよいと思います。
・ひとり親世帯や貧困家庭も増えてきており、経済的支援を必要としている家庭も多くあります。経済的不安が虐待につながることもたくさんあります。支援を必要としている人にしっかりと支援が届くような体制をつくり（子育て相談、経済的不安の解消）、安心して生活ができるようになってほしいと思います。

<ul style="list-style-type: none"> ・今年のようにコロナ等緊急に何かあった場合、ひとり親の場合、子どもを預ける所もなく、働けなかった時の支援はもっとあってもよいと思います。
<ul style="list-style-type: none"> ・無料で勉強を教えてくれる場所がほしいです。塾代は高く、通わせるには負担が大きいです。子どものためを考えたら、学校だけでは足りないと思います。
<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの悩みにどう答えたらよいのか悩むことがあります。そういったことに専門の勉強された方に教えていただきたいのですが、どこに相談したらよいか教えてほしいです。
<ul style="list-style-type: none"> ・登下校時の見回りの強化。一定箇所での実施だけではなく、いろいろな場所での不定期での実施や巡回があるとよいと思います。
<ul style="list-style-type: none"> ・障がいのある子を育てていますが、相談する場所が変わったり、バラバラなのが大変です。保健センター、生活福祉課（障がい担当）、子育て支援課、教育委員会（学校教育課）。特別児童扶養手当のことを生活福祉課でわからなかったり、仲よしクラブと放課後等デイサービスが併用できることも年長のときではなく、もう少し早めに知りたかったです。それぞれの部署の連携をしていただき、どのような制度を利用できるか明確に示していただけると安心できます。
<ul style="list-style-type: none"> ・ひとり親の家庭の支援ばかりではなく、両親がそろっていても低収入の家庭はたくさんあります。収入で支援をしてほしいです。
<ul style="list-style-type: none"> ・病児保育、病後児保育の施設がありません。保育時間の延長（特に土曜日）。日、祝も保育施設を開所してほしいです。

2 小学生・中学生向け調査

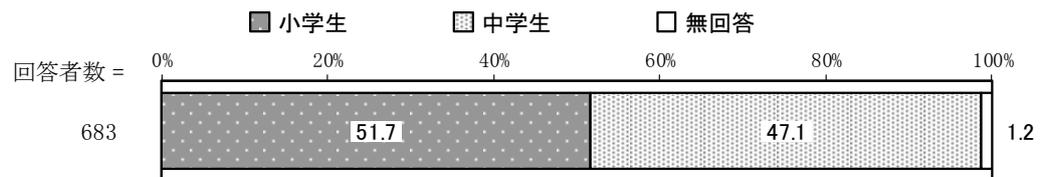
問1 あなたの性別を教えてください。(あてはまるもの1つに○)

「女」の割合が52.1%、「男」の割合が46.1%となっています。



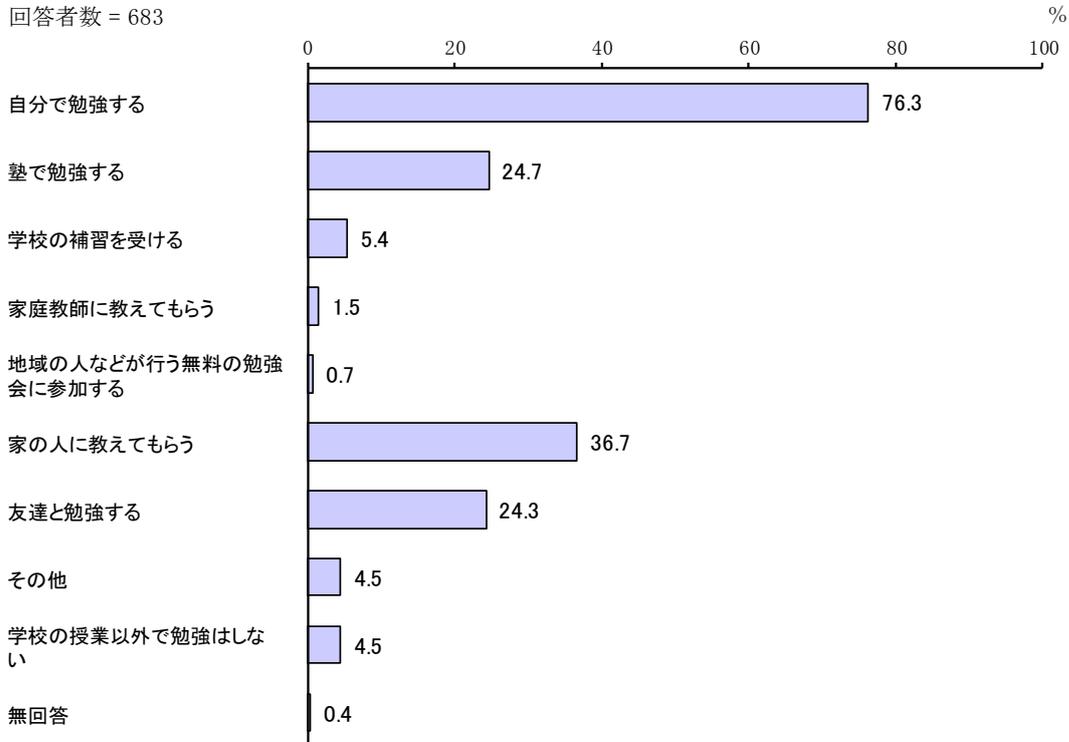
問2 あなたは次のどちらですか。(あてはまるもの1つに○)

「小学生」の割合が51.7%、「中学生」の割合が47.1%となっています。



**問3 あなたは、ふだん学校の授業以外で、どのように勉強をしていますか。
※勉強には学校の宿題も含まれます。(あてはまるものすべてに○)**

「自分で勉強する」の割合が76.3%と最も高く、次いで「家の人に教えてもらう」の割合が36.7%、「塾で勉強する」の割合が24.7%となっています。



【貧困線別】

貧困線別でみると、貧困世帯に比べ、非貧困世帯で「自分で勉強する」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	自分で勉強する	塾で勉強する	学校の補習を受ける	家庭教師に教えてもらう	地域の人などが行う無料の勉強会に参加する	家の人に教えてもらう	友達と勉強する	その他	学校の授業以外で勉強はしない	無回答
貧困世帯	75	68.0	25.3	4.0	—	1.3	34.7	24.0	2.7	5.3	1.3
非貧困世帯	501	78.2	24.6	5.8	1.6	0.8	36.7	23.6	5.0	3.8	0.4

【子どもの学年別】

子どもの学年別でみると、他に比べ、小学生の貧困世帯で「自分で勉強する」の割合が低く、「家の人に教えてもらう」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	自分で勉強する	塾で勉強する	学校の補習を受ける	家庭教師に教えてもらう	地域の人が行う無料の勉強会に参加する	家の人に教えてもらう	友達と勉強する	その他	学校の授業以外で勉強はしない	無回答
小学生(5年生)	353	74.5	13.9	5.4	1.4	0.3	47.3	22.4	6.8	4.2	—
貧困世帯	39	59.0	17.9	2.6	—	—	51.3	20.5	2.6	5.1	—
非貧困世帯	257	77.8	14.0	5.8	1.6	0.4	46.7	20.6	7.8	3.5	—
中学生(2年生)	322	79.2	36.3	5.6	1.6	1.2	25.8	27.0	2.2	5.0	—
貧困世帯	35	80.0	34.3	5.7	—	2.9	17.1	28.6	2.9	5.7	—
非貧困世帯	238	79.4	35.7	5.9	1.7	1.3	26.5	27.3	2.1	4.2	—

【家族構成別】

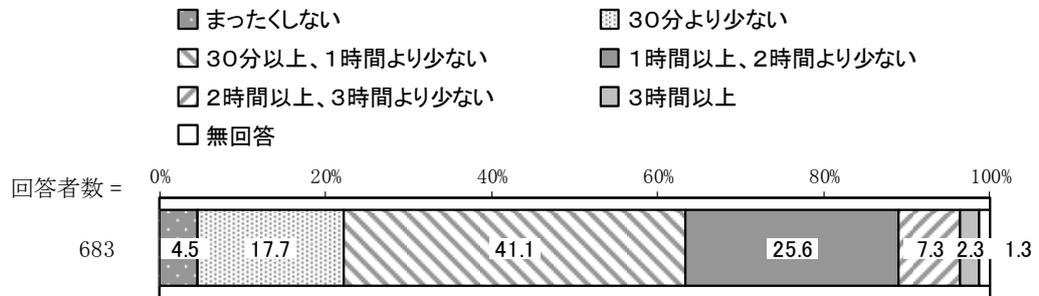
家族構成別でみると、他に比べ、ひとり親世帯で「自分で勉強する」「塾で勉強する」の割合が、ひとり親世帯、その他世帯で「家の人に教えてもらう」の割合が低くなっています。

区分	回答者数(件)	自分で勉強する	塾で勉強する	学校の補習を受ける	家庭教師に教えてもらう	地域の人が行う無料の勉強会に参加する	家の人に教えてもらう	友達と勉強する	その他	学校の授業以外で勉強はしない	無回答
ひとり親世帯	110	66.4	20.9	8.2	0.9	0.9	30.9	20.0	5.5	4.5	—
ふたり親世帯	365	79.5	24.7	4.4	1.1	1.1	37.5	25.2	4.1	4.9	0.8
3世代世帯	110	77.3	28.2	5.5	1.8	—	40.9	21.8	4.5	4.5	—
その他世帯	34	79.4	23.5	5.9	2.9	—	26.5	20.6	5.9	2.9	—

問4 あなたは、ふだん学校の授業以外に、1日あたりどれくらいの時間勉強をしますか。
 ※学校の宿題をする時間や、塾などでの勉強時間も含まれます。
 (a、bそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

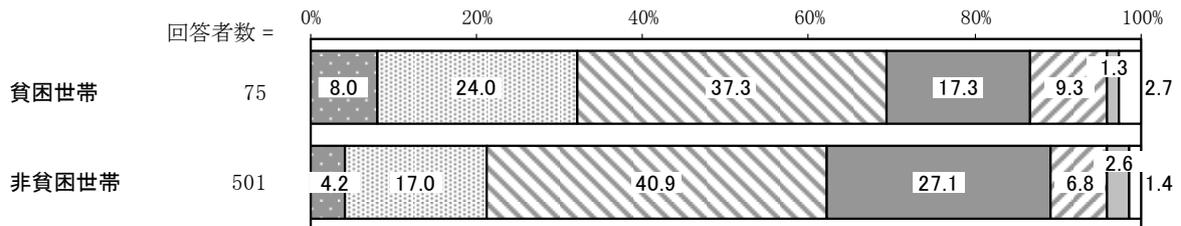
a) 学校がある日(月～金曜日)

「30分以上、1時間より少ない」の割合が41.1%と最も高く、次いで「1時間以上、2時間より少ない」の割合が25.6%、「30分より少ない」の割合が17.7%となっています。



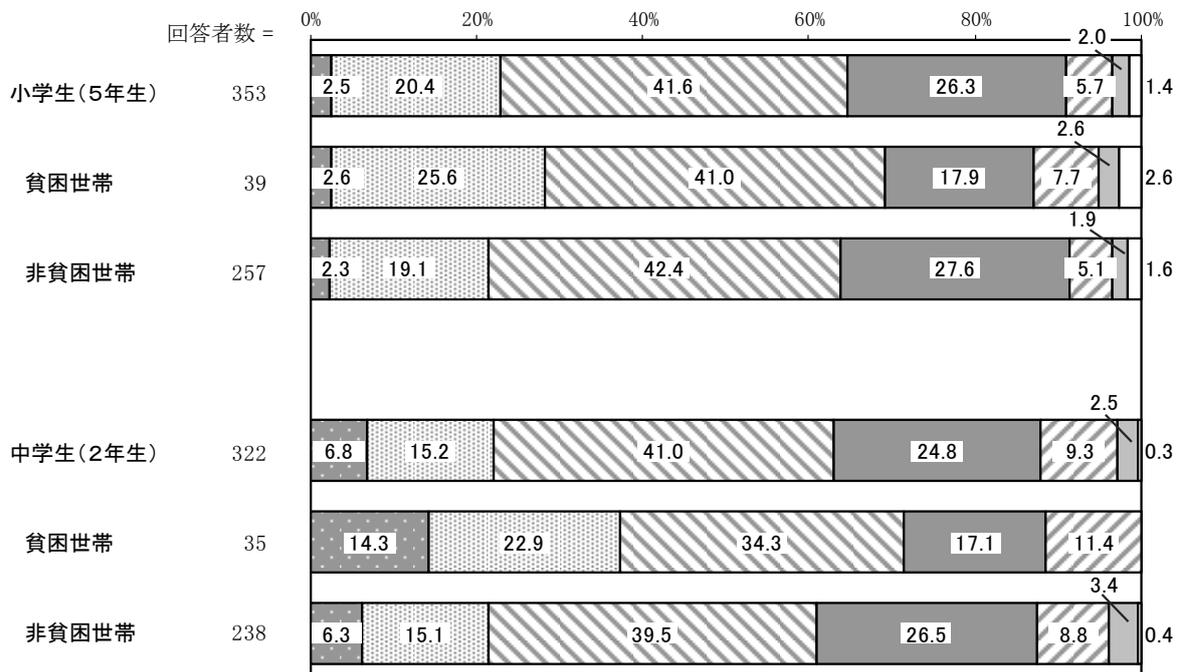
【貧困線別】

貧困線別でみると、非貧困世帯に比べ、貧困世帯で「30分より少ない」の割合が高くなっています。一方、貧困世帯に比べ、非貧困世帯で「1時間以上、2時間より少ない」の割合が高くなっています。



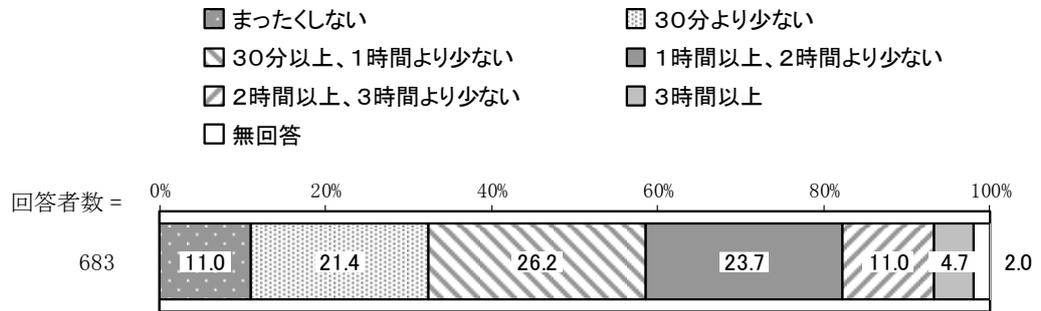
【子どもの学年別】

子どもの学年別でみると、小学生、中学生ともに、貧困世帯に比べ、非貧困世帯で「1時間以上、2時間より少ない」の割合が高くなっています。また、他に比べ、中学生の貧困世帯で「まったくしない」の割合が高くなっています。



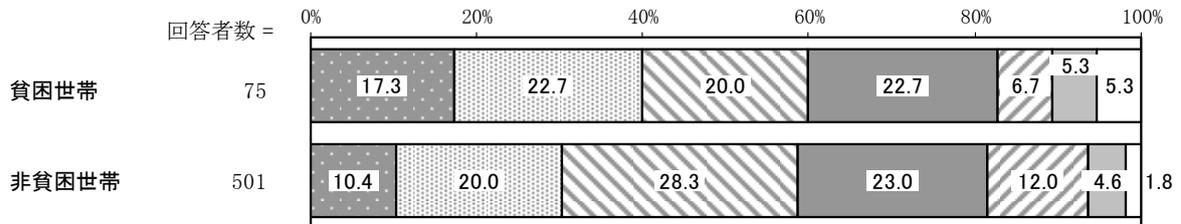
b) 学校がない日（土・日曜日・祝日）

「30分以上、1時間より少ない」の割合が26.2%と最も高く、次いで「1時間以上、2時間より少ない」の割合が23.7%、「30分より少ない」の割合が21.4%となっています。



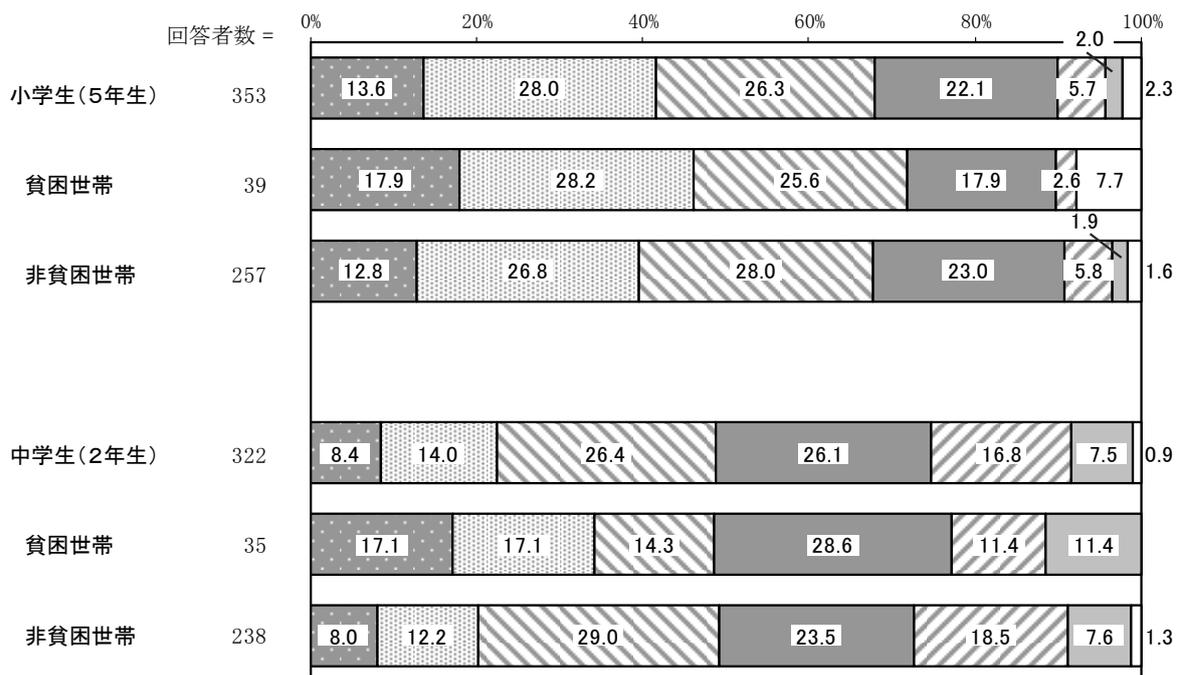
【貧困線別】

貧困線別でみると、非貧困世帯に比べ、貧困世帯で「まったくしない」の割合が高くなっています。一方、貧困世帯に比べ、非貧困世帯で「30分以上、1時間より少ない」「2時間以上、3時間より少ない」の割合が高くなっています。



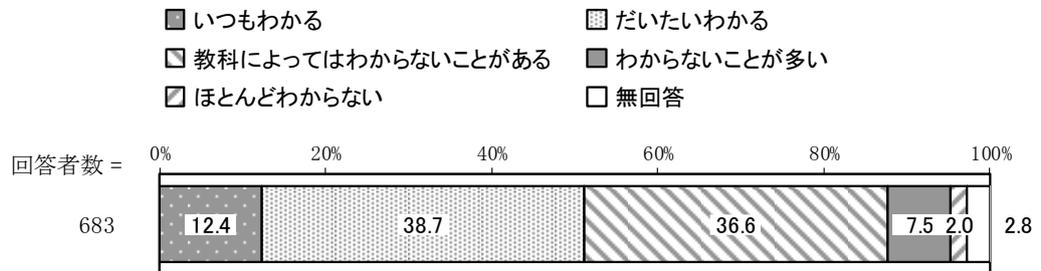
【子どもの学年別】

子どもの学年別でみると、小学生、中学生ともに、非貧困世帯に比べ、貧困世帯で「まったくしない」の割合が高くなっています。また、他に比べ、中学生の非貧困世帯で「2時間以上、3時間より少ない」の割合が高くなっています。



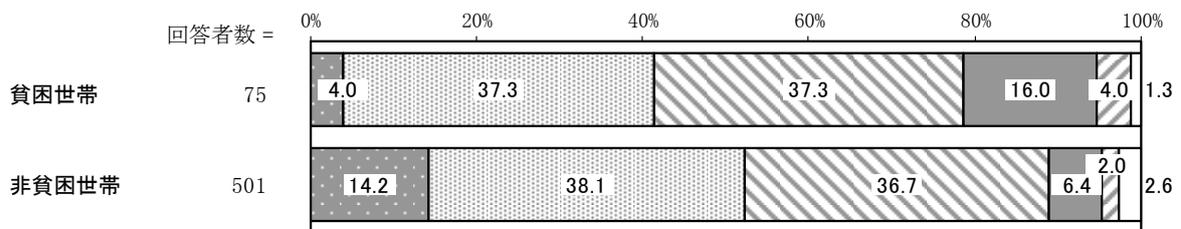
問5 あなたは、学校の授業がわからないことがありますか。
(あてはまるもの1つに○)

「いつもわかる」と「だいたいわかる」をあわせた“わかる”の割合が51.1%、「教科によってはわからないことがある」の割合が36.6%、「わからないことが多い」と「ほとんどわからない」をあわせた“わからない”の割合が9.5%となっています。



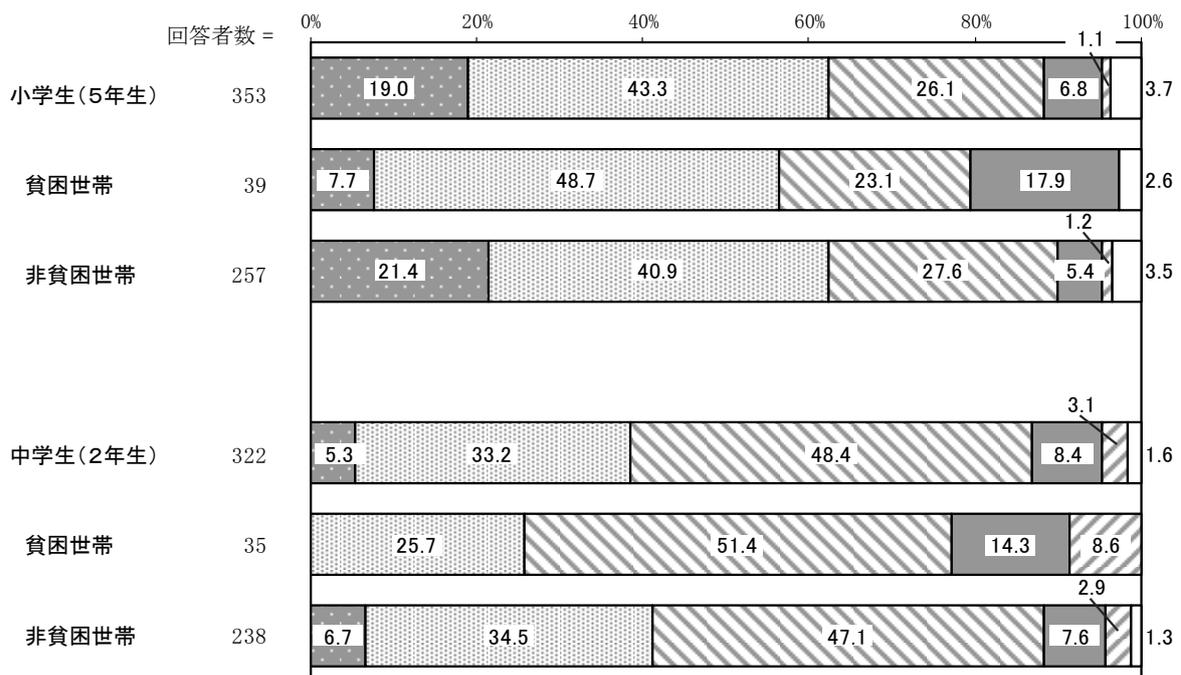
【貧困線別】

貧困線別でみると、非貧困世帯に比べ、貧困世帯で“わからない”の割合が高くなっています。一方、貧困世帯に比べ、非貧困世帯で“わかる”の割合が高くなっています。



【子どもの学年別】

子どもの学年別でみると、他に比べ、小学生、中学生ともに貧困世帯で“わからない”の割合が高くなっています。

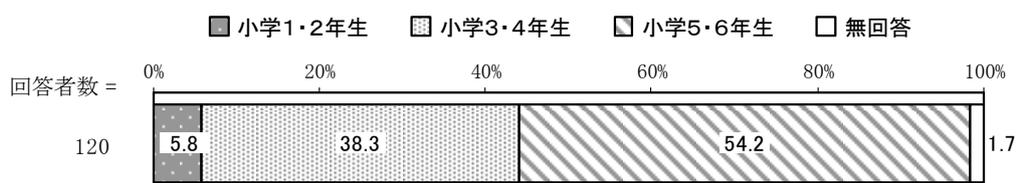


問5で「教科によってはわからないことがある」「わからないことが多い」「ほとんどわからない」と答えた人にお聞きします。

問5-1 いつごろから、授業がわからないことがあるようになりましたか。

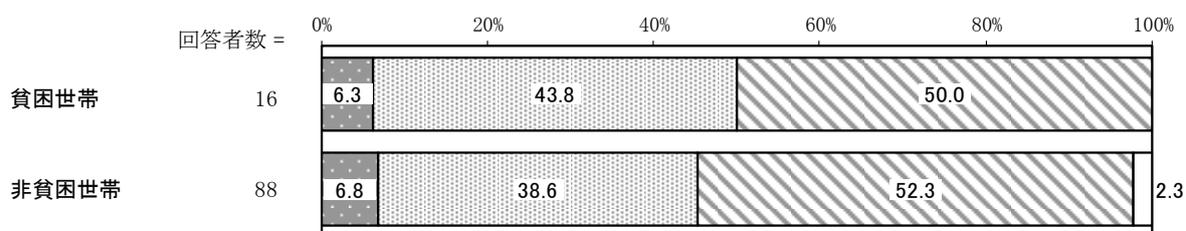
①小学生

「小学5・6年生」の割合が54.2%と最も高く、次いで「小学3・4年生」の割合が38.3%となっています。



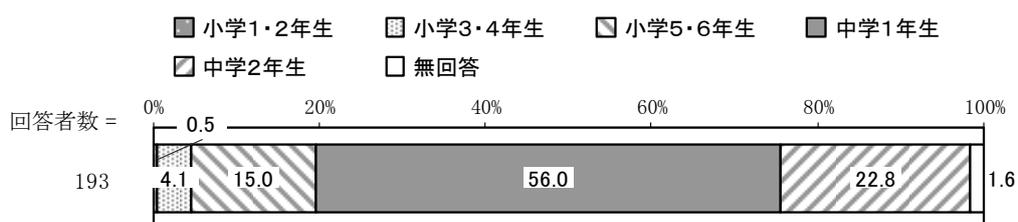
【貧困線別】

貧困線別でみると、非貧困世帯に比べ、貧困世帯で「小学3・4年生」の割合が高くなっています。



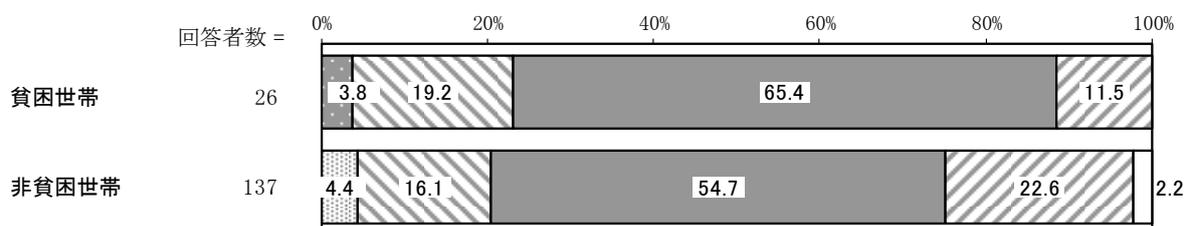
②中学生

「中学1年生」の割合が56.0%と最も高く、次いで「中学2年生」の割合が22.8%、「小学5・6年生」の割合が15.0%となっています。



【貧困線別】

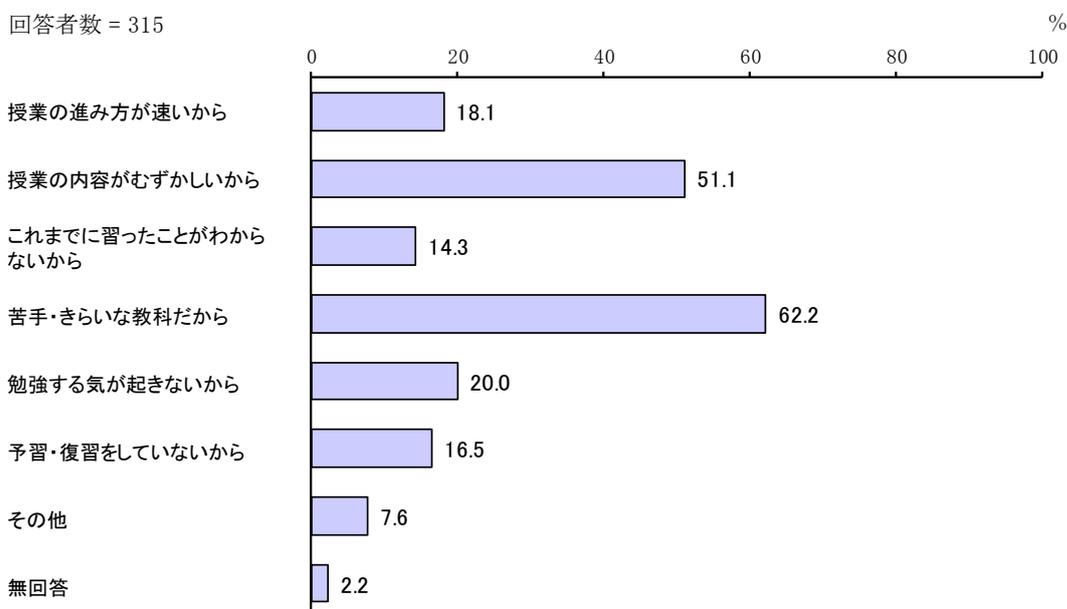
貧困線別でみると、非貧困世帯に比べ、貧困世帯で「中学1年生」の割合が高く、「中学2年生」の割合が低くなっています。



問5で「教科によってはわからないことがある」「わからないことが多い」「ほとんどわからない」と答えた人にお聞きします。

問5-2 授業がわからない理由はなんですか。(あてはまるものすべてに○)

「苦手・きらいな教科だから」の割合が62.2%と最も高く、次いで「授業の内容がむずかしいから」の割合が51.1%、「勉強する気が起きないから」の割合が20.0%となっています。



【貧困線別】

貧困線別でみると、非貧困世帯に比べ、貧困世帯で「授業の進み方が速いから」「これまでに習ったことがわからないから」「苦手・きらいな教科だから」「勉強する気が起きないから」「予習・復習をしていないから」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	授業の進み方が速いから	授業の内容がむずかしいから	これまでに習ったことがわからないから	苦手・きらいな教科だから	勉強する気が起きないから	予習・復習をしていないから	その他	無回答
貧困世帯	43	25.6	51.2	18.6	67.4	27.9	20.9	4.7	2.3
非貧困世帯	226	16.8	50.4	12.4	60.6	17.7	15.0	9.3	2.7

【子どもの学年別】

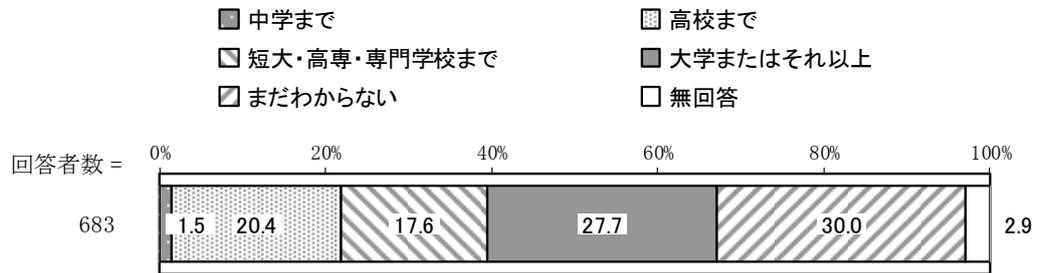
子どもの学年別でみると、小学生、中学生ともに、非貧困世帯に比べ、貧困世帯で「授業の進み方が速いから」の割合が高くなっています。また、他に比べ、小学生の貧困世帯で「授業の内容がむずかしいから」の割合が、中学生の貧困世帯で「勉強する気が起きないから」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	授業の進み方が速いから	授業の内容がむずかしいから	これまでで習ったことがわからないから	苦手・きらいな教科だから	勉強する気が起きないから	予習・復習をしていないから	その他	無回答
小学生(5年生)	120	18.3	47.5	12.5	54.2	17.5	11.7	7.5	2.5
貧困世帯	16	25.0	62.5	18.8	68.8	12.5	25.0	12.5	—
非貧困世帯	88	18.2	46.6	9.1	50.0	17.0	10.2	8.0	3.4
中学生(2年生)	193	17.6	53.9	15.5	67.9	21.8	19.7	7.8	1.6
貧困世帯	26	23.1	46.2	19.2	69.2	38.5	19.2	—	3.8
非貧困世帯	137	16.1	53.3	14.6	67.9	18.2	18.2	10.2	1.5

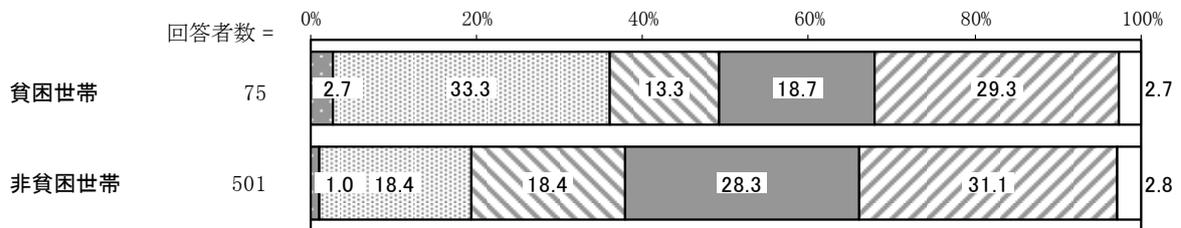
問6 あなたは、将来、どの段階まで進学したいですか。(あてはまるもの1つに○)

「まだわからない」の割合が30.0%と最も高く、次いで「大学またはそれ以上」の割合が27.7%、「高校まで」の割合が20.4%となっています。



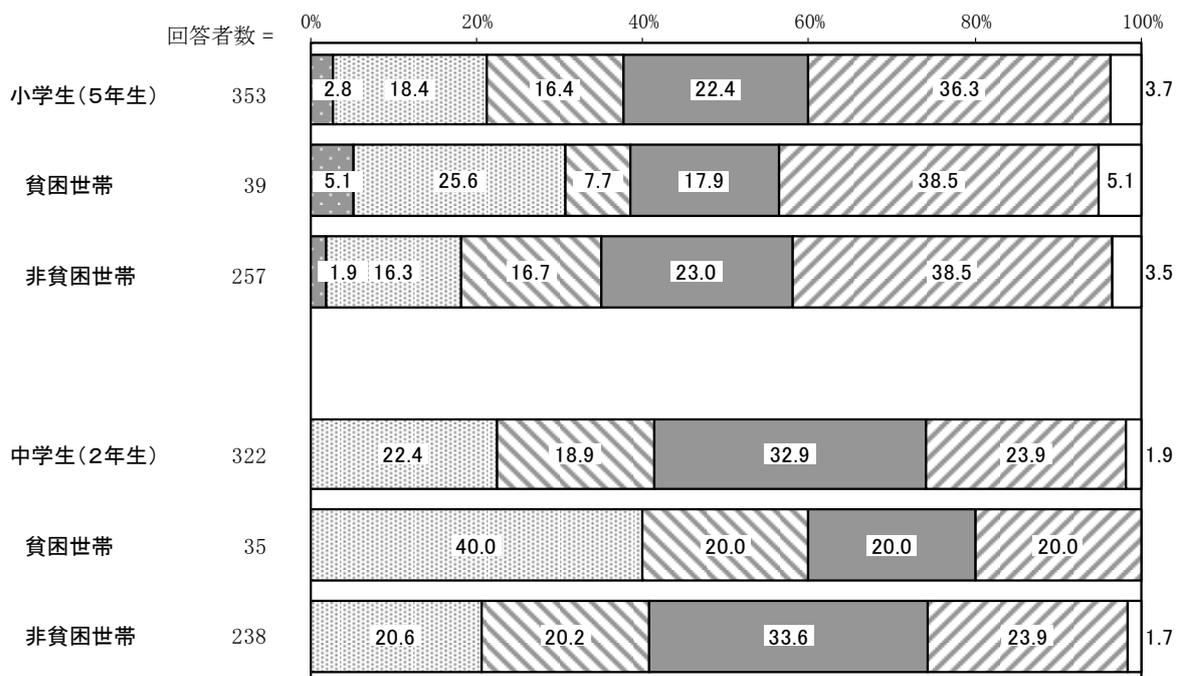
【貧困線別】

貧困線別でみると、非貧困世帯に比べ、貧困世帯で「高校まで」の割合が高くなっています。一方、貧困世帯に比べ、非貧困世帯で「短大・高専・専門学校まで」「大学またはそれ以上」の割合が高くなっています。



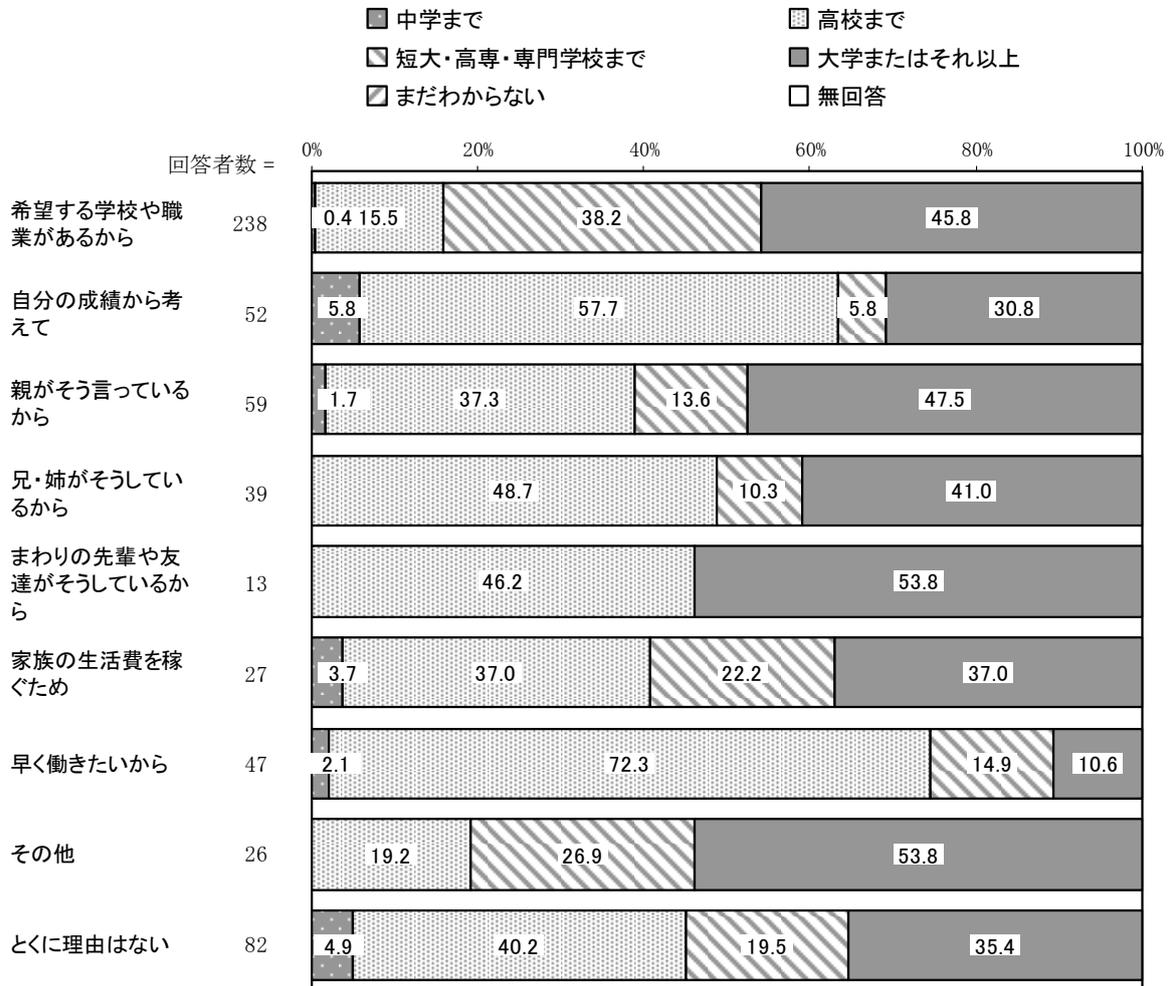
【子どもの学年別】

子どもの学年別でみると、小学生、中学生ともに、非貧困世帯に比べ、貧困世帯で「高校まで」の割合が高く、「大学またはそれ以上」の割合が低くなっています。



【進学希望の理由別】

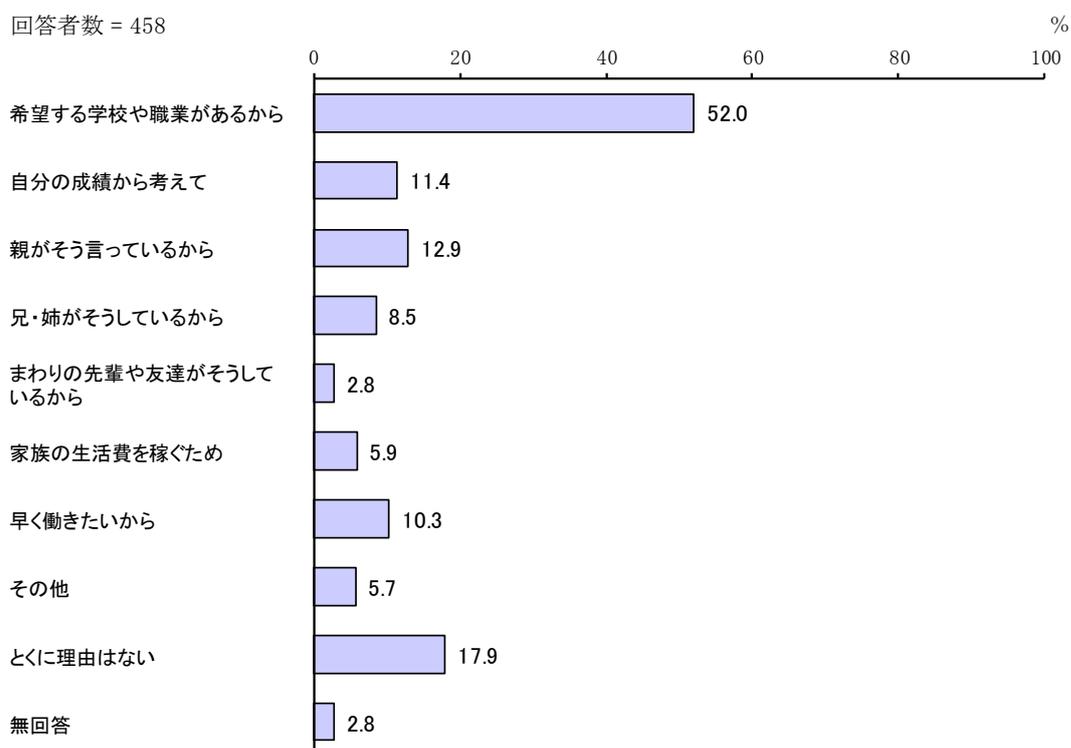
進学希望の理由（問6-1）別でみると、他に比べ、自分の成績から考えて、早く働きたいからで「高校まで」の割合が、まわりの先輩や友達がそうしているからで「大学またはそれ以上」の割合が高くなっています。



問6で「中学まで」「高校まで」「短大・高専・専門学校まで」「大学またはそれ以上」と答えた人にお聞きします。

問6-1 その理由を教えてください。
(1~8については、あてはまるものすべてに○)

「希望する学校や職業があるから」の割合が52.0%と最も高く、次いで「とくに理由はない」の割合が17.9%、「親がそう言っているから」の割合が12.9%となっています。



【貧困線別】

貧困線別でみると、非貧困世帯に比べ、貧困世帯で「家族の生活費を稼ぐため」「早く働きたいから」の割合が高くなっています。一方、貧困世帯に比べ、非貧困世帯で「希望する学校や職業があるから」「親がそう言っているから」「兄・姉がそうしているから」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	希望する学校や職業があるから	自分の成績から考えて	親がそう言っているから	兄・姉がそうしているから	まわりの先輩や友達がそうしているから	家族の生活費を稼ぐため	早く働きたいから	その他	とくに理由はない	無回答
貧困世帯	51	47.1	9.8	3.9	3.9	2.0	9.8	17.6	—	19.6	9.8
非貧困世帯	331	52.9	11.2	13.3	10.3	2.7	4.8	8.8	6.0	17.8	2.4

【子どもの学年別】

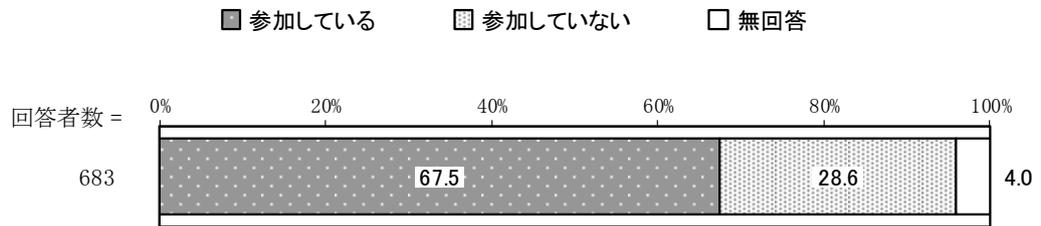
子どもの学年別でみると、中学生で、非貧困世帯に比べ、貧困世帯で「希望する学校や職業があるから」の割合が低く、「早く働きたいから」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	希望する学校や職業があるから	自分の成績から考えて	親がそう言っているから	兄・姉がそうしているから	まわりの先輩や友達がそうしているから	家族の生活費を稼ぐため	早く働きたいから	その他	とくに理由はない	無回答
小学生(5年生)	212	51.9	11.3	8.5	7.5	0.9	6.1	11.8	3.8	16.5	3.3
貧困世帯	22	50.0	9.1	—	9.1	—	9.1	13.6	—	13.6	18.2
非貧困世帯	149	51.7	11.4	8.7	8.7	0.7	5.4	10.1	4.0	16.8	2.0
中学生(2年生)	239	52.7	11.3	16.7	8.8	4.6	5.9	8.8	7.1	19.7	2.5
貧困世帯	28	46.4	10.7	7.1	—	3.6	10.7	17.9	—	25.0	3.6
非貧困世帯	177	54.8	10.7	16.9	10.7	4.5	4.5	7.9	7.3	19.2	2.8

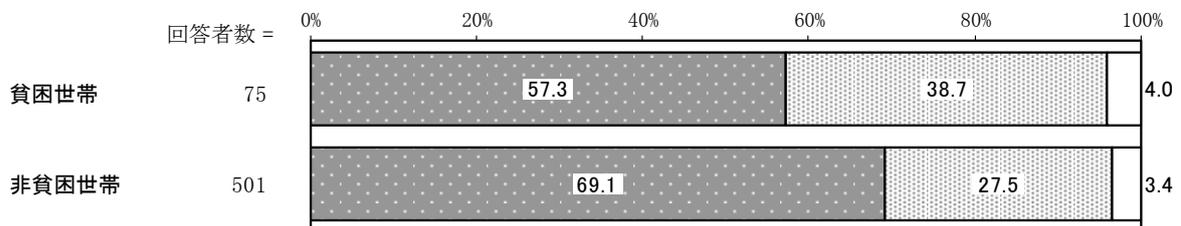
問7 あなたは、地域のスポーツクラブや文化クラブ、学校の部活動に参加していますか。(あてはまるもの1つに○)

「参加している」の割合が67.5%、「参加していない」の割合が28.6%となっています。



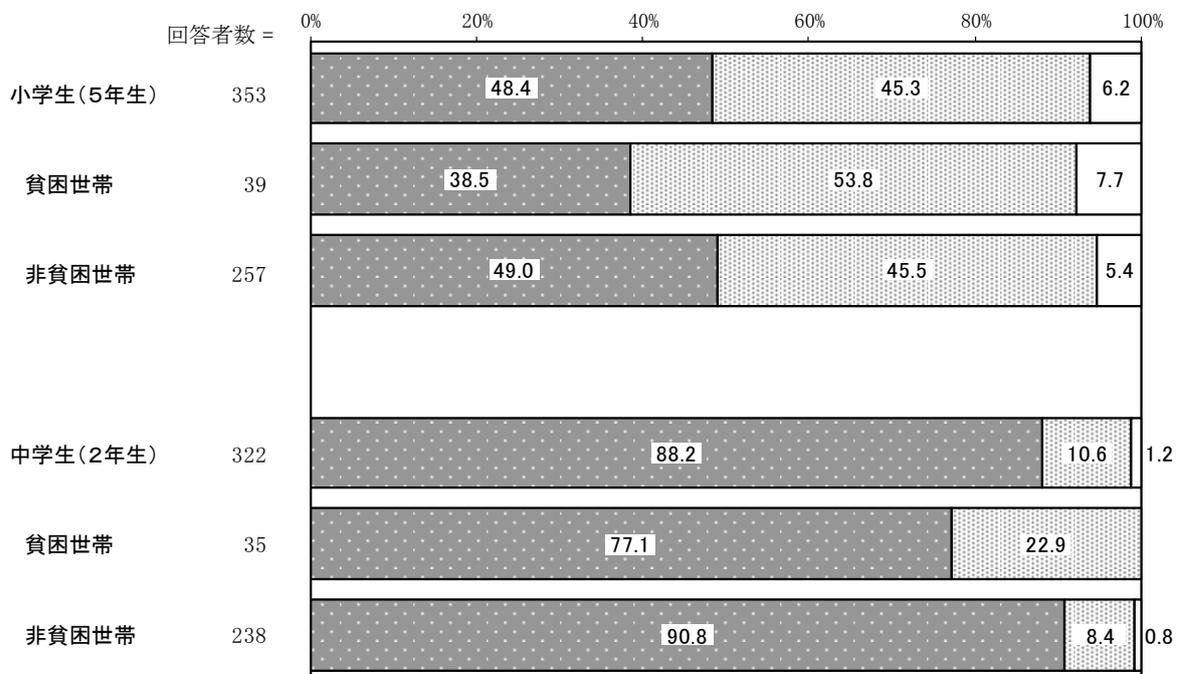
【貧困線別】

貧困線別でみると、非貧困世帯に比べ、貧困世帯で「参加していない」の割合が高くなっています。一方、貧困世帯に比べ、非貧困世帯で「参加している」の割合が高くなっています。



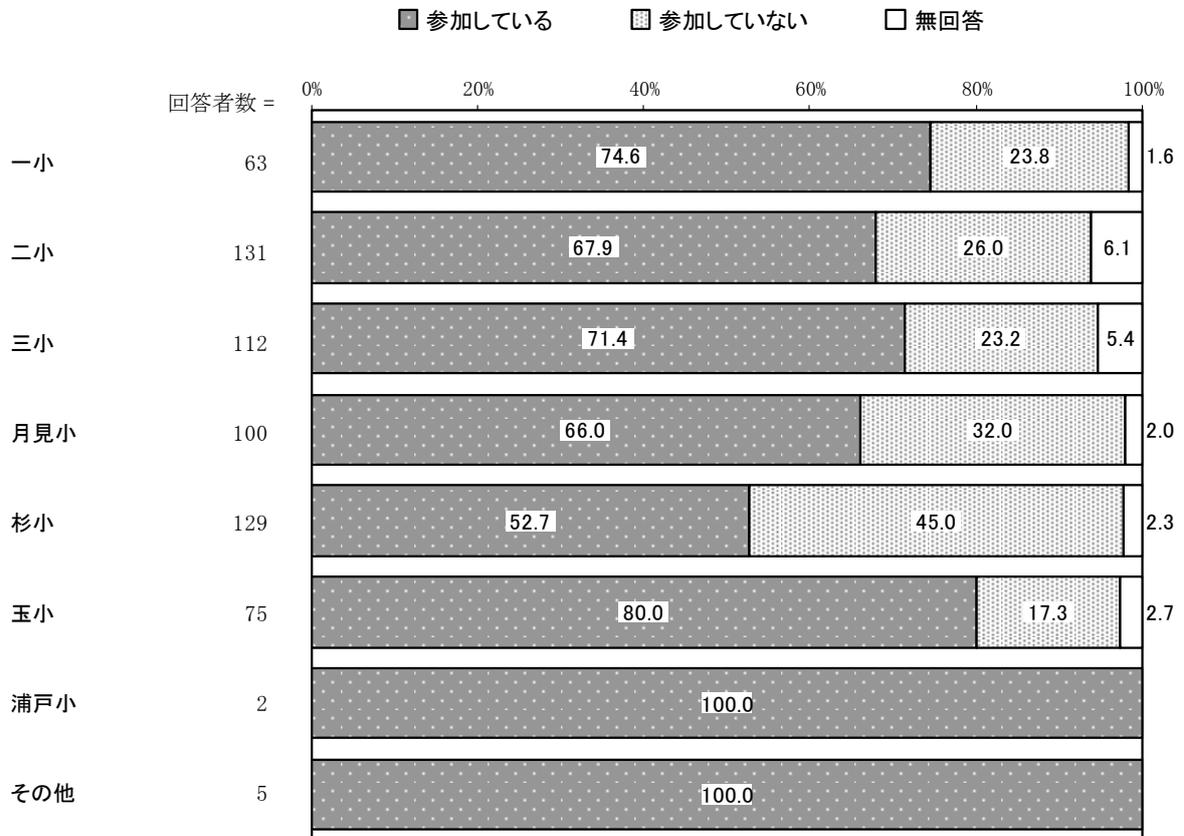
【子どもの学年別】

子どもの学年別でみると、小学生、中学生ともに、貧困世帯に比べ、非貧困世帯で「参加している」の割合が高くなっています。



【小学校区別】

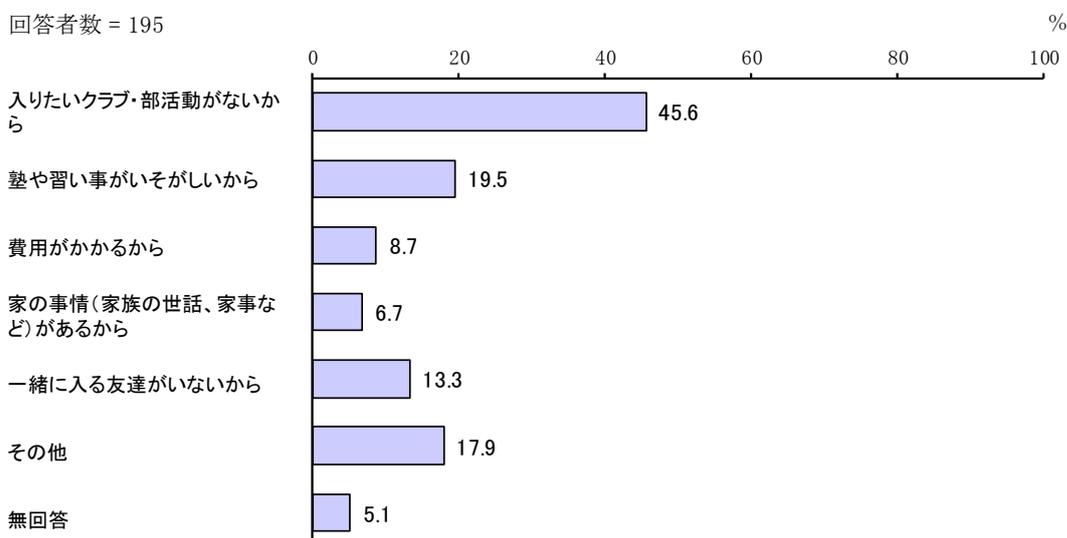
小学校区別で見ると、他に比べ、一小、三小、玉小で「参加している」の割合が高く、特に玉小で約8割となっています。一方、杉小で「参加していない」の割合が高くなっています。



問7で「参加していない」と答えた人にお聞きします。

問7-1 参加していない理由はなんですか。(あてはまるものすべてに○)

「入りたいクラブ・部活動がないから」の割合が45.6%と最も高く、次いで「塾や習い事がいそがしいから」の割合が19.5%、「一緒に入る友達がいないから」の割合が13.3%となっています。



【貧困線別】

貧困線別でみると、非貧困世帯に比べ、貧困世帯で「入りたいクラブ・部活動がないから」「一緒に入る友達がいないから」の割合が高くなっています。一方、貧困世帯に比べ、非貧困世帯で「塾や習い事がいそがしいから」「家の事情(家族の世話、家事など)があるから」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	入りたいクラブ・部活動がないから	塾や習い事がいそがしいから	費用がかかるから	家の事情(家族の世話、家事など)があるから	一緒に入る友達がいないから	その他	無回答
貧困世帯	29	51.7	13.8	10.3	—	20.7	24.1	3.4
非貧困世帯	138	42.8	22.5	7.2	8.7	12.3	16.7	4.3

【子どもの学年別】

子どもの学年別でみると、小学生、中学生ともに、非貧困世帯に比べ、貧困世帯で「入りたいクラブ・部活動がないから」の割合が高くなっています。また、他に比べ、小学生の貧困世帯で「一緒に入る友達がいないから」の割合が、中学生の非貧困世帯で「塾や習い事がいそがしいから」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	入りたいクラブ・部活動がないから	塾や習い事がいそがしいから	費用がかかるから	家の事情(家族の世話、家事など)があるから	一緒に入る友達がいないから	その他	無回答
小学生(5年生)	160	49.4	15.6	8.1	6.3	14.4	18.8	4.4
貧困世帯	21	57.1	9.5	9.5	—	23.8	23.8	—
非貧困世帯	117	45.3	17.9	6.8	7.7	12.8	17.9	5.1
中学生(2年生)	34	26.5	35.3	11.8	8.8	8.8	14.7	8.8
貧困世帯	8	37.5	25.0	12.5	—	12.5	25.0	12.5
非貧困世帯	20	25.0	45.0	10.0	15.0	10.0	10.0	—

【小学校区別】

小学校区別でみると、他に比べ、一小で「入りたいクラブ・部活動がないから」の割合が高くなっています。また、二小で「塾や習い事がいそがしいから」の割合が、月見小で「費用がかかるから」の割合が高くなっています。

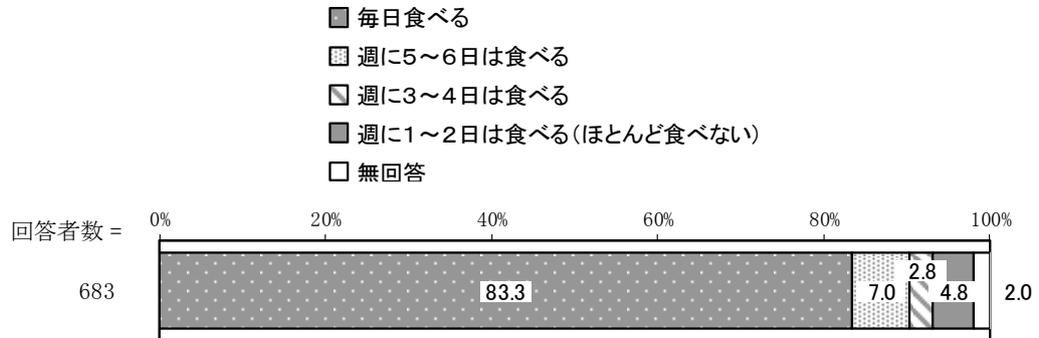
単位：％

区分	回答者数(件)	入りたいクラブ・部活動がないから	塾や習い事がいそがしいから	費用がかかるから	家の事情(家族の世話、家事など)があるから	一緒に入る友達がいないから	その他	無回答
一小	15	60.0	13.3	—	—	6.7	26.7	—
二小	34	35.3	29.4	11.8	5.9	14.7	8.8	8.8
三小	26	46.2	23.1	—	7.7	11.5	23.1	—
月見小	32	21.9	21.9	18.8	18.8	18.8	18.8	3.1
杉小	58	58.6	17.2	5.2	3.4	12.1	19.0	3.4
玉小	13	38.5	15.4	15.4	—	23.1	23.1	15.4
浦戸小	—	—	—	—	—	—	—	—
その他	—	—	—	—	—	—	—	—

問8 あなたは朝ごはんをいつも食べていますか。(あてはまるもの1つに○)

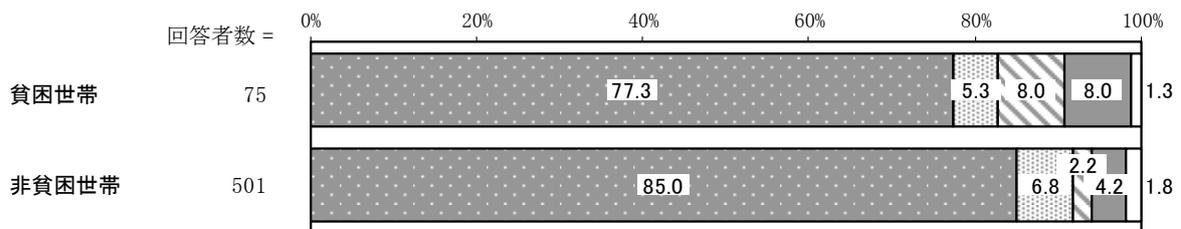
「毎日食べる」の割合が83.3%と最も高くなっています。

また、「週に5～6日は食べる」「週に3～4日は食べる」「週に1～2日は食べる(ほとんど食べない)」をあわせた“朝食を欠食する人”の割合が、14.6%となっています。



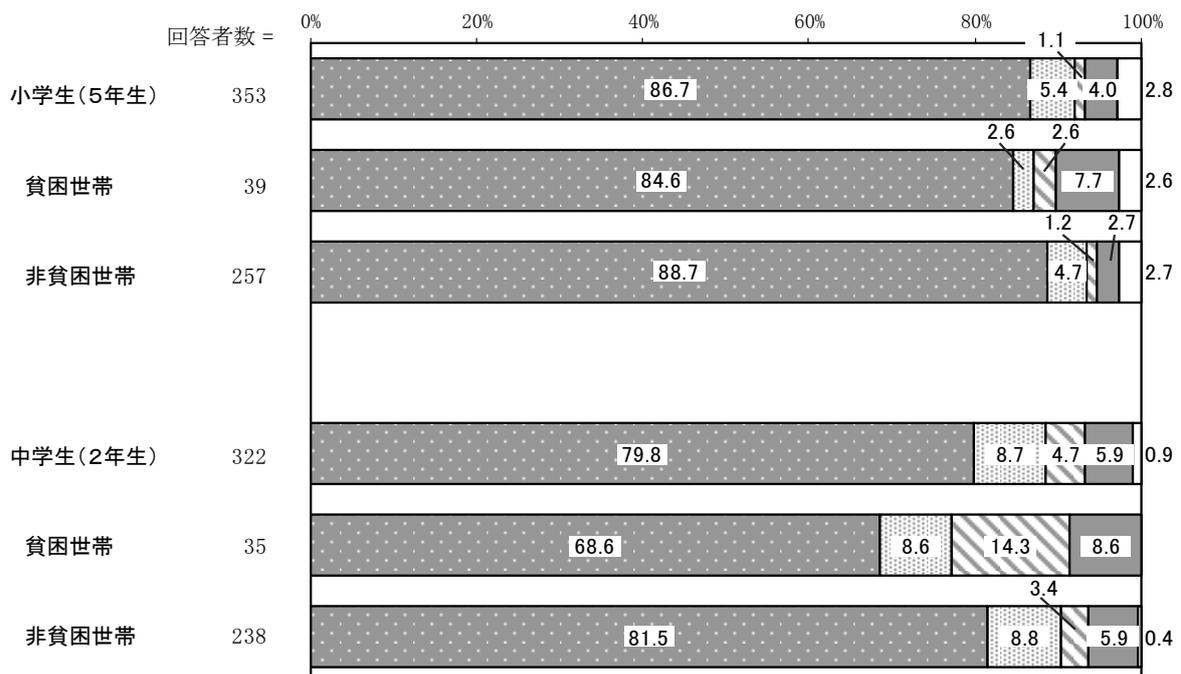
【貧困線別】

貧困線別でみると、非貧困世帯に比べ、貧困世帯で“朝食を欠食する人”の割合が高く、約2割となっています。



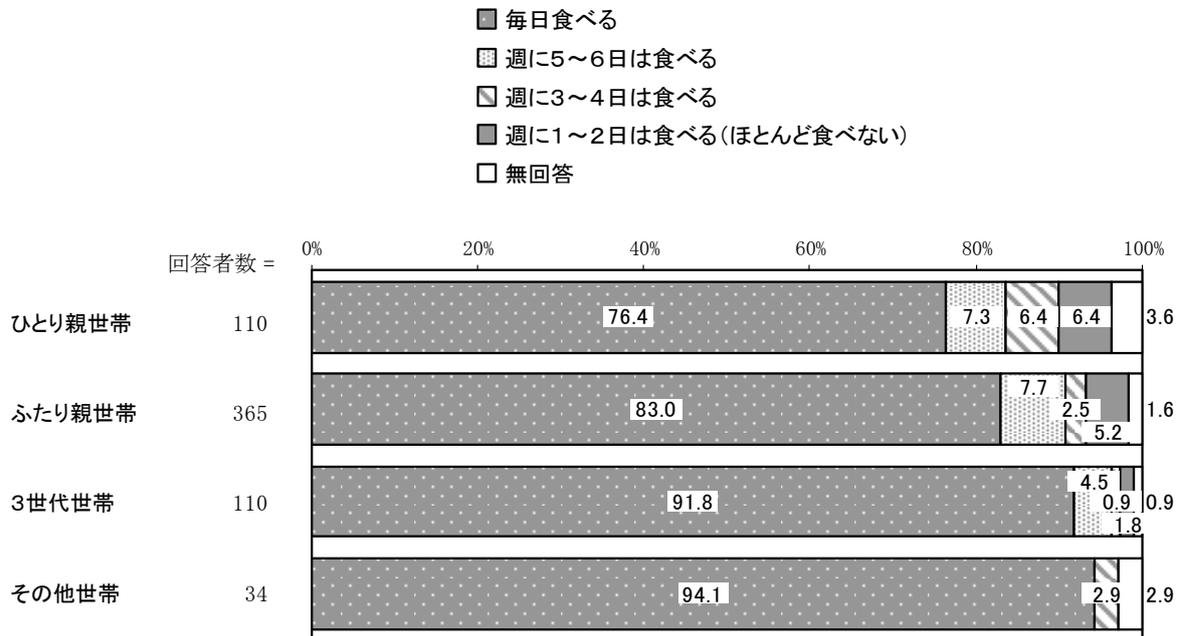
【子どもの学年別】

子どもの学年別でみると、他に比べ、中学生の貧困世帯で「毎日食べる」の割合が低く、「週に3～4日は食べる」の割合が高くなっています。



【家族構成別】

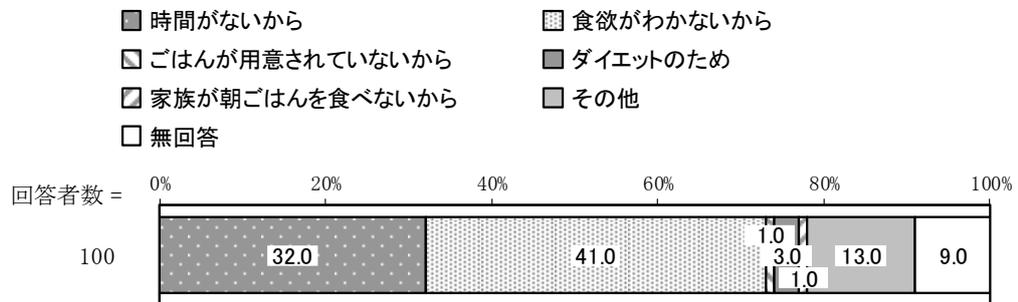
家族構成別でみると、他に比べ、ひとり親世帯で“朝食を欠食する人”の割合が高くなっています。また、3世代世帯で「毎日食べる」の割合が高くなっています。



問8で「週に5～6日」「週に3～4日」「週に1～2日(ほとんど食べない)」と答えた人にお聞きします。

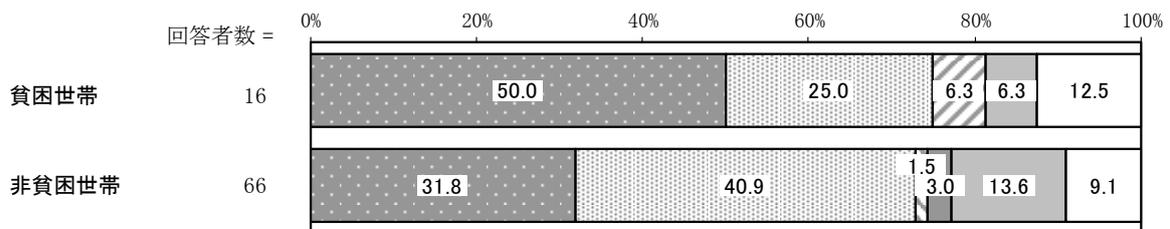
問8-1 毎日朝ごはんを食べない最も大きな理由はなんですか。

「食欲がわからないから」の割合が41.0%と最も高く、次いで「時間がないから」の割合が32.0%となっています。



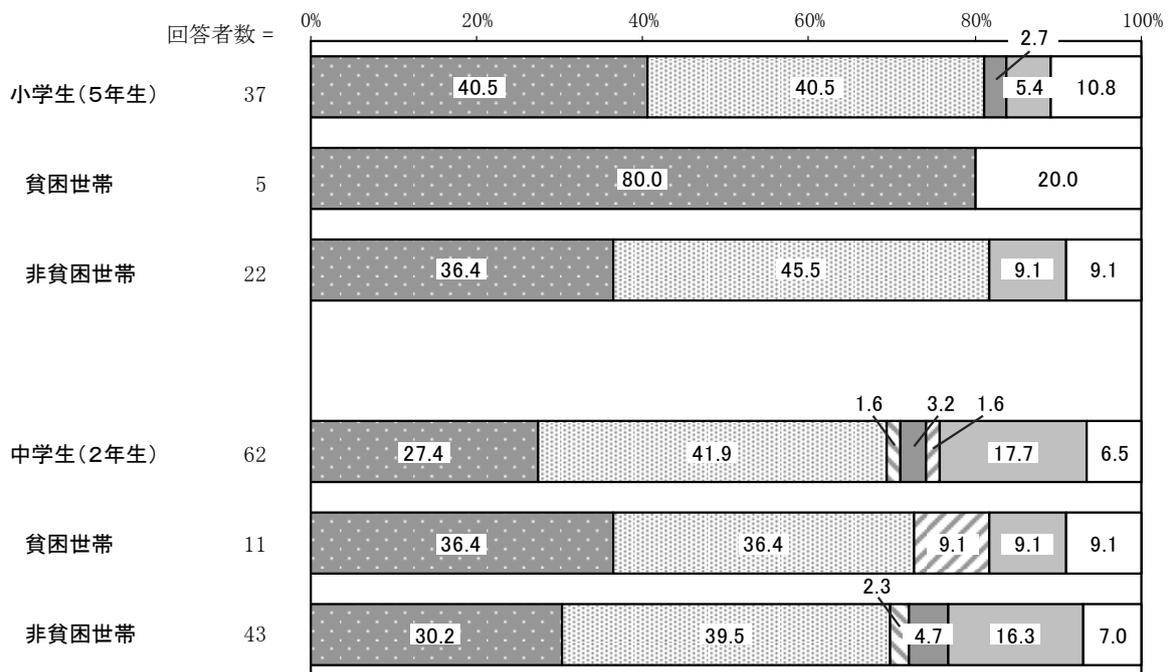
【貧困線別】

貧困線別でみると、非貧困世帯に比べ、貧困世帯で「時間がないから」「家族が朝ごはんを食べないから」の割合が高くなっています。一方、貧困世帯に比べ、非貧困世帯で「食欲がわからないから」の割合が高くなっています。



【子どもの学年別】

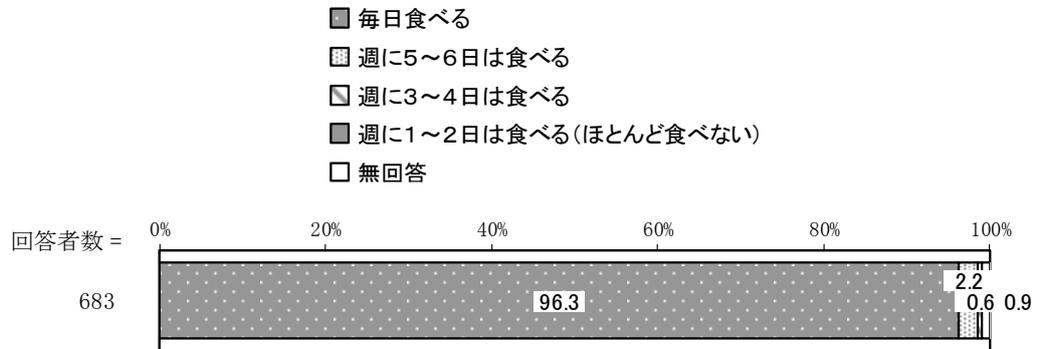
子どもの学年別でみると、他に比べ、小学生の非貧困世帯で「食欲がわからないから」の割合が高くなっています。また、中学生の貧困世帯で「家族が朝ごはんを食べないから」の割合が高くなっています。



問9 あなたは夕ごはんをいつも食べていますか。(あてはまるもの1つに○)

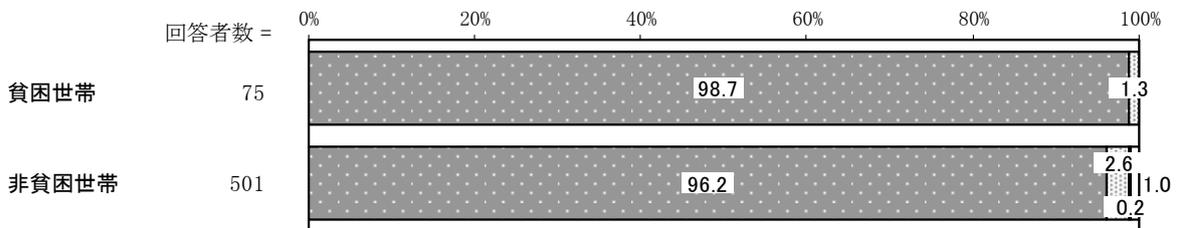
「毎日食べる」の割合が96.3%と最も高くなっています。

また、「週に5～6日は食べる」「週に3～4日は食べる」「週に1～2日は食べる(ほとんど食べない)」をあわせた“夕食を欠食する人”の割合が2.8%となっています。



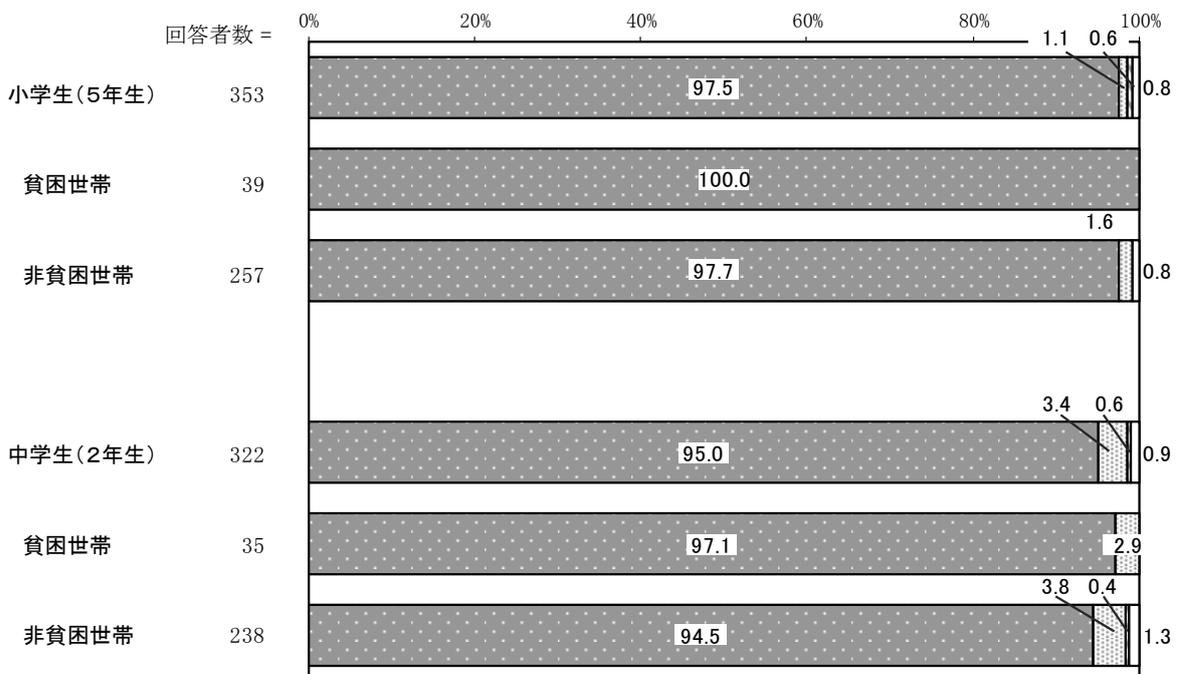
【貧困線別】

貧困線別でみると、大きな差異はみられません。



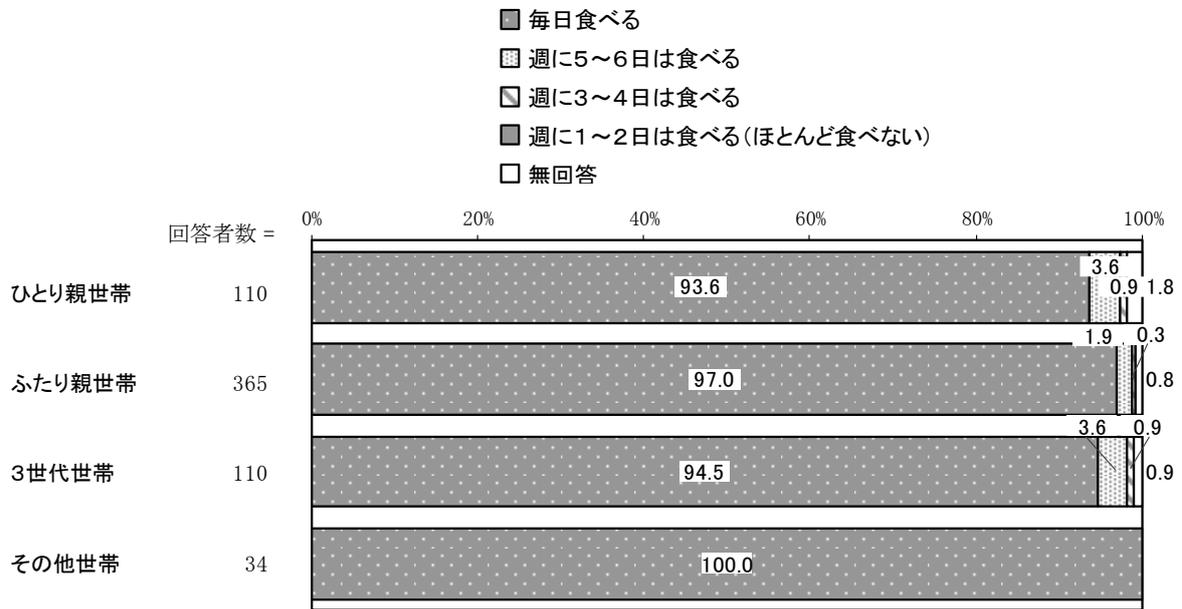
【子どもの学年別】

子どもの学年別でみると、大きな差異はみられません。



【家族構成別】

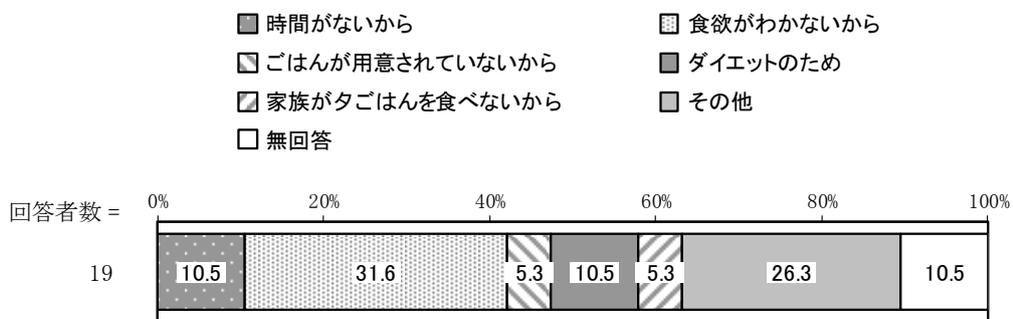
家族構成別でみると、大きな差異はみられません。



問9で「週に5～6日」「週に3～4日」「週に1～2日（ほとんど食べない）」と答えた人にお聞きします。

問9-1 毎日夕ごはんを食べない最も大きな理由はなんですか。

「食欲がわからないから」の割合が31.6%と最も高く、次いで「時間がないから」、「ダイエットのため」の割合が10.5%となっています。

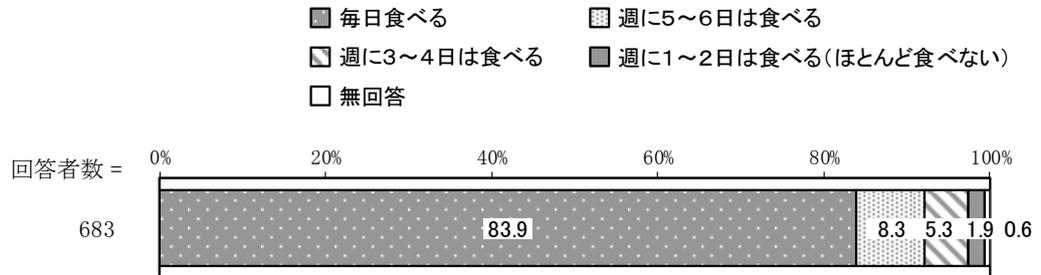


【子どもの学年別】

子どもの学年別では、有効回答数が少ないため割愛します。

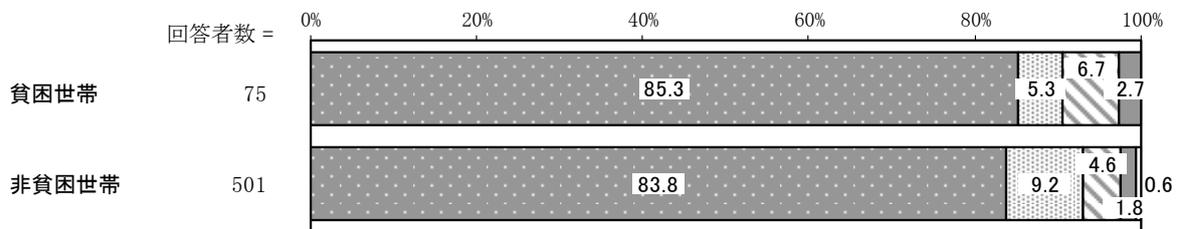
**問 10 あなたは夏休みや冬休みなどの期間に、お昼ごはんをいつも食べていますか。
(あてはまるもの1つに○)**

「毎日食べる」の割合が83.9%と最も高くなっています。また、「週に5～6日は食べる」「週に3～4日は食べる」「週に1～2日は食べる(ほとんど食べない)」をあわせた“昼食を欠食する人”の割合が15.5%となっています。



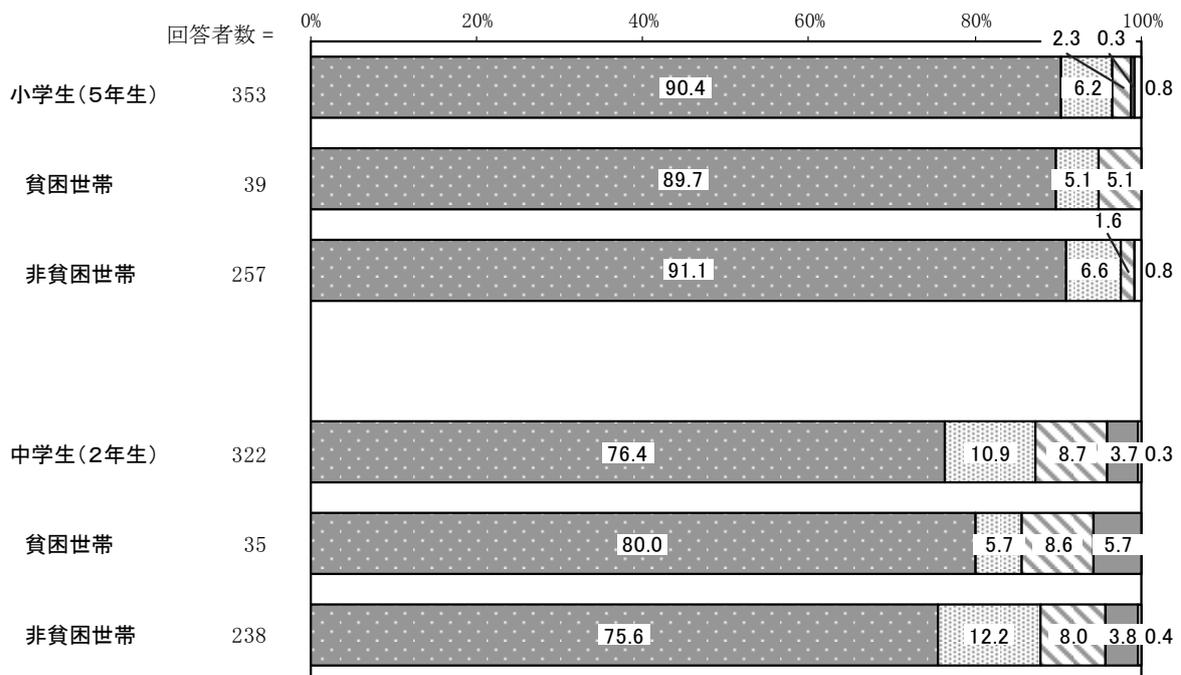
【貧困線別】

貧困線別でみると、大きな差異はみられません。



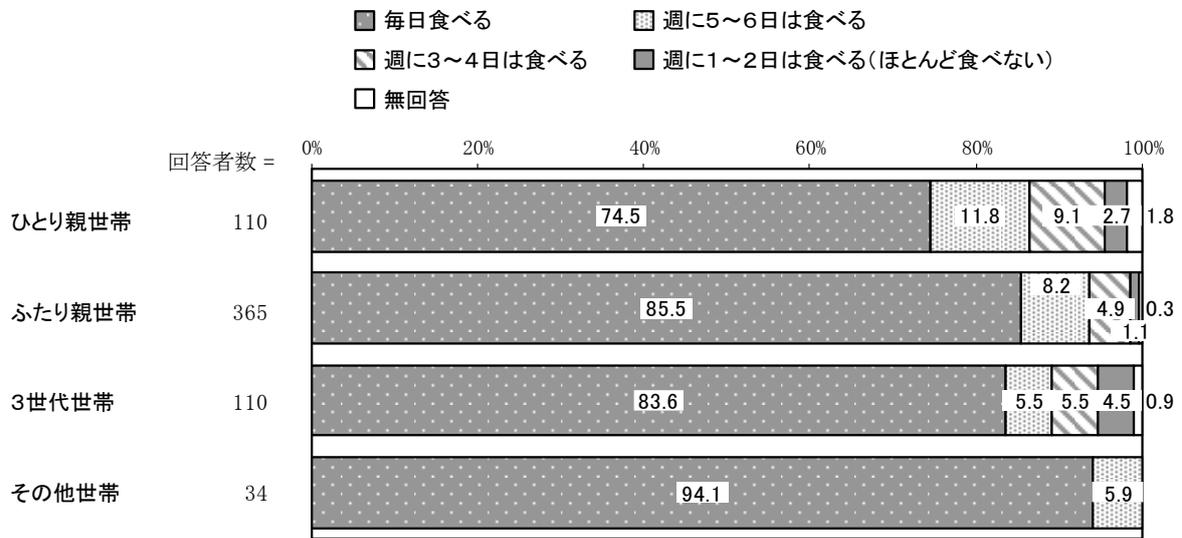
【子どもの学年別】

子どもの学年別でみると、他に比べ、中学生の非貧困世帯で「週に5～6日は食べる」の割合が高くなっています。



【家族構成別】

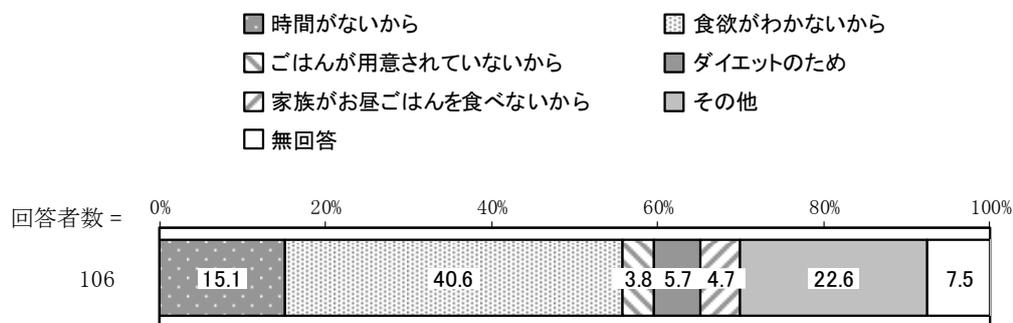
家族構成別でみると、他に比べ、ひとり親世帯で“昼食を欠食する人”の割合が高くなっています。



問10で「週に5～6日」「週に3～4日」「週に1～2日（ほとんど食べない）」と答えた人にお聞きします。

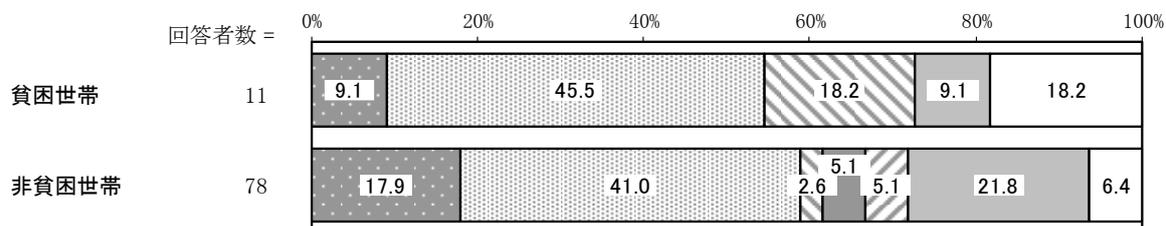
問10-1 毎日お昼ごはんを食べない最も大きな理由は何ですか。

「食欲がわからないから」の割合が40.6%と最も高く、次いで「時間がないから」の割合が15.1%となっています。



【貧困線別】

貧困線別でみると、非貧困世帯に比べ、貧困世帯で「ごはんが用意されていないから」の割合が高くなっています。一方、貧困世帯に比べ、非貧困世帯で「時間がないから」「ダイエットのため」「家族がお昼ごはんを食べないから」の割合が高くなっています。

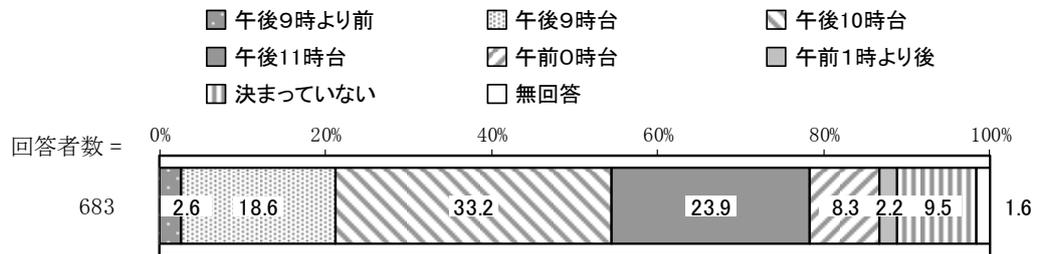


【子どもの学年別】

子どもの学年別では、有効回答数が少ないため割愛します。

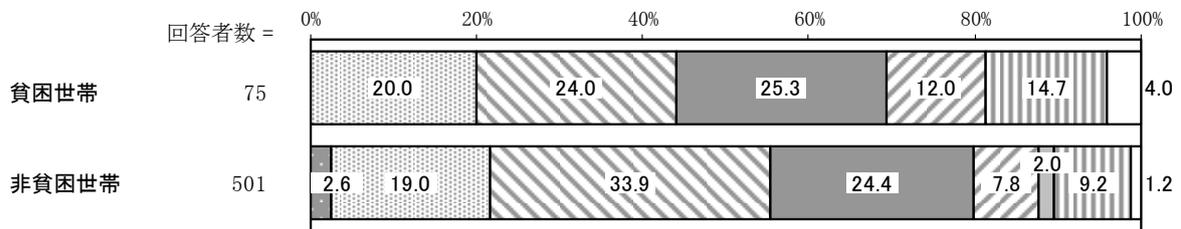
問 11 あなたは、ふだん(月曜日～金曜日)、何時に寝ていますか。
(あてはまるもの1つに○)

「午後10時台」の割合が33.2%と最も高く、次いで「午後11時台」の割合が23.9%、「午後9時台」の割合が18.6%となっています。



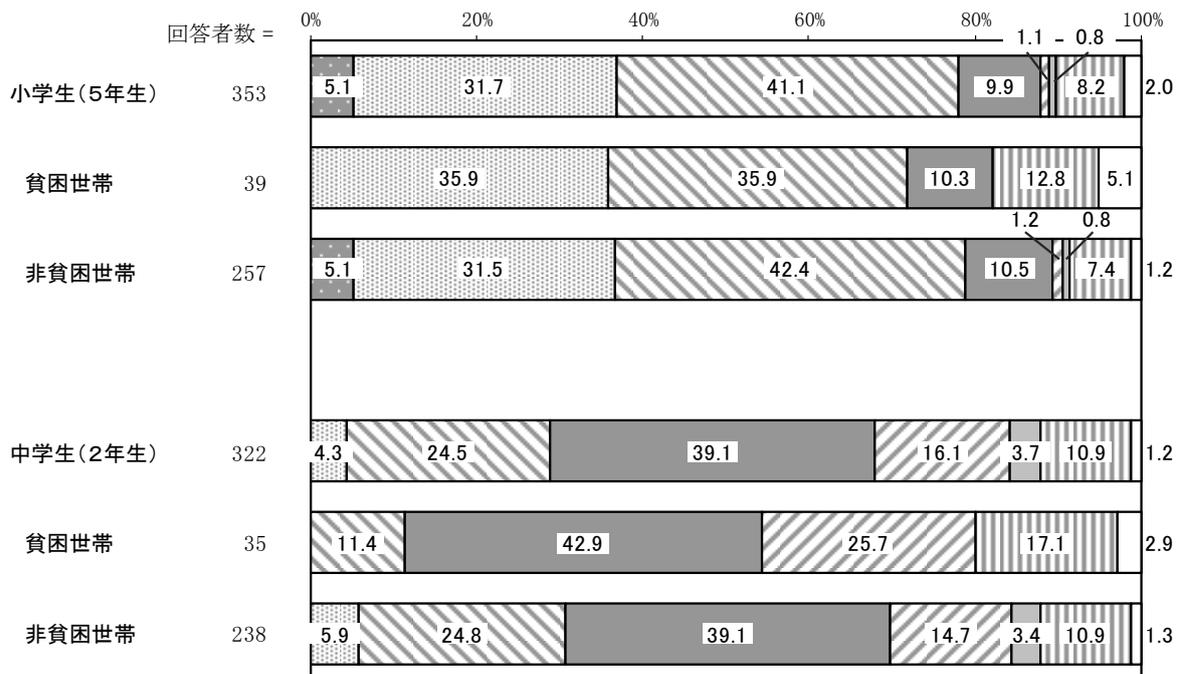
【貧困線別】

貧困線別でみると、非貧困世帯に比べ、貧困世帯で「決まっていない」の割合が高くなっています。一方、貧困世帯に比べ、非貧困世帯で「午後10時台」の割合が高くなっています。



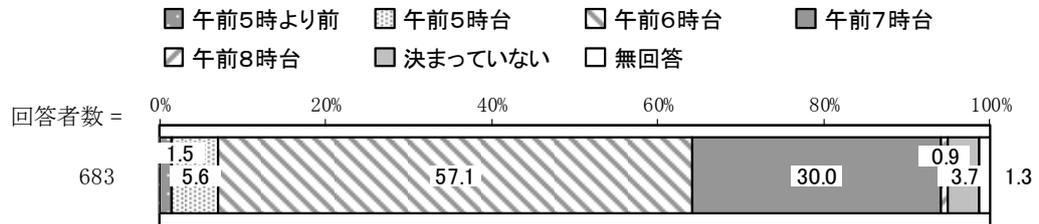
【子どもの学年別】

子どもの学年別でみると、小学生、中学生ともに、非貧困世帯に比べ、貧困世帯で「午後10時台」の割合が低く、「決まっていない」の割合が高くなっています。また、他に比べ、中学生の貧困世帯で「午前0時台」の割合が高くなっています。



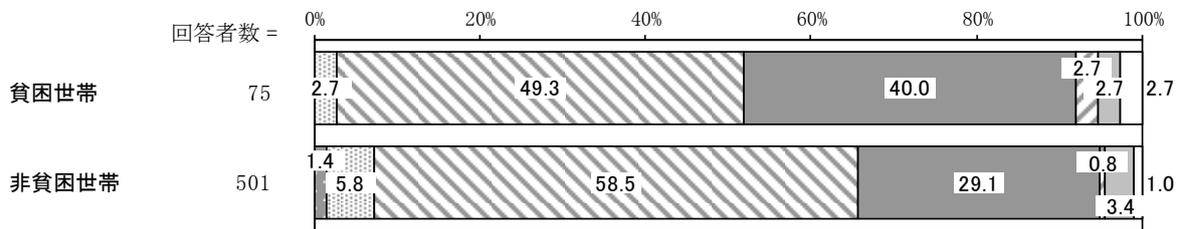
問 12 あなたは、ふだん(月曜日～金曜日)、何時に起きていますか。
(あてはまるもの1つに○)

「午前6時台」の割合が57.1%と最も高く、次いで「午前7時台」の割合が30.0%となっています。



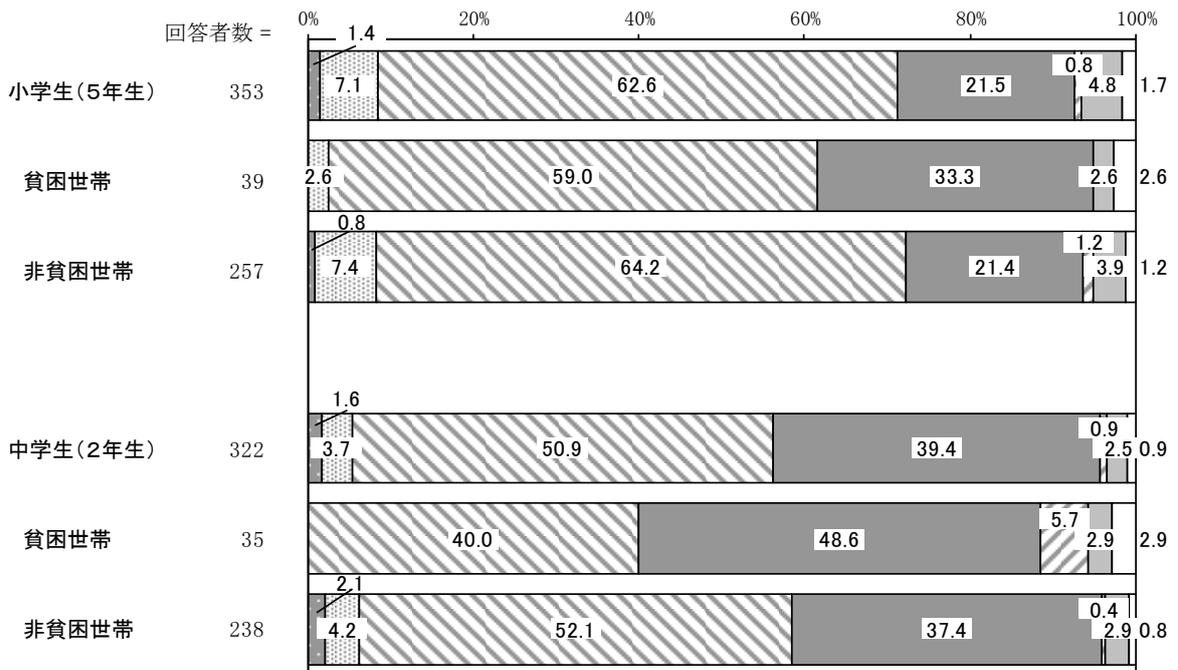
【貧困線別】

貧困線別でみると、非貧困世帯に比べ、貧困世帯で「午前7時台」の割合が高くなっています。一方、貧困世帯に比べ、非貧困世帯で「午前6時台」の割合が高くなっています。



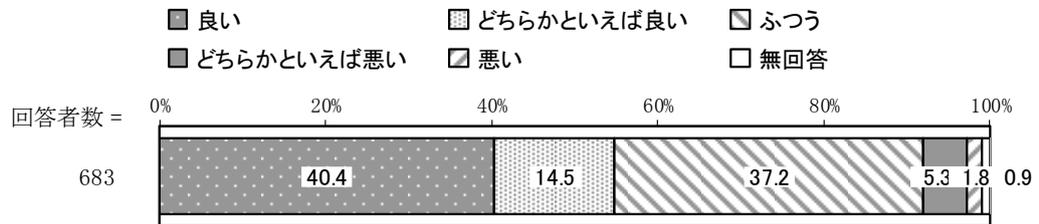
【子どもの学年別】

子どもの学年別でみると、小学生、中学生ともに、非貧困世帯に比べ、貧困世帯で「午前6時台」の割合が低く、「午前7時台」の割合が高くなっています。



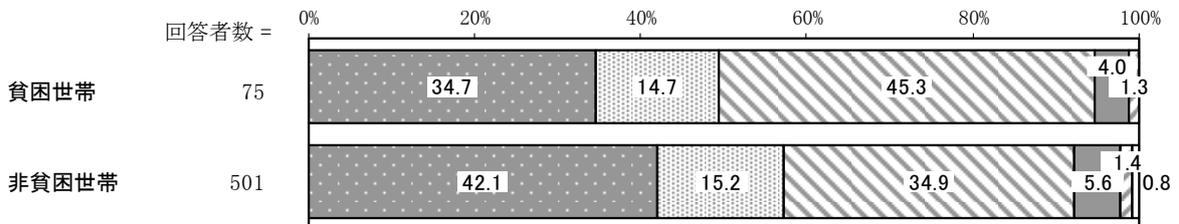
問 13 あなたは、自分の健康状態について、どう感じていますか。
(あてはまるもの1つに○)

「良い」と「どちらかといえば良い」をあわせた“良い”の割合が54.9%、「ふつう」の割合が37.2%、「どちらかといえば悪い」と「悪い」をあわせた“悪い”の割合が7.1%となっています。



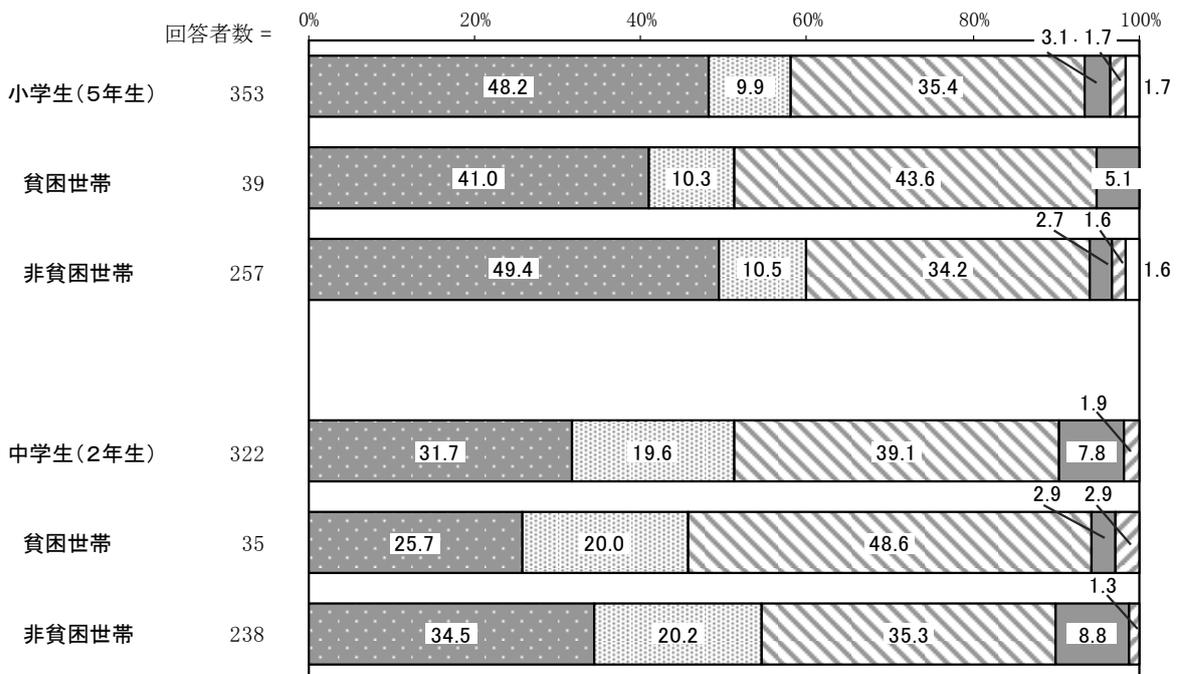
【貧困線別】

貧困線別でみると、非貧困世帯に比べ、貧困世帯で「ふつう」の割合が高くなっています。また、貧困世帯に比べ、非貧困世帯で“良い”の割合が高くなっています。



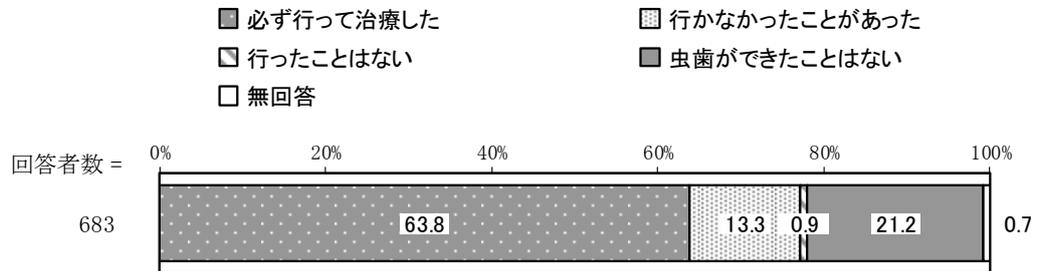
【子どもの学年別】

子どもの学年別でみると、小学生、中学生ともに、貧困世帯に比べ、非貧困世帯で“良い”の割合が高くなっています。



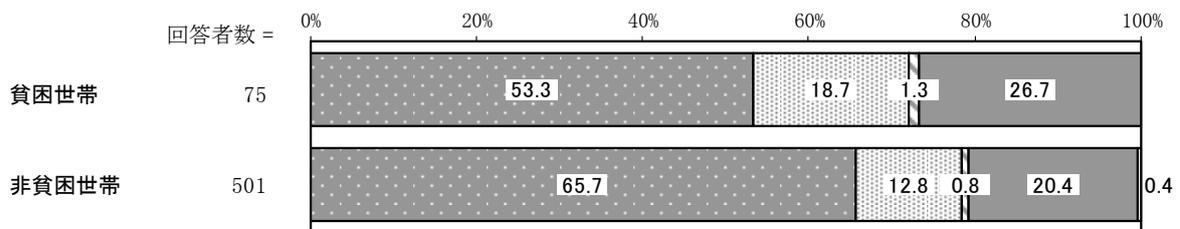
問 14 あなたは、今まで虫歯ができたとき、歯医者に行きましたか。
(あてはまるもの1つに○)

「必ず行って治療した」の割合が63.8%と最も高く、次いで「虫歯ができたことはない」の割合が21.2%、「行かなかったことがあった」の割合が13.3%となっています。



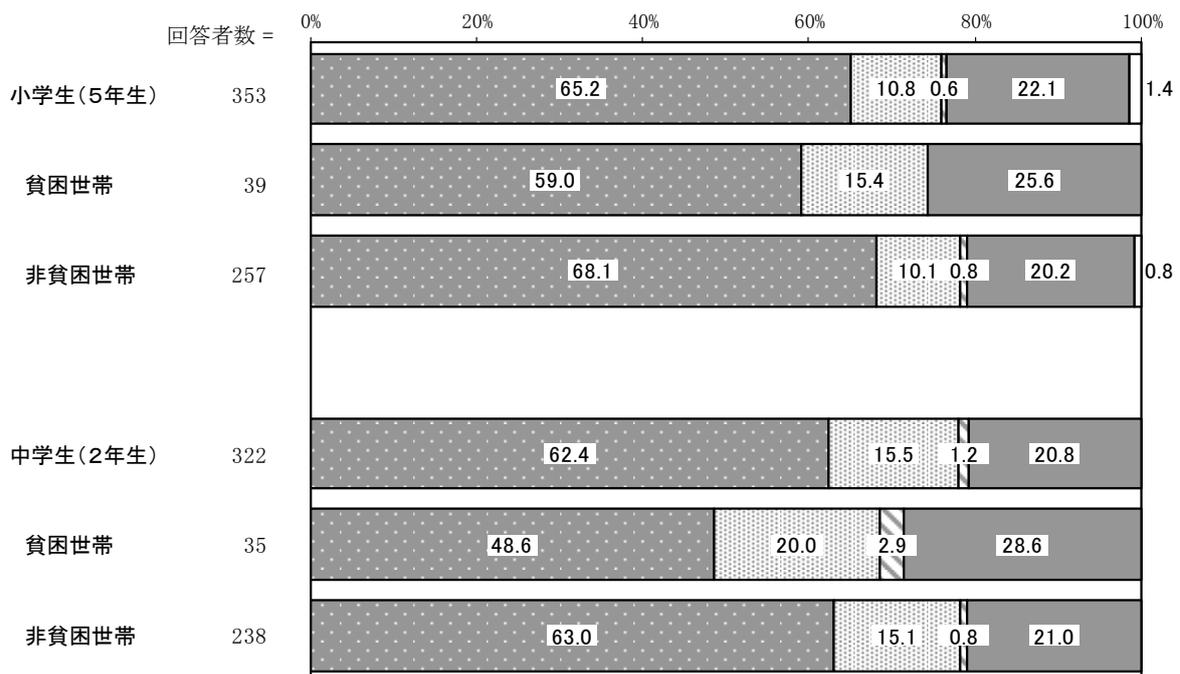
【貧困線別】

貧困線別でみると、非貧困世帯に比べ、貧困世帯で「行かなかったことがあった」「虫歯ができたことはない」の割合が高くなっています。一方、貧困世帯に比べ、非貧困世帯で「必ず行って治療した」の割合が高くなっています。



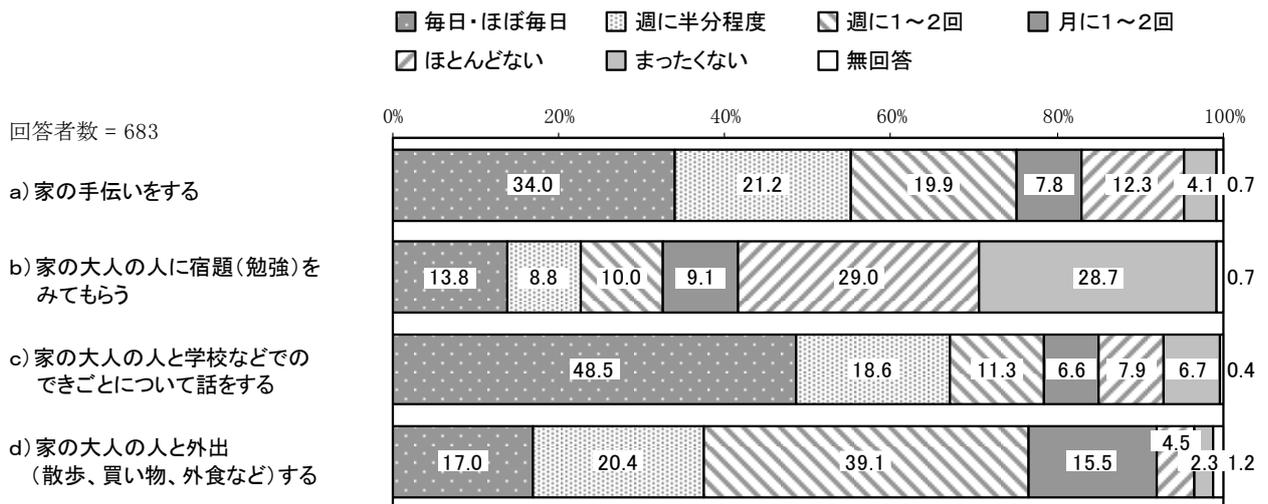
【子どもの学年別】

子どもの学年別でみると、他に比べ、中学生の貧困世帯で「行かなかったことがあった」の割合が高くなっています。また、小学生の非貧困世帯で「必ず行って治療した」の割合が高くなっています。



問 15 あなたは、ふだん家で以下の a～d のことをどれくらいしていますか。
 (a～d それぞれについてあてはまるもの 1 つに○)

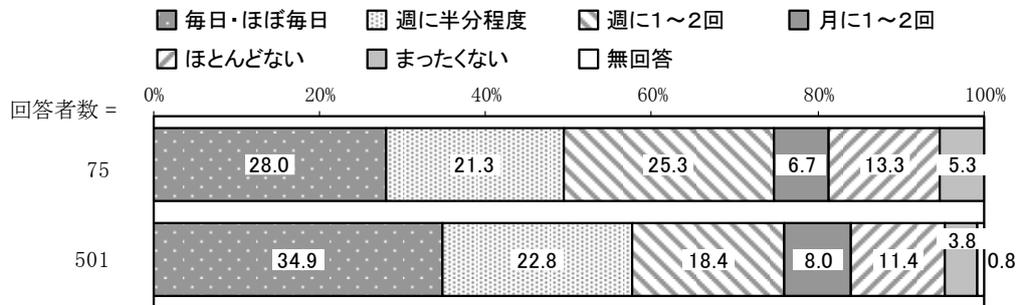
『c) 家の大人の人と学校などでのできごとについて話をする』で「毎日・ほぼ毎日」の割合が高く、約 5 割となっています。また、『b) 家の大人の人に宿題(勉強)をみてもらう』で「ほとんどない」「まったくない」の割合が高く、約 3 割ずつとなっています。『d) 家の大人の人と外出(散歩、買い物、外食など)する』では、「週に 1～2 回」の割合が高く、約 4 割となっています。



a) 家の手伝いをする

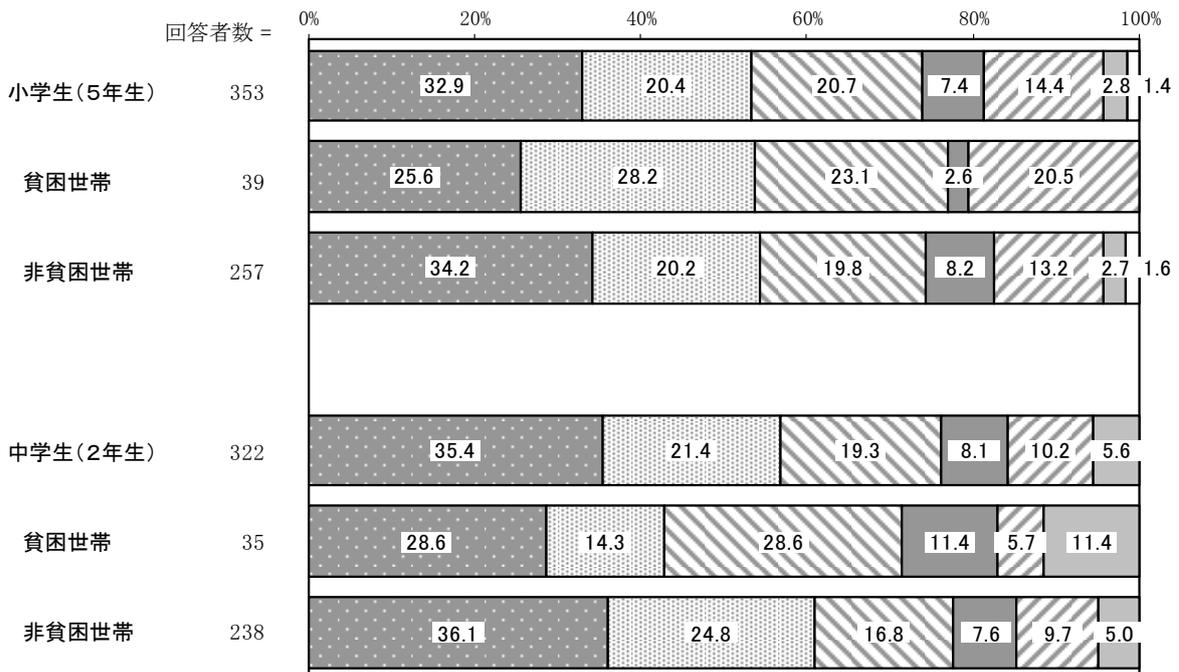
【貧困線別】

貧困線別でみると、非貧困世帯に比べ、貧困世帯で「週に1～2回」の割合が高くなっています。一方、貧困世帯に比べ、非貧困世帯で「毎日・ほぼ毎日」の割合が高くなっています。



【子どもの学年別】

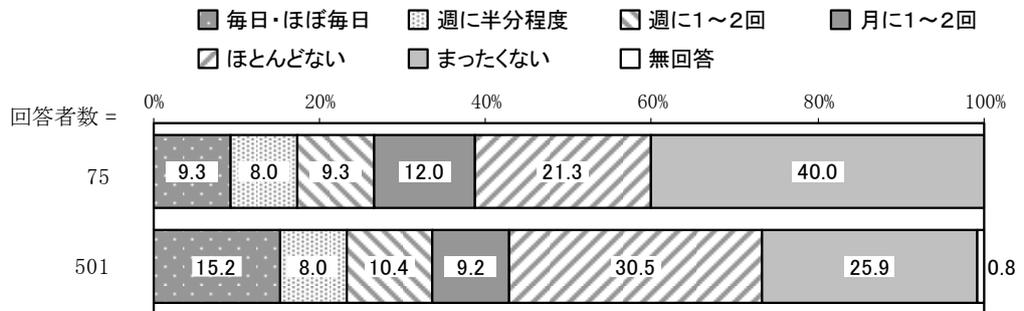
子どもの学年別でみると、小学生、中学生ともに、貧困世帯に比べ、非貧困世帯で「毎日・ほぼ毎日」の割合が高くなっています。また、他に比べ、中学生の貧困世帯で「まったくない」の割合が高くなっています。



b) 家の大人の人に宿題（勉強）をみてもらう

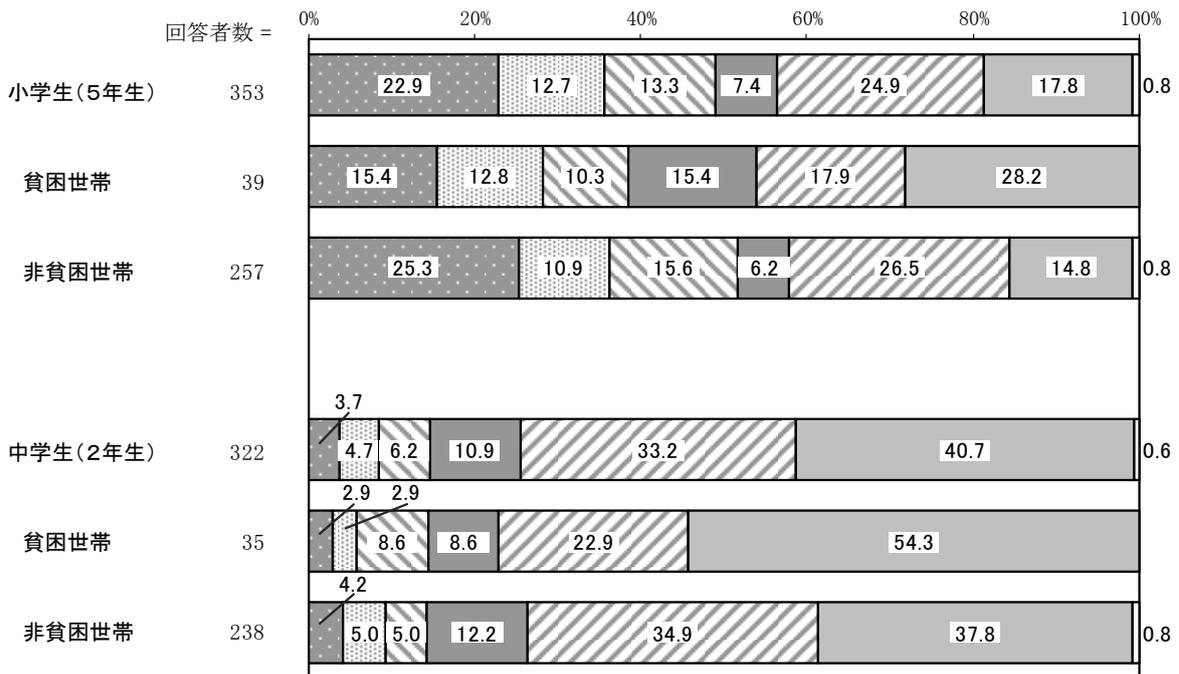
【貧困線別】

貧困線別でみると、非貧困世帯に比べ、貧困世帯で「まったくない」の割合が高くなっています。一方、貧困世帯に比べ、非貧困世帯で「毎日・ほぼ毎日」「ほとんどない」の割合が高くなっています。



【子どもの学年別】

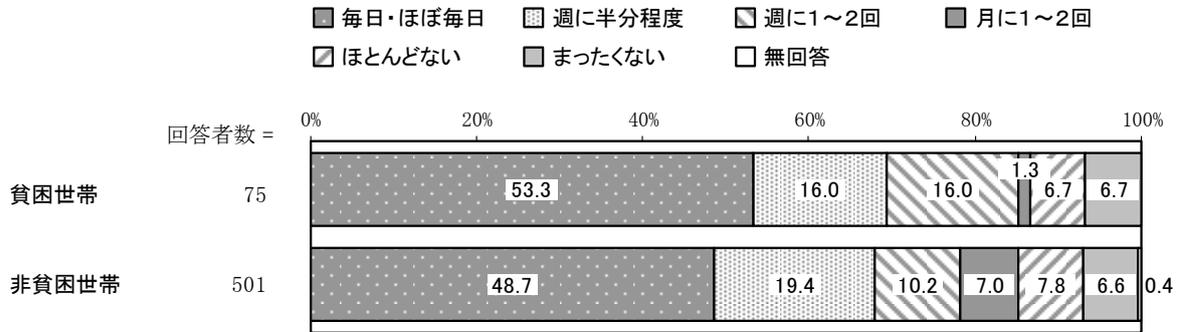
子どもの学年別でみると、他に比べ、小学生の非貧困世帯で「毎日・ほぼ毎日」の割合が高くなっています。また、中学生の貧困世帯で「まったくない」の割合が高くなっています。



c) 家の大人の人と学校などでのできごとについて話をする

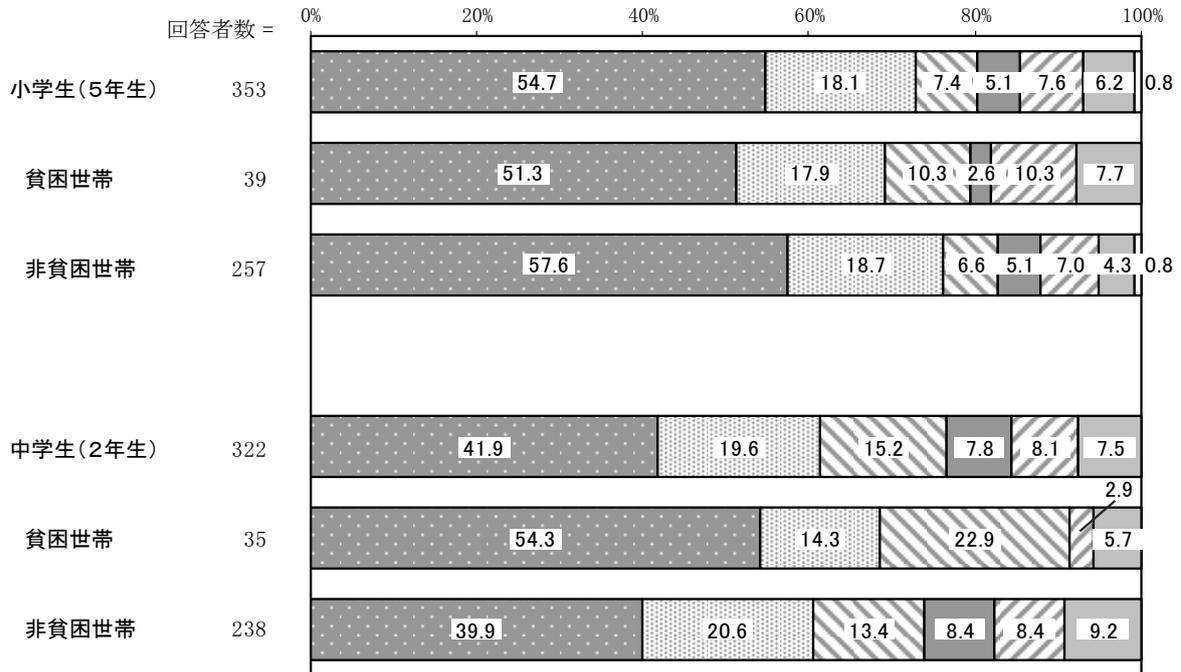
【貧困線別】

貧困線別で見ると、非貧困世帯に比べ、貧困世帯で「週に1～2回」の割合が高くなっています。一方、貧困世帯に比べ、非貧困世帯で「月に1～2回」の割合が高くなっています。



【子どもの学年別】

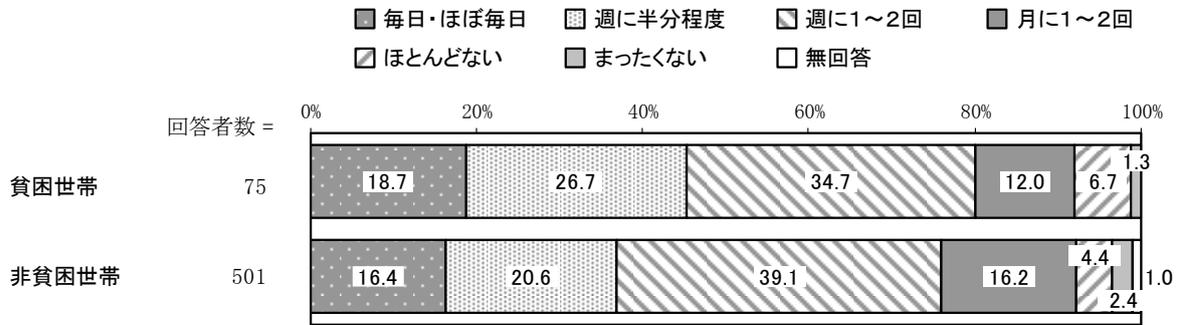
子どもの学年別で見ると、他に比べ、小学生の非貧困世帯で「毎日・ほぼ毎日」の割合が高くなっています。また、中学生の貧困世帯で「週に1～2回」の割合が高くなっています。



d) 家の大人の人と外出（散歩、買い物、外食など）する

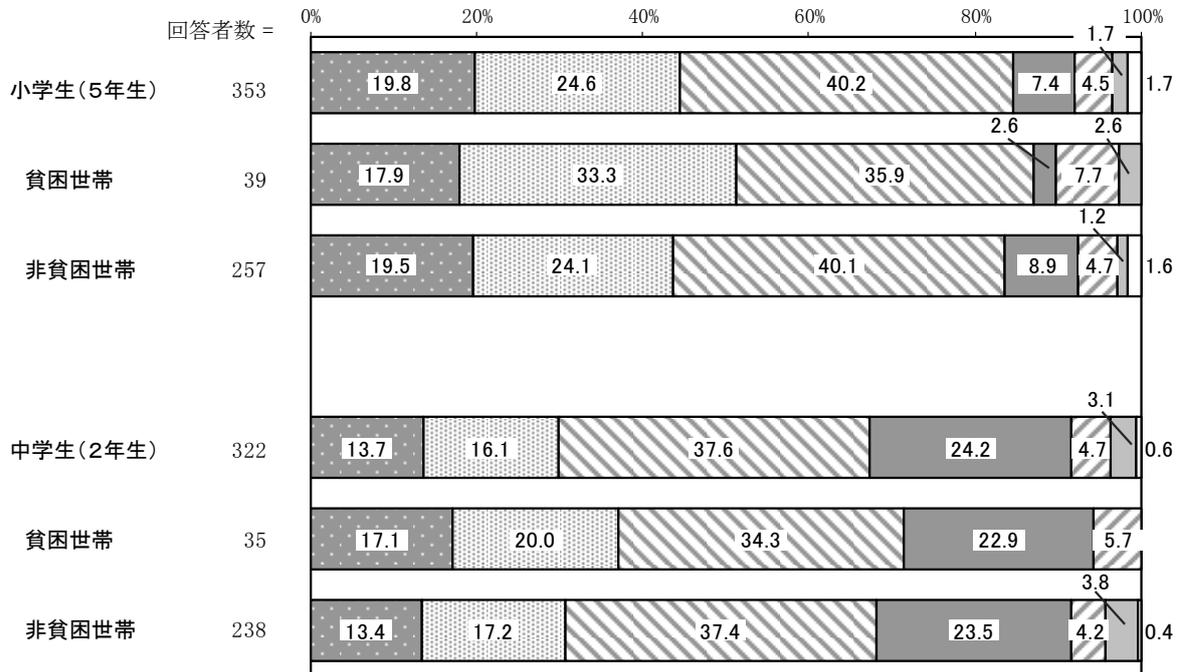
【貧困線別】

貧困線別でみると、非貧困世帯に比べ、貧困世帯で「週に半分程度」の割合が高くなっています。



【子どもの学年別】

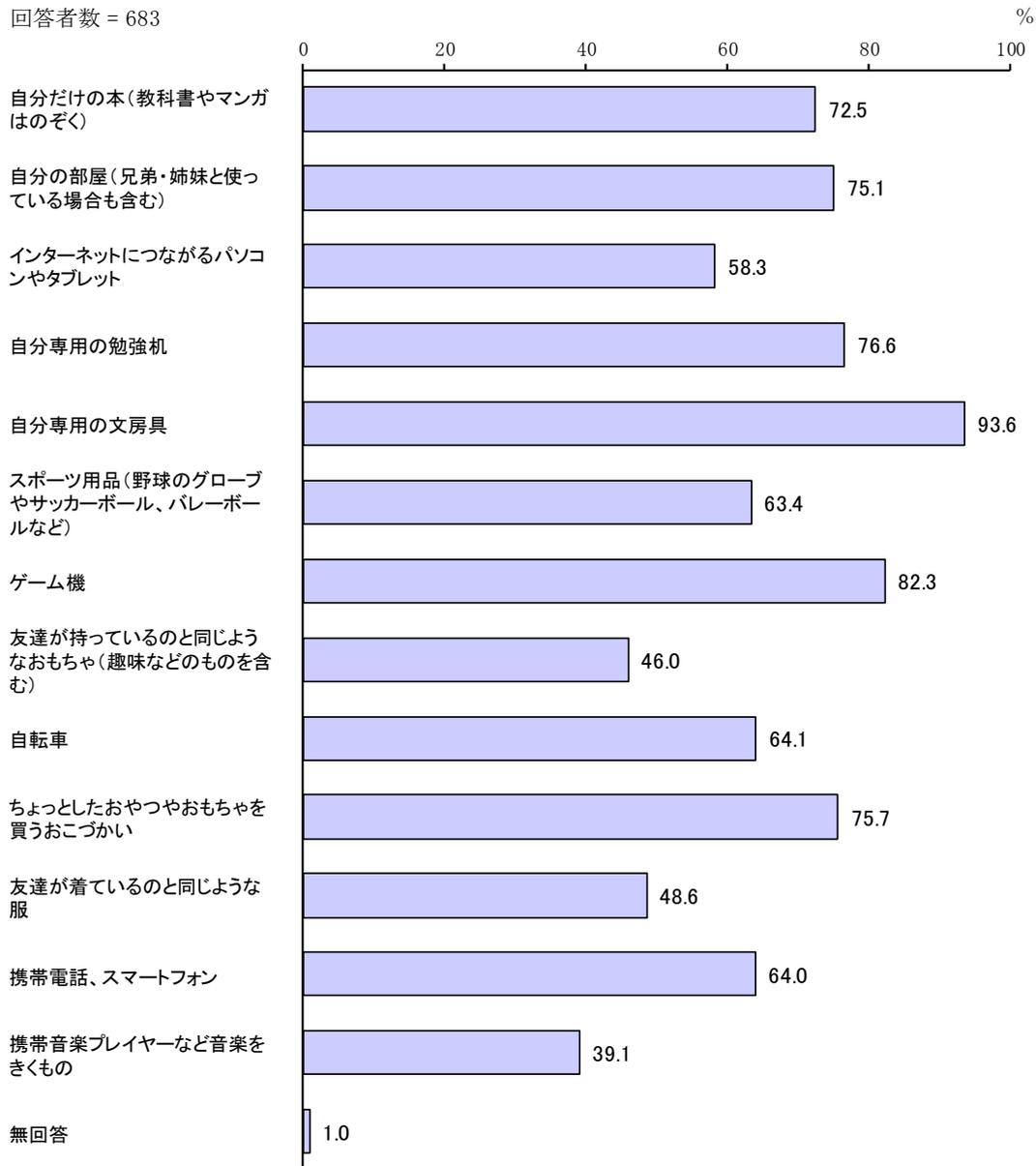
子どもの学年別でみると、他に比べ、小学生の貧困世帯で「週に半分程度」の割合が高くなっています。



問 16 あなたが持っているものや、あなたが使うことができるものを選んでください。
(あてはまるものすべてに○)

「自分専用の文房具」の割合が93.6%と最も高く、次いで「ゲーム機」の割合が82.3%、「自分専用の勉強机」の割合が76.6%となっています。

回答者数 = 683



【貧困線別】

貧困線別でみると、貧困世帯に比べ、非貧困世帯で「自分だけの本(教科書やマンガはのぞく)」「自分の部屋(兄弟・姉妹と使っている場合も含む)」「インターネットにつながるパソコンやタブレット」「スポーツ用品(野球のグローブやサッカーボール、バレーボールなど)」「友達を持っているのと同じようなおもちゃ(趣味などのものを含む)」「自転車」「友達を着ているのと同じような服」「携帯電話、スマートフォン」「携帯音楽プレイヤーなど音楽をきくもの」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	自分だけの本(教科書やマンガはのぞく)	自分の部屋(兄弟・姉妹と使っている場合も含む)	インターネットにつながるパソコンやタブレット	自分専用の勉強机	自分専用の文房具	スポーツ用品(野球のグローブやサッカーボール、バレーボールなど)	ゲーム機	友達を持っているのと同じようなおもちゃ(趣味などのものを含む)	自転車	ちよつとしたおやつやおもちゃを買うおこづかい	友達を着ているのと同じような服	携帯電話、スマートフォン	携帯音楽プレイヤーなど音楽をきくもの	無回答
貧困世帯	75	62.7	70.7	52.0	74.7	90.7	48.0	81.3	37.3	53.3	73.3	36.0	60.0	32.0	1.3
非貧困世帯	501	74.5	76.6	59.3	77.2	93.6	64.9	82.0	48.7	66.5	77.0	51.9	65.1	39.9	1.0

【子どもの学年別】

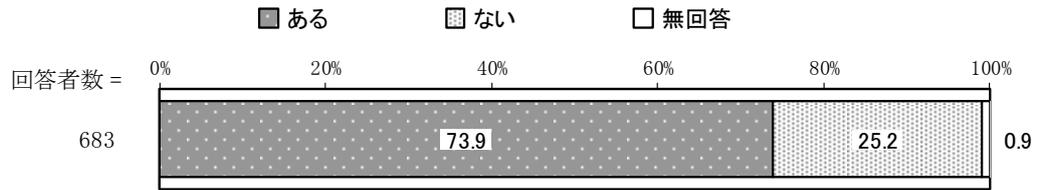
子どもの学年別でみると、小学生、中学生ともに、貧困世帯に比べ、非貧困世帯で「自分だけの本（教科書やマンガはのぞく）」「自分の部屋（兄弟・姉妹と使っている場合も含む）」「スポーツ用品（野球のグローブやサッカーボール、バレーボールなど）」「友達が持っているのと同じようなおもちゃ（趣味などのものを含む）」「自転車」「友達を着ているのと同じような服」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	自分だけの本（教科書やマンガはのぞく）	自分の部屋（兄弟・姉妹と使っている場合も含む）	インターネットにつながるパソコンやタブレット	自分専用の勉強机	自分専用の文房具	スポーツ用品（野球のグローブやサッカーボール、バレーボールなど）	ゲーム機	友達を持っているのと同じようなおもちゃ（趣味などのものを含む）	自転車	ちよっとしたおやつやおもちゃを買うおこづかい	友達を着ているのと同じような服	携帯電話、スマートフォン	携帯音楽プレイヤーなど音楽をきくもの	無回答
小学生(5年生)	353	67.7	70.5	51.3	73.1	91.8	50.7	84.4	47.9	67.1	73.1	45.9	44.5	30.0	1.7
貧困世帯	39	53.8	69.2	33.3	69.2	89.7	30.8	82.1	41.0	53.8	74.4	28.2	35.9	17.9	2.6
非貧困世帯	257	70.0	72.4	53.7	75.1	91.8	52.9	84.0	49.8	70.0	73.9	49.8	46.7	31.1	1.6
中学生(2年生)	322	77.3	79.8	66.5	80.4	96.0	77.3	80.1	44.4	59.9	78.9	51.9	84.5	50.0	0.3
貧困世帯	35	71.4	74.3	74.3	82.9	94.3	68.6	80.0	34.3	51.4	71.4	45.7	85.7	48.6	—
非貧困世帯	238	79.0	80.7	66.0	79.4	95.8	77.7	79.8	48.3	61.8	80.7	54.6	84.0	50.4	0.4

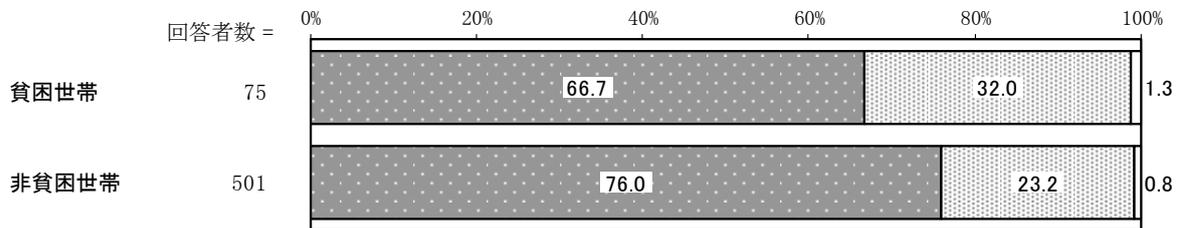
問 17 あなたは、将来の夢がありますか。(あてはまるもの1つに○)

「ある」の割合が73.9%、「ない」の割合が25.2%となっています。



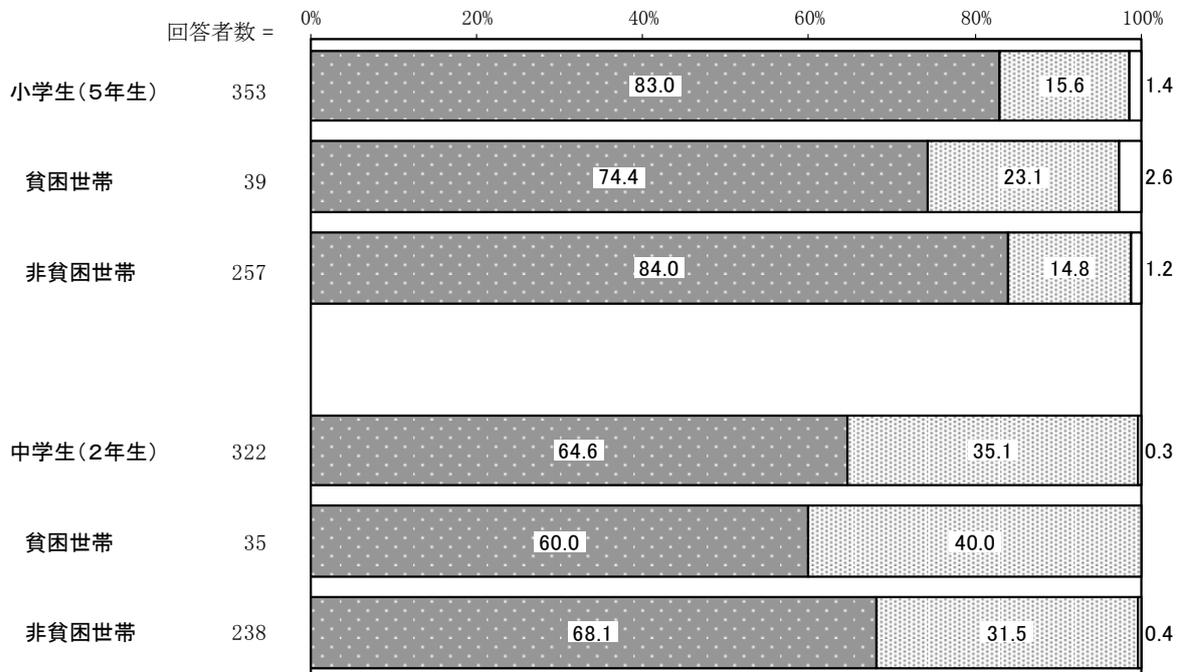
【貧困線別】

貧困線別でみると、非貧困世帯に比べ、貧困世帯で「ない」の割合が高くなっています。一方、貧困世帯に比べ、非貧困世帯で「ある」の割合が高くなっています。



【子どもの学年別】

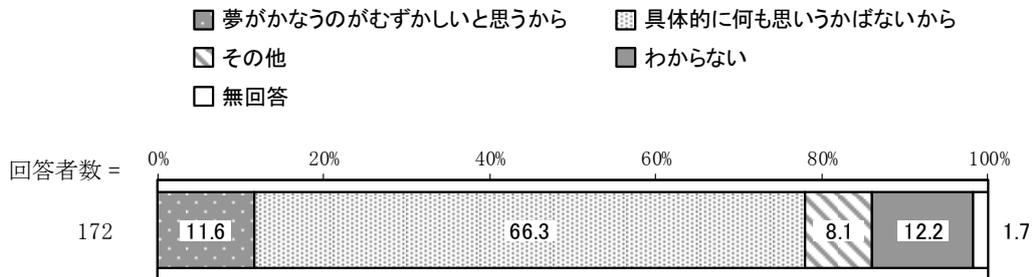
子どもの学年別でみると、小学生、中学生ともに、貧困世帯に比べ、非貧困世帯で「ある」の割合が高くなっています。



問 17 で「ない」と答えた人にお聞きします。

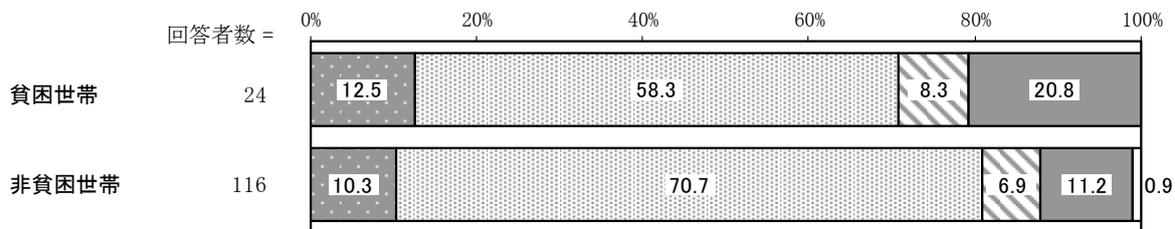
問 17-1 夢がない理由はなんですか。(あてはまるもの1つに○)

「具体的に何も思いうかばないから」の割合が 66.3%と最も高く、次いで「わからない」の割合が 12.2%、「夢がかなうのがむずかしいと思うから」の割合が 11.6%となっています。



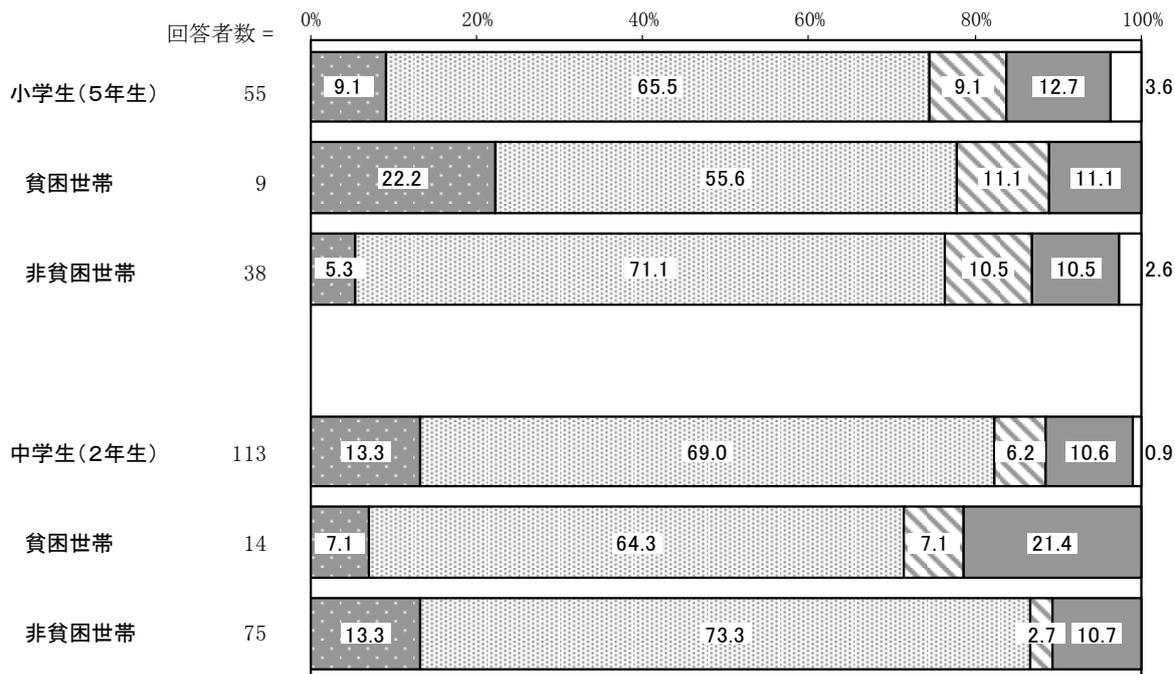
【貧困線別】

貧困線別でみると、貧困世帯に比べ、非貧困世帯で「具体的に何も思いうかばないから」の割合が高くなっています。



【子どもの学年別】

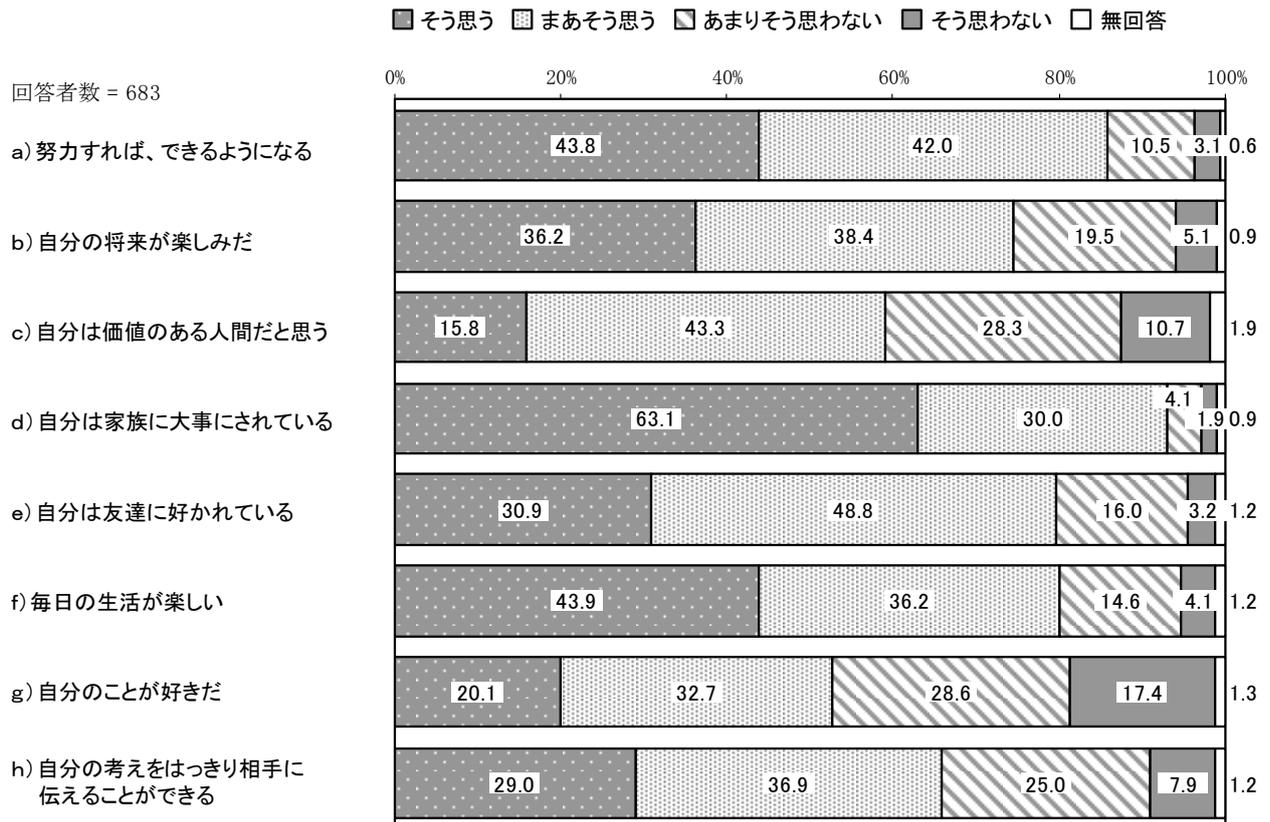
子どもの学年別でみると、小学生、中学生ともに、貧困世帯に比べ、非貧困世帯で「具体的に何も思いうかばないから」の割合が高くなっています。



問 18 あなたが日常生活の中で感じていることについて、教えてください。
 (a～hそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

『a) 努力すれば、できるようになる』『d) 自分は家族に大切にされている』『f) 毎日の生活が楽しい』で「そう思う」と「まあそう思う」をあわせた“そう思う”の割合が高く、8割を超えています。

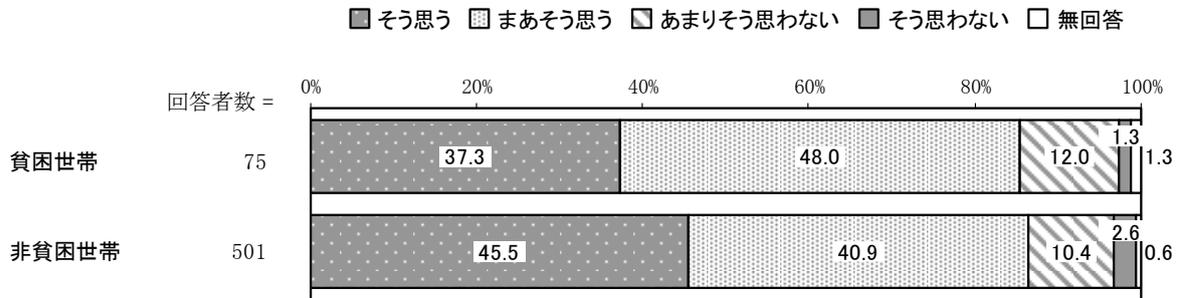
一方、『g) 自分のことが好きだ』で「あまりそう思わない」と「そう思わない」をあわせた“そう思わない”の割合が高く、4割台半ばとなっています。



a) 努力すれば、できるようになる

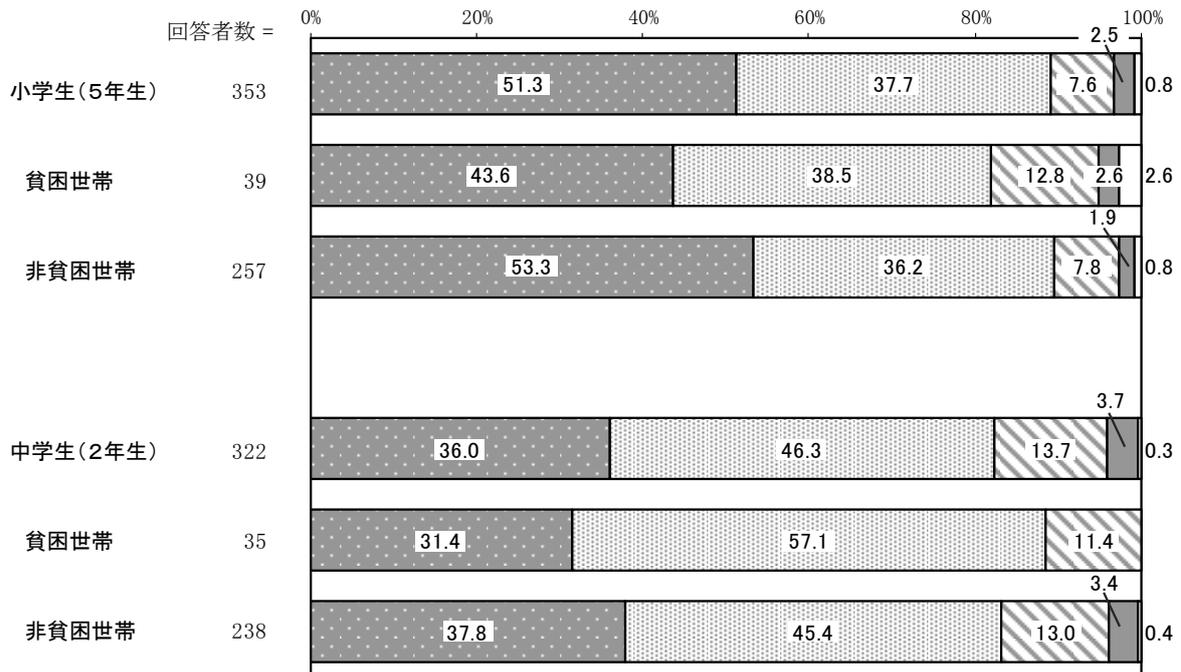
【貧困線別】

貧困線別で見ると、非貧困世帯に比べ、貧困世帯で「まあそう思う」の割合が高くなっています。一方、貧困世帯に比べ、非貧困世帯で「そう思う」の割合が高くなっています。



【子どもの学年別】

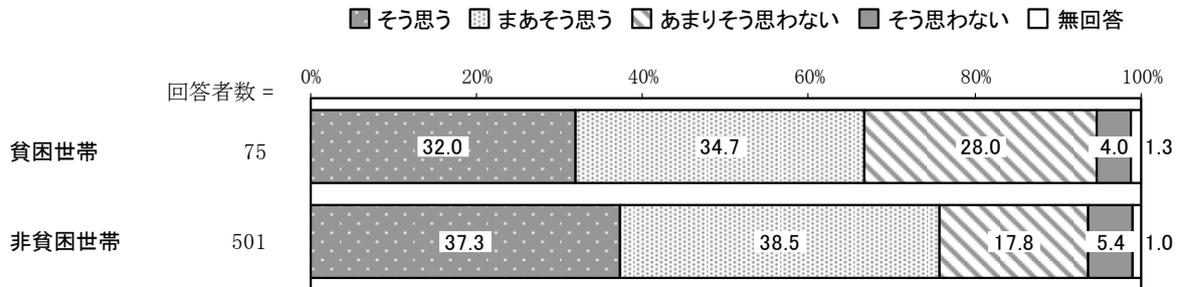
子どもの学年別で見ると、小学生では、貧困世帯に比べ、非貧困世帯で“そう思う”の割合が高くなっています。一方、中学生では、非貧困世帯に比べ、貧困世帯で“そう思う”の割合が高くなっています。



b) 自分の将来が楽しみだ

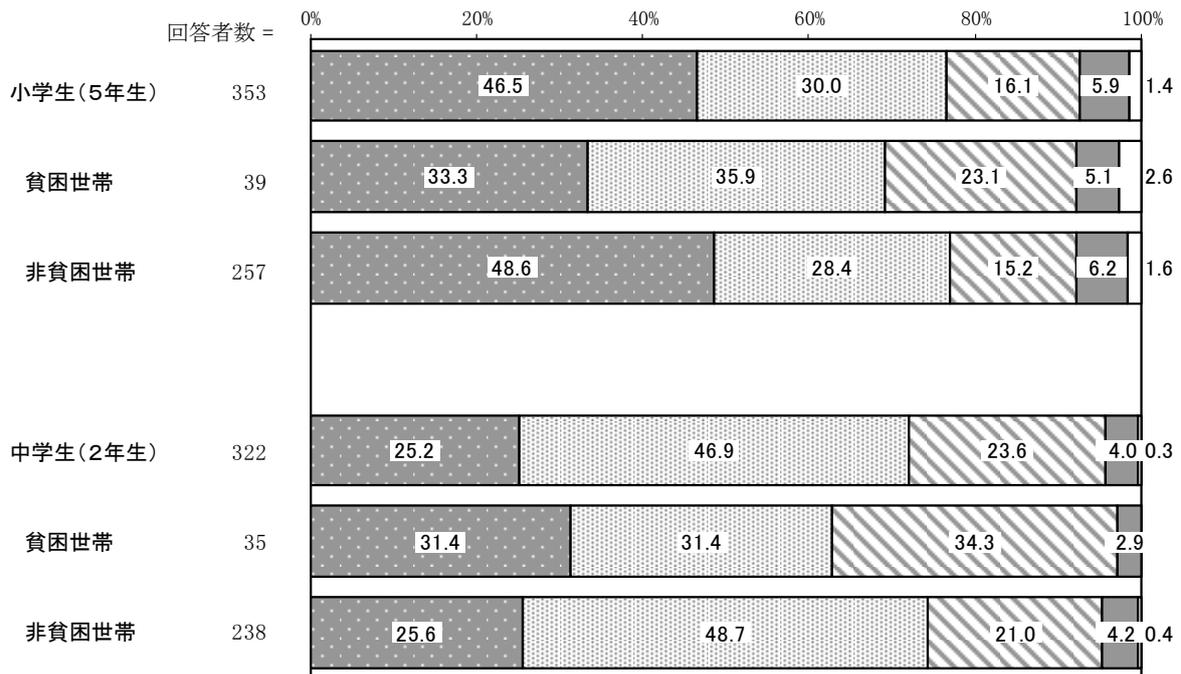
【貧困線別】

貧困線別で見ると、非貧困世帯に比べ、貧困世帯で“そう思わない”の割合が高くなっています。一方、貧困世帯に比べ、非貧困世帯で“そう思う”の割合が高くなっています。



【子どもの学年別】

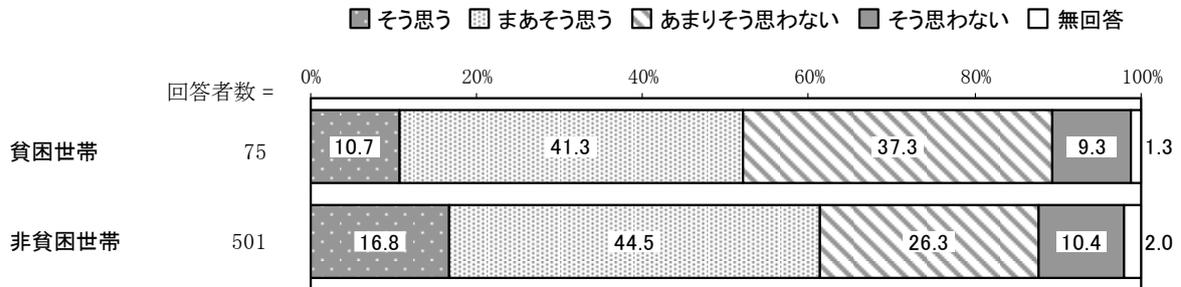
子どもの学年別で見ると、小学生、中学生ともに、貧困世帯に比べ、非貧困世帯で“そう思う”の割合が高くなっています。



c) 自分は価値のある人間だと思う

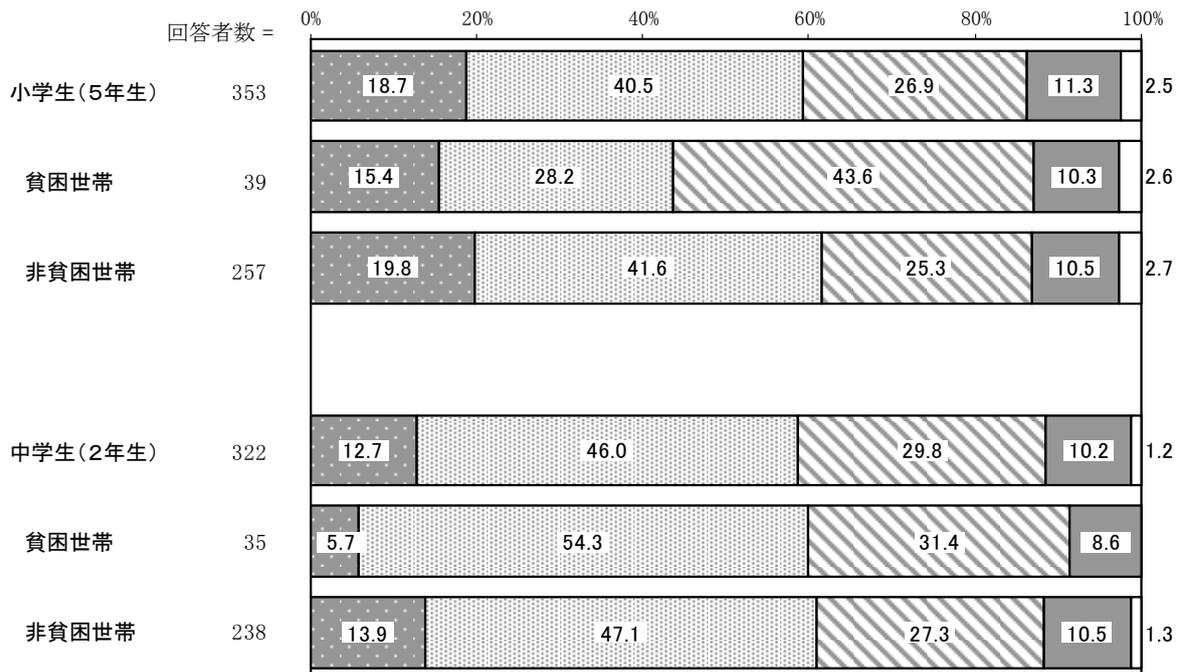
【貧困線別】

貧困線別でみると、非貧困世帯に比べ、貧困世帯で“そう思わない”の割合が高くなっています。一方、貧困世帯に比べ、非貧困世帯で“そう思う”の割合が高くなっています。



【子どもの学年別】

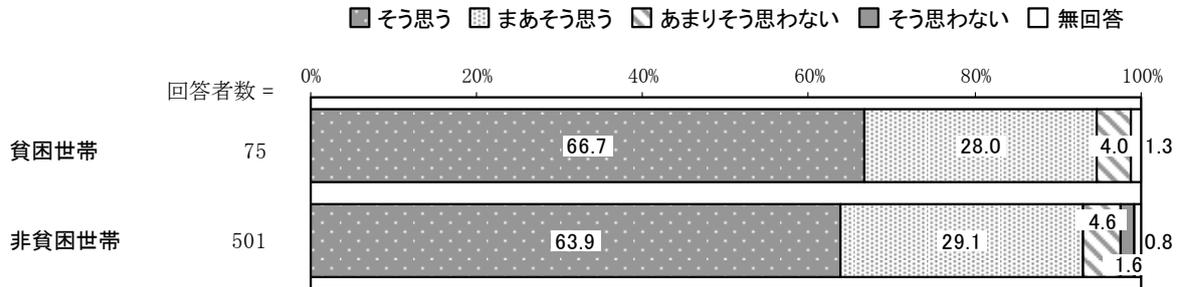
子どもの学年別でみると、他に比べ、小学生の貧困世帯で“そう思わない”の割合が高くなっています。



d) 自分は家族に大事にされている

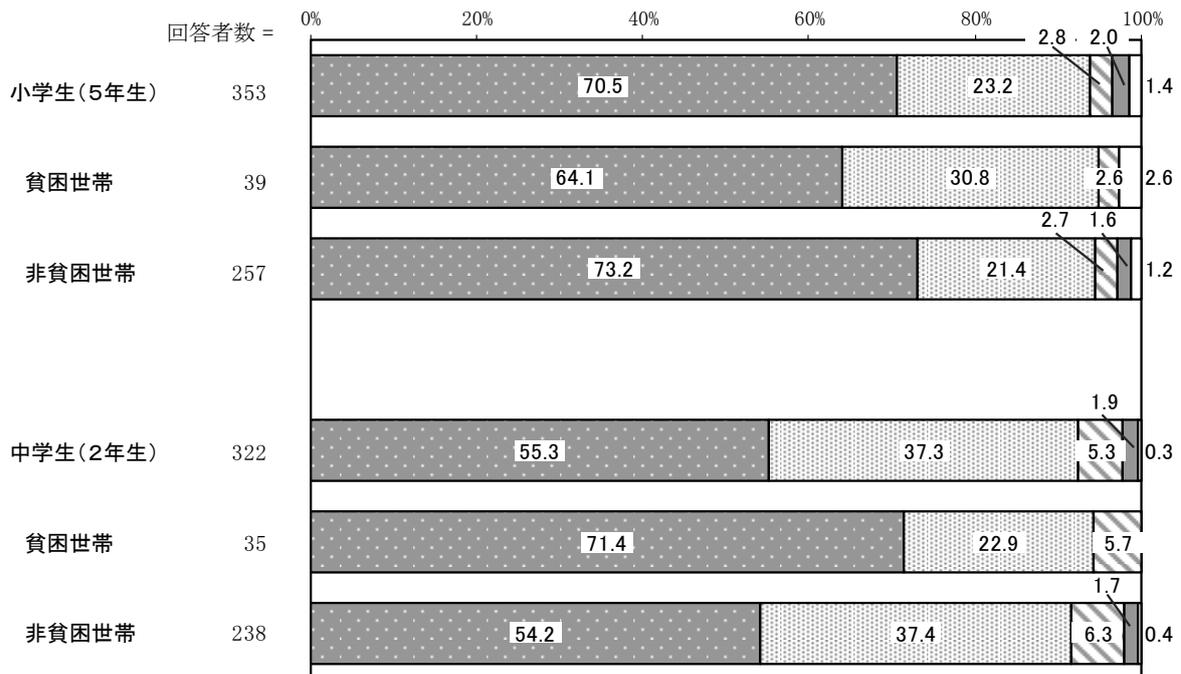
【貧困線別】

貧困線別でみると、大きな差異はみられません。



【子どもの学年別】

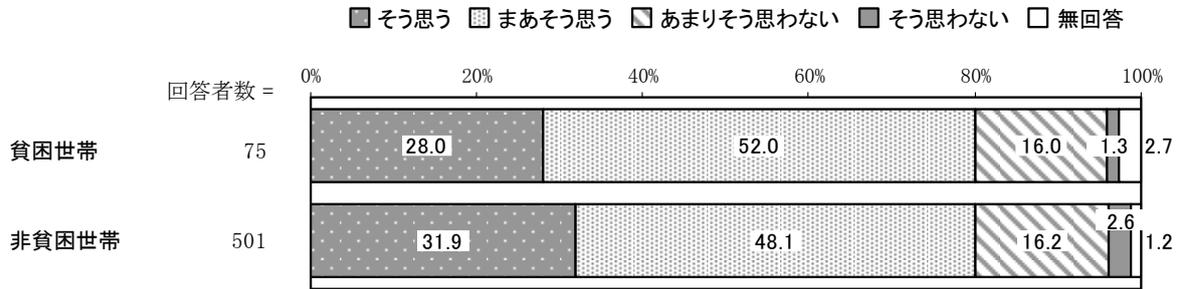
子どもの学年別でみると、大きな差異はみられません。



e) 自分は友達に好かれている

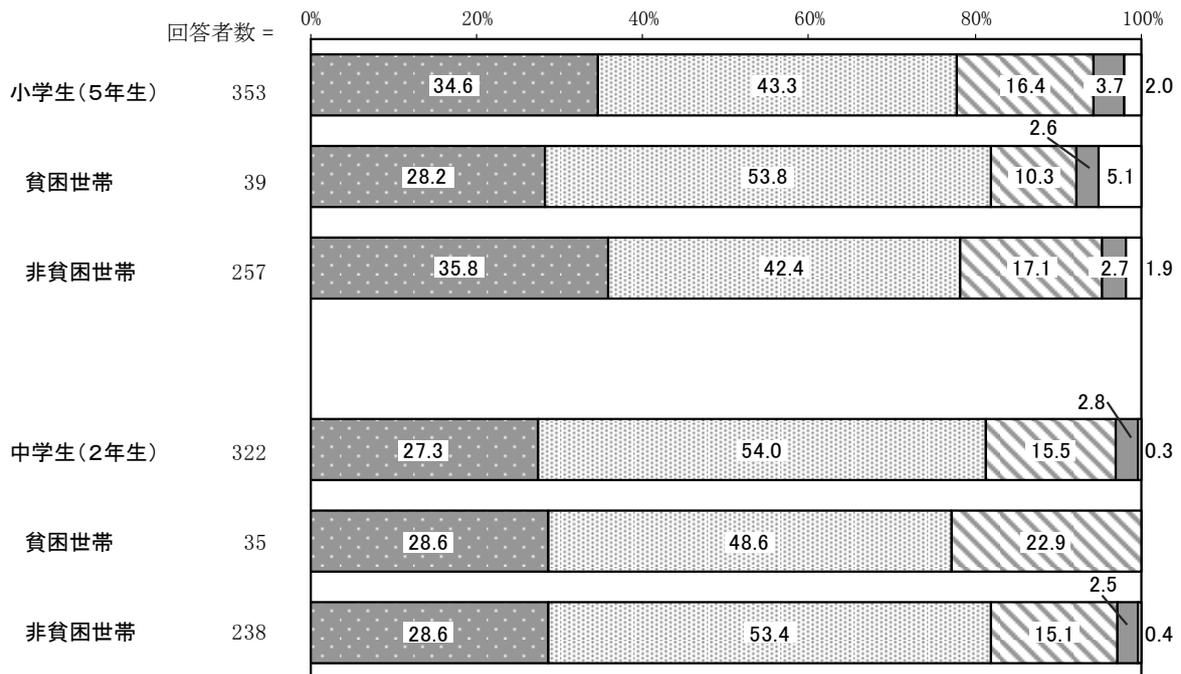
【貧困線別】

貧困線別でみると、大きな差異はみられません。



【子どもの学年別】

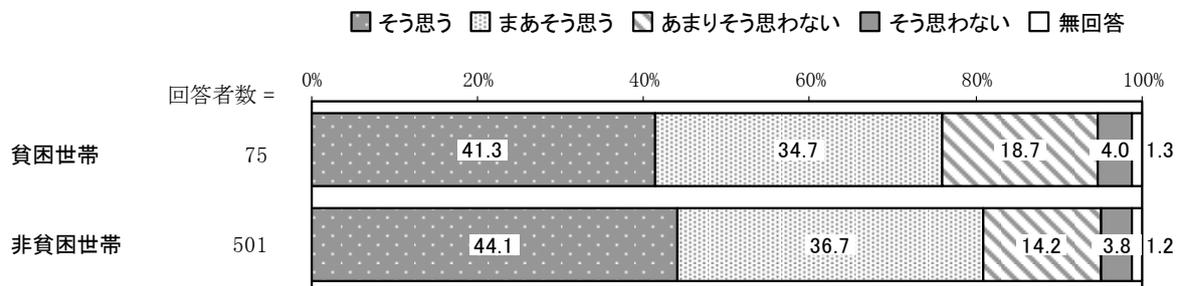
子どもの学年別でみると、他に比べ、中学生の貧困世帯で“そう思わない”の割合が高くなっています。



f) 毎日の生活が楽しい

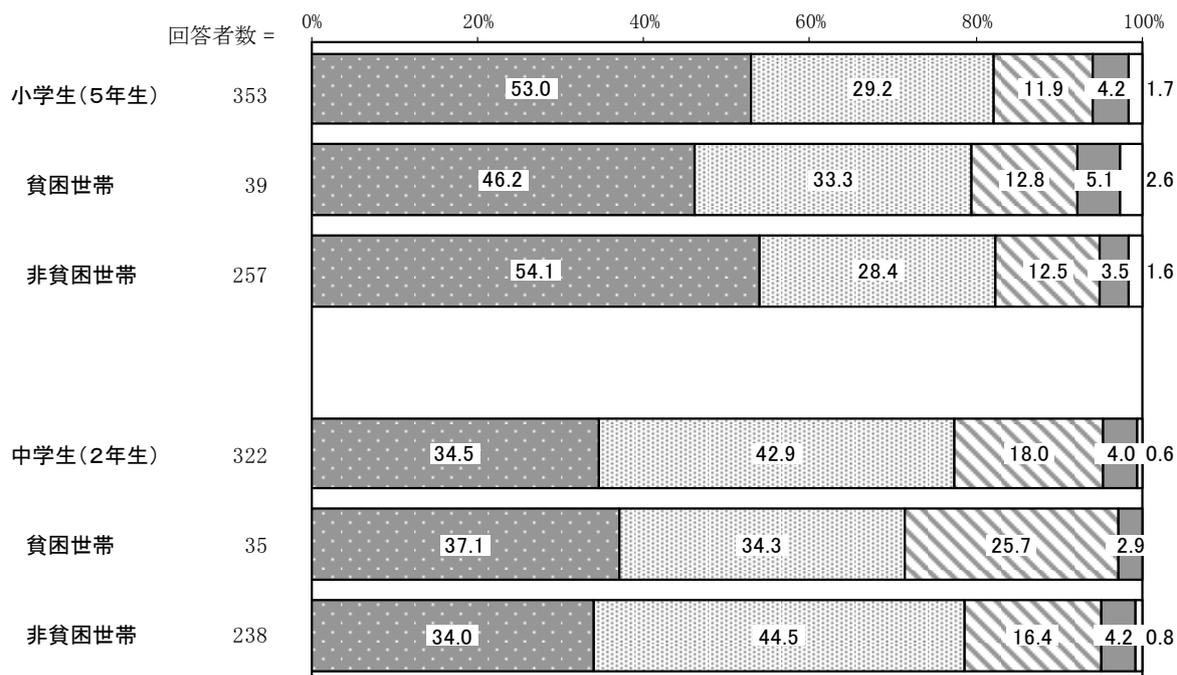
【貧困線別】

貧困線別でみると、大きな差異はみられません。



【子どもの学年別】

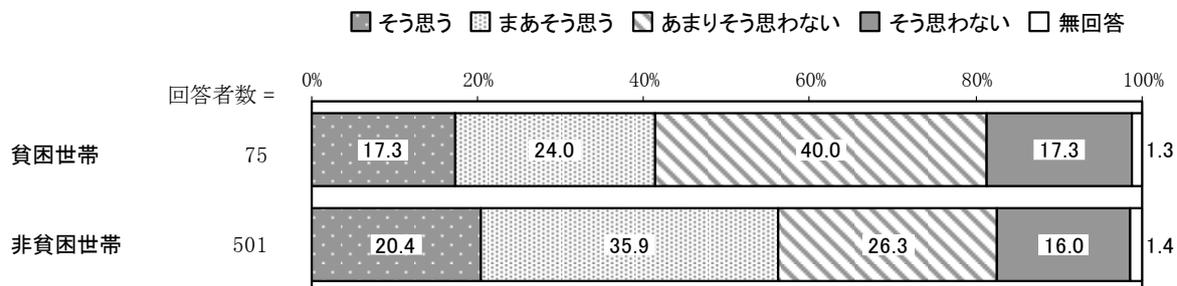
子どもの学年別でみると、他に比べ、中学生の貧困世帯で“そう思わない”の割合が高くなっています。



g) 自分のことが好きだ

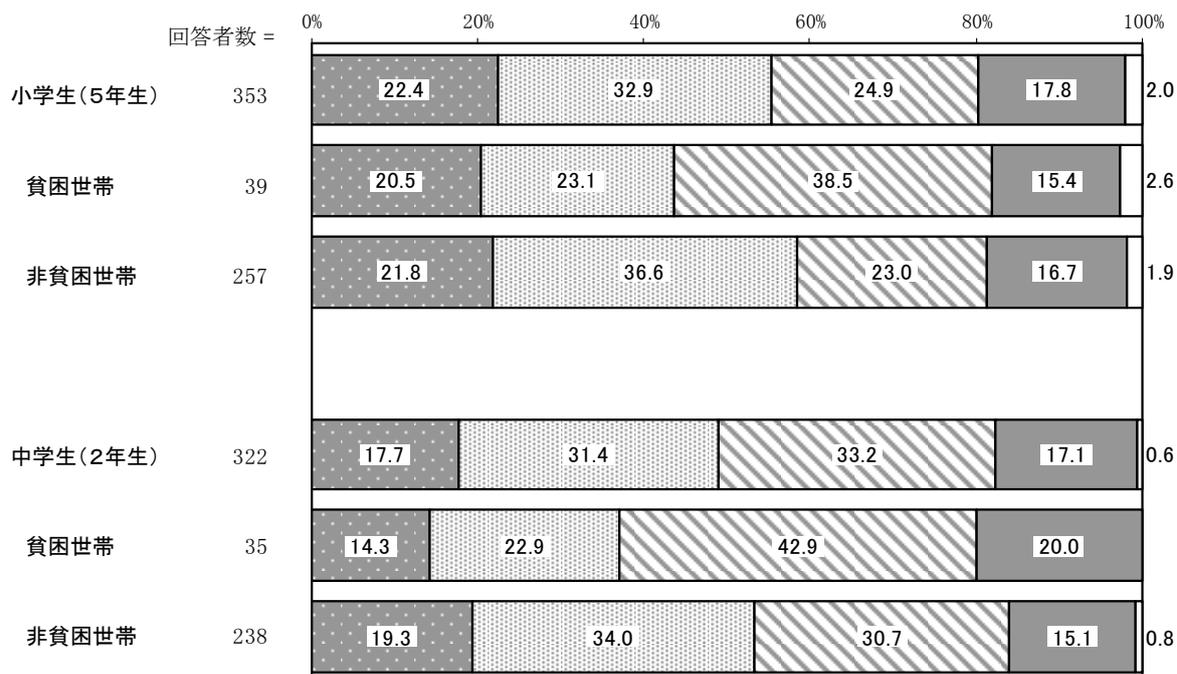
【貧困線別】

貧困線別でみると、非貧困世帯に比べ、貧困世帯で「あまりそう思わない」の割合が高くなっています。一方、貧困世帯に比べ、非貧困世帯で「まあそう思う」の割合が高くなっています。



【子どもの学年別】

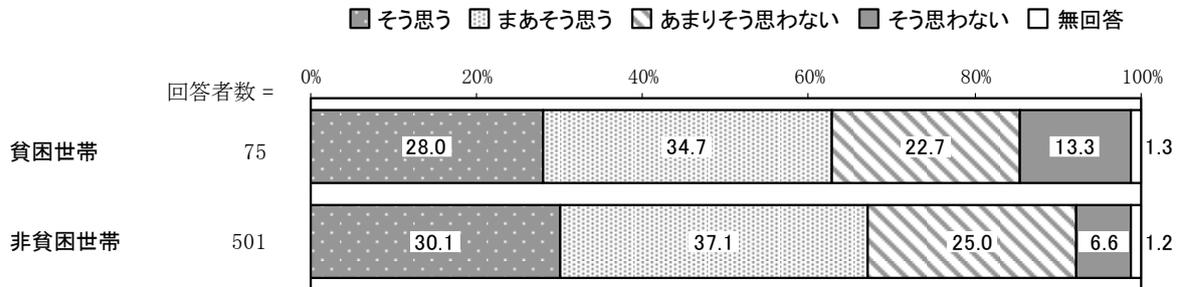
子どもの学年別でみると、小学生、中学生ともに、貧困世帯に比べ、非貧困世帯で“そう思う”の割合が高くなっています。



h) 自分の考えをはっきり相手に伝えることができる

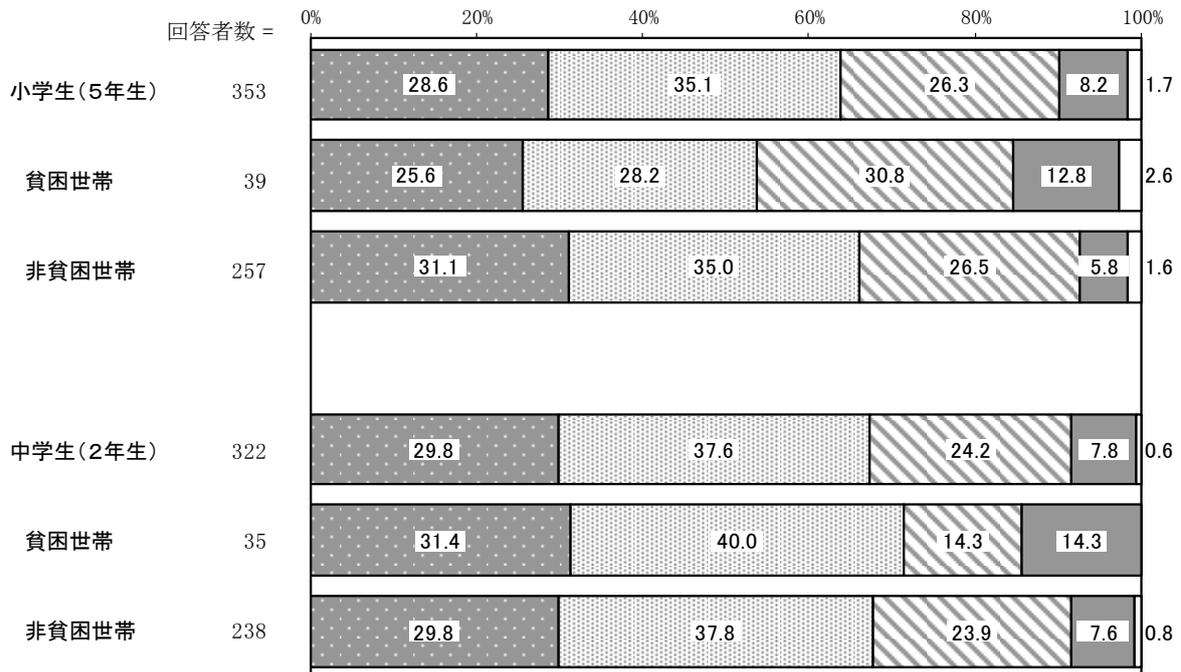
【貧困線別】

貧困線別で見ると、非貧困世帯に比べ、貧困世帯で“そう思わない”の割合が高くなっています。



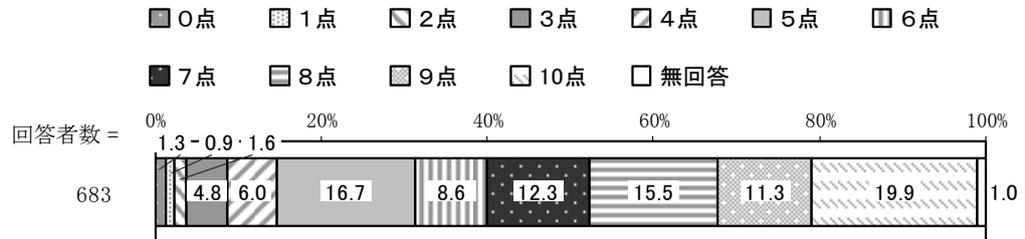
【子どもの学年別】

子どもの学年別で見ると、他に比べ、小学生の貧困世帯で“そう思わない”の割合が高くなっています。



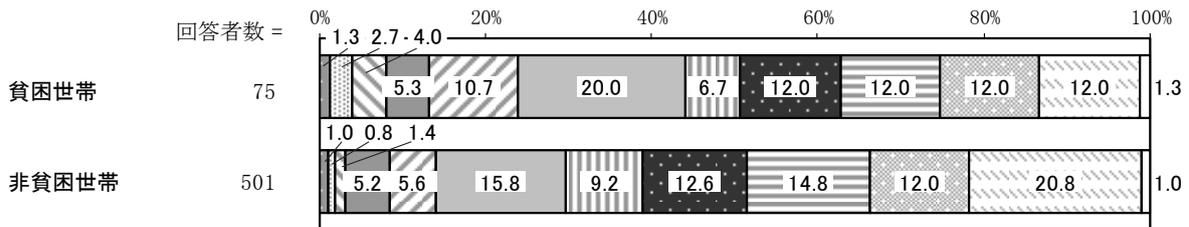
問 19 全体として、あなたは最近の生活に、どのくらい満足していますか。「0」（まったく満足していない）から「10」（十分に満足している）の数字で教えてください。（あてはまるもの1つに○）

「10点」の割合が19.9%と最も高く、次いで「5点」の割合が16.7%、「8点」の割合が15.5%となっています。



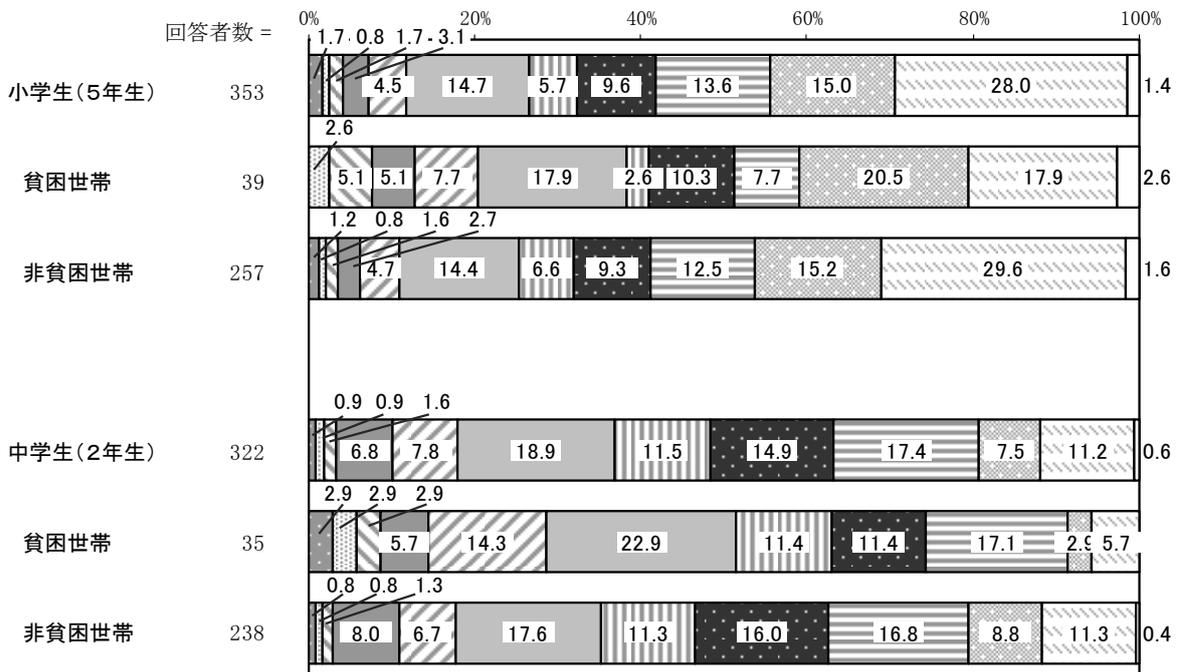
【貧困線別】

貧困線別で見ると、非貧困世帯に比べ、貧困世帯で「4点」の割合が高くなっています。一方、貧困世帯に比べ、非貧困世帯で「10点」の割合が高くなっています。



【子どもの学年別】

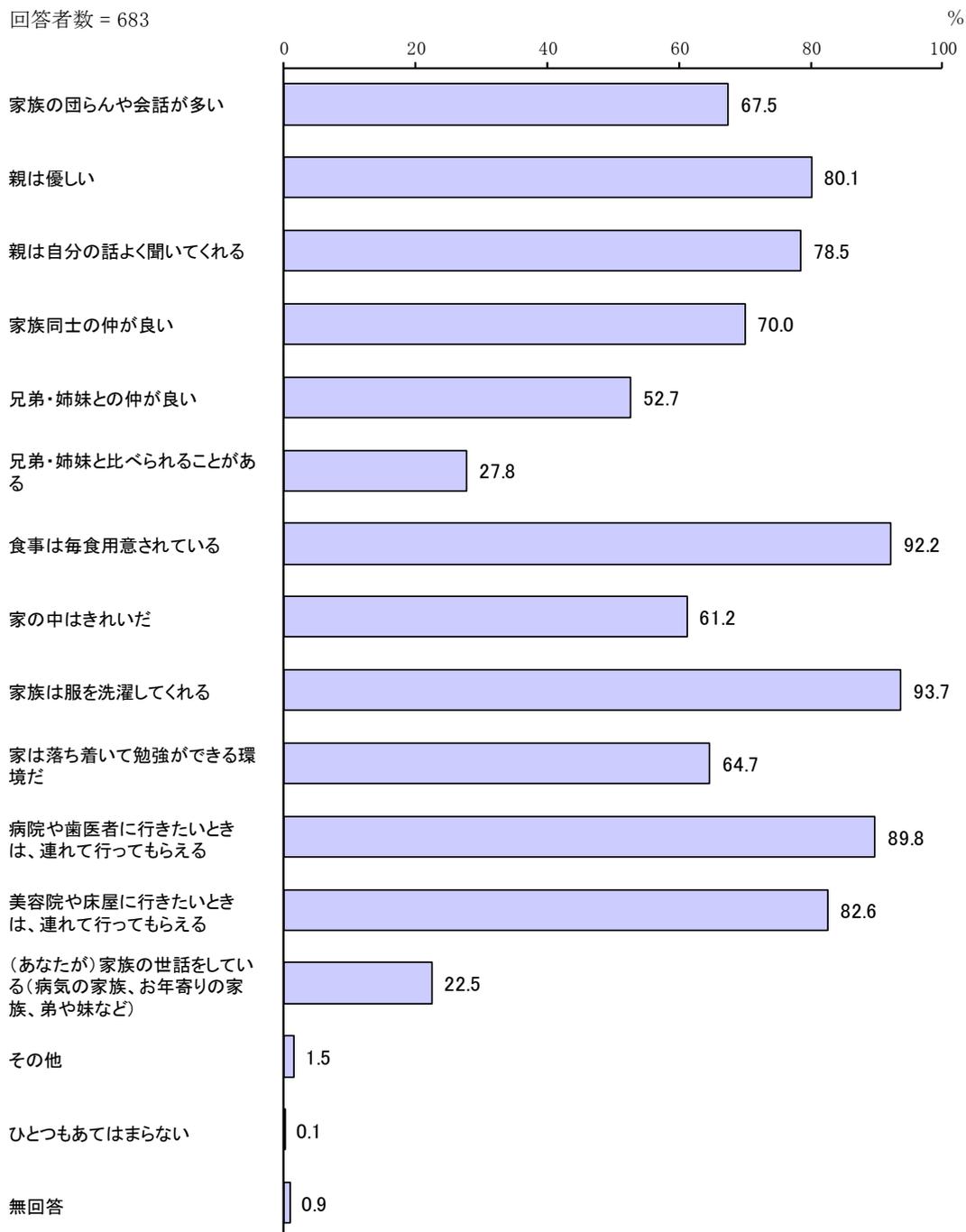
子どもの学年別で見ると、小学生、中学生ともに、貧困世帯に比べ、非貧困世帯で「10点」の割合が高くなっています。



問 20 あなたの家族や家庭の様子を教えてください。
 (1～14については、あてはまるものすべてに○)

「家族は服を洗濯してくれる」の割合が93.7%と最も高く、次いで「食事は毎食用意されている」の割合が92.2%、「病院や歯医者に行きたいときは、連れて行ってもらえる」の割合が89.8%となっています。

回答者数 = 683



【貧困線別】

貧困線別でみると、貧困世帯に比べ、非貧困世帯で「兄弟・姉妹との仲が良い」「兄弟・姉妹と比べられることがある」「家の中はきれいだ」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	家族の団らんや会話が多い	親は優しい	親は自分の話よく聞いてくれる	家族同士の仲が良い	兄弟・姉妹との仲が良い	兄弟・姉妹と比べられることがある	食事は毎食用意されている	家の中はきれいだ	家族は服を洗濯してくれる	家は落ち着いて勉強ができる環境だ	病院や歯医者に行きたいときは、連れて行ってもらえる	美容院や床屋に行きたいときは、連れて行ってもらえる	(あなたが)家族の世話をしている(病気の家族、お年寄りの家族、弟や妹など)	その他	ひとつもあてはまらない	無回答
貧困世帯	75	72.0	81.3	81.3	72.0	44.0	21.3	93.3	52.0	93.3	62.7	89.3	80.0	25.3	1.3	—	1.3
非貧困世帯	501	69.5	80.2	78.8	70.7	54.9	28.9	92.0	63.7	93.8	66.1	90.6	83.8	23.8	1.6	0.2	0.8

【子どもの学年別】

子どもの学年別でみると、他に比べ、小学生の貧困世帯で「家の中はきれいだ」の割合が低くなっています。また、中学生の貧困世帯で「兄弟・姉妹との仲が良い」の割合が低くなっています。

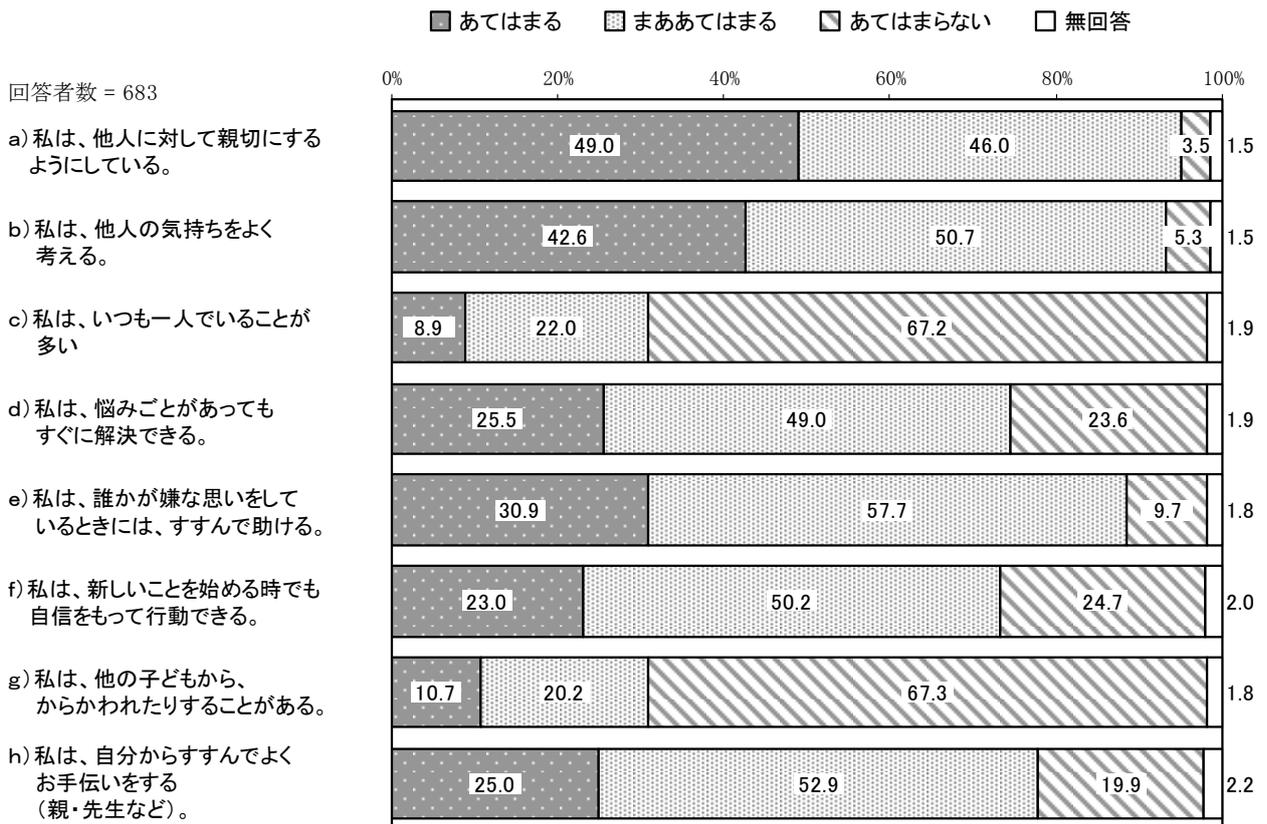
単位：％

区分	回答者数(件)	家族の団らんや会話が多い	親は優しい	親は自分の話よく聞いてくれる	家族同士の仲が良い	兄弟・姉妹との仲が良い	兄弟・姉妹と比べられることがある	食事は毎食用意されている	家の中はきれいだ	家族は服を洗濯してくれる	家は落ち着いて勉強ができる環境だ	病院や歯医者に行きたいときは、連れて行ってもらえる	美容院や床屋に行きたいときは、連れて行ってもらえる	(あなたが)家族の世話をしている(病気の家族、お年寄りの家族、弟や妹など)	その他	ひとつもあてはまらない	無回答
小学生(5年生)	353	63.5	81.9	78.8	69.4	52.1	23.8	93.5	56.9	94.3	65.7	87.3	79.6	22.9	1.4	0.3	1.4
貧困世帯	39	74.4	82.1	84.6	69.2	51.3	20.5	94.9	43.6	92.3	66.7	87.2	76.9	23.1	2.6	—	2.6
非貧困世帯	257	65.0	82.9	80.2	71.6	53.3	24.5	93.0	60.7	94.6	67.3	89.1	81.3	25.3	1.6	0.4	1.2
中学生(2年生)	322	71.1	78.6	78.0	70.2	52.8	31.7	91.0	65.5	92.9	63.0	92.5	85.4	22.0	1.6	—	0.3
貧困世帯	35	68.6	80.0	77.1	74.3	34.3	20.0	91.4	62.9	94.3	60.0	91.4	82.9	28.6	—	—	—
非貧困世帯	238	73.5	78.2	77.3	69.3	56.3	33.2	91.2	66.4	92.9	63.9	92.4	86.1	21.8	1.7	—	0.4

問 21 これまでの半年間を振り返り、以下のそれぞれの質問について、「1 あてはまる」「2 まああてはまる」「3 あてはまらない」のどれかから回答してください。(a～hそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

『a) 私は、他人に対して親切にするようにしている。』『b) 私は、他人の気持ちをよく考える。』で「あてはまる」と「まああてはまる」をあわせた“あてはまる”の割合が高く、9割を超えています。

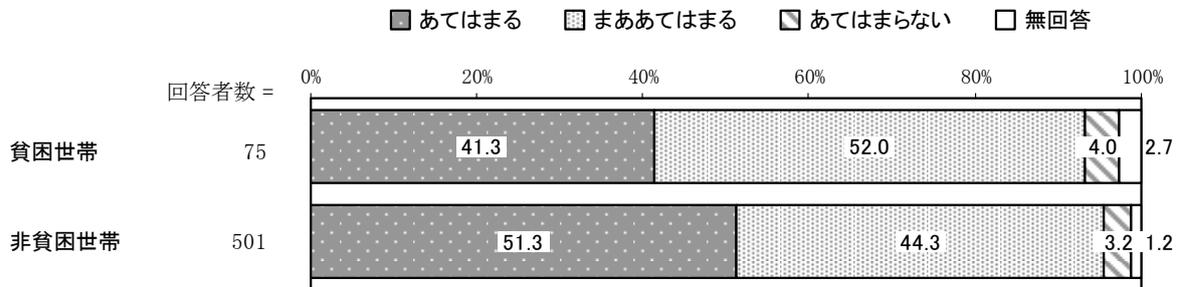
一方、『c) 私は、いつも一人であることが多い』『g) 私は、他の子どもから、からかわれたりすることがある。』で「あてはまらない」の割合が高く、約7割となっています。



a) 私は、他人に対して親切にしているようにしている。

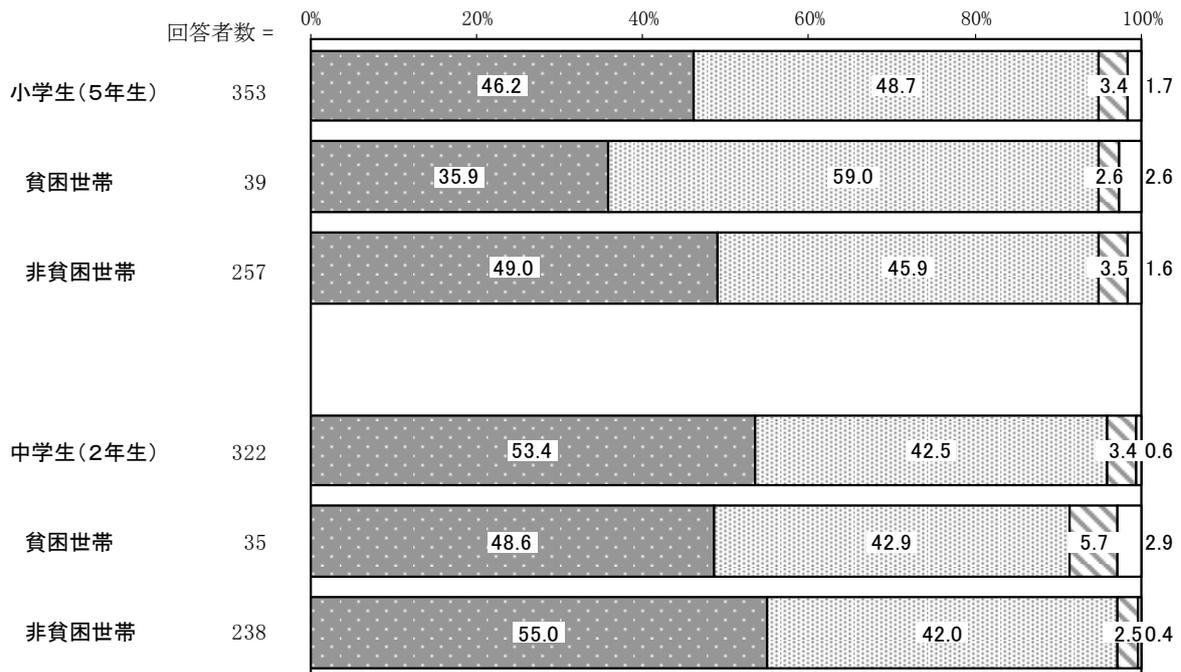
【貧困線別】

貧困線別でみると、非貧困世帯に比べ、貧困世帯で「まああてはまる」の割合が高くなっています。一方、貧困世帯に比べ、非貧困世帯で「あてはまる」の割合が高くなっています。



【子どもの学年別】

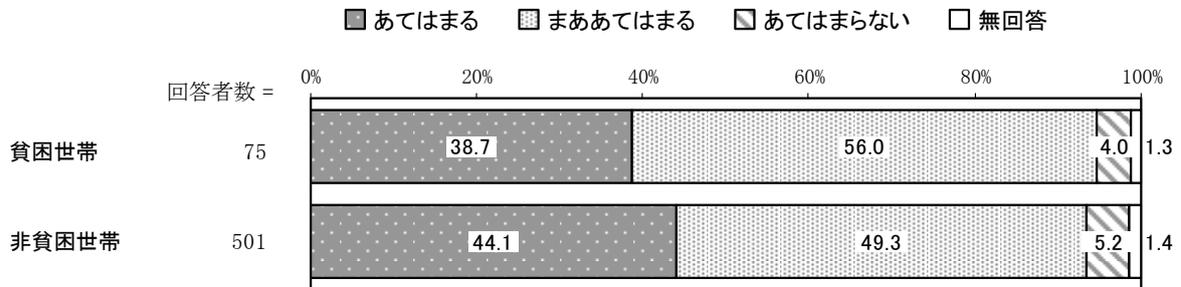
子どもの学年別でみると、小学生、中学生ともに、貧困世帯に比べ、非貧困世帯で「あてはまる」の割合が高くなっています。



b) 私は、他人の気持ちをよく考える。

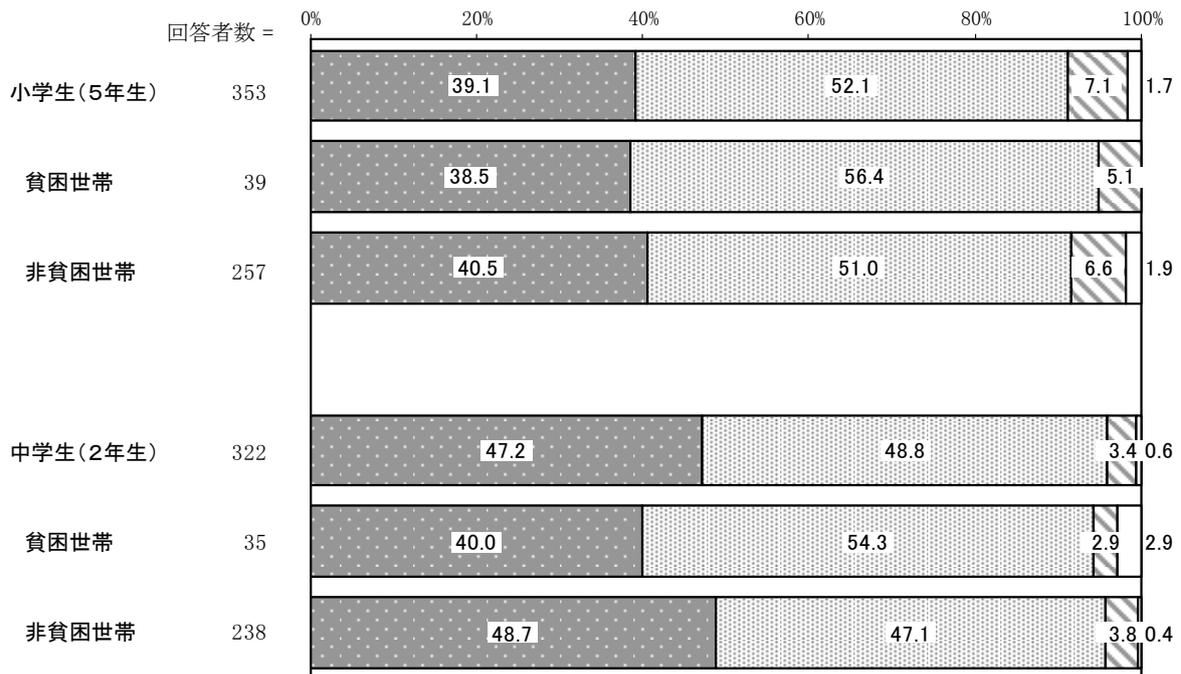
【貧困線別】

貧困線別で見ると、非貧困世帯に比べ、貧困世帯で「まああてはまる」の割合が高くなっています。一方、貧困世帯に比べ、非貧困世帯で「あてはまる」の割合が高くなっています。



【子どもの学年別】

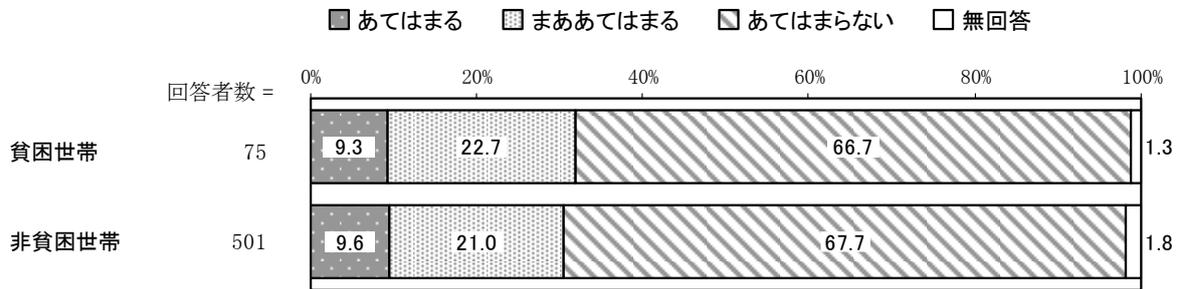
子どもの学年別で見ると、他に比べ、中学生の非貧困世帯で「あてはまる」の割合が高くなっています。



c) 私は、いつも一人でいることが多い

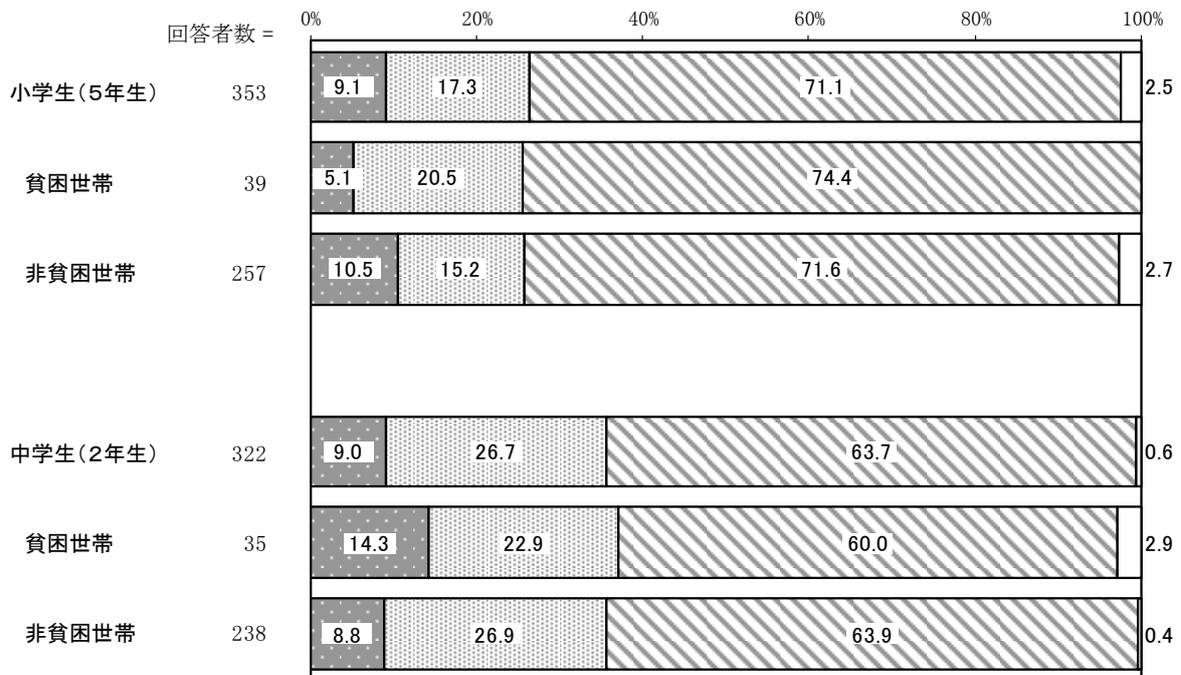
【貧困線別】

貧困線別でみると、大きな差異はみられません。



【子どもの学年別】

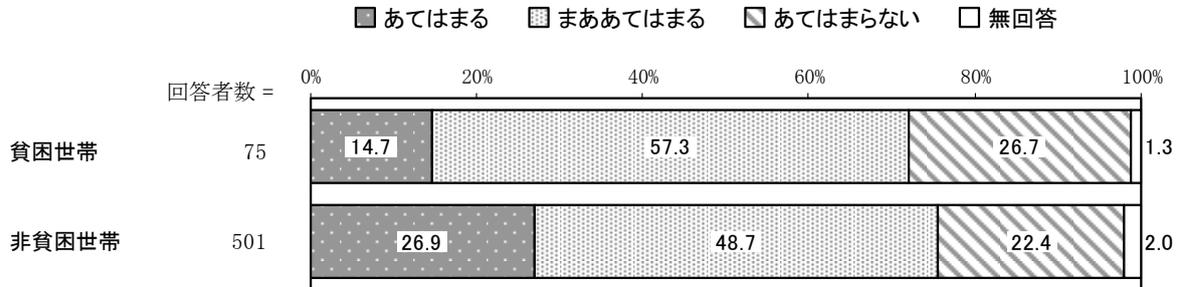
子どもの学年別でみると、他に比べ、中学生の貧困世帯で「あてはまる」の割合が高くなっています。



d) 私は、悩みごとがあってもすぐに解決できる。

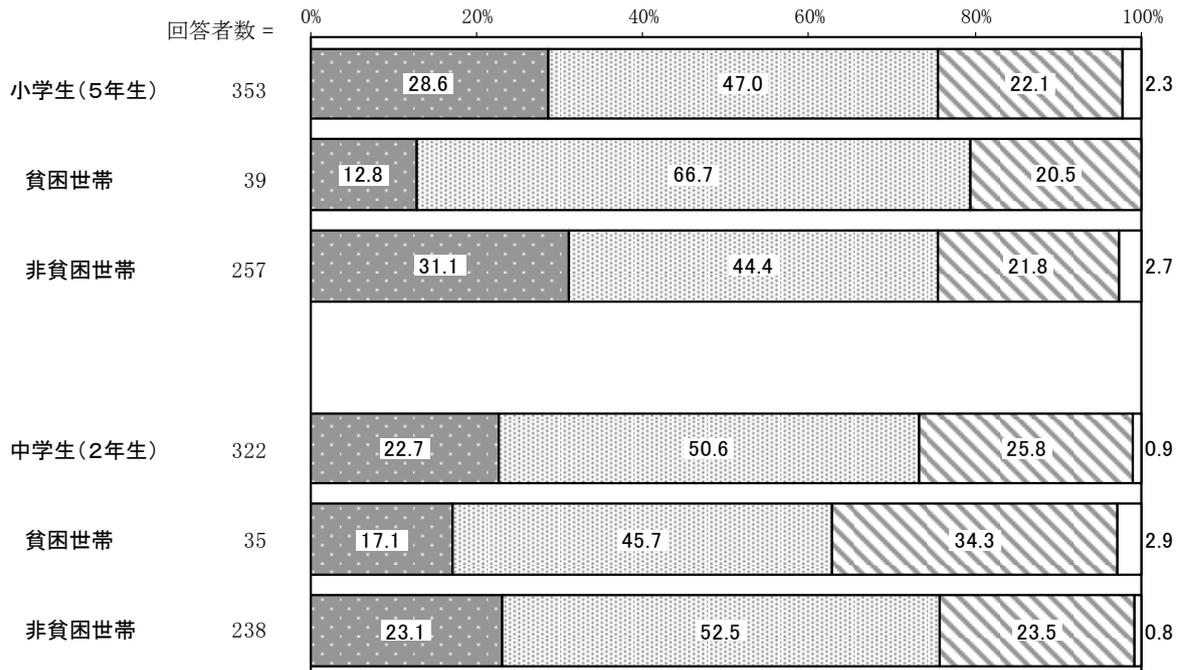
【貧困線別】

貧困線別で見ると、非貧困世帯に比べ、貧困世帯で「まああてはまる」の割合が高くなっています。一方、貧困世帯に比べ、非貧困世帯で「あてはまる」の割合が高くなっています。



【子どもの学年別】

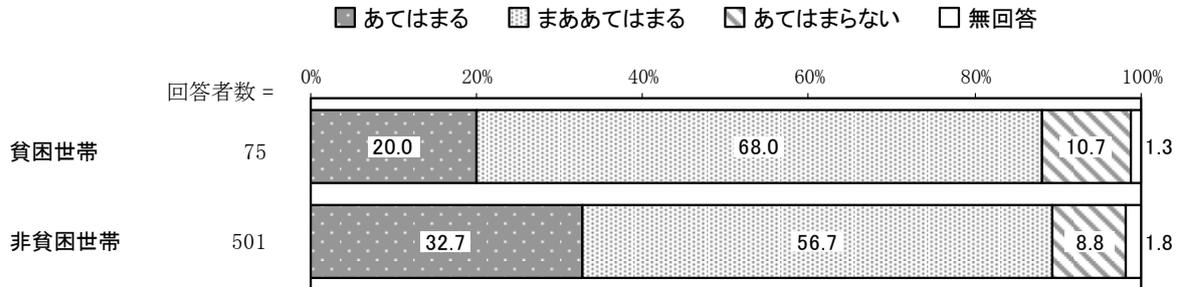
子どもの学年別で見ると、他に比べ、小学生の非貧困世帯で「あてはまる」の割合が高くなっています。また、中学生の貧困世帯で「あてはまらない」の割合が高くなっています。



e) 私は、誰かが嫌な思いをしているときには、すすんで助ける。

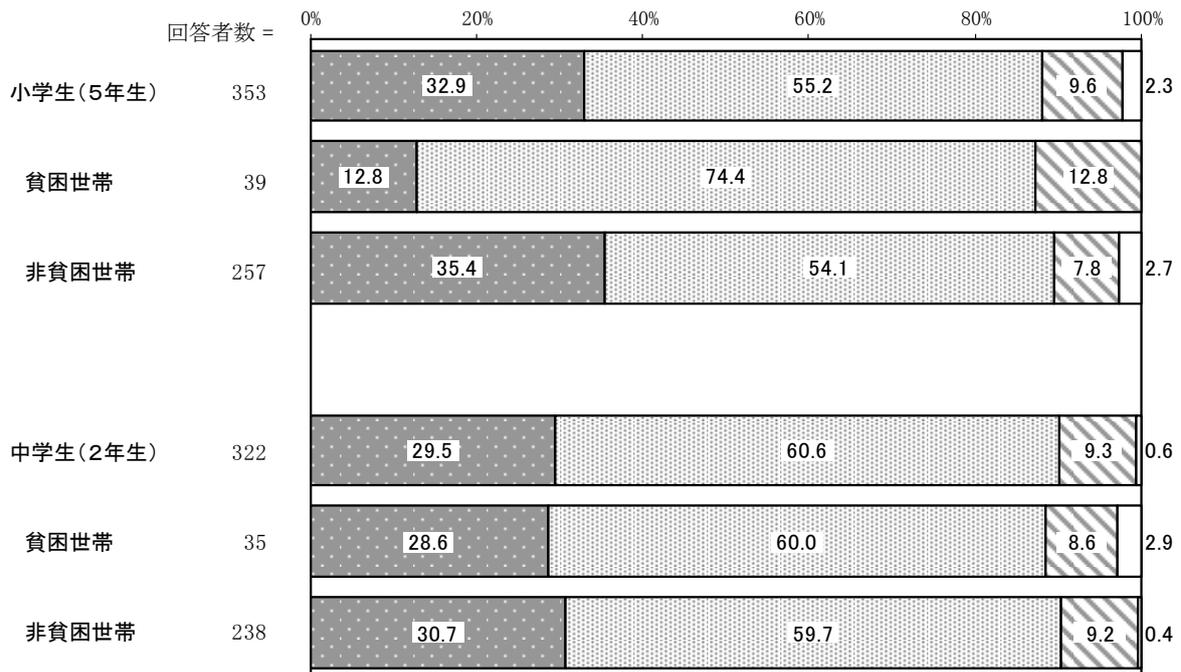
【貧困線別】

貧困線別でみると、非貧困世帯に比べ、貧困世帯で「まああてはまる」の割合が高くなっています。一方、貧困世帯に比べ、非貧困世帯で「あてはまる」の割合が高くなっています。



【子どもの学年別】

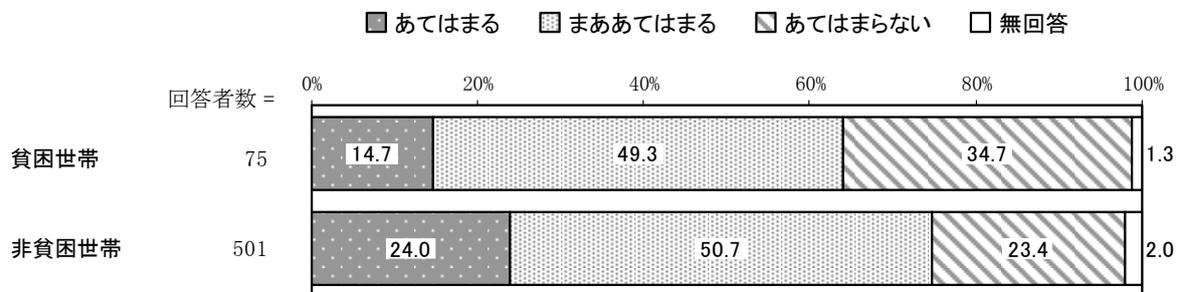
子どもの学年別でみると、他に比べ、小学生の非貧困世帯で「あてはまる」の割合が高くなっています。



f) 私は、新しいことを始める時でも自信をもって行動できる。

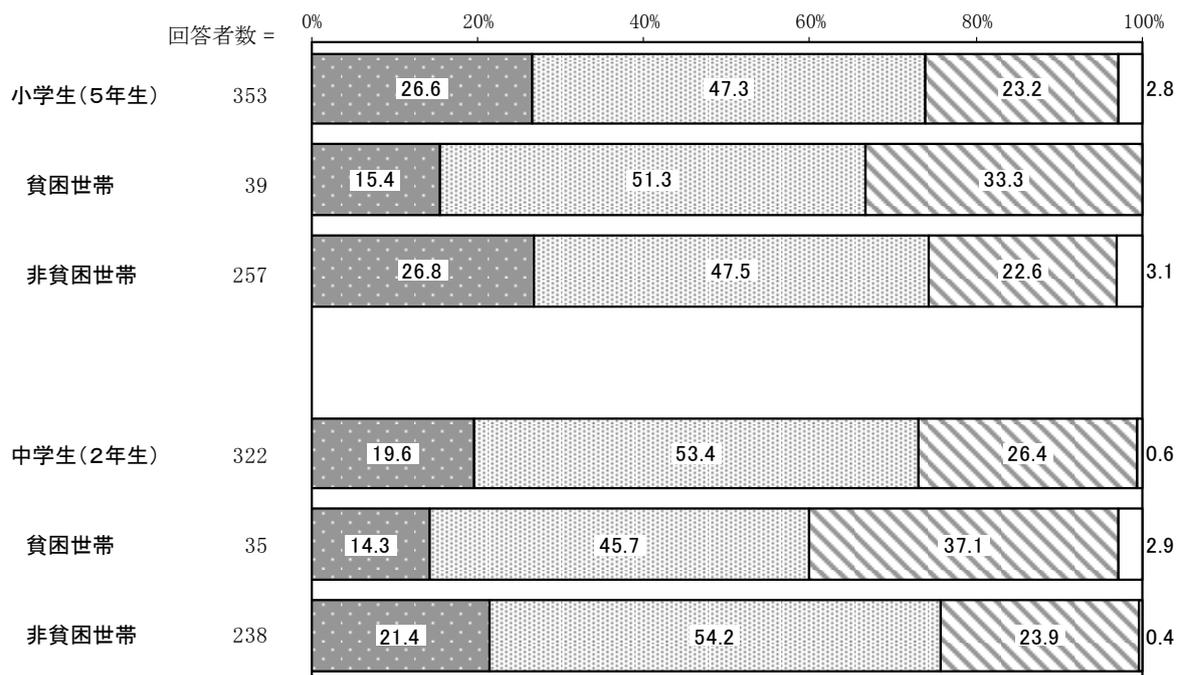
【貧困線別】

貧困線別で見ると、非貧困世帯に比べ、貧困世帯で「あてはまらない」の割合が高くなっています。一方、貧困世帯に比べ、非貧困世帯で「あてはまる」の割合が高くなっています。



【子どもの学年別】

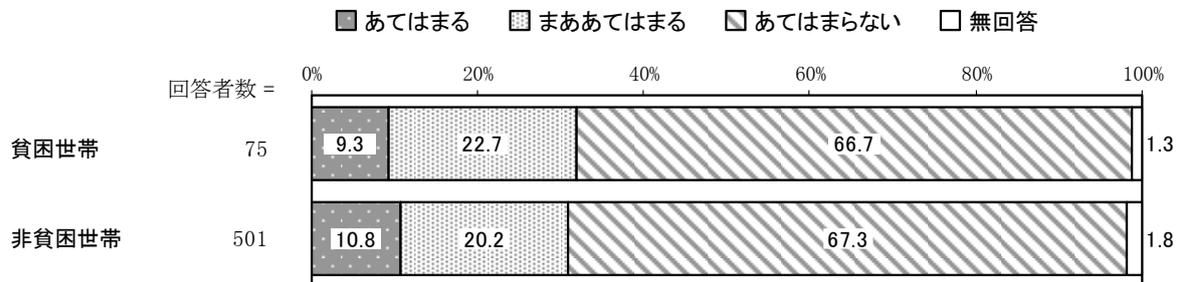
子どもの学年別で見ると、小学生、中学生ともに、非貧困世帯に比べ、貧困世帯で「あてはまる」の割合が低く、「あてはまらない」の割合が高くなっています。



g) 私は、他の子どもから、からかわれたりすることがある。

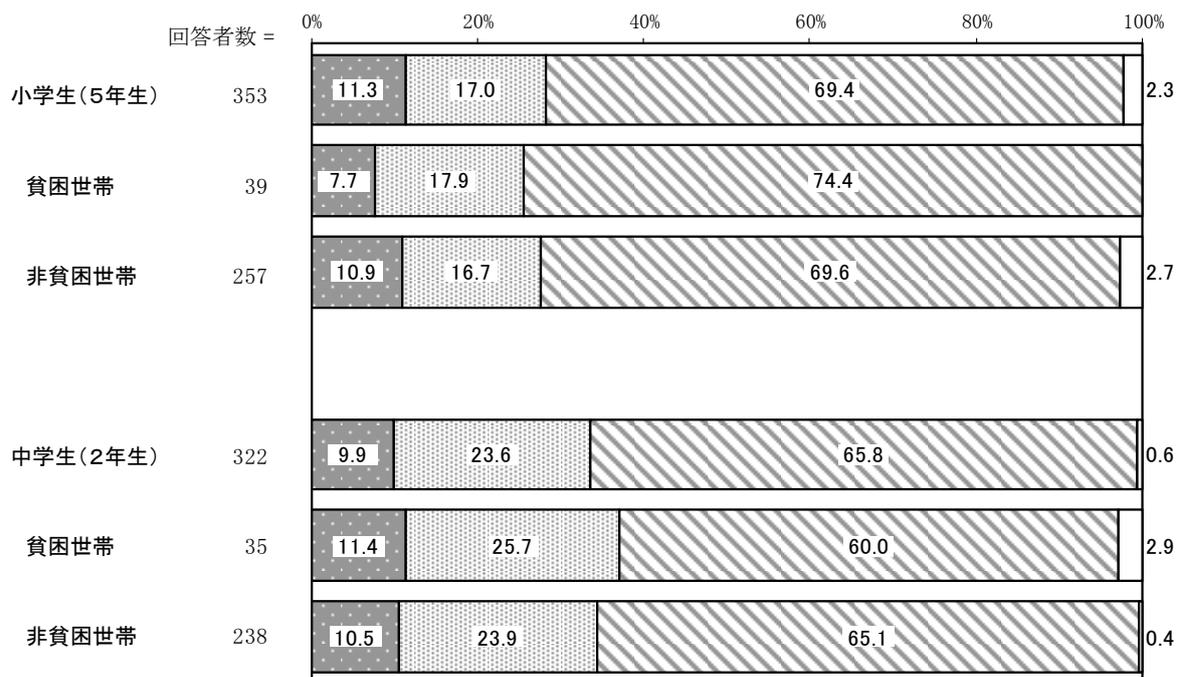
【貧困線別】

貧困線別でみると、大きな差異はみられません。



【子どもの学年別】

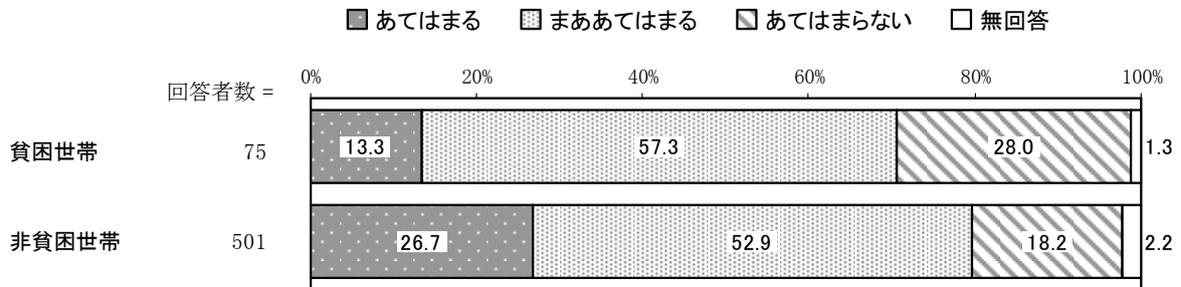
子どもの学年別でみると、他に比べ、小学生の貧困世帯で「あてはまらない」の割合が高くなっています。



h) 私は、自分からすすんでよくお手伝いをする（親・先生など）。

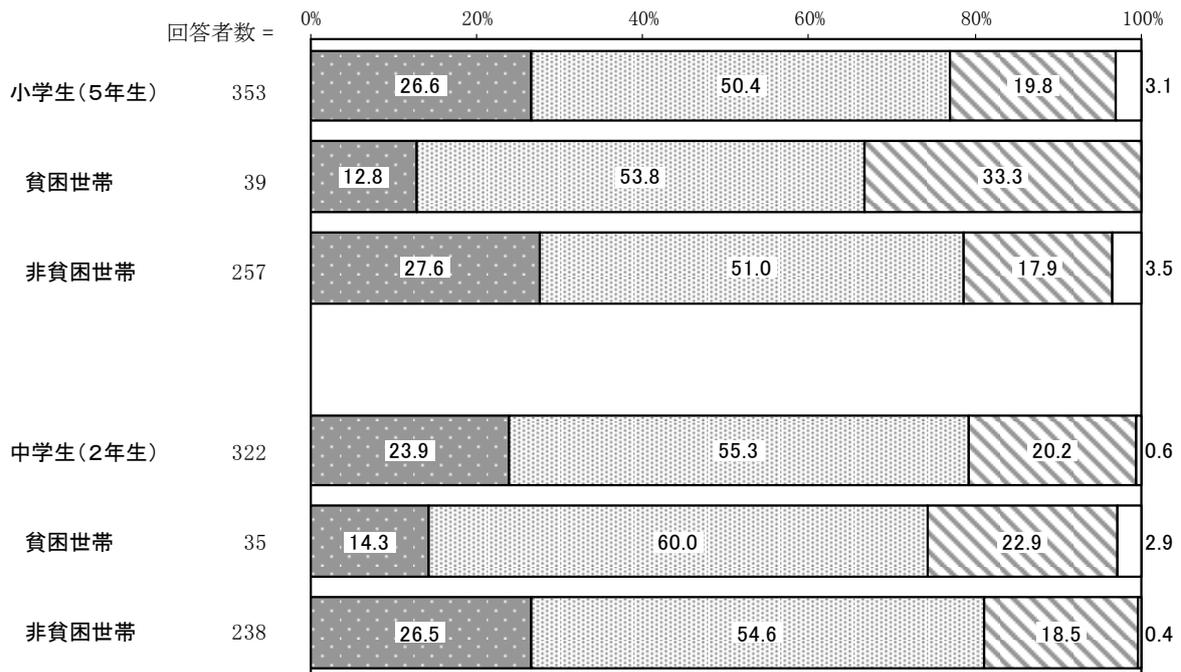
【貧困線別】

貧困線別でみると、非貧困世帯に比べ、貧困世帯で「あてはまらない」の割合が高くなっています。一方、貧困世帯に比べ、非貧困世帯で「あてはまる」の割合が高くなっています。



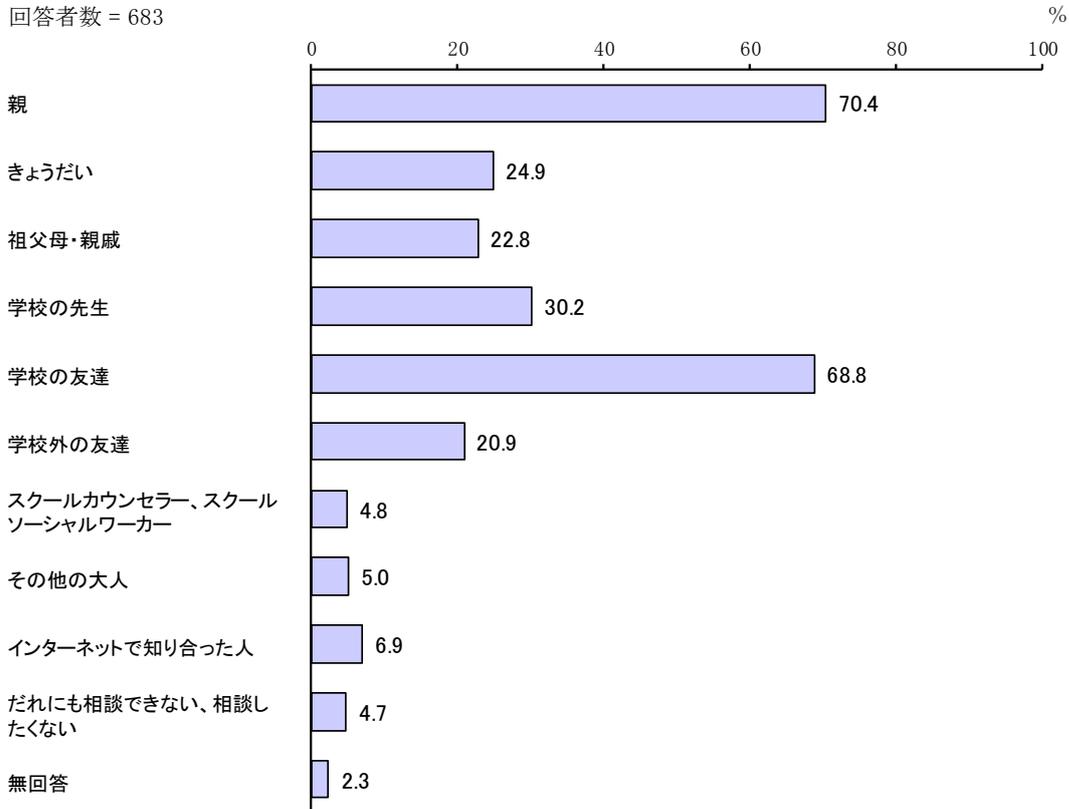
【子どもの学年別】

子どもの学年別でみると、小学生、中学生ともに、貧困世帯に比べ、非貧困世帯で「あてはまる」の割合が高くなっています。



問 22 あなたに困っていることや悩みごとがあるとき、あなたが相談できる人はだれですか。（1～9については、あてはまるものすべてに○）

「親」の割合が70.4%と最も高く、次いで「学校の友達」の割合が68.8%、「学校の先生」の割合が30.2%となっています。



【貧困線別】

貧困線別でみると、非貧困世帯に比べ、貧困世帯で「祖父母・親戚」の割合が高くなっています。一方、貧困世帯に比べ、非貧困世帯で「学校の先生」「学校外の友達」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数 (件)	親	きょうだい	祖父母・親戚	学校の先生	学校の友達	学校外の友達	スクールカウンセラー、 スクールソーシャルワーカー	その他の大人	インターネットで 知り合った人	だれにも相談できない、 相談したくない	無回答
貧困世帯	75	66.7	26.7	29.3	25.3	66.7	9.3	5.3	2.7	6.7	6.7	2.7
非貧困世帯	501	71.1	23.8	22.2	31.3	68.9	22.8	4.4	5.8	6.2	4.6	2.6

【子どもの学年別】

子どもの学年別でみると、他に比べ、中学生の貧困世帯で「親」の割合が低くなっています。また、小学生の非貧困世帯で「学校の先生」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	親	きょうだい	祖父母・親戚	学校の先生	学校の友達	学校外の友達	スクールカウンセラー、 スクールソーシャルワーカー	その他の大人	インターネットで 知り合った人	だれにも相談できない、 相談したくない	無回答
小学生(5年生)	353	75.9	25.8	27.2	32.0	70.5	20.7	6.8	5.7	4.8	3.4	2.0
貧困世帯	39	76.9	28.2	30.8	20.5	71.8	7.7	2.6	—	2.6	5.1	—
非貧困世帯	257	76.3	23.7	26.1	34.6	70.4	22.2	6.6	7.4	4.7	2.7	2.3
中学生(2年生)	322	64.9	23.6	18.0	28.9	67.1	20.8	2.8	4.0	9.3	6.2	2.5
貧困世帯	35	54.3	22.9	28.6	31.4	60.0	11.4	8.6	5.7	11.4	8.6	5.7
非貧困世帯	238	66.4	23.9	17.6	28.6	67.2	22.7	2.1	4.2	8.0	6.7	2.5

【家族構成別】

家族構成別でみると、他に比べ、3世代世帯で「親」「学校の先生」の割合が高くなっています。また、ひとり親世帯、その他世帯で「親」の割合が低くなっています。

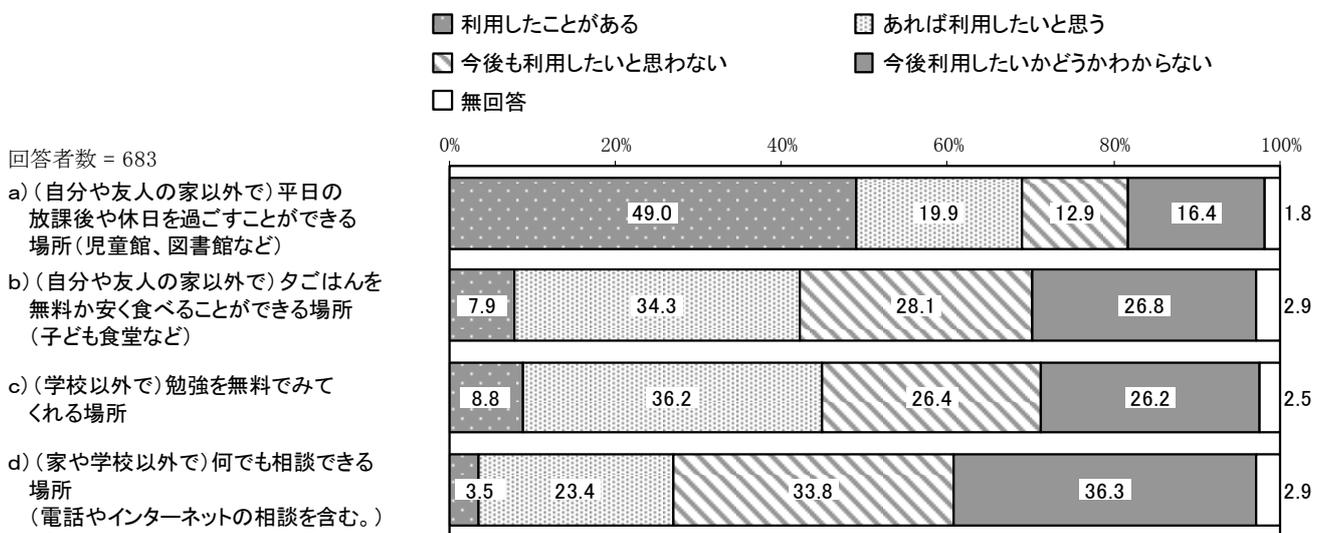
単位：％

区分	回答者数(件)	親	きょうだい	祖父母・親戚	学校の先生	学校の友達	学校外の友達	スクールカウンセラー、 スクールソーシャルワーカー	その他の大人	インターネットで 知り合った人	だれにも相談できない、 相談したくない	無回答
ひとり親世帯	110	65.5	23.6	32.7	27.3	68.2	19.1	4.5	2.7	5.5	3.6	4.5
ふたり親世帯	365	71.2	25.8	18.6	30.1	69.3	22.7	4.9	6.0	6.3	5.5	1.9
3世代世帯	110	74.5	22.7	27.3	34.5	73.6	19.1	5.5	5.5	4.5	2.7	—
その他世帯	34	61.8	14.7	23.5	32.4	47.1	8.8	2.9	2.9	14.7	5.9	8.8

問 23 あなたは、次の a～d のような場所を利用したことがありますか。
 また、利用したことはない場合、今後利用したいと思いますか。
 (a～d それぞれについて、あてはまるもの 1 つに○)

『a) (自分や友人の家以外で) 平日の放課後や休日を過ごすことができる場所 (児童館、図書館など)』で「利用したことがある」の割合が高く、約5割となっています。また、『b) (自分や友人の家以外で) タごはんを無料か安く食べることができる場所 (子ども食堂など)』『c) (学校以外で) 勉強を無料でみてくれる場所』で「あれば利用したいと思う」の割合が高く、3割台半ばとなっています。

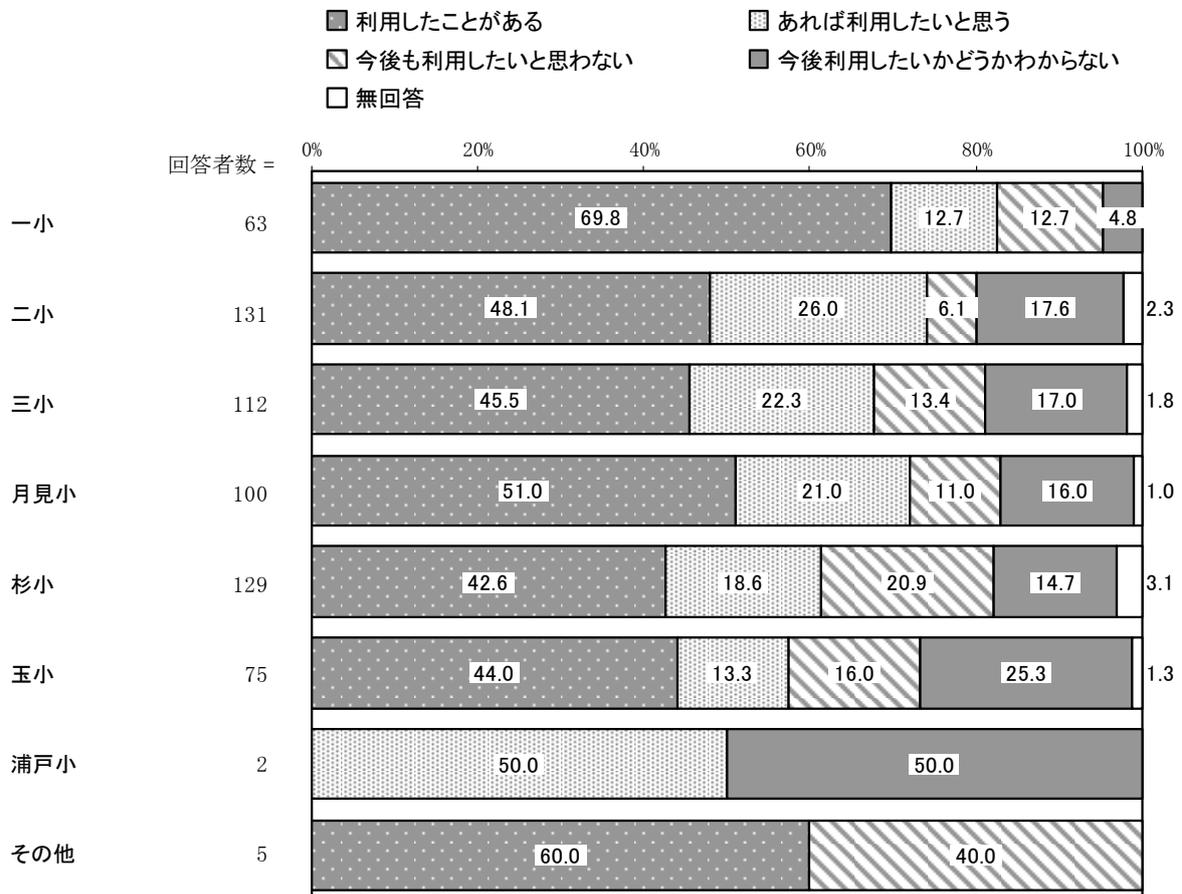
一方、『d) (家や学校以外で) 何でも相談できる場所 (電話やインターネットの相談を含む。)]で「今後も利用したいと思わない」「今後利用したいかどうかわからない」の割合が高く、3割を超えています。



a) (自分や友人の家以外で) 平日の放課後や休日を過ごすことができる場所

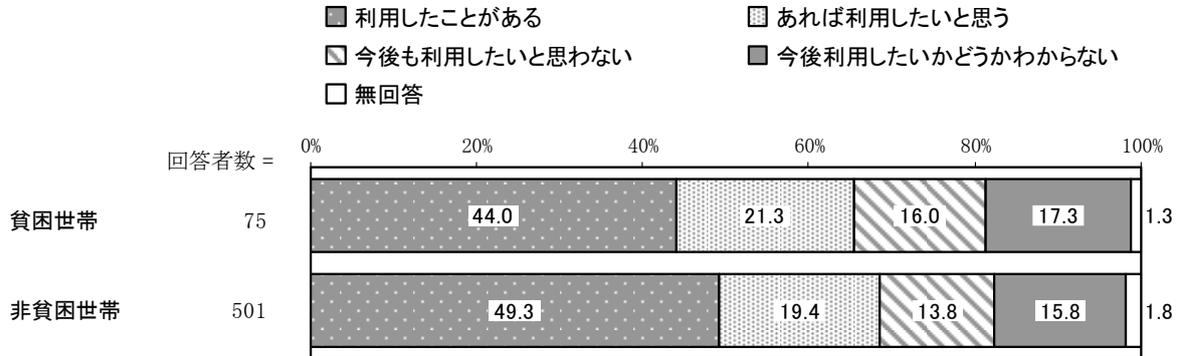
【小学校区別】

小学校区別でみると、他に比べ、一小で「利用したことがある」の割合が高くなっています。また、二小で「あれば利用したいと思う」の割合が高くなっています。



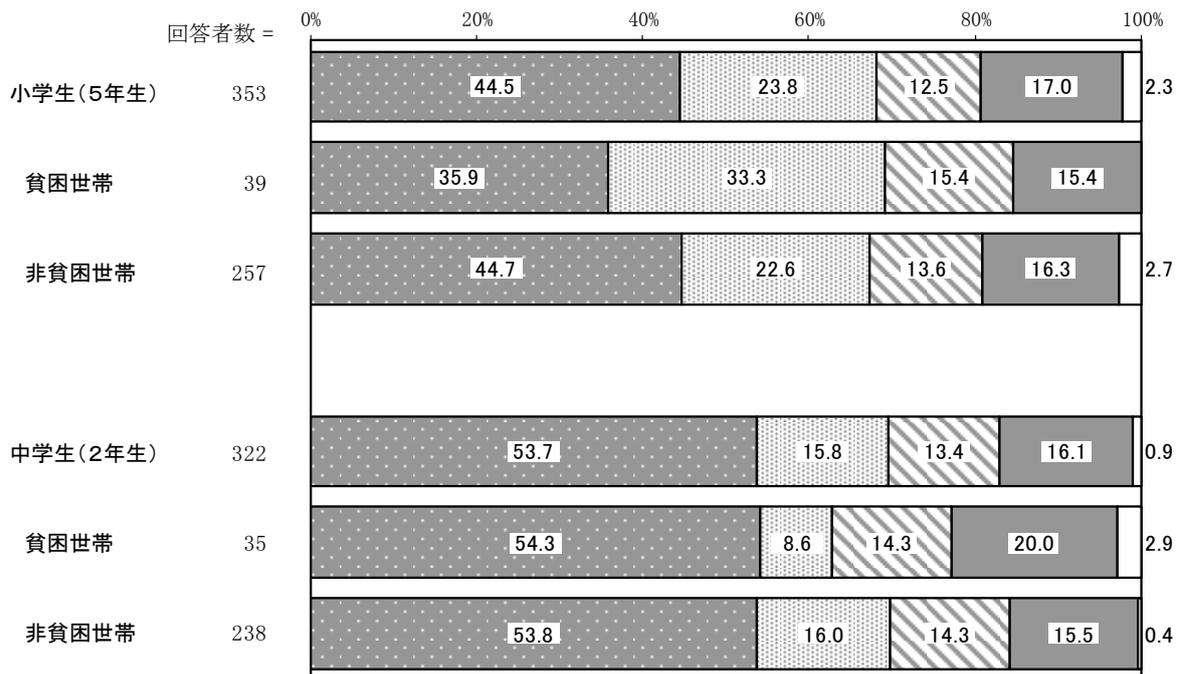
【貧困線別】

貧困線別でみると、貧困世帯に比べ、非貧困世帯で「利用したことがある」の割合が高くなっています。



【子どもの学年別】

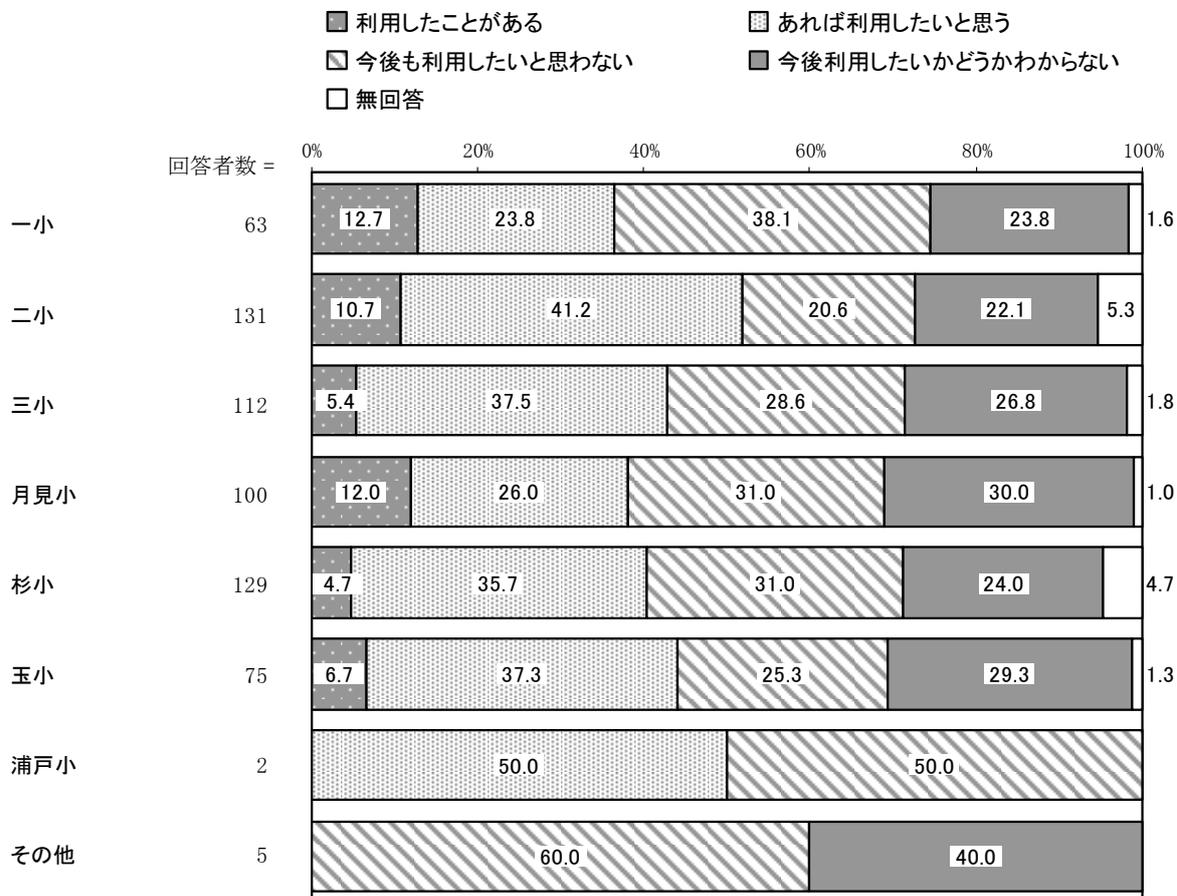
子どもの学年別でみると、他に比べ、小学生の貧困世帯で「あれば利用したいと思う」の割合が高くなっています。



b) (自分や友人の家以外で) タごはんを無料か安く食べることができる場所 (子ども食堂など)

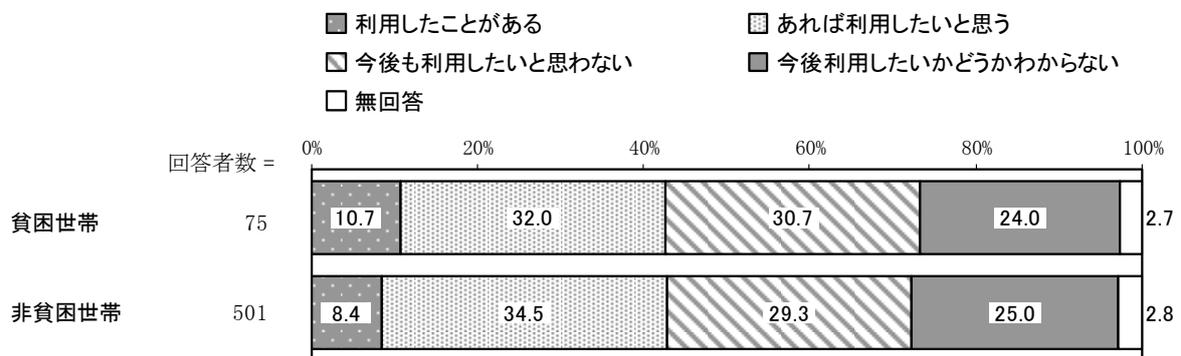
【小学校区別】

小学校区別でみると、他に比べ、二小、三小で「あれば利用したいと思う」の割合が高くなっています。また、一小で「今後も利用したいと思わない」の割合が高くなっています。



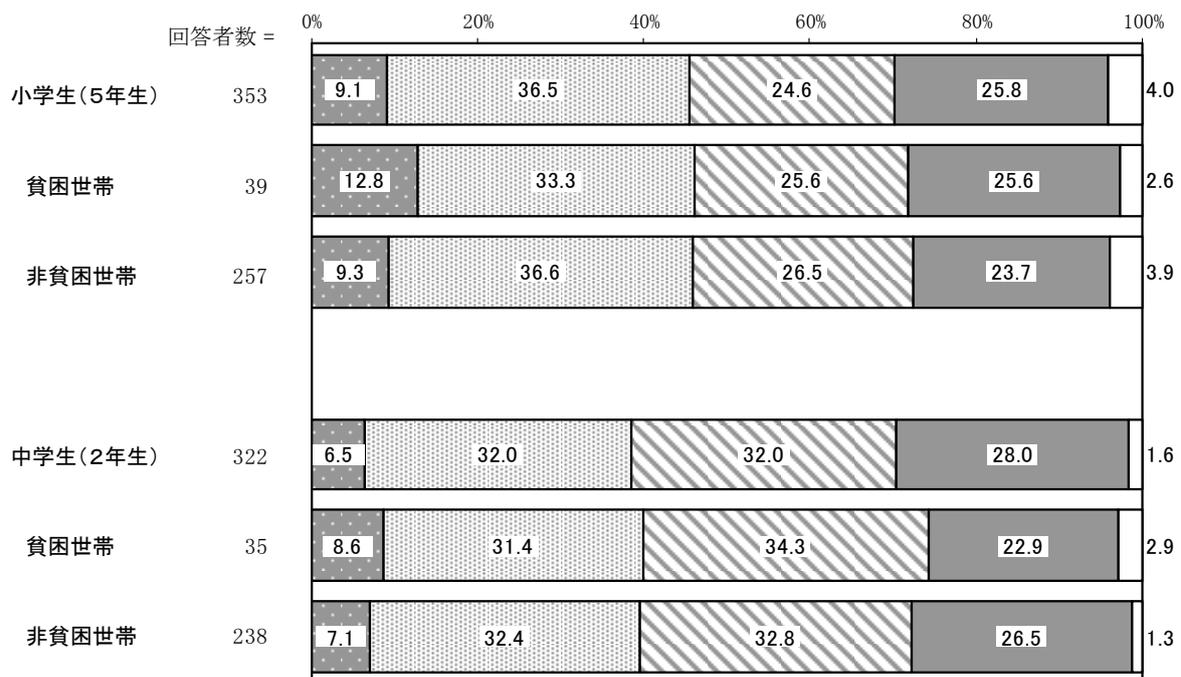
【貧困線別】

貧困線別でみると、大きな差異はみられません。



【子どもの学年別】

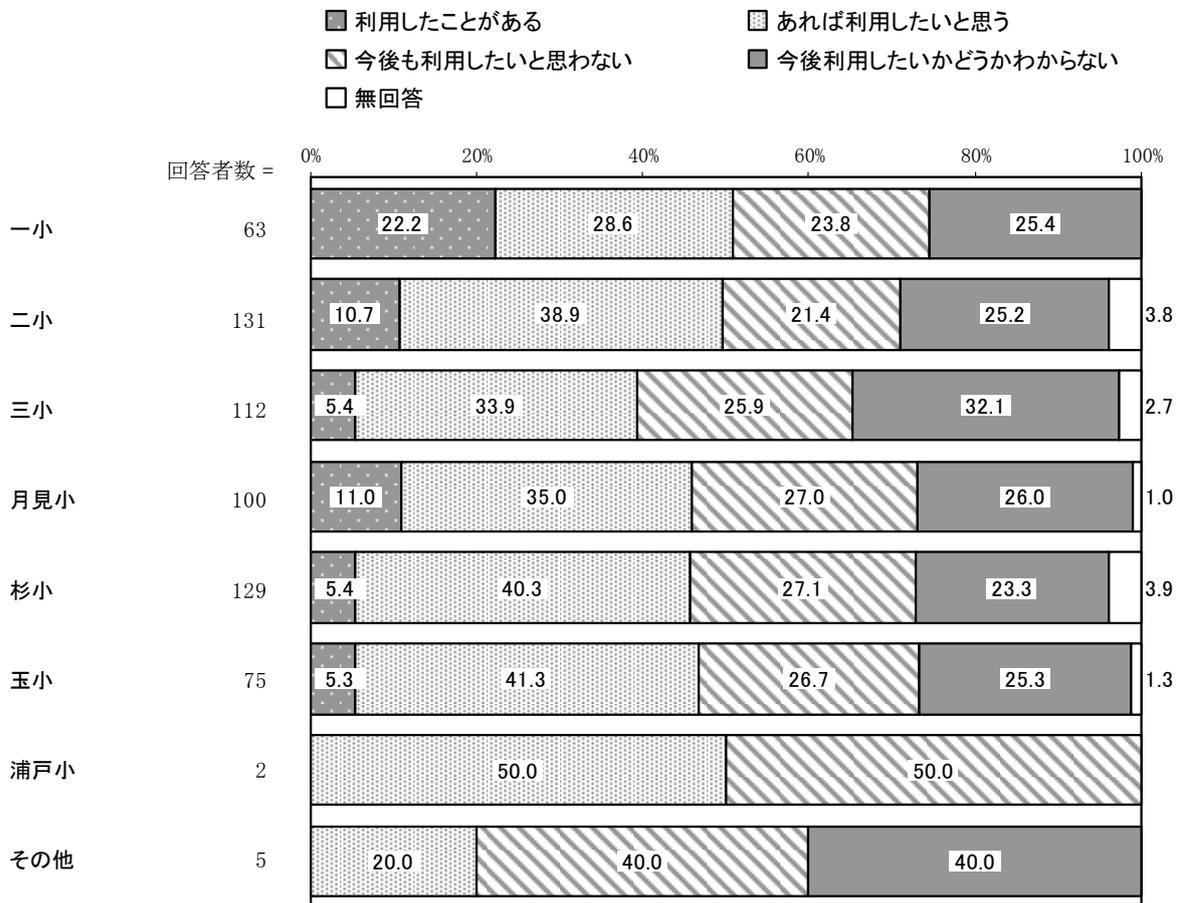
子どもの学年別でみると、小学生の貧困世帯で「利用したことがある」の割合が高くなっています。また、小学生の非貧困世帯で「あれば利用したいと思う」の割合が高くなっています。



c) (学校以外で) 勉強を無料でみてくれる場所

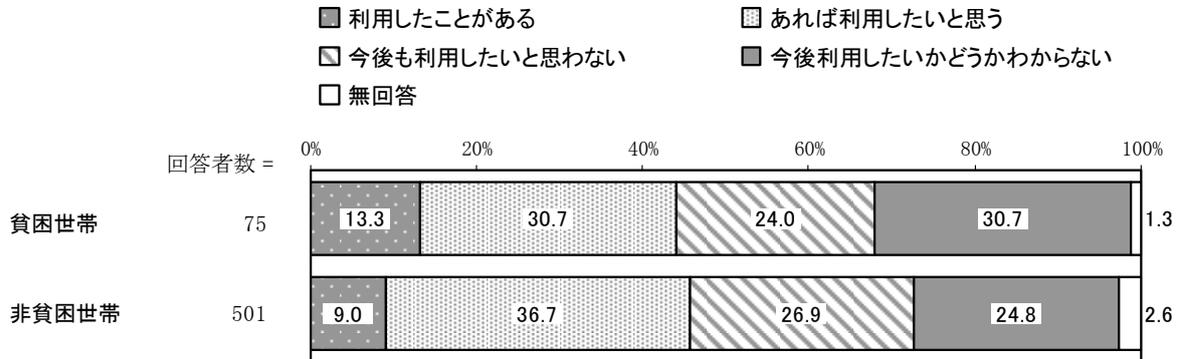
【小学校区別】

小学校区別で見ると、他に比べ、杉小、玉小で「あれば利用したいと思う」の割合が高くなっています。



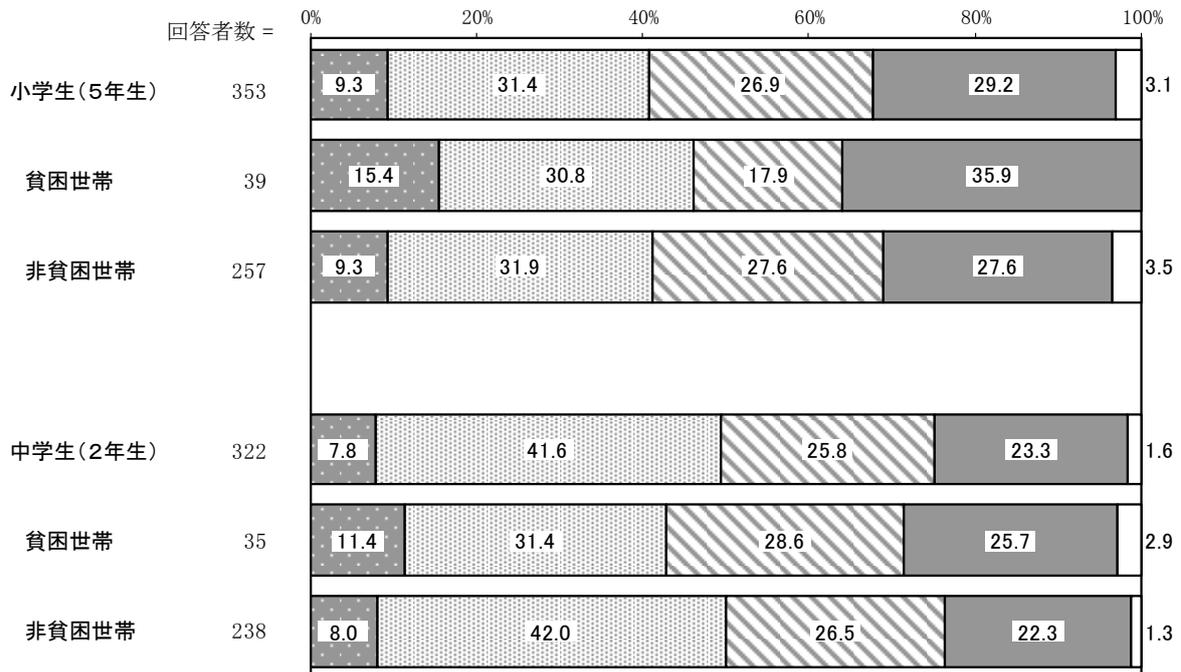
【貧困線別】

貧困線別でみると、非貧困世帯に比べ、貧困世帯に比べ、非貧困世帯で「あれば利用したいと思う」の割合が高くなっています。



【子どもの学年別】

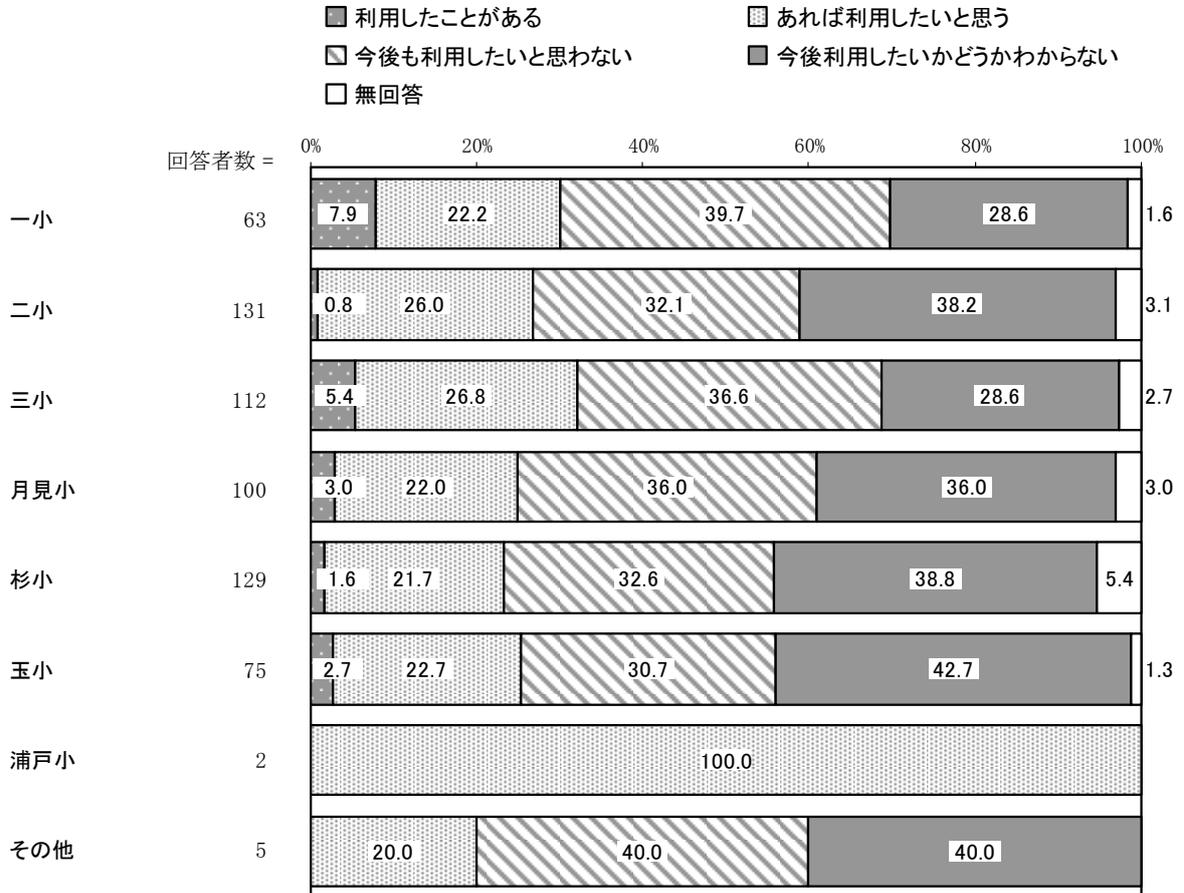
子どもの学年別でみると、他に比べ、小学生の貧困世帯で「利用したことがある」の割合が高くなっています。また、中学生の非貧困世帯で「あれば利用したいと思う」の割合が高くなっています。



d) (家や学校以外で) 何でも相談できる場所 (電話やインターネットの相談を含む。)

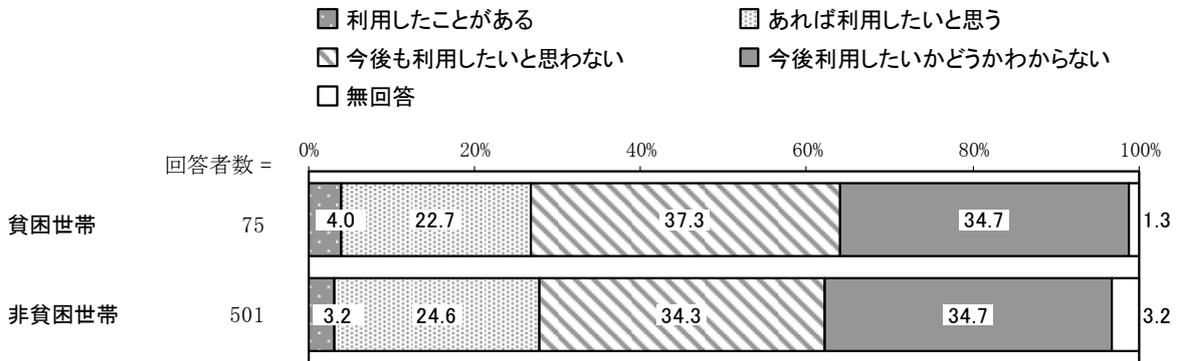
【小学校区別】

小学校区別でみると、他に比べ、二小、三小 で「あれば利用したいと思う」の割合が高くなっています。



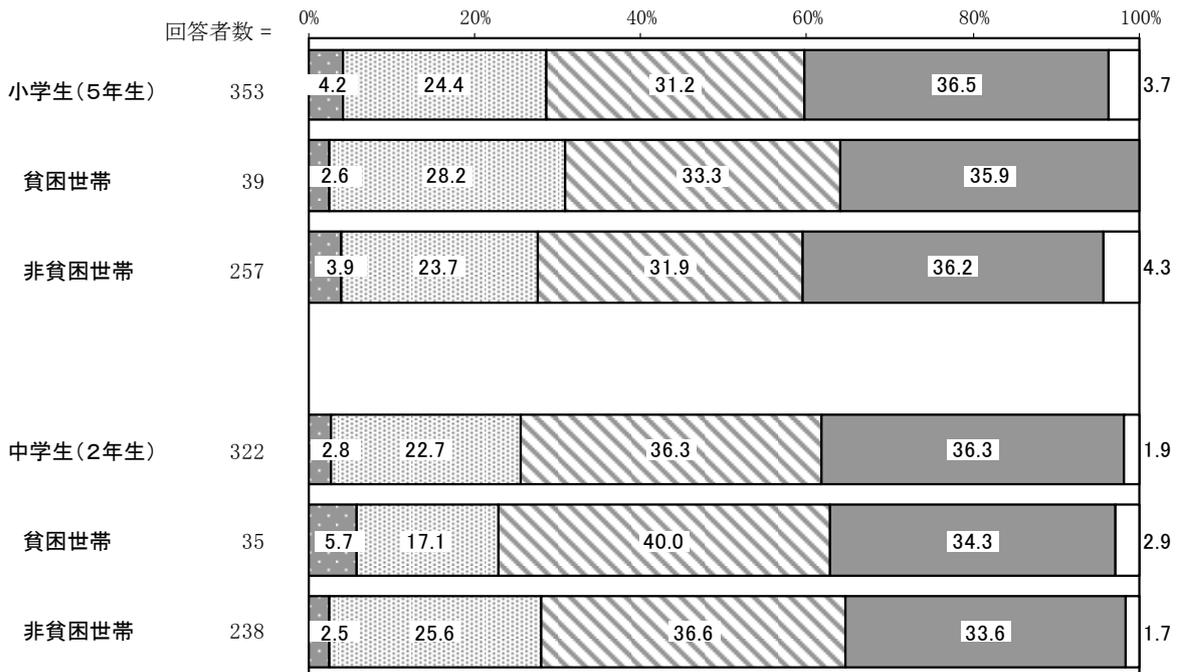
【貧困線別】

貧困線別でみると、大きな差異はみられません。



【子どもの学年別】

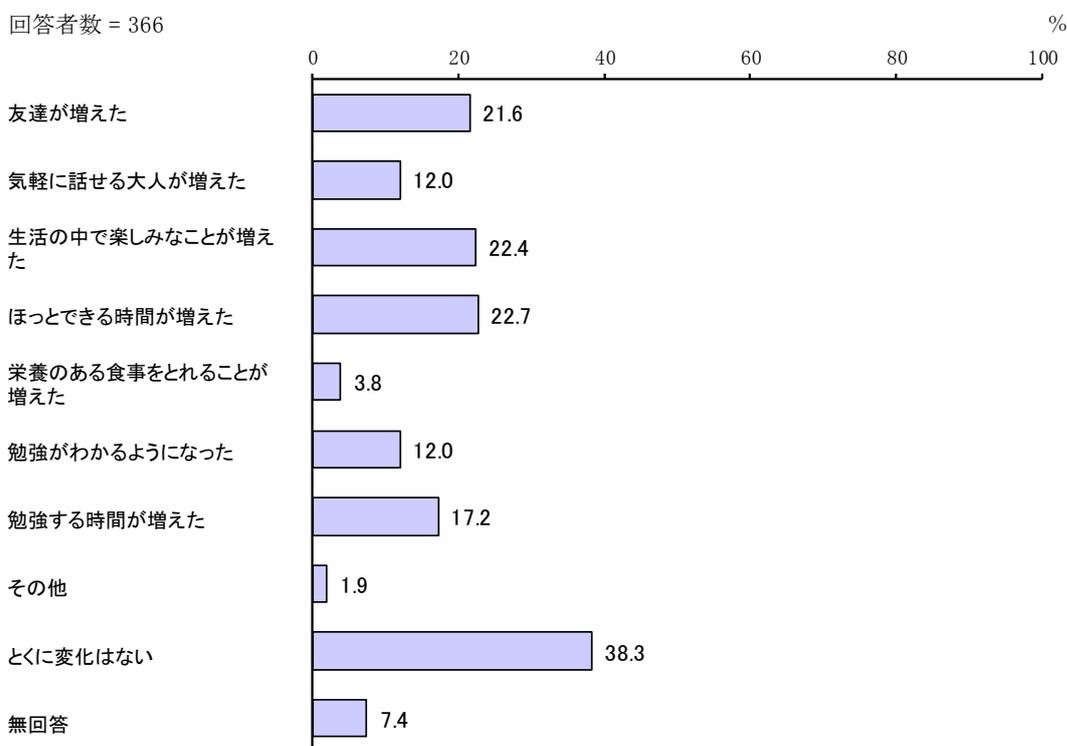
子どもの学年別でみると、小学生の貧困世帯で「あれば利用したいと思う」の割合が高くなっています。



問 23 で1つでも「利用したことがある」と答えた人にお聞きします。

問 23-1 そこを利用したことで、以下のような変化がありましたか。
(あてはまるものすべてに○)

「とくに変化はない」の割合が 38.3%と最も高く、次いで「ほっとできる時間が増えた」の割合が 22.7%、「生活の中で楽しみなことが増えた」の割合が 22.4%となっています。



【貧困線別】

貧困線別で見ると、非貧困世帯に比べ、貧困世帯で「気軽に話せる大人が増えた」の割合が高くなっています。一方、貧困世帯に比べ、非貧困世帯で「ほっとできる時間が増えた」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	友達が 増えた	気軽に 話せる大人 が増えた	生活の中 で楽しみな ことが 増えた	ほっと できる時間 が増えた	栄養の ある食事 をとれる ことが 増えた	勉強が わかるよ うに なった	勉強 する時間 が増えた	その他	とくに 変化は ない	無 回答
貧困世帯	37	24.3	16.2	18.9	10.8	8.1	16.2	18.9	2.7	37.8	—
非貧困世帯	273	21.6	11.0	23.4	24.5	3.7	12.1	17.6	1.5	37.4	9.2

【子どもの学年別】

子どもの学年別で見ると、他に比べ、小学生の貧困世帯で「栄養のある食事をとれることが増えた」「勉強がわかるようになった」の割合が高くなっています。また、小学生の非貧困世帯で「生活の中で楽しみなことが増えた」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	友達が増えた	気軽に話せる大人が増えた	生活の中で楽しみなことが増えた	もっとできる時間が増えた	栄養のある食事をとれることが増えた	勉強がわかるようになった	勉強する時間が増えた	その他	とくに変化はない	無回答
小学生(5年生)	177	26.0	14.7	29.9	24.3	7.9	11.9	11.9	2.3	36.7	9.0
貧困世帯	16	25.0	18.8	25.0	6.3	18.8	25.0	12.5	—	37.5	—
非貧困世帯	132	26.5	12.9	30.3	25.8	7.6	10.6	12.1	2.3	37.1	10.6
中学生(2年生)	184	17.4	9.8	15.2	21.2	—	12.5	21.7	1.6	40.2	5.4
貧困世帯	21	23.8	14.3	14.3	14.3	—	9.5	23.8	4.8	38.1	—
非貧困世帯	137	16.8	9.5	17.5	24.1	—	13.9	22.6	0.7	38.0	7.3

自由意見

分類回答	件数
1 子どもの状況や生活習慣、日常生活の様子について	0
2 子どもの保護者とのかかわり方	7
3 子どもと各種支援制度、支援者との関係	0
4 その他	93

【分類別の主な意見】

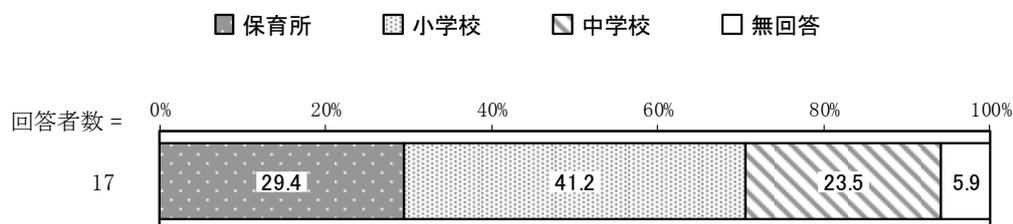
2 子どもの保護者とのかかわり方

・親の仲
・姉、兄には言わないのに、私にはいうことがたまにある。
・早起きしただけでおこらないでほしい。
・家では家族みんなが私のことを理解してくれます。
・親がきらい。
・離婚して離れてしまった父と手紙を送ることを約束していたが、その紙と封筒を母が持っていて、手紙を書きたいと言うと、母に書くなと言われそうで、なかなか言いだせていなくて困っている。
・親がめんどくさい

3 教職員向け調査

問1 あなたの勤務先はどちらですか。(あてはまるものに○)

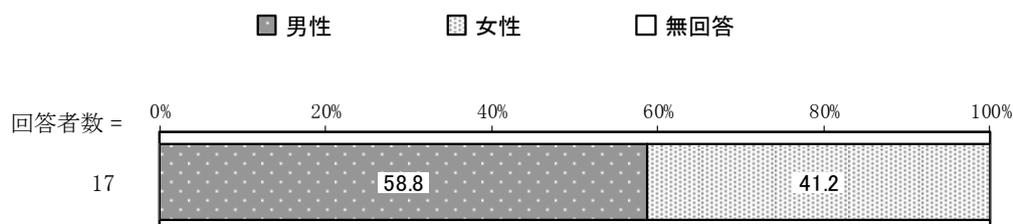
「保育所」の割合が29.4%、「小学校」の割合が41.2%、「中学校」の割合が23.5%となっています。



問2 あなたの性別、年齢、職種をご記入ください。

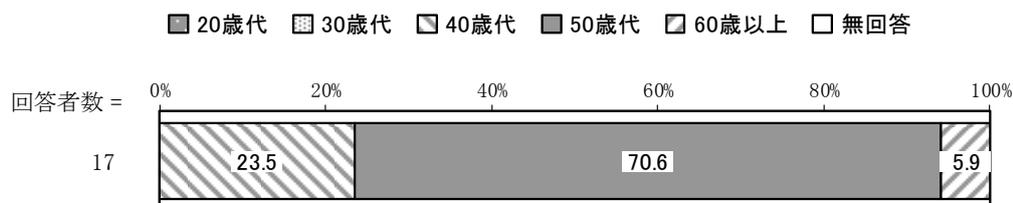
【性別】

「男性」の割合が58.8%、「女性」の割合が41.2%となっています。



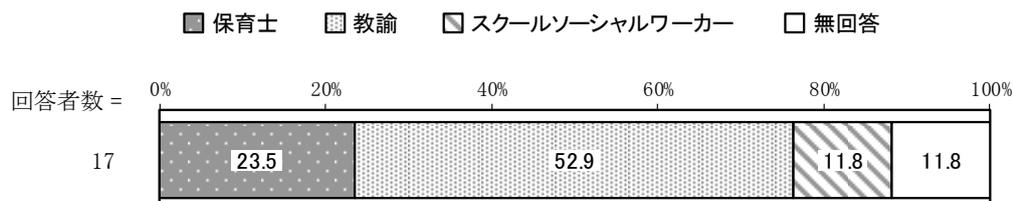
【年齢】

「40歳代」の割合が23.5%、「50歳代」の割合が70.6%となっています。



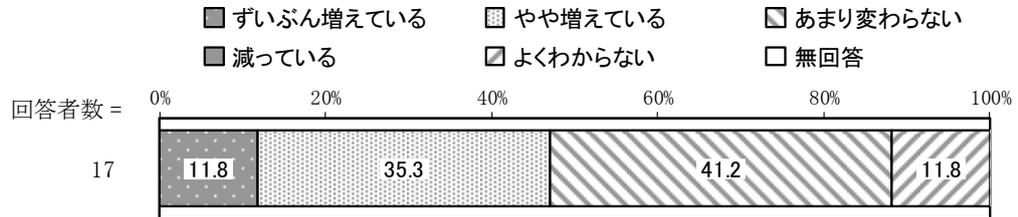
【職業】

「保育士」の割合が23.5%、「教諭」の割合が52.9%、「スクールソーシャルワーカー」の割合が11.8%となっています。



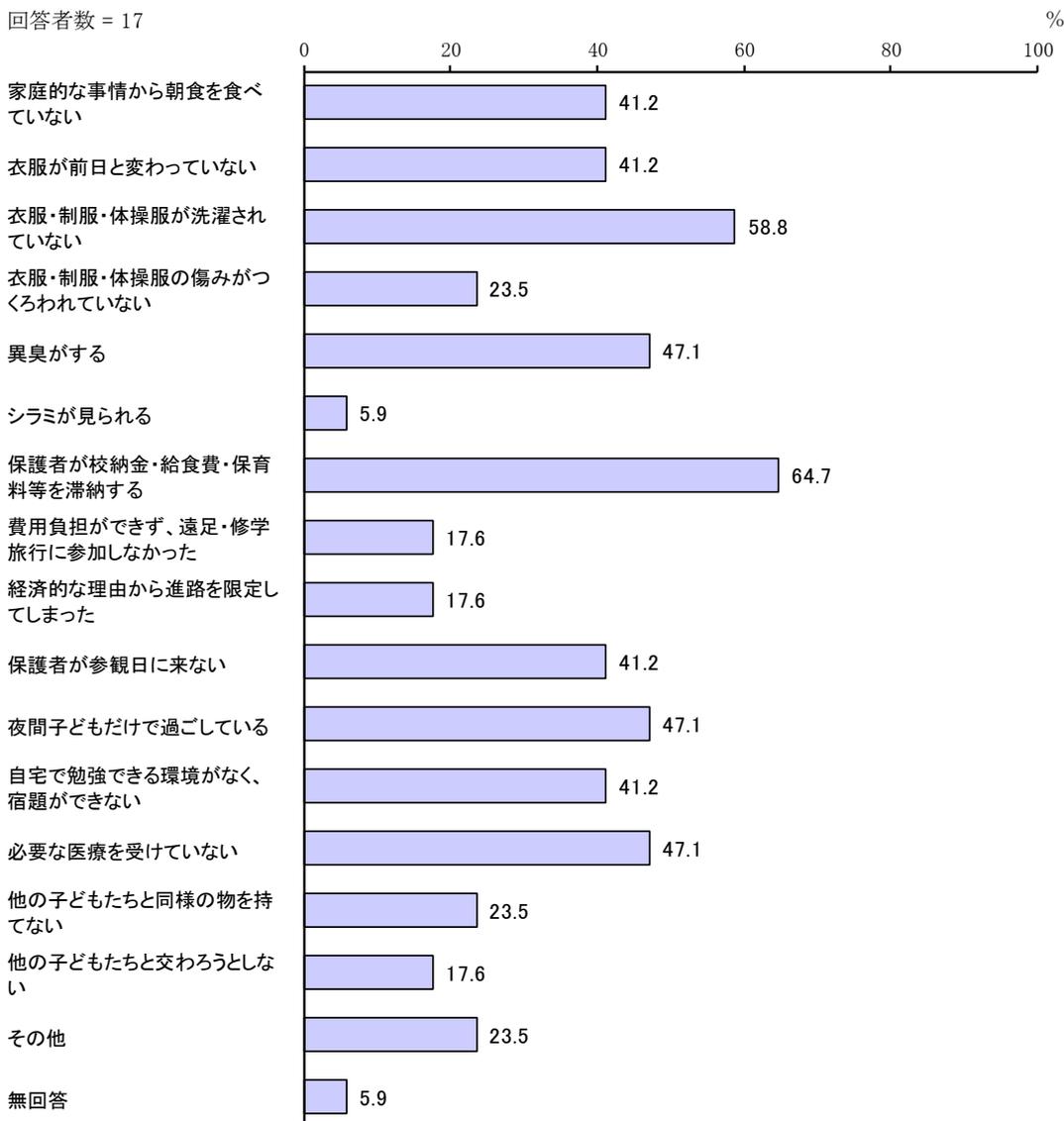
問3 あなたの勤務先で、経済的に困窮するなど困難を抱える家庭の園児・児童・生徒の数は4～5年前と比べていかがでしょうか。(あてはまるもの1つに○)

「あまり変わらない」の割合が41.2%と最も高く、次いで「やや増えている」の割合が35.3%、「ずいぶん増えている」、「よくわからない」の割合が11.8%となっています。



問4 あなたは、困難を抱える家庭の園児・児童・生徒にはどのような特徴があると感じますか。(あてはまる項目全てに○をつけてください)

「保護者が校納金・給食費・保育料等を滞納する」の割合が64.7%と最も高く、次いで「衣服・制服・体操服が洗濯されていない」の割合が58.8%、「異臭がする」、「夜間子どもだけで過ごしている」、「必要な医療を受けていない」の割合が47.1%となっています。



問5 困難を抱える家庭では、子どもや保護者にどのような状況が見られますか。個人を特定できない範囲で、子どもや保護者の状況をご記入ください。

1 保護者・子どもの状況（主な意見）

①困難な家庭の特徴や背景、生活状況

- ・保護者の障害等、病気等で子どもの基本的な生活習慣やしつけの基本が確立されていない。保護者や関係者の特別な考えから、学校教育に対する義務感覚がない。
- ・保護者による虐待で児童相談所扱いとなった家庭がある。仕事により、子どもと十分に関わる時間を持ってない。

②保護者の経済状況

- ・要・準要保護受給家庭が多い。金銭管理ができず、パチンコ等の浪費のため、教育費に十分当てられない。
- ・学校からは見えないことが多い。

③子どもと保護者の関わり

- ・子どもの衣食住、学校の持ち物の世話が不十分。朝食抜き、夜間放置、深夜まで子どもとゲームをするなど、子育て意識の低さが見られる。
- ・子どもが親に本音を言えなくなる。

④子どもの性格面・意識面の状況

- ・相手の気持ちがわからず、傷つけるような言動でトラブルを起こす。逆に保護者にかまわれていない分、周位の大人に甘える傾向も見られる。
- ・愛着障害が疑われる児童も多く、情緒や対人関係に問題が見られることがある。

⑤子どもの生活や学習の様子

- ・朝食を食べずに登校する子どもが思いのほか多い。朝、子どもが一番最後に家を出て、帰宅しても誰も家にいない家庭が多くある。家での学習環境がない。
- ・身に付けておくべき基礎力が身に付いていない生徒がいる。時折、シャツの襟など、衣服が汚れている生徒がいる。

⑥子どもの自己肯定感について

- ・将来のことを考えていない。自分の将来に夢や志を持っていない。
- ・少しの困難で自己否定を起こしやすい。自己肯定感が低い。

⑦保護者と各種支援制度・支援者との関係

・適宜、子育て支援課、児童相談所、SSW等との関連を図りながら支援しているが、年々複雑なケースが増えており、関連機関が集ってケース会議等を必要とすることができている。

・外部の支援機関を紹介しているが、なかなか利用に踏み切れない家庭もある。

問6 あなたが、困難を抱える家庭の子どもや親と接する際に、工夫していることや心がけていることがあれば、自由に記述してください。

・困難を抱える子どもが自立や社会参加に向けて主体的な取組ができるよう、きめ細かな教育を行うよう職員に周知する。定期的なカウンセリングを行い、本音を話せる場所をつくってあげることで、子どもがストレスを溜めこまないようにしてあげる配慮が必要と考える。理由は貧困家庭の子どもは親を気遣うあまり、本音を話せなくなっているからである。

・保護者との信頼関係を築いてからなので、担当はもちろん私自身も信頼関係をつくるように努めている。話を聞く時間をもつよう意識したり、問題の解決になるよう、わかりやすいよう具体的に掲示するなどしている。

自由意見

分類回答	件数
1 保護者の状況や生活習慣、日常生活の様子について	1
2 保護者の子どもとのかかわり方	2
3 保護者と各種支援制度、支援者との関係	4
4 その他	8

【分類別の主な意見】

3 保護者と各種支援制度、支援者との関係

- ・子どもの貧困による教育格差を解消するためにも、放課後デイサービスやNPO法人の協力を得て、子どもが安心して学習できる環境づくりを推進していくことを望んでいます。自治体によっては「ひとり親家庭の子どものための学習支援事業」など、具体的な支援が施されています。ご検討をお願いします。
- ・未就学または小学生在籍期間など、もっと早い段階で支援の手立てが講じられるようにしていくことが必要だと思う。家庭と小学校や中学校が関われる期間は9年間と限られていることから、地域からその家庭へのアプローチや支援が大切だと考える。

4 その他

- ・地域人材やNPOの支援を受けながら、学校内に子ども食堂を整備し、食・健康・学ぶ意欲を喚起する仕組みづくりがあれば、好循環が生まれ、地域活性化が図れるのではないかと感じている。
- ・学校では授業改善や生徒指導面で子どもを支援しているが、子どもが「将来どうありたい」「今、学校で何かが楽しい」と十分に思わせることができていないと感じる。そのため、学校生活に意欲が感じられず、不登校傾向になる子どもが多い。
- ・学校として、家庭の問題に介入するには限界がある。市の相談機関等とはとてもよく連携できており、気軽に相談できるのだが、それらの相談機関には多くの情報が寄せられ、「職員の数が足りないのではないかと感じる。

4 資源量調査

問1 貴機関について教えてください。

【貴機関における日ごろの業務の主な対象】

「小学生」、「中学生」が6件となっています。「就学前児童」が5件となっています。

【貴機関の主な業務】

- ・子どもの居場所づくり
- ・生涯学習センター
- ・児童発達支援事業、放課後等デイサービス
- ・生活保護業務
- ・ボランティア団体
- ・要保護児童対策地域協議会事務局
- ・母子保健業務
- ・学校教育

【貴機関の職員数】

「6～10人」が4件となっています。「5人以下」が2件、「11～15人」、「16～20人」が1件となっています。

問2 貴機関では、貧困の状態にある子どもの支援に携わったことがありますか。

「ある」が5件、「ない」が4件となっています。

問3 貴機関では、どのような対応をされましたか。(1つに○)

「相談を受けた」が3件、「別の機関を紹介した」が2件となっています。

問3において、「1. 相談を受けた」とお答えいただいた貴機関にお聞きします。

問4 貧困の状態にある子どもある方への相談体制についてお聞きします。

(1) 該当する方について、相談に対応できる人員は何名いますか。

「3～4名」が2件、「7名以上」が1件となっています。

(2) (1)に該当する方について、相談に対応できる人員は足りていますか。

「足りている」が3件、「不足している」が0件となっています。

問2において、「1. ある」とお答えいただいた貴機関にお聞きします。

問5 貧困の状態にある家庭では、子どもや保護者にどのような状況が見られますか。個人を特定できない範囲で、子どもや保護者の状況をご記入ください。

①困難な家庭の特徴や背景、生活状況（主な意見）

・多子家庭。保護者に離婚歴あり、DVあり。保護者（父や母）に障害がある。精神的に不安定、パニック障害、依存（パチンコ、買物、アルコールなど）。保護者が働けない、家事ができない。住居が汚い、ネコや犬を飼っている、ゴミ屋敷。

②保護者の経済状況（主な意見）

・金銭管理能力が低く、計画的に使えない。親が代わりに管理するも関係悪化、管理も難しい。ローン支払い、滞納も多い。まとまった支払いは数か月前から準備しないと用意が難しいが、衝動的な消費も目立つ。

・子どもに義務教育を受けさせることが経済的に困難。

③子どもと保護者の関わり（主な意見）

・親子のコミュニケーションがうまくいっていない。受診させない。保護者に精神的余裕がなく、子どもとうまくかかわれず、子どもがストレスをためている。食事はコンビニで購入。節約のため毎日入浴させない。学校などからの配付物に保護者が目を通してくれない。

・子どもとの関係は良くなく、学校も不登校ぎみである。

④子どもの性格面・意識面の状況（主な意見）

・コミュニケーション能力の欠如

・衝動的。暴力的。自己評価が低い。言葉が乱暴。表情等が暗い。かかわりを持ってくれる大人に人見知りせずによっていく。

⑤子どもの生活や学習の様子（主な意見）

・生活リズムの乱れ。基本的な生活習慣が身につかない。進路を考えるとき、また働いても、自分のやりたいことというよりは「母を助けないと」という考えが優先。

・学習することが身につけていない。衣服が汚れていることが多い。ゲームをして過ごすことが多い。

⑥子どもの自己肯定感について（主な意見）

・将来の夢を持っている子が少ない。学校の子となじめていない。

⑦保護者と各種支援制度・支援者との関係（主な意見）

・支援に対する認知度が低い。

・関係機関で情報共有を細やかに行ない、問題や不安が大きくなる前に対応し、一緒に考え、行動できるよう促した。

問6 これまでの経験から見て、貧困の状態に置かれた子どもは、どのような面で貧困を抱えていることが多い（または貧困を抱えている可能性がある）と思いますか。

「こころの状態の安定性、心身の健康」、「健全な生活習慣、食習慣」が4件となっています。「読み書き、計算などの基礎的な学力」、「コミュニケーション能力」が2件となっています。

問7 貴機関における経済的困窮するなど困難を抱えている家庭に対する支援等の状況についてご記入ください。

①現在実施している支援等の内容（主な意見）

ア 経済支援

・就学援助制度。生活保護へのつなぎ。借金整理手続へのつなぎ。
・福祉事務所を紹介する、法テラスの情報提供。
・生活保護

イ 生活支援

・地域食堂。お弁当の提供。
・部屋の片付けを行なうなど住環境改善への支援。衣服類（おさがりなど）。子ども食堂へのつなぎ。
・母子寮の情報提供

ウ 保護者への支援

・家庭訪問や面談などを通し、困っていることの把握とそこへの支援。保護者が困難なときは、学校等からの情報をわかりやすく解説して伝えたり、書類記入を一緒に行なうなどの支援。
・困り感、支援者、現在の問題などを一緒に考え整理する。家族間関係の調整。体調確認、必要時受診のすすめ。収支の整理、一緒に考える。

エ 教育支援

・幼稚園等の無償化。塾の紹介。スクールカウンセラーの活用。
・生活保護世帯対象の塾。
・子どもの学習支援事業。
・学習支援事業（しおがまチャレンジ教室）。被災就学援助受給世帯及び要保護・準要保護世帯に該当する中学生に、放課後の学びの場を提供する（市内に2教室、週2回開設。教員免許を持つ指導員を2名ずつ配置）。

②支援等を実施する上での問題点、課題等

ア 経済支援

- ・金銭管理ができるようになるため、お金の使い方を伝える。お金の使い方について話を
する。
- ・知的な問題があると、お金の使い方を指導するのが難しい。
- ・現状、令和2年11月末現在で、就学支援を受けている世帯の児童数は合計817名であ
り、市内全児童生徒数の約23%に当たる。かなり高い値である。

イ 生活支援

- ・根底には親の成育歴、パーソナリティの問題があり、現実的な改善に向かいづらい。
- ・生活リズムの構築が必要であるが、夜遅くまで起きていて、朝起きられない者が多く、
子どもの通学・登校にも影響している。

ウ 保護者への支援

- ・生活習慣の安定を図るための生活指導が必要である。

エ 教育支援

- ・勉強できる場の確保。学習できる場と機会を失っていることがある。

オ その他

- ・保護者の理解の程度によっては、周囲からの情報を理解しての行動がとれない。

問8 保護者の生活状況やいままでの人生経験が、今後の子どもの生活や将来に影響は
あると思いますか。また、あると感じるときはどのような時ですか。

「影響はあると思う」が5件、「影響はないと思う」が0件となっています。

【影響はあると感じるとき】

- ・愛された経験が乏しい親は子の愛し方がわからない。どうしたら良いかわからない。
- ・保護者自身が成長過程において、母子の愛着関係に問題がある場合、自己肯定感が低く、
コミュニケーションがとれない。保護者の経験不足が子どもの経験不足につながる。保
護者の考え方に偏りがあると、子どもはそれを引きずっていく。
- ・不登校支援を行っている時、当該児童生徒の兄や姉、あるいは保護者が不登校を経験し、
現在社会生活を送っている場合、保護者が当該児童生徒の状況を軽く受け止めてしま
うことがある。

問9 貴機関で実際に取り組まれている支援内容に関わらず、貧困の状態に置かれた子どもやその家族への支援にあたっては、どのような支援が必要だと思いますか。

「子どもへの食育の推進や食事・栄養状態の確保」が5件となっています。「保護者の自立支援」、「保護者の就労機会の確保等、就労に関する支援」が3件となっています。

問10 問9で答えていただいた今後必要な支援に取り組むため、連携が必要な機関や団体などはありますか。(該当する番号すべてに○)

「保育所・幼稚園」、「小・中学校」、「教育委員会」が5件となっています。

問11 今後、経済的に困窮するなど困難を抱えている家庭の子どもや保護者に対する支援全般のため、塩竈市としてどのような対策が必要だとお考えですか。

(主な意見)

- | |
|---|
| ・経済的に困窮している家族の子どもだけに支援するのは困難だと思います。小・中学生の全てに平等に手厚い支援が行き届くことで、困窮している家庭の子どもに差別感なく行き渡るのではないのでしょうか。 |
| ・放課後等デイサービスの利用日数の拡大。療育手帳など福祉サービスを受けやすくする。 |
| ・保護者が働けるように保育所、児童館、病後児保育、地域の支え手の確保等、整備を進める。給食費の無償化。 |
| ・(これまでも行われてきていることだが) 学校をはじめ、関係機関が連携して子どもや保護者に支援を行う体制を継続し強化していく。 |

自由意見

分類回答	件数
1 保護者の状況や生活習慣、日常生活の様子について	2
2 保護者の子どもとのかかわり方	0
3 保護者と各種支援制度、支援者との関係	3
4 その他	1

【分類別の主な意見】

1 保護者の状況や生活習慣、日常生活の様子について

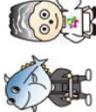
- ・現在実施している活動の中で、問2で問われた「貧困の状態」が明確でない場合でも、経済的にはなく、子育て力の貧困（不足）といったような状態（余裕がなかったり、厳しすぎたり、冷ややかな対応、無関心等々）の親子関係を垣間見ることがあり、子ども同士のつき合いがうまくできなかつたり、子どもたちの学習能力の遅れ、勉強嫌いを感じたりすることがありました。
- ・親の知的な能力も収入や生活に影響していると思いますが、理解や経験が積み上がらず、仕事も続かないことも多々ある方もいます。支援をどのように行えばいいのか悩みます。

3 保護者と各種支援制度、支援者との関係

- ・それぞれの機関に得意分野があります。それを生かし、連携をとりながら見守っていけば改善になると思います。情報の共有は大切だと思います。みな同じ塩竈の子です。
- ・家庭内でも、学校でも、地域でも子どもたちが「大切にされている、愛されている」と感じ「自分が好きだ」「学校が楽しい」「大きくなるのは楽しみ」と実感できる塩竈市になるよう、市も市民も本気になって取り組んでいかなければならないと考えています。家庭だけで背負えるものではないと考えています。私たち大人が子どものころ、たくさんの地域の大人に見守られ、助けられ、叱られ、ほめられ成長したきたことを思い出して、今より少しでもよいから子どもたちに関心を持ち、少しでもよいから目をかけ、言葉をかけ、サポートしてくれることを願っています。

IV 調査票

1 小学生・中学生向け調査

塩竈市 子どもの生活に関する実態調査 【小学生・中学生向け調査 調査票】
<p>◆この調査は、塩竈市の小学生・中学生の生活状況などを調べるためのアンケートです。このアンケートの結果は、塩竈市の子どもの生活をより良いものにしていくために役立てます。</p> <p>◆この調査の回答は、小学生または中学生のあなたが自分で書いてください。</p> <p>◆名前を書く必要はありません。テストではありませんので、思ったとおりに答えてください。</p> <p>◆答えたくない質問は、とばして次の質問に進んでください。</p> <p>◆答えは、あてはまる番号などに○をつけてください。</p> <p>◆○のつけかたは、質問の終わりに「あてはまるもの1つに○」や「あてはまるものすべてに○」などと書いてありますので、それにしてください。</p> <p>◆答えに迷う場合は、あなたの気持ちや考えにできるだけ近いものを選ぶようにしてください。</p> <p>◆全部書き終わったら、自分で「小学生・中学生用」と書いてある封筒に入れて、学校へ提出してください。</p> <p>◆あなたが書いた内容は、おうちの人や先生に見せる必要はありません。</p> <p>◆このアンケートは調査の目的以外には使用しません。また、このアンケートでは名前を書かないので、あなたがどのように答えたかはだれにもわかりません。</p>
 提出期限 令和2年12月9日（水）
この調査の問合せ先
<p>◆調査への回答にあたって、わからないことがありましたら、下記までお問い合わせ下さい。</p> <p>・塩竈市役所 健康福祉部 子育て支援課 家庭支援係</p> <p>・電話 022-353-7797 (平日 午前8時30分～午後5時15分)</p> <p>・住所 塩竈市本町1番1号</p>

問7 あなたは、地域のスポーツクラブや文化クラブ、学校の部活動に参加していますか。
(あてはまるもの1つに○)

1. 参加している
2. 参加していない

問7で「2. 参加していない」と答えた人にお聞きします。

問7-1 参加していない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 入りたいクラブ・部活動がないから
2. 塾や習い事がいそがしいから
3. 費用がかかるから
4. 家の事情(家族の世話、家事など)があるから
5. 一緒に入る友達がいらないから
6. その他 ()

問8 あなたは朝ごはんをいつも食べていますか。(あてはまるもの1つに○)

1. 毎日食べる
3. 週に3～4日は食べる
2. 週に5～6日は食べる
4. 週に1～2日は食べる (ほとんど食べない)

問8で「2. 週に5～6日」「3. 週に3～4日」「4. 週に1～2日 (ほとんど食べない)」と答えた人にお聞きします。

問8-1 毎日朝ごはんを食べない最も大きな理由は何ですか。

(あてはまるもの1つに○)

1. 時間がないから
3. ごはんが用意されていないから
5. 家族が朝ごはんを食べないから
2. 食欲がわかないから
4. ダイエットのため
6. その他 ()

問9 あなたは夕ごはんをいつも食べていますか。(あてはまるもの1つに○)

1. 毎日食べる
3. 週に3～4日は食べる
2. 週に5～6日は食べる
4. 週に1～2日は食べる (ほとんど食べない)

問9で「2. 週に5～6日」「3. 週に3～4日」「4. 週に1～2日 (ほとんど食べない)」と答えた人にお聞きします。

問9-1 毎日夕ごはんを食べない最も大きな理由は何ですか。

(あてはまるもの1つに○)

1. 時間がないから
3. ごはんが用意されていないから
5. 家族が夕ごはんを食べないから
2. 食欲がわかないから
4. ダイエットのため
6. その他 ()

問10 あなたは夏休みや冬休みなどの期間に、お昼ごはんをいつも食べていますか。

(あてはまるもの1つに○)

1. 毎日食べる
3. 週に3～4日は食べる
2. 週に5～6日は食べる
4. 週に1～2日は食べる (ほとんど食べない)

問10で「2. 週に5～6日」「3. 週に3～4日」「4. 週に1～2日 (ほとんど食べない)」と答えた人にお聞きします。

問10-1 毎日お昼ごはんを食べない最も大きな理由は何ですか。

(あてはまるもの1つに○)

1. 時間がないから
3. ごはんが用意されていないから
5. 家族がお昼ごはんを食べないから
2. 食欲がわかないから
4. ダイエットのため
6. その他 ()

問 11 あなたは、ふだん(月曜日～金曜日)、何時に寝ていますか。(あてはまるもの1つに○)

1. 午後9時より前
2. 午後9時台
3. 午後10時台
4. 午後11時台
5. 午前0時台
6. 午前1時より後
7. 決まっていない

問 12 あなたは、ふだん(月曜日～金曜日)、何時に起きていますか。(あてはまるもの1つに○)

1. 午前5時より前
2. 午前5時台
3. 午前6時台
4. 午前7時台
5. 午前8時台
6. 決まっていない

問 13 あなたは、自分の健康状態について、どう感じていますか。(あてはまるもの1つに○)

1. 良い
2. どちらかといえば良い
3. ふつう
4. どちらかといえば悪い
5. 悪い

問 14 あなたは、今まで虫歯ができたとき、歯医者に行きましたか。(あてはまるもの1つに○)

1. 必ず行って治療した
2. 行かなかったことがあった
3. 行ったことはない
4. 虫歯ができたことはない

問 15 あなたは、ふだん家で以下のa～dのことをどれくらいしていますか。
(a～dそれぞれについてあてはまるもの1つに○)

	毎日・ほぼ毎日	週に半分程度	週に1～2回	月に1～2回	ほとんどない	まったくない
a) 家の手伝いをする	1	2	3	4	5	6
b) 家の大人の人に宿題(勉強)をみもらう	1	2	3	4	5	6
c) 家の大人の人と学校などでのごことについて話を する	1	2	3	4	5	6
d) 家の大人の人と外出(散歩、買い物、外食など) する	1	2	3	4	5	6

問 16 あなたが持っているものや、あなたが使うことができるものを選んでください。
(あてはまるものすべてに○)

1. 自分だけの本(教科書やマンガはのぞく)
2. 自分の部屋(兄弟・姉妹と使っている場合も含む)
3. インターネットにつながるパソコンやタブレット
4. 自分専用の勉強机
5. 自分専用の文具
6. スポーツ用品(野球のグローブやサッカーボール、バレーボールなど)
7. ゲーム機
8. 友達が持っているのと同じようなおもちゃ(趣味などのものを含む)
9. 自転車
10. ちよっとしたおやつやおもちゃを買うおごつかい
11. 友達に着ているのと同じような服
12. 携帯電話、スマートフォン
13. 携帯音楽プレイヤーなど音楽をさくもの

問 17 あなたは、将来の夢がありますか。(あてはまるもの1つに○)

1. ある
2. ない

問 17で「2. ない」と答えたい人にお聞きします。

問 17-1 夢がない理由はなんですか。(あてはまるもの1つに○)

1. 夢がかなうのがむずかしいと思うから
2. 具体的に何も思いつかないから
3. その他()
4. わからない

問 18 あなたが日常生活の中で感じていることについて、答えてください。
(a～h それぞれについて、あてはまるもの1つに○)

項 目	そう思う	まあそう思う	あまりそう 思わない	そう思わない
a) 努力すれば、できるようになる	1	2	3	4
b) 自分の将来が楽しみだ	1	2	3	4
c) 自分は価値のある人間だと思う	1	2	3	4
d) 自分は家族に大事にされている	1	2	3	4
e) 自分は友達に好かれている	1	2	3	4
f) 毎日の生活が楽しい	1	2	3	4
g) 自分のことが好きだ	1	2	3	4
h) 自分の考えをはつきり相手に伝えることができる	1	2	3	4

問 19 全体として、あなたは最近の生活に、どのくらい満足していますか。「0」(まったく満足していない)から「10」(十分に満足している)の数字で答えてください。
(あてはまるもの1つに○)

0 : まったく満足していない	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10 : 十分に満足している

問 20 あなたの家族や家庭の様子を教えてください。
(1～14 については、あてはまるものすべてに○)

1. 家族の団らんや会話が多い
2. 親は優しい
3. 親は自分の話よく聞いてくれる
4. 家族同士の仲が良い
5. 兄弟・姉妹との仲が良い
6. 兄弟・姉妹と比べられることがある
7. 食事は毎食用意されている
8. 家の中はきれいだ
9. 家族は服を洗濯してくれる
10. 家は落ち着いて勉強ができる環境だ
11. 病院や歯医者に行きたいときは、連れて行ってもらえる
12. 美容院や床屋に行きたいときは、連れて行ってもらえる
13. (あなたが) 家族の世話をしている (病気の家族、お年寄りの家族、弟や妹など)
14. その他 ()
15. ひとつもあてはまらない

問 21 これまでの半年間を振り返り、以下のそれぞれの質問について、「1 あてはまる」「2 まああてはまる」「3 あてはまらない」のどれかから回答してください。
(a～h それぞれについて、あてはまるもの1つに○)

	あてはまる	まああてはまる	あてはまらない
a) 私は、他人に対して親切にしようとしている。	1	2	3
b) 私は、他人の気持ちをよく考える。	1	2	3
c) 私は、いつも一人でいることが多い	1	2	3
d) 私は、悩みごとがあってもすぐに解決できる。	1	2	3
e) 私は、誰かが嫌な思いをしているときには、すすんで助ける。	1	2	3
f) 私は、新しいことを始める時でも自信をもって行動できる。	1	2	3
g) 私は、他の子どもから、からかわれたりすることがある。	1	2	3
h) 私は、自分からすすんでよくお手伝いをする (親・先生など)。	1	2	3

問 22 あなたに困っていることや悩みごとがあるとき、あなたが相談できる人はだれですか。(1～9 については、あてはまるものすべてに○)

1. 親
2. きょうだい
3. 祖父母・親戚
4. 学校の先生
5. 学校の友達
6. 学校外の友達
7. スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー
8. その他の大人 (例：塾・習い事の先生、地域の人など) ()
9. インターネットで知り合った人
10. だれにも相談できない、相談したくない

問 23 あなたは、次の a～d のような場所を利用したことがありますか。
 また、利用したことはない場合、今後利用したいと思いませんか。
 (a～d それぞれについて、あてはまるもの 1 つに○)

	利用したことがある	利用したことはない		
		あれば利用したいと思う	今後利用したいと思わない	今後利用したいかどうかわからない
a) (自分や友人の家以外で) 平日の放課後や休日を過ごすことができる場所 (児童館、図書館など)	1	2	3	4
b) (自分や友人の家以外で) タゴごはんを無料で安く食べることができる場所 (子ども食堂など)	1	2	3	4
c) (学校以外で) 勉強を無料でみとくれる場所	1	2	3	4
d) (家や学校以外で) 何でも相談できる場所 (電話やインターネットの相談を含む。)	1	2	3	4

問 23 で 1 つでも 1 と答えた人にお聞きします。

問 23-1 そこを利用したことで、以下のような変化がありましたか。

(あてはまるものすべてに○)

1. 友達が増えた
2. 気軽に話せる大人が増えた
3. 生活の中で楽しみが増えた
4. ほっとできる時間が増えた
5. 栄養のある食事をとれることが増えた
6. 勉強がわかるようになった
7. 勉強する時間が増えた
8. その他 () 9. とくに変化はない

問 24 ふだん悩んでいることや、大人の人に言いたいことがありましたら、自由に記入してください。

質問は以上です。調査にご協力いただきありがとうございます。

2 保護者（学校配布）調査

塩竈市 子どもの生活に関する実態調査

【保護者向け調査 調査票】

< 調査への協力をお願い >

- ◇この調査は、塩竈市健康福祉部子育て支援課が実施しています。調査の趣旨に関するご質問やご意見については、下記の問合せ先までお願いいたします。
- ◇この調査は、保護者のみなさまに家庭状況などについてお聞きし、塩竈市の子どもを取り巻く現状を把握すると共に、子どものための支援策に役立てるために実施します。
- ◇皆様からのご回答を支援策の充実や改善につなげていきたいと存じますので、ご多忙のところ大変恐縮ですが、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

令和2年11月 塩竈市長 佐藤 光樹

【回答に当たってのお願い】

- ◆調査票をお送りする方の選び方
 - ・この調査票は、小学5年生と中学2年生のお子さんがいる保護者の方に配布しています。
- ◆プライバシーへの配慮
 - ・お名前や住所を書く必要はありません。調査の集計は統計的に処理し、個人を特定することはありません。また、目的以外に使うことはありません。
 - ・学校や教育委員会で調査結果を利用することはありません。
- ◆回答に当たってのお願い
 - ・この調査票は、小学5年生または中学2年生のお子さんのお父さんのお母さんにお答えください。また、「お子さん」と書かれた質問には調査票を受け取ったお子さんについてお答えください。
 - ・ご回答は、回答の番号などに○をつけてください。
 - ・答えたくない質問については、とばして次の質問にお進みください。
 - ・小学5年生と中学2年生の「きょうだい」がおられるご家庭、もしくは双子など同学年の「きょうだい」がおられるご家庭で、この調査票が複数届いた場合、保護者の方の調査票回答は、1通だけで結構です。その場合、「きょうだい」の上のお子さんについて回答してください。

※ 小学5年生と中学2年生の「きょうだい」がおられるご家庭の「回答」は、小学校もしくは中学校のどちらかに提出してください。

◆調査票の回収方法

- ・調査票の回答後、「回収用封筒」と書かれた封筒に入れて、封をして提出期限までに学校へ提出してください。



提出期限 令和2年12月9日(水)

この調査の問合せ先

- ◆調査への回答にあたって、わからないことがありますら、下記までお問い合わせ下さい。
- ・塩竈市役所 健康福祉部 子育て支援課 家庭支援係
- ・電話 022-353-7797 (平日 午前8時30分～午後5時15分)
- ・住所 塩竈市本町1番1号

問1 お子さんの生年月を教えてください。

西暦	年	月
----	---	---

問2 お子さんとお父さんとの関係は、次のどれにあたりますか。お子さんから見た続柄でお答えください。(あてはまるもの1つに○)

1. 母親(継母を含む)
2. 父親(継父を含む)
3. 祖父母
4. その他

問3 あなたがお住まいの小学校の学区を教えてください。(あてはまるもの1つに○)

1. 一小
2. 二小
3. 三小
4. 月見小
5. 杉小
6. 玉小
7. 浦戸小
8. その他

問4 お子さんと同居し、生計を同一にしているご家族の人数(お子さんを含む。)を教えてください。単身赴任中の方は含めないでください。

ご家族の人数 人

問5 前問で回答した「ご家族」には、お子さんから見てどの関係の方が含まれますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 母親
2. 父親
3. 祖母
4. 祖父
5. 兄弟姉妹 (人)
6. 兄弟姉妹の配偶者 (人)
7. おじ
8. おば
9. その他の親族 (人)
10. 親族以外の同居の家族 (人)

問6 あなたのお住まいの状況を教えてください。(あてはまるもの1つに○)

1. 持家(購入マンション含む)
2. 市営・県営住宅
3. 借家(賃貸マンション含む)
4. 親などの親族の持家
5. その他 ()

問7 お子さんと同居し、生計を同一にしている親の婚姻状況を教えてください。
(あてはまるもの1つに○)

1. 結婚している (再婚や事実婚を含む。)
2. 離婚
3. 死別
4. 未婚
5. いない、わからない

問7で「2. 離婚」と答えた方にお聞きします。

問7-1 養育費の受け取りはありますか。(あてはまるもの1つに○)

1. ある
2. ない

問7-2 養育費について困っていることはありますか。(あてはまるもの1つに○)

1. 養育費の取り決めをしているが、受け取ることができない
2. 養育費の取り決めができず、受け取ることができない
3. 養育費を受け取っているが、取り決めより少ない金額しか支払われていない
4. その他 ()
5. 困っていることはない

問8 ご家庭ではどれくらい、日本語以外の言語を使用していますか。
(あてはまるもの1つに○)

1. 日本語のみを使用している
2. 日本語以外の言語も使用しているが、日本語の方が多い
3. 日本語以外の言語を使うことが多い

問9 お子さんの親の最終学歴(卒業した学校)を教えてください。
(a, b それぞれについて、あてはまるもの1つに○)

	a) 母親	b) 父親
中学(中学部)まで	1	1
高校(高等部)まで	2	2
短大・高等・専門学校(専攻科)まで	3	3
大学またはそれ以上	4	4
いない、わからない	5	5

問10 お子さんの親の就労状況について、あてはまるものを回答してください。
(a, b それぞれについて、あてはまるもの1つに○)

	a) 母親	b) 父親
正社員・正規職員・会社役員	1	1
嘱託・契約社員・派遣職員・パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員	2	2
自営業(家族従業者、内職、自由業、フリーランスを含む。)	3	3
働いていない(専業主婦/主夫を含む。)	4	4
いない、わからない	5	5

問10で「4. 働いていない」と答えた方にお聞きします。

問10-1 働いていない最も主な理由を教えてください。

(a, b それぞれについて、あてはまるもの1つに○)

	a) 母親	b) 父親
働きたいが、希望する条件の仕事がないため	1	1
子育てを優先したため	2	2
家族の介護・介助のため	3	3
自分の病気や障害のため	4	4
通学しているため	5	5
その他の理由	6	6

問11 あなたは、現在の暮らしの状況をどのように感じていますか。
(あてはまるもの1つに○)

1. 大変ゆとりがある
2. ゆとりがある
3. ふつう
4. 苦しい
5. 大変苦しい

問 12 世帯全体のおおよその年間収入(税込)はいくらですか。(あてはまるもの1つに○)

- ※収入には、同居し、生計を同一にしている家族全員の以下の収入が含まれます。
- ・勤め先収入(定期収入、賞与など)
- ・事業所得(原材料費、人件費、営業上の諸経費などを除く)。内職収入(材料費などを除く)
- ・公的年金・恩給、その他の社会保障給付金(生活保護、児童手当、児童扶養手当など)
- ・農林漁業収入(農機具などの材料費、営業上の諸経費などを除く)
- ・財産所得(預貯金利息、家賃収入など)
- ・その他の収入(住送り、養育費、個人年金、各種祝い金など)

1. 50万円未満	2. 50~100万円未満
3. 100~150万円未満	4. 150~200万円未満
5. 200~250万円未満	6. 250~300万円未満
7. 300~350万円未満	8. 350~400万円未満
9. 400~450万円未満	10. 450~500万円未満
11. 500~600万円未満	12. 600~700万円未満
13. 700~800万円未満	14. 800~900万円未満
15. 900~1000万円未満	16. 1000万円以上

問 13 あなたの世帯では、過去1年の間に、経済的な理由で、次のような経験をしたことがありますか。(1~8については、あてはまるものすべてに○)

1. 電気・ガス・水道が止められた	2. クレジットカードが利用停止になった
3. 税金や国民年金保険料の支払いが滞った	4. 保育料や授業料の支払いが滞った
5. 家賃や住モローンの支払いが滞った	6. 食費を切りつめた
7. 新しい衣服や靴を買い控えた	8. 医療機関の受診を控えた
9. どれもあてはまらない	

問 14 調査対象のお子さんが0~2歳の間に通っていた教育・保育などの施設で最も主なもの(期間が長いもの)をお答えください。(あてはまるもの1つに○)

1. 認可保育所・認定こども園	2. その他の教育・保育などの施設
3. 親・親族以外の個人	4. もっぱら親・親族が面倒を見ていた

問 15 調査対象のお子さんが3~5歳の間に通っていた教育・保育などの施設で最も主なもの(期間が長いもの)をお答えください。(あてはまるもの1つに○)

1. 幼稚園・認可保育所・認定こども園	2. その他の教育・保育などの施設
3. 親・親族以外の個人	4. もっぱら親・親族が面倒を見ていた

問 16 お子さんは将来、どの段階まで進学すると思いますか。(あてはまるもの1つに○)

- 1. 中学まで
- 2. 高校まで
- 3. 短大・高専・専門学校まで
- 4. 大学またはそれ以上
- 5. まだわからない

問 16で「1. 中学まで」「2. 高校まで」「3. 短大・高専・専門学校まで」「4. 大学またはそれ以上」と答えた方にお聞きします。

問 16-1 その理由は何か。(1~5については、あてはまるものすべてに○)

- 1. お子さんがそう希望しているから
- 2. 一般的な進路だと思うから
- 3. お子さんの学力から考えて
- 4. 家庭の経済的な状況から考えて
- 5. その他()
- 6. 特に理由はない

問 17 あなたのご家庭では、お子さんに次のことをしていますか。

(a~gそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

	している	していない	必要だと思わ	ない	経済的にでき
a) 毎月おこづかいを渡す	1	2	2	3	3
b) 毎年新しい洋服・靴を買う	1	2	2	3	3
c) 習い事(音楽・スポーツ・習字など)に通わせる	1	2	2	3	3
d) 学習塾に通わせる または、家庭教師や通信教育をさせている	1	2	2	3	3
e) 病院に行く(医療機関での健診を含む)	1	2	2	3	3
f) 歯医者に行く(歯医者での健診を含む)	1	2	2	3	3
g) 子どもの学校行事(授業参観・懇談会・運動会など)にお母さん、お父さんや祖父母が参加する	1	2	2	3	3

問 18 お子さんの教育にかかる経費について、負担が大きいと感じているものはありませんか。(1~8については、あてはまるものすべてに○)

- 1. 保育料・授業料
- 2. 学用品費(制服、靴、ノートなど身の回りのもの)
- 3. 学習費・教材費
- 4. 給食費
- 5. 修学旅行費などの積立金
- 6. 地域のクラブ活動費
- 7. 学校外の教育費(塾代、家庭教師や通信教育にかかる費用)
- 8. その他()
- 9. 負担が大きいと感じているものはない

問 19 保護者の方とお子さんの関わり方について、次のようなことにどれくらい当てはまりますか。(a～dそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

	あてはまる	あどちらかといえば、あてはまる	あどちらかといえば、あてはまらない	あてはまらない
a) テレビ・ゲーム、インターネットなどの視聴時間 <small>しやうしゆじかん</small> などのルールを決めている	1	2	3	4
b) お子さんに本や新聞を読むように勧めている <small>すす</small>	1	2	3	4
c) お子さんが小さいころ、絵本の読み聞かせをして <small>き</small> いた	1	2	3	4
d) お子さん <small>おなご</small> 自ら、勉強 <small>べんきやう</small> や成績のことについて話をしてくれる	1	2	3	4

問 20 あなたとお子さんの関係について、最も近いもの1つに○をつけてください。

(①～⑤それぞれについて、あてはまるもの1つに○)

①お子さんと、よく会話をしますか。

1. よくする
2. する
3. あまりしない
4. しない

②お子さんと過ごす時間が十分じゆうぶんに取れていますか。

1. よく取れている
2. 取れている
3. あまり取れていない
4. 取れていない

③お子さんの仲の良い友達を知っていますか。

1. よく知っている
2. 知っている
3. あまり知らない
4. 知らない

④お子さんの将来の夢について知っていますか。

1. よく知っている
2. 知っている
3. あまり知らない
4. 知らない

⑤お子さんを信頼していますか。

1. 大変信頼している
2. 信頼している
3. あまり信頼していない
4. 信頼していない

6

問 21 次の質問について、この1か月間のあなたの気持ちほどのようでしたか。

(a～fそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

	いつも	たいてい	ときどき	少しだけ	まったくない
a) 将来への希望や、楽しみなことがあった	1	2	3	4	5
b) 不安や孤独 <small>こどく</small> を感じることがあった	1	2	3	4	5
c) 気持ちが落ち着 <small>おち</small> いていた	1	2	3	4	5
d) 気分が明るく、前向きな気持ちになった	1	2	3	4	5
e) 何を <small>なに</small> するのも活動 <small>かっどう</small> 的 <small>てき</small> だった	1	2	3	4	5
f) 自分は価値 <small>かち</small> のある人間だと感じた	1	2	3	4	5

問 22 お子さんや子育てについて、現在悩んでいることはありますか。

(1～12については、あてはまるものすべてに○)

1. 子どもに対するしつけや教育に自信が持てない
2. 子育てについて相談できる人がいない
3. 仕事と子育ての両立が難しい
4. 自分の時間が持てない
5. 子育てのストレスをうまく解消できない
6. 子育てを手伝ってくれる人が身近にいない
7. 子どもが勉強をしない
8. 子どもの発育や体調が心配である
9. 子どもが学校に行くことを嫌がる
10. 子どもの教育費けいようひが心配である
11. 子どもに十分な食事を与えることができない
12. その他 ()
13. 特に悩みはない

7

問23 あなたは、子育てに関する情報をどこから手に入れますか。
(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|---------------------------------------|--------------------|
| 1. 家族・親族 | 2. 友人・知人 |
| 3. 近所の人 | 4. 職場の人 |
| 5. 民生委員や児童委員 | 6. 市役所など行政の窓口 |
| 7. 保育施設などの先生や学校の先生 | 8. 子育て支援センターや児童館など |
| 9. 市の広報 | 10. 塩竈市のホームページ |
| 11. SNS (フェイスブック・ツイッターなど) や市以外のホームページ | |
| 12. その他 () | |

問24 あなたは次に挙げる事柄で頼れる人はいますか。
(a、bそれぞれについて、1～3のあてはまるもの1つに○)
また、「1. 頼れる人がいる」場合、それはだれですか。
(①～⑧のあてはまるものすべてに○)

頼れる人がいる	a) 子育てに関する相談		b) 子育て以外の事柄の相談								
	1	2	1	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
家族・親族											
友人・知人											
近所の人											
職場の人											
保育施設などの先生や学校の先生											
民生委員・児童委員											
相談・支援機関や福祉の人											
その他											
いない		2									
そのことで人に頼らない		3									

①～⑧のあてはまるものすべてに○
1に○をつけた場合、

問25 あなたのご家庭では、以下の支援制度をこれまでに利用したことがありますか。
(a～dそれぞれについて、1～3のあてはまるもの1つに○)
また、「3. 利用したことがない」場合、その理由は何か。
(①～⑤のあてはまるもの1つに○)

	a 就学援助 ※1	b 生活保護 ※2	c 生活困窮者の自立支援相談窓口	d 児童扶養手当 ※3
	現在利用している	1	1	1
現在利用していないが、以前利用したことがある	2	2	2	2
利用したことがない	3	3	3	3
制度の対象外(収入などの条件を満たさない)だから	①	①	①	①
利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから	②	②	②	②
利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから	③	③	③	③
利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくかったから	④	④	④	④
それ以外の理由	⑤	⑤	⑤	⑤

①～⑤のあてはまるもの1つに○
3に○をつけた場合、

参考)

- ※1 就学援助: 経済的理由により子供の就学が困難な場合に、学用品費などを補助する制度。
- ※2 生活保護: 病気や失業などにより生活費などにより生活費などに困り、他に方法がないときに一定の援助が受けられる制度。
- ※3 児童扶養手当: 所得が一定水準以下のひとり親世帯の生活支援のための手当。(児童手当とは異なります。)

3 保護者（郵送配布）調査

塩竈市 子どもの生活に関する実態調査 【保護者向け調査 調査票】

< 調査への協力をお願い >

- ◇この調査は、塩竈市健康福祉部子育て支援課が実施しています。調査の趣旨に関するご質問やご意見については、下記の問合せ先までお願いします。
- ◇この調査は、保護者のみなさまに家庭状況などについてお聞きし、塩竈市の子どもを取り巻く現状を把握すると共に、子どものための支援策に役立てるために実施します。皆様からのご回答を支援策の充実に活用させていただきますので、ご多忙のところ大変恐縮ですが、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

令和2年11月
塩竈市長 佐藤 光樹

【回答に当たってのお願い】

- ◆調査票をお送りする方の選び方
 - ・この調査票は、0歳～18歳のお子さんがいる保護者の方に送付しています。
- ◆プライバシーへの配慮
 - ・お名前や住所を書く必要はありません。調査の集計は統計的に処理し、個人を特定することはありません。また、目的以外に使うことはありません。
 - ・学校や教育委員会で調査結果を利用することはありません。
- ◆回答にあたってのお願い
 - ・この調査票は、宛名のお子さんの保護者の方がお答えください。また、「お子さん」と書かれた質問には宛名のお子さんについてお答えください。
 - ・ご回答は、回答の番号などに○をつけてください。
 - ・答えたくない質問についてはとぼして、次の質問にお進みください。
 - ・お子さんの年齢によって答えられない質問についてはとぼして、次の質問にお進みください。
- ◆調査票の回収方法
 - ・調査票の回答後は、同封の返信用封筒に調査票を入れて、切手をはらずにポストに投函してください。

提出期限 令和2年12月9日（水）

この調査の問合せ先

- ◆調査への回答にあたって、わからないことがありましたら、下記までお問い合わせ下さい。
 - ・塩竈市役所 健康福祉部 子育て支援課 家庭支援係
 - ・電話 022-353-7797
 - ・住所 塩竈市本町1番1号

問1 お子さんの生年月を教えてください。
※この調査で「お子さん」とは、調査対象となる宛名のお子さんのことをいいます。
以下、同じ。

西暦	年	月
----	---	---

問2 お子さんとおなたとの関係は、次のどれにあたりますか。お子さんからみた続柄でお答えください。（あてはまるもの1つに○）

1. 母親（継母を含む。）	2. 父親（継父を含む。）
3. 祖父母	4. その他

問3 あなたがお住まいの小学校の学区を教えてください。（あてはまるもの1つに○）

1. 一小	2. 二小	3. 三小	4. 月見小
5. 杉小	6. 玉小	7. 浦戸小	8. その他

問4 お子さんと同居し、生計を同一にしているご家族の人数（お子さんを含む。）を教えてください。単身赴任中の方は含めないでください。

ご家族の人数 人

問5 前問で回答した「ご家族」には、お子さんから見てどの関係の方が含まれますか。（あてはまるものすべてに○）

1. 母親	2. 父親
3. 祖母	4. 祖父
5. 兄弟姉妹（人）	6. 兄弟姉妹の配偶者（人）
7. おじ	8. おば
9. その他の親族（人）	10. 親族以外の同居の家族（人）

問6 あなたのお住まいの状況を教えてください。（あてはまるもの1つに○）

1. 持家（購入マンション含む）	2. 市営・県営住宅
3. 借家（賃貸マンション含む）	4. 親などの親族の持家
5. その他（人）	

問7 お子さんと同居し、生計を同一にしている親の婚姻状況を教えてください。
(あてはまるもの1つに○)

1. 結婚している (再婚や事実婚を含む。)
2. 離婚
3. 死別
4. 未婚
5. いない、わからない

問7で「2. 離婚」と答えた方にお聞きします。

問7-1 養育費の受け取りはありますか。(あてはまるもの1つに○)

1. ある
2. ない

問7-2 養育費について困っていることはありますか。(あてはまるもの1つに○)

1. 養育費の取り決めをしているが、受け取ることができない
2. 養育費の取り決めができず、受け取ることができない
3. 養育費を受け取っているが、取り決めより少ない金額しか支払われていない
4. その他 ()
5. 困っていることはない

問8 ご家庭ではどれくらい、日本語以外の言語を使用していますか。
(あてはまるもの1つに○)

1. 日本語のみを使用している
2. 日本語以外の言語も使用しているが、日本語の方が多い
3. 日本語以外の言語を使うことが多い

問9 お子さんの親の最終学歴(卒業した学校)を教えてください。
(a, b それぞれについて、あてはまるもの1つに○)

	a) 母親	b) 父親
中学(中学部)まで	1	1
高校(高等部)まで	2	2
短大・高等・専門学校(専攻科)まで	3	3
大学またはそれ以上	4	4
いない、わからない	5	5

問10 お子さんの親の就労状況について、あてはまるものを回答してください。
(a, b それぞれについて、あてはまるもの1つに○)

	a) 母親	b) 父親
正社員・正規職員・会社役員	1	1
嘱託・契約社員・派遣職員・パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員	2	2
自営業(家族従業者、内職、自由業、フリーランスを含む。)	3	3
働いていない(専業主婦/主夫を含む。)	4	4
いない、わからない	5	5

問10で「4. 働いていない」と答えた方にお聞きします。

問10-1 働いていない最も主な理由を教えてください。

(a, b それぞれについて、あてはまるもの1つに○)

	a) 母親	b) 父親
働きたいが、希望する条件の仕事がないため	1	1
子育てを優先したため	2	2
家族の介護・介助のため	3	3
自分の病気や障害のため	4	4
通学しているため	5	5
その他の理由	6	6

問11 あなたは、現在の暮らしの状況をどのように感じていますか。
(あてはまるもの1つに○)

1. 大変ゆとりがある
2. ゆとりがある
3. ふつう
4. 苦しい
5. 大変苦しい

問 12 世帯全体のおおよその年間収入(税込)はいくらですか。(あてはまるもの1つに○)

- ※収入には、同居し、生計を同一にしている家族全員の以下の収入が含まれます。
- ・勤め先収入(定期収入、賞与など)
 - ・事業所得(原材料費、人件費、営業上の諸経費などを除く)、内職収入(材料費などを除く)
 - ・公的年金・恩給、その他の社会保障給付金(生活保護、児童手当、児童扶養手当など)
 - ・農林漁業収入(農機具などの材料費、営業上の諸経費などを除く)
 - ・財産所得(預貯金利子、家賃収入など)
 - ・その他の収入(仕送り、養育費、個人年金、各種祝い金など)

1. 50万円未満	2. 50~100万円未満
3. 100~150万円未満	4. 150~200万円未満
5. 200~250万円未満	6. 250~300万円未満
7. 300~350万円未満	8. 350~400万円未満
9. 400~450万円未満	10. 450~500万円未満
11. 500~600万円未満	12. 600~700万円未満
13. 700~800万円未満	14. 800~900万円未満
15. 900~1000万円未満	16. 1000万円以上

問 13 あなたの世帯では、過去1年の間に、経済的な理由で、次のような経験をしたことがありますか。(1~8については、あてはまるものすべてに○)

1. 電気・ガス・水道が止められた	2. クレジットカードが利用停止になった
3. 税金や国民年金保険料の支払いが滞った	4. 保育料や授業料の支払いが滞った
4. 保育料や授業料の支払いが滞った	5. 家賃や住宅ローンの支払いが滞った
6. 食費を切りつめた	7. 新しい衣服や靴を買うのを控えた
8. 医療機関の受診を控えた	9. どれもあてはまらない

問 14 調査対象のお子さんが0~2歳の間に通っていた教育・保育などの施設で最も主なもの(期間が長いもの)をお答えください。(あてはまるもの1つに○)

1. 認可保育所・認定こども園	2. その他の教育・保育などの施設
3. 親・親族以外の個人	4. もっぱら親・親族が面倒を見ていた

問 15 調査対象のお子さんが3~5歳の間に通っていた教育・保育などの施設で最も主なもの(期間が長いもの)をお答えください。(あてはまるもの1つに○)

※死名のお子さんが3歳未満である場合は、問15とはばして次の質問にお進みください。

1. 幼稚園・認可保育所・認定こども園	2. その他の教育・保育などの施設
3. 親・親族以外の個人	4. もっぱら親・親族が面倒を見ていた

問 16 お子さんは将来、どの段階まで進学すると思いますか。(あてはまるもの1つに○)

1. 中学まで	2. 高校まで
3. 短大・高専・専門学校まで	4. 大学またはそれ以上
5. まだわからない	

問 16で「1. 中学まで」「2. 高校まで」「3. 短大・高専・専門学校まで」「4. 大学またはそれ以上」と答えた方にお聞きます。

問 16-1 その理由は何ですか。(1~5については、あてはまるものすべてに○)

1. お子さんがそう希望しているから	2. 一般的な進路だと思うから
3. お子さんの学力から考えて	4. 家庭の経済的な状況から考えて
5. その他()	6. 特に理由はない

問 17 あなたのご家庭では、お子さんに次のことをしていますか。

(a~gそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

	している	していない
a) 毎月おこづかいを渡す	1	2
b) 毎年新しい洋服・靴を買う	1	2
c) 習い事(音楽・スポーツ・習字など)に通わせる	1	2
d) 学習塾に通わせる または、家庭教師や通信教育をさせている	1	2
e) 病院に行く(医療機関での健診を含む)	1	2
f) 歯医者に行く(歯医者での健診を含む)	1	2
g) 子どもの学校行事(授業参観・総談会・運動会など) にお母さん、お父さんや祖父母が参加する	1	2

問 18 お子さんの教育にかかる経費について、負担が大きいと感じているものはありますか。(1~8については、あてはまるものすべてに○)

1. 保育料・授業料	2. 学用品費(制服、靴、ノートなど身の回りのもの)
3. 学習費・教材費	4. 給食費
5. 修学旅行費などの積立金	6. 地域のクラブ活動費
7. 学校外の教育費(塾代、家庭教師や通信教育にかかる費用)	
8. その他()	
9. 負担が大きいと感じているものはない	

問 19 保護者の方とお子さんの関わり方について、次のようなことにどれくらい当てはまりますか。(a ~ d それぞれについて、あてはまるもの1つに○)

	あてはまる	あどちらかといえば、あてはまる	あどちらかといえば、あてはまらない	あてはまらない
a) テレビ・ゲーム、インターネットなどの視聴時間などのルールを決めている	1	2	3	4
b) お子さんに本や新聞を読むように勧めている	1	2	3	4
c) お子さんが小さいころ、絵本の読み聞かせをしていた	1	2	3	4
d) お子さん自ら、勉強や成績のことについて話をしてくれる	1	2	3	4

問 20 あなたとお子さんの関係について、最も近いもの1つに○をつけてください。

(①~⑤それぞれについて、あてはまるもの1つに○)

①お子さんと、よく会話をしますか。

- | | |
|-----------|--------|
| 1. よくする | 2. する |
| 3. あまりしない | 4. しない |

②お子さんと過ごす時間が十分に取れていますか。

- | | |
|--------------|-----------|
| 1. よく取れている | 2. 取れている |
| 3. あまり取れていない | 4. 取れていない |

③お子さんの仲の良い友達を知っていますか。

- | | |
|------------|----------|
| 1. よく知っている | 2. 知っている |
| 3. あまり知らない | 4. 知らない |

④お子さんの将来の夢について知っていますか。

- | | |
|------------|----------|
| 1. よく知っている | 2. 知っている |
| 3. あまり知らない | 4. 知らない |

⑤お子さんを信頼していますか。

- | | |
|---------------|------------|
| 1. 大変信頼している | 2. 信頼している |
| 3. あまり信頼していない | 4. 信頼していない |

問 21 次の質問について、この1か月間のあなたの気持ちほどのようでしたか。

(a ~ f それぞれについて、あてはまるもの1つに○)

	いつも	たいてい	ときどき	少しだけ	まったくない
a) 将来への希望や、楽しみなことがあった	1	2	3	4	5
b) 不安や孤独を感じることもあった	1	2	3	4	5
c) 気持ちが落ち着いていた	1	2	3	4	5
d) 気分が明るく、前向きな気持ちになった	1	2	3	4	5
e) 何をすることも活動的だった	1	2	3	4	5
f) 自分は価値のある人間だと感じた	1	2	3	4	5

問 22 お子さんや子育てについて、現在悩んでいることはありますか。

(1 ~ 12 については、あてはまるものすべてに○)

1. 子どもに対するしつけや教育に自信が持てない	
2. 子育てについて相談できる人がいない	
3. 仕事と子育ての両立が難しい	
4. 自分の時間が持てない	
5. 子育てのストレスをうまく解消できない	
6. 子育てを手伝ってくれる人が身近にいない	
7. 子どもが勉強をしない	
8. 子どもの発育や体調が心配である	
9. 子どもが学校に行くことを嫌がる	
10. 子どもの教育費が心配である	
11. 子どもに十分な食事を与えることができない	
12. その他 ()	
13. 特に悩みはない	

問23 あなたは、子育てに関する情報をどこから手に入れますか。
(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|---------------------------------------|--------------------|
| 1. 家族・親族 | 2. 友人・知人 |
| 3. 近所の人 | 4. 職場の人 |
| 5. 民生委員や児童委員 | 6. 市役所など行政の窓口 |
| 7. 保育施設などの先生や学校の先生 | 8. 子育て支援センターや児童館など |
| 9. 市の広報 | 10. 塩竈市のホームページ |
| 11. SNS (フェイスブック・ツイッターなど) や市以外のホームページ | |
| 12. その他 () | |

問24 あなたは次に挙げる事柄で頼れる人はいますか。
(a、bそれぞれについて、1～3のあてはまるもの1つに○)
また、「1. 頼れる人がいる」場合、それはだれですか。
(①～⑧のあてはまるものすべてに○)

頼れる人がいる	a) 子育てに関する相談		b) 子育て以外の事柄の相談								
	1	2	1	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
家族・親族											
友人・知人											
近所の人											
職場の人											
保育施設などの先生や学校の先生											
民生委員・児童委員											
相談・支援機関や福祉の人											
その他											
いない		2									
そのことで人に頼らない		3									

①～⑧のあてはまるものすべてに○
1に○をつけた場合、①～⑧のあてはまるものすべてに○

問25 あなたのご家庭では、以下の支援制度をこれまでに利用したことがありますか。
(a～dそれぞれについて、1～3のあてはまるもの1つに○)
また、「3. 利用したことがない」場合、その理由は何か。
(①～⑤のあてはまるもの1つに○)

	a 就学援助 ※1		b 生活保護 ※2		c 生活困窮者の自立支援相談窓口		d 児童扶養手当 ※3	
	1	2	1	2	1	2	1	2
現在利用している								
現在利用していないが、以前利用したことがある								
利用したことがない								
制度の対象外(収入などの条件を満たさない)だから								
利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから								
利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから								
利用したいが、手続がわからなかったり、利用しにくかったから								
それ以外の理由								

①～⑤のあてはまるもの1つに○
3に○をつけた場合、①～⑤のあてはまるもの1つに○

参考)

- ※1 就学援助: 経済的理由により子供の就学が困難な場合に、学用品費などを補助する制度。
- ※2 生活保護: 病気や失業などにより生活費などにより生活費などに困り、他に方法がないときに一定の援助が受けられる制度。
- ※3 児童扶養手当: 所得が一定水準以下のひとり親世帯の生活支援のための手当。(児童手当とは異なります。)

問5 困難を抱える家庭では、子どもや保護者にどのような状況が見られますか。個人を特定できない範囲で、子どもや保護者の状況をご記入ください。

1 保護者・子どもの状況	
① 困難な家庭の特徴や背景、生活状況	(家族構成や子どもの学年、子どもや保護者の障害や病気の有無、DV・離婚・虐待、住居の状況等)
② 保護者の経済状況	(生活保護や手当の受け取りの状況、金銭管理の感覚等)
③ 子どもと保護者の関わり	(保護者とのコミュニケーションの状況、親子関係の状況、子どもの孤食、夜遅くまで保護者が帰ってこない等)
④ 子どもの性格面・意識面の状況	(人との関わり方、自身の置かれている状況の認識等)
⑤ 子どもの生活や学習の様子	(朝食・夕食の有無や放課後の過ごし方、衣服の状態、自立度、学習・通塾の状況等)
⑥ 子どもの自己肯定感について	(自分のことをどのように思っているのか、自分の将来に夢をもっているのか等)
⑦ 保護者と各種支援制度・支援者との関係	(支援制度の認知度、相談や話し合いの状況等)

問6 あなたが、困難を抱える家庭の子どもや親と接する際に、工夫していることや心がけていることがあれば、自由に記述してください。

問7 最後に、子どもの貧困やその対策について、保育所・学校として課題だと感じることがあれば、ご自由にお書きください。

質問は以上です。調査にご協力いただきありがとうございました。

塩竈市子どもの生活に関する実態調査 資源量調査 ご協力のお願い

みなさまには、日頃から市政にご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。
 昨今、子どもの貧困が社会問題として注目される中、市では家庭の経済状況にかかわらず、すべての子どもの成長を支えるための方策を検討するため、子どもの生活や教育、福祉等に関わる関係機関のみならず、貧困家庭等への支援状況等をお伺いする資源量調査を実施させていただきます。

子どもたちの未来のために、調査の趣旨をご理解の上、ご協力いただきますようお願いいたします。

令和2年11月
 塩竈市長 佐藤 光樹

《調査票のご記入にあたって》

- 1 それぞれ該当する項目をご記入、もしくは○をつけてください。
- 2 調査結果につきましては、公表の可能性を考慮してご回答をお願いします。
 機関名等は非公表とします。
- 3 調査票の回収について
 ご記入後、同封の返信用封筒に入れて、
 12月9日(水)までに、返送していただきますようお願いいたします。
 (庁内関係課につきましては、持参もしくは文書箱経由でご提出ください)
- 4 調査についてのご質問は下記までお問い合わせください。

調査に関するご質問は以下までお問い合わせください。

塩竈市 健康福祉部子育て支援課 家庭支援係
 電話：022-353-7797 FAX：022-366-7167 e-mail：iidou@city.shiogama.miyagi.jp

5 資源量調査

問1 貴機関について教えてください。

機関の名称	
代表者名	
調査票記入者名	
連絡先電話番号	
貴機関における日ごろの業務の主な対象	1. 就学前児童 2. 小学生 3. 中学生 4. 高校生 5. 大学生以上 6. その他 ()
貴機関の主な業務	
貴機関の職員数	

問2 貴機関では、貧困の状態にある子どもの支援に携わったことがありますか。

1. ある 2. ない

→ 設問11にすすんでください。

問2において、「1. ある」とお答えいただいた貴機関にお聞きします。

問3 貴機関では、どのような対応をされましたか。(1つに○)

1. 相談を受けた

2. 別の機関を紹介した → 紹介した機関名 ()

3. その他 ()

問3において、「1. 相談を受けた」とお答えいただいた貴機関にお聞きします。

問4 貧困の状態にある子どももある方への相談体制についてお聞きします。

(1) 該当する方について、相談に対応できる人員は何名いますか。

() 名

(2) (1) に該当する方について、相談に対応できる人員は足りていますか。

1. 足りている 2. 不足している

問2において、「1. ある」とお答えいただいた貴機関にお聞きします。
 問5 貧困の状態にある家庭では、子どもや保護者にどのような状況が見られますか。個人を特定できない範囲で、子どもや保護者の状況をご記入ください。

1 保護者・子どもの状況 (家族構成や子どもの学年、子どもや保護者の障害や病気の有無、DV・離婚・虐待、住居の状況等)
① 困難な家庭の特徴や背景、生活状況
② 保護者の経済状況 (生活保護や手当の受け取りの状況、金融管理の感覚等)
③ 子どもと保護者の関わり (保護者とのコミュニケーションの状況、親子関係の状況、子どもの孤食、夜遅くまで保護者が帰ってこない等)

1 保護者・子どもの状況 (人との関わり方、自身の置かれている状況の認識等)
④ 子どもの性格面・意識面の状況 (朝食・夕食の有無や放課後の過ごし方、衣服の状況、自立度、学習・通塾の状況等)
⑤ 子どもの生活や学習の様子 (自分のことをどのように思っているのか、自分の将来に夢をもっているのか等)
⑥ 子どもの自己肯定感について (支援制度の認知度、相談や話し合いの状況等)
⑦ 保護者と各種支援制度・支援者との関係

問6 これまでの経験から見て、貧困の状態に置かれた子どもは、どのような面で貧困を抱えていることが多い(または貧困を抱えている可能性がある)と思いますか。(3つまで○)

1. ころの状況の安定性、心身の健康	2. 健全な生活習慣、食習慣
3. 自己肯定感	4. 読み書き、計算などの基礎的な学力
5. 生活自立能力	6. 意欲、チャレンジ精神
7. 他人への共感性	8. 適切な自尊心
9. 認知(もの見方、考え方、価値観)	10. コミュニケーション能力
11. 家族への信頼感	12. 社会への信頼感
13. 周囲からの評価への適正な反応	14. 同世代への信頼感
15. 周囲の多世代の人と関わること	16. 同世代との交友関係
17. 積極的に取り組む姿勢	18. 自己表現力
19. その他()	

問7 貴機関における経済的困窮するなど困難を抱えている家庭に対する支援等の状況についてご記入ください。

1 実施している支援制度	
① 現在実施している支援等の内容	
1 経済支援	
2 生活支援	
3 保護者への支援	
4 教育支援	
5 その他	

② 支援等を実施する上での問題点、課題等

1 経済支援	
2 生活支援	
3 保護者への支援	
4 教育支援	
5 その他	

問8 保護者の生活状況やこれまでの人生経験が、今後の子どもたちの生活や将来に影響はあ
ると思いますか。また、あると感じるときはどのような時ですか。

1. 影響はあると思う
(どのような時に感じますか)

2. 影響はないと思う

問9 貴機関で実際に取り組まれている支援内容に関わらず、貧困の状態に置かれた子どもやその家族への支援にあたっては、どのような支援が必要だと思いますか。
(5つまで○)

1. 保護者の自立支援
2. 子どもへの食育の推進や食事・栄養状態の確保
3. 学校教育による学力保障
4. 幼児期から大学までの各教育過程における経済的支援
5. 保護者の就労機会の確保等、就労に関する支援
6. ひとり親家庭や生活困窮世帯等の子どもたちの居場所づくりに関する支援(子ども食堂等)
7. 特別支援教育に関する支援の充実
8. 学校外の地域等における学習支援
9. 多様な体験活動の機会の提供
10. 養育費の確保に関する支援
11. 保護者の学び直しの支援
12. ひとり親家庭の子どもや高校中退者等に対する就労支援
13. 高等学校等における就学継続のための支援
14. 保育等の確保
15. 保護者の健康確保
16. 住宅支援
17. その他()

問10 問9で答えていただいた今後必要な支援に取り組むため、連携が必要な機関や団体などはありますか。(該当する番号すべてに○)

1. 医療機関
2. 弁護士会
3. 民生委員・児童委員
4. ハローワーク
5. 警察
6. 保育所・幼稚園
7. 小・中学校
8. 高校
9. 大学
10. 保護者会・PTA
11. 児童福祉施設
12. 家庭児童相談員
13. 福祉事務所
14. 保健センター
15. 教育委員会
16. ボランティア・NPO
17. 民間企業
18. その他()

すべての方にお聞きします。

問11 今後、経済的に困窮するなど困難を抱えている家庭の子どもや保護者に対する支援全般のため、塩簾市としてどのような対策が必要だとお考えですか。

問12 最後に、子どもの貧困やその対策について、ご意見などがありましたら、ご自由にお書きください。

資源量調査にご協力いただき、ありがとうございます。

